

令和7年度洲本市における観光地域づくりに関わる事業
(中心市街地エリアの再活性化に向けた遊休地等利活用可能性調査業務)

報告書

令和8年(2026年)2月

洲本市

目次

はじめに	1
(1)本業務の目的	1
(2)業務内容	1
1. デスクトップ調査	2
(1) 我が国の観光動向.....	3
(2) 兵庫県の観光動向	6
(3) 洲本市の観光の状況.....	9
(4) 人流データから見る洲本市の状況	19
(5) GIS データの作成.....	55
(6) 類似の先行事例の整理.....	57
2. 観光ニーズ調査(インターネット調査).....	63
(1) 来訪者調査	64
(2) 非来訪者アンケート.....	107
3. 地域住民向け調査.....	119
(1) 地域住民向けアンケート調査	120
4. 調査分析及び活用に向けた構想	188
(1) 調査内容の分析.....	189
(2) 活用に向けた構想	195

はじめに

(1)本業務の目的

洲本市の中心市街地(本町・栄町周辺等)には、十分に活用されていない遊休地が点在しており、地域の景観や活力の低下を招く要因となっている。令和7年1月には、城下町地区が兵庫県の「空家等活用促進特別区域」に指定され、空家等の流通・利活用の促進が期待される一方、淡路島内では空家を活用した民泊施設の増加に伴い、騒音やごみ、違法駐車などによる住民とのトラブルも発生し、適切な利活用の在り方が求められている。

上記の背景を踏まえ、中心市街地エリアにある遊休地や地域資源を適切に活用して地域の再活性化や持続可能な観光振興を図るため、遊休地等利活用可能性調査を実施し、利用者ニーズや住民の意見を多角的に分析することで、今後の政策立案や誘客強化を目的とし、本業務を実施した。

(2)業務内容

以下の業務を実施した。

	項目
1.	デスクトップ調査 (1)我が国の観光動向 (2)兵庫県の観光動向 (3)洲本市の観光の状況 (4)人流データから見る洲本市の状況 (5)GIS データの作成 (6)類似の先行事例の整理
2.	観光ニーズ調査(インターネット調査) (1)来訪者調査 (2)非来訪者アンケート
3.	地域住民向け調査 (1)地域住民向けアンケート調査
4.	調査分析及び活用に向けた構想 (1)調査内容の分析 (2)活用に向けた構想

1. デスクトップ調査

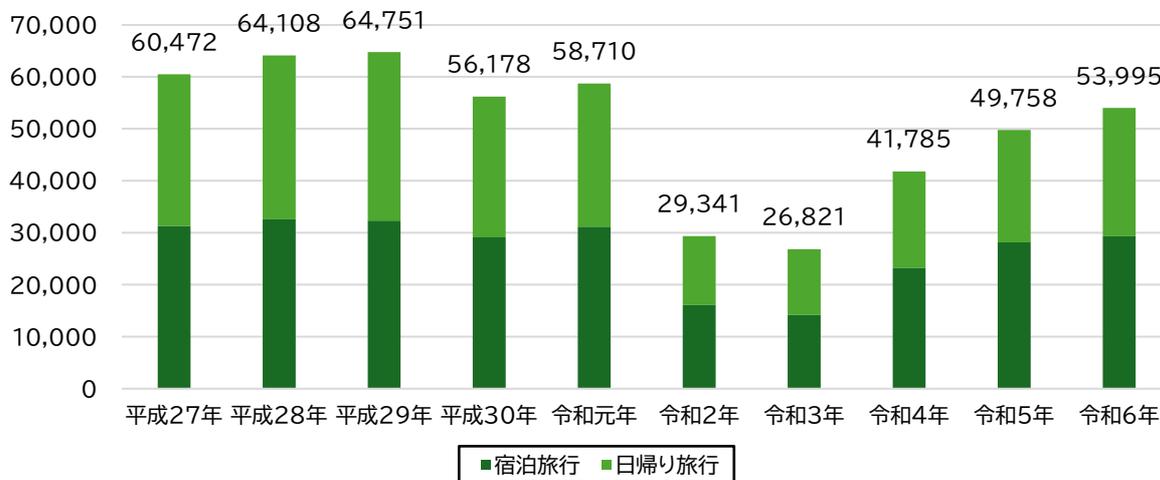
(1) 我が国の観光動向

■日本人の国内観光の状況

日本人国内旅行者数は、平成29年の64,751万人以降減少傾向にあり、新型コロナウイルスの影響で令和2年以降大きく減少した。その後、令和4年以降は回復傾向となっている。また、宿泊旅行と日帰り旅行の割合は、平成30年までは、ほぼ等しい割合で推移していたが、令和元年以降、徐々に宿泊旅行の割合が大きくなっている。

日本人旅行消費額は、令和元年まで増加傾向であったが、新型コロナウイルスの影響で、令和2年と3年に大きく減少した。その後、令和6年にはコロナ前の水準を上回り、過去最高になっている。

(万人)



日本人国内宿泊旅行及び日帰り旅行延べ人数の推移(観光庁「旅行・消費動向調査」)

(兆円)

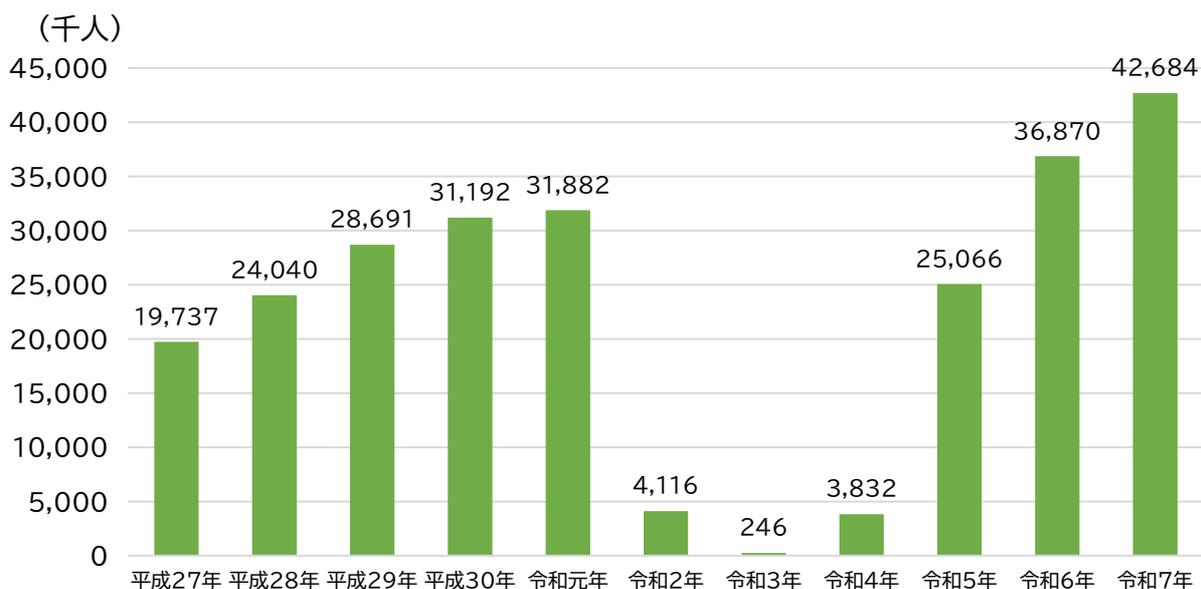


日本人国内旅行消費額の推移(観光庁「旅行・消費動向調査」)

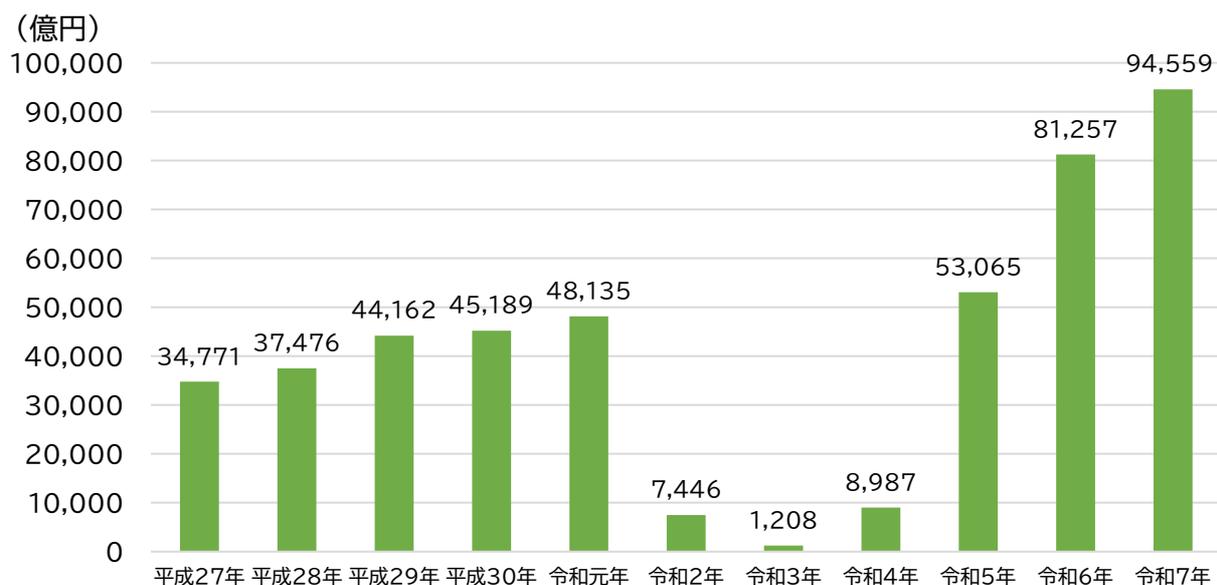
■訪日外国人の国内観光の状況

訪日外国人旅行者数は、令和元年まで年々増加していたが、新型コロナウイルスの影響で令和2年から令和4年にかけて大きく減少した。令和5年4月に新型コロナウイルスの水際対策が終了されたことをきっかけに、令和5年には25,066千人まで急速に回復した。令和7年には、過去最高の42,684千人が訪れている。

同様に、訪日外国人旅行者による消費額も令和2年から令和4年にかけて大きく減少したが、令和5年に令和元年を上回る5兆3,065億円となり、令和5年度に閣議決定された新たな「観光立国推進基本計画」で掲げられた訪日外国人旅行消費額5兆円の目標額に達した。



訪日外国人旅行者数の推移(日本政府観光局「訪日外客統計」)



訪日外国人旅行者による消費額の推移(観光庁「インバウンド消費動向調査」)

■国の政策動向

① 観光立国推進基本計画

令和5年3月に閣議決定された「観光立国推進基本計画」において、観光立国の持続可能な形での復活に向け、観光の質的向上を象徴する「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客」の3つをキーワードに、『持続可能な観光』『インバウンド回復』『国内交流拡大』の3つの戦略に取り組むこととされている。

● 持続可能な観光地域づくり

コロナ禍で打撃を受けた観光地や産業の再生・高付加価値化を図りつつ、観光 DX の推進等により「稼げる地域・稼げる産業」の実現をめざす。自然や文化など地域資源の保全と観光の両立、地域住民との共生に配慮した「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な観光地域づくりを推進している。

● インバウンド回復

文化財、自然、食、アート、農泊などの地域資源を活かし、高付加価値旅行者の誘客や地方分散を図るとともに、MICE・教育・ビジネス交流等を通じた国際的な人的交流の拡大を進めている。

● 国内交流拡大

人口減少社会を背景に、ワーケーションや二地域居住、「第2のふるさと」づくり、ユニバーサルツーリズムなど、多様な旅行・滞在形態の促進により、地域の関係人口拡大と観光需要の平準化をめざしている。

※新たな観光立国推進基本計画については、現在の「観光立国推進基本計画」(令和5年3月31日閣議決定)が令和7年度までを計画期間としていることから、後継となる新たな計画の策定作業が進められている。政府としては、令和7年度末までの閣議決定をめざし、次期(第5次)計画を2026年度から2030年度までの5か年計画として位置づける方針である。

② 関係人口の拡大

内閣府「地方創生 2.0 基本構想」によれば、地域と都市部住民等が継続的に関わる「関係人口」の創出は、人口減少・少子高齢化が進む地域の活力維持や担い手確保に資する重要施策とされている。関係人口とは、単なる移住者や観光客ではなく、地域と多様かつ継続的に関わる人々を指す。地域と関係人口をつなぐ仕組みとしては、中間支援組織の活用に加え、都市部住民が地域との関わりを可視化できる「ふるさと住民登録制度」も推奨されており、地域参画の新しい形の創出や地域課題解決への貢献が期待されている。

③ 観光 DX の推進

観光庁の「観光立国推進基本計画(令和5年3月)」および「ウェルネス観光推進事業(令和6年度)」では、旅行や滞在を通じて心身の健康や生活の質を高めるウェルネスツーリズムの推進が重要な観光戦略として位置付けられており、地域誘客の拡大や観光産業の高付加価値化にも寄与するとされている。

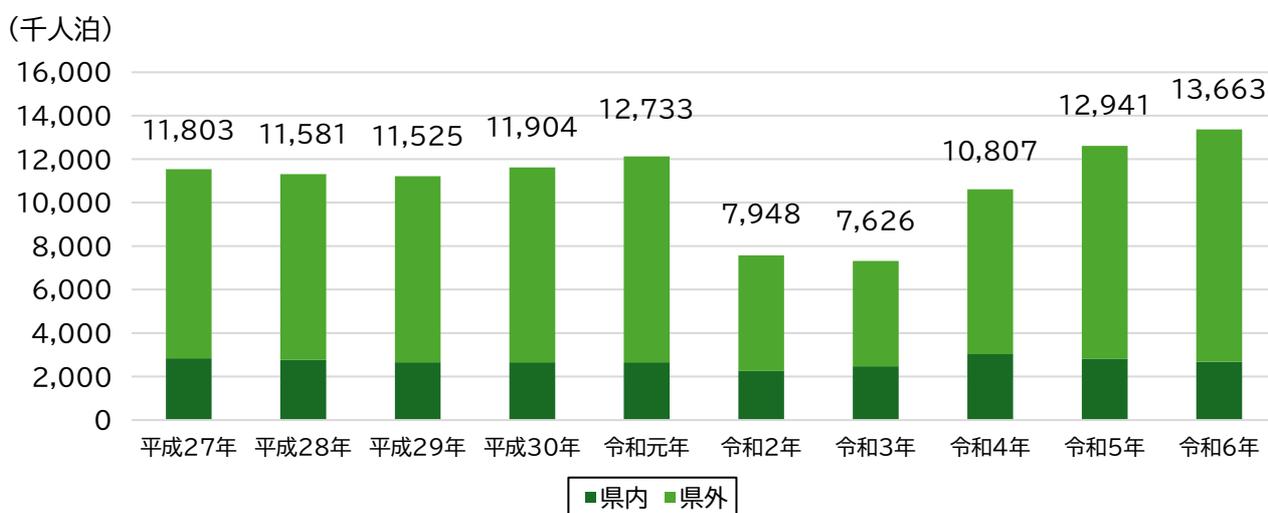
ウェルネスツーリズムは、身体的健康だけでなく、精神的充実や文化・自然・食体験なども含めた幅広い価値を提供する旅行形態とされ、特に高齢者や健康志向層を対象とした滞在型観光の拡大や、地域資源を活用した体験型プログラムの開発が政策的に重視されている。

(2) 兵庫県の観光動向

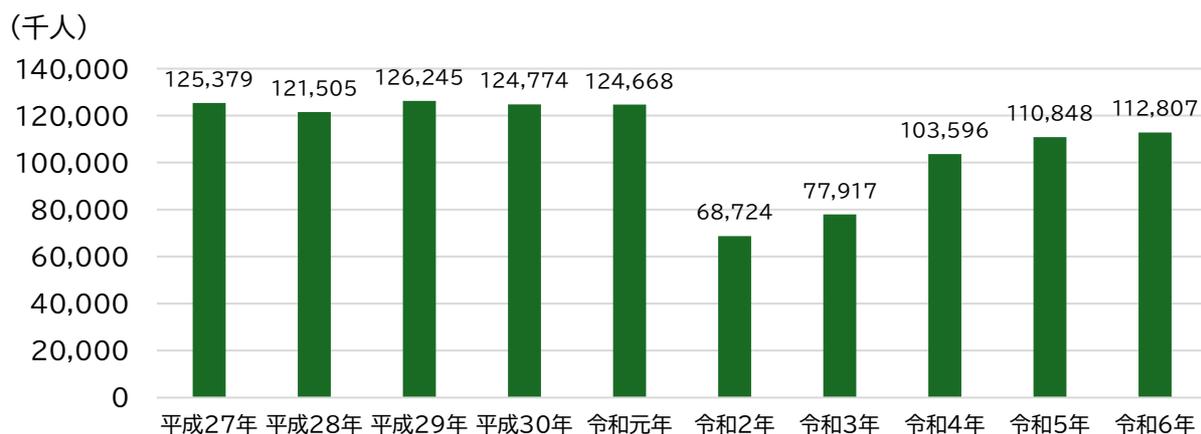
■兵庫県の観光の状況

兵庫県内の延べ宿泊者数は、増減はあるものの平成29年から令和元年にかけて増加傾向である。その後、新型コロナウイルスの影響を受け、特に県外の来訪者が大幅に減少し、令和2年以降落ち込んでいたが、令和5年にはコロナ前を上回る12,941千人となった。

一方、延べ日帰り客数はコロナ前の水準では、例年125,000千人前後で推移していたが、コロナ禍の令和2～3年には70,000千人程度に減少し、徐々に回復しているものの、令和6年時点で112,807千人と、コロナ前の水準を下回っている。



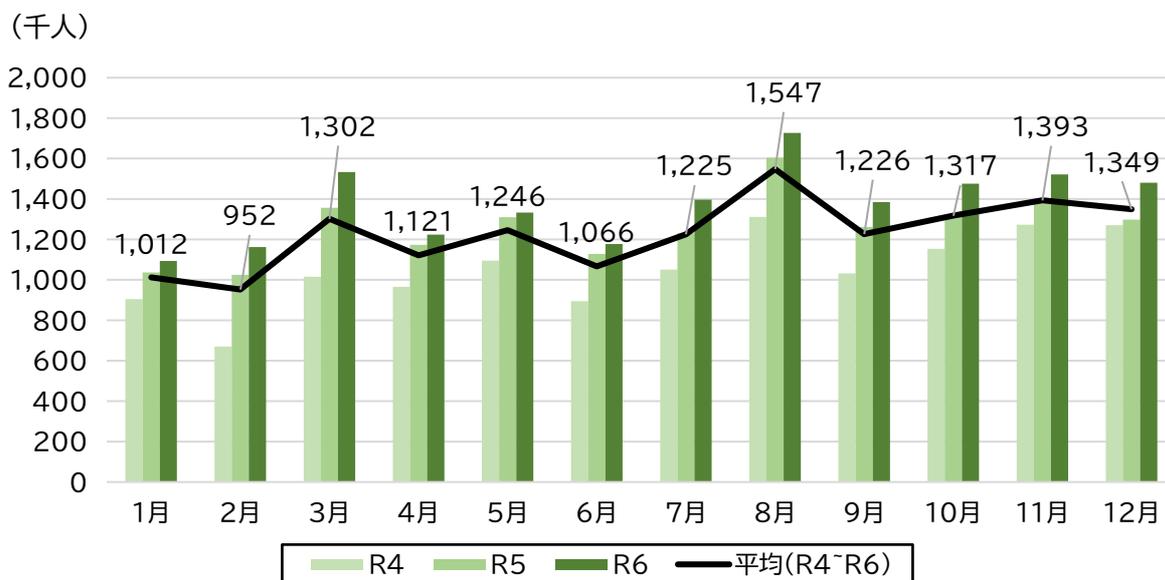
兵庫県の延べ宿泊者数の推移(観光庁宿泊旅行統計調査)



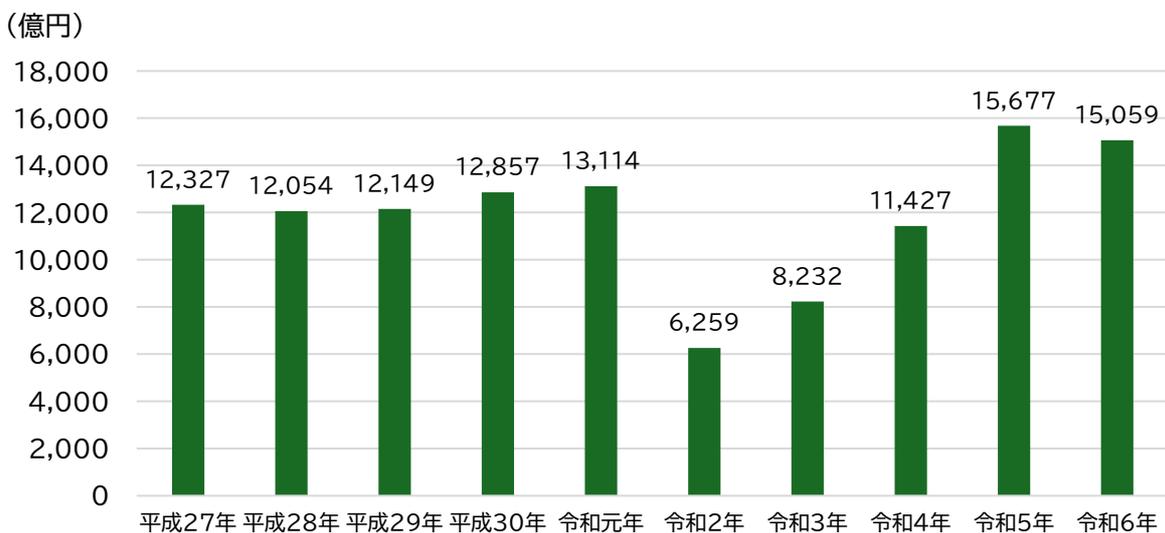
兵庫県の延べ日帰り客数の推移(兵庫県観光客動態調査)

月別の延べ宿泊客数は、いずれの月においても増加傾向にある。直近3年間で平均すると、8月が最も多く154万人を超え、次いで11～12月の初冬にかけて多くなっている。一方、1～2月は宿泊客数が少ない傾向にある。

観光消費額は、令和元年まで増加傾向にあり、13,114億円となっていたが、新型コロナウイルスの影響により、令和2年以降大きく減少した。その後、徐々に回復し、令和5年にはコロナ前を上回る15,677億円となった。



兵庫県の月別延べ宿泊客数の推移(観光庁宿泊旅行統計調査)

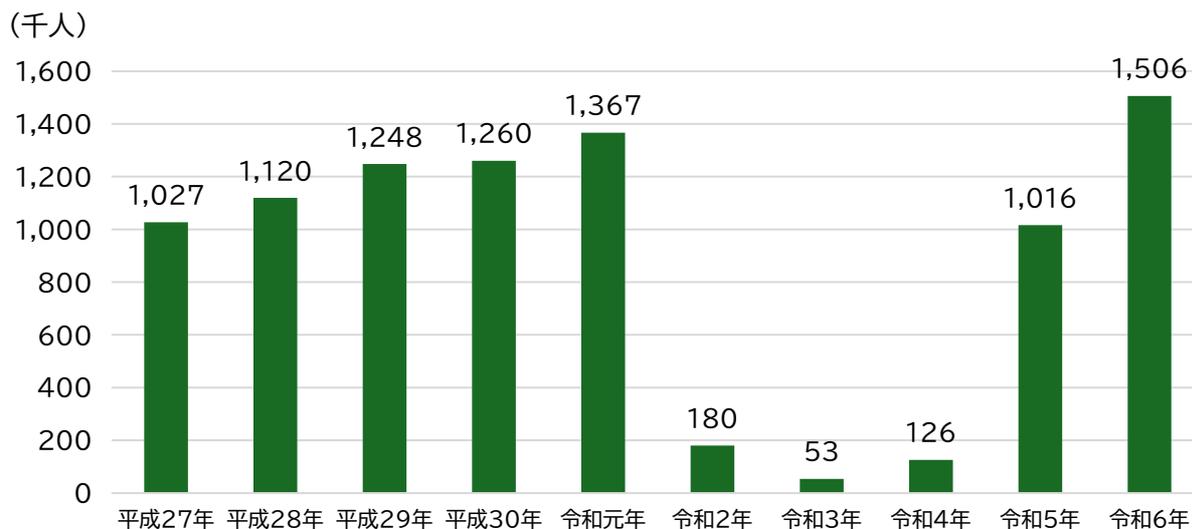


兵庫県の観光消費額の推移(兵庫県観光客動態調査)

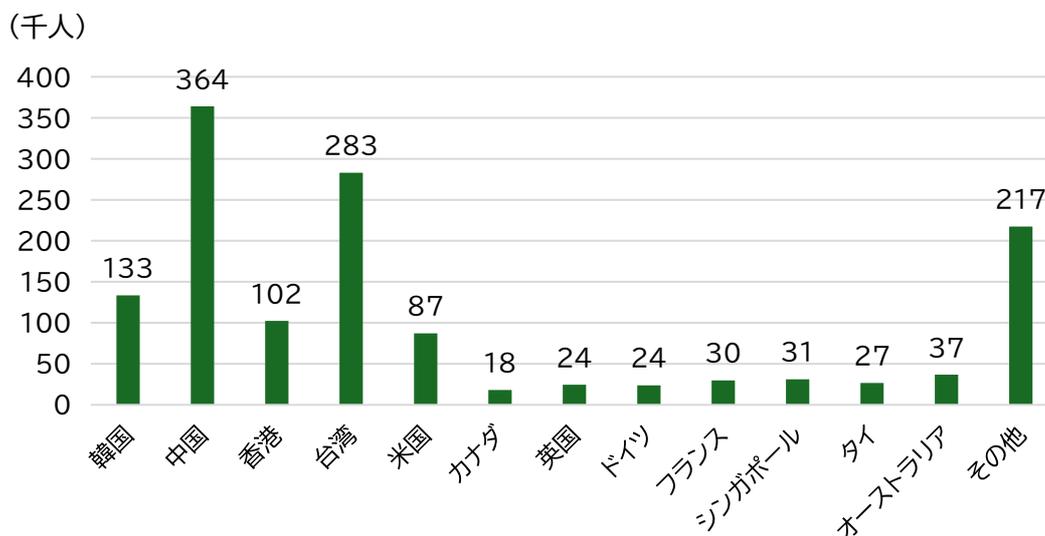
■兵庫県内の訪日外国人の状況

兵庫県の外国人延べ宿泊者数は、令和元年まで増加傾向となっていたが、新型コロナウイルスの拡大により令和2～4年の間は大きく減少した。その後、令和5年移行急激に回復し、令和6年にはコロナ前を上回る過去最高の150万人を突破した。

国籍別の外国人延べ宿泊者数は、東アジア(中国・台湾・韓国・香港)からの来訪者が多い。次いで、アメリカ、オーストラリアの順となっている。



兵庫県の外国人延べ宿泊者数(観光庁宿泊旅行統計調査)



国籍別外国人延べ宿泊者数(令和6年/観光庁宿泊旅行統計調査)

(3) 洲本市の観光の状況

■人口

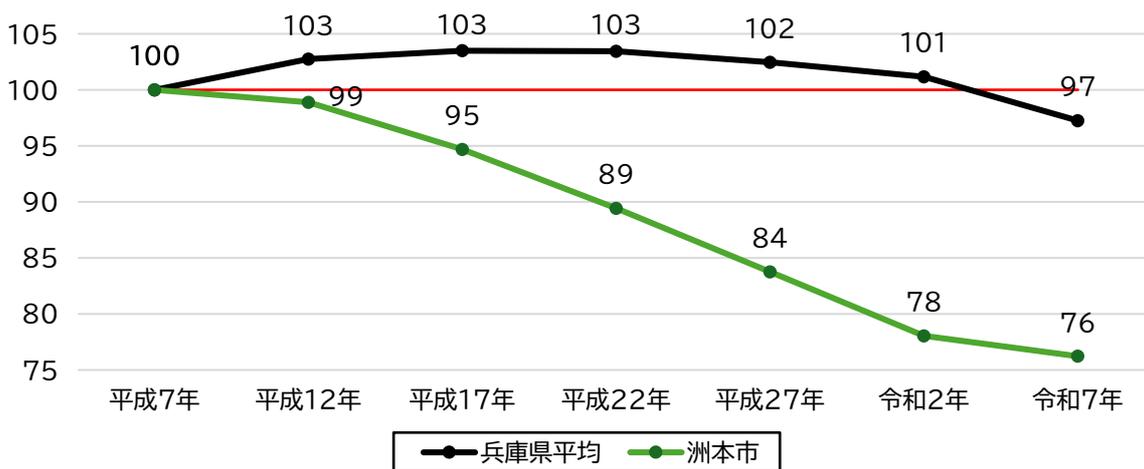
洲本市の総人口は、減少し続けており、令和7年時点で 40,279 人となっている。淡路島3市でみても減少の傾向は同様である。

平成 7 年を基準(100)とした人口指数の推移では、平成 12 年までは概ね横ばいで推移していたものの、以降著しく減少しており、平成7年から令和2年までの 30 年間で4分の1程度減少している。県平均と比較すると、減少の仕方が著しいことが分かる。



人口の推移(国勢調査)

※令和7年は住民基本台帳に基づく ※平成7年、平成12年は旧市町村を合算

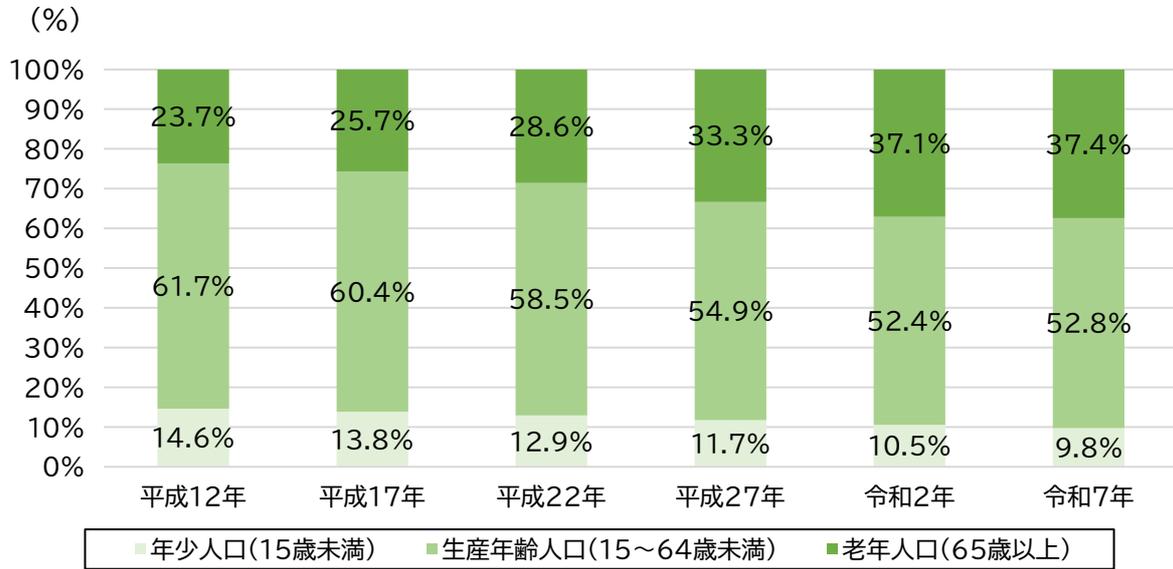


人口指数の推移(国政調査)

※令和7年は住民基本台帳に基づく ※平成7年を基準(100)とする

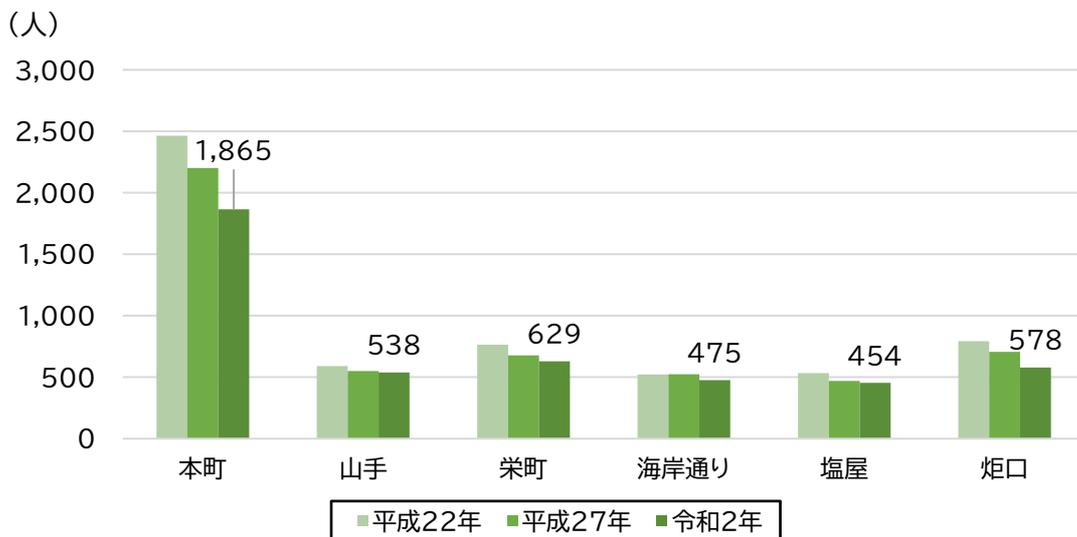
3区分別人口割合は、年少人口と生産年齢人口が減少している一方、老年人口は平成12年の23.7%から令和7年の37.4%まで増加しており、少子高齢化が進行している。

また、洲本市中心市街地における集落別人口を見ると、平成22年から令和2年までの10年間で、6集落全てで人口減少の傾向にある。中でも、本町集落や炬口集落は他の地区と比較して高い。



年齢3区分別人口割合の推移(国勢調査)

※令和7年は住民基本台帳に基づく



洲本市中心市街地における集落別人口の推移(国勢調査)

■淡路島・洲本市への入込者数

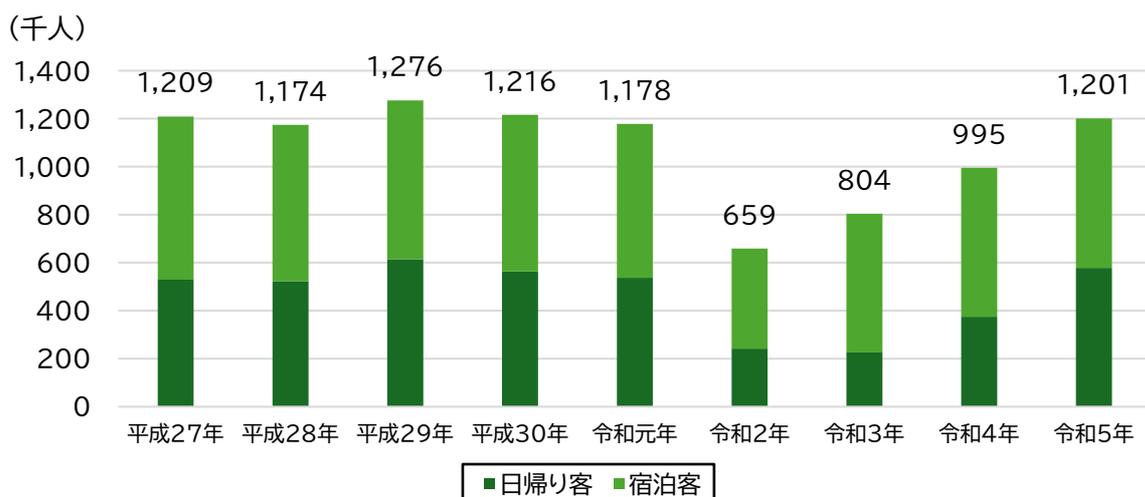
淡路島への入込者数は、令和元年までは、ほぼ横ばいで推移していたものの、新型コロナウイルスの影響により、令和2年度と令和3年度に大きく減少した。その後回復傾向となり、令和5年には平成27年に近い水準にまで増加している。

洲本市への入込者数も同様の傾向にあり、令和5年には、コロナ前の水準にまで回復している。

また、淡路島全体と洲本市を比較してみると、洲本市の入込者数に占める宿泊客の割合が非常に高いことがわかる。



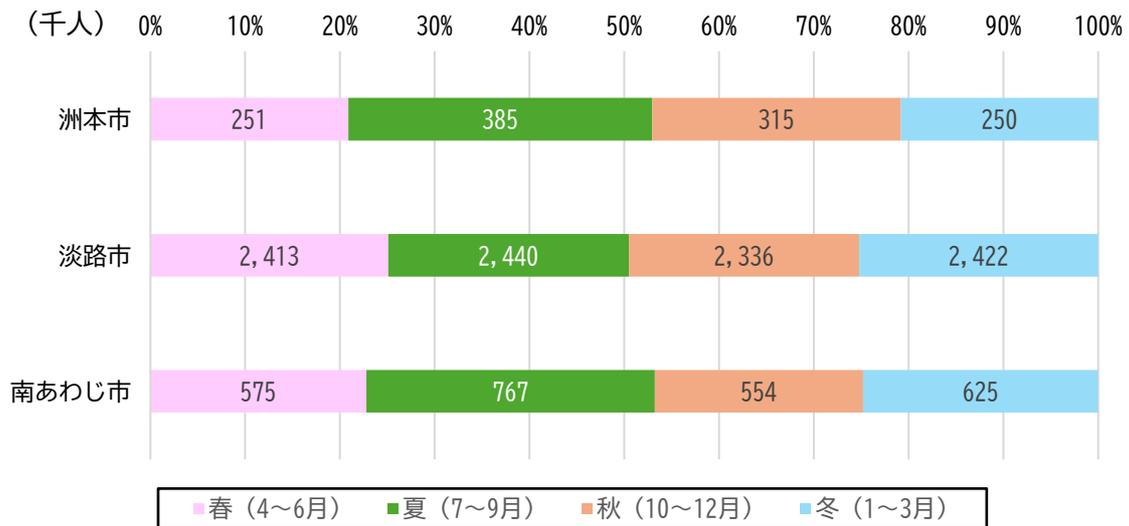
淡路島の入込者数の推移(兵庫県観光客動態調査)



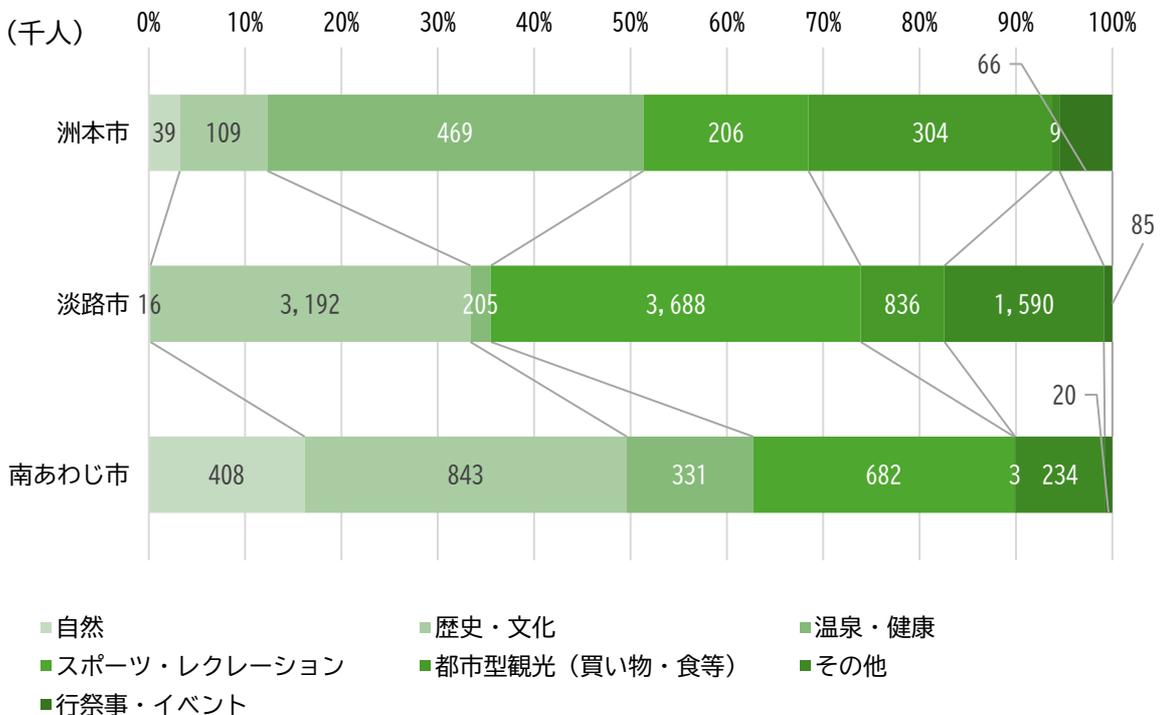
洲本市の入込者数の推移(兵庫県観光客動態調査)

季節ごとの入込客数について淡路島3市を比較すると、夏秋の占める割合が高いのに対し、冬春にかけては低くなっている。

目的別入込客数については、洲本市は1位が「温泉・健康」、2位が「都市型観光(買い物・食)」、3位が「スポーツ・レクリエーション」となっている。淡路島3市で比較すると、「温泉・健康」「都市型観光(買い物・食)」の占める割合が高いことがわかる。一方で、他市では、「歴史・文化」の占める割合が高いのに対し、洲本市では1割程度にとどまっている。



観光客入込動向(四季・月別)(令和5年度/兵庫県観光客動態調査)

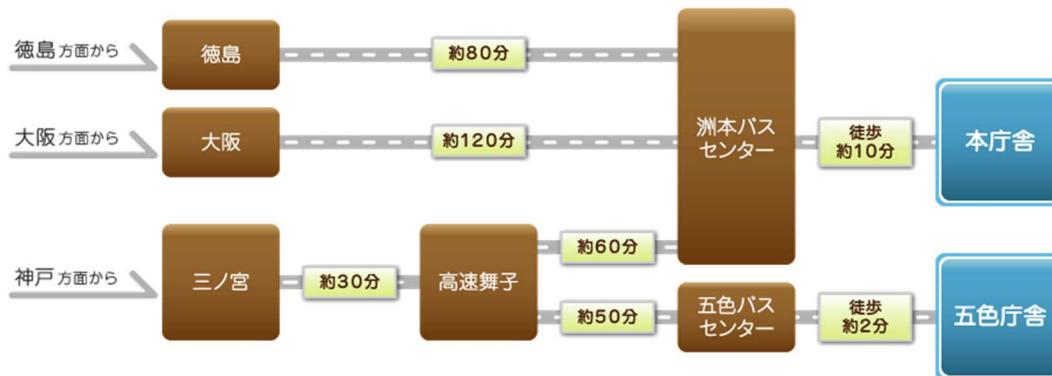


目的別入込客数(地域別)(令和5年度/兵庫県観光客動態調査)

■洲本市中心市街地へのアクセス

洲本市中心市街地は淡路島中央部に位置し、本州からのアクセスには高速バスや自動車、島内移動にはバス・レンタカーが基本となる。以下に主要なアクセス方法を整理する。

① 高速バスによるアクセス



高速バスによるアクセス（洲本市）

(ア) 高速バス

神戸方面から

- 神戸三宮・洲本線(淡路交通など)が直通運行
- 洲本バスセンターまでの所要時間:約1時間30分前後
- 運賃の目安:片道約2,270円 ※2025年12月現在
- 洲本バスセンター到着後、徒歩やタクシーで市街地中心部にアクセス可能

大阪方面から

- 大阪・洲本線(西日本JRバスなど)が直通運行
- 洲本バスセンターまでの所要時間:約2時間30分前後
- 運賃の目安:片道約3,000円 ※2025年12月現在
- 洲本バスセンター到着後、徒歩やタクシーで市街地中心部にアクセス可能

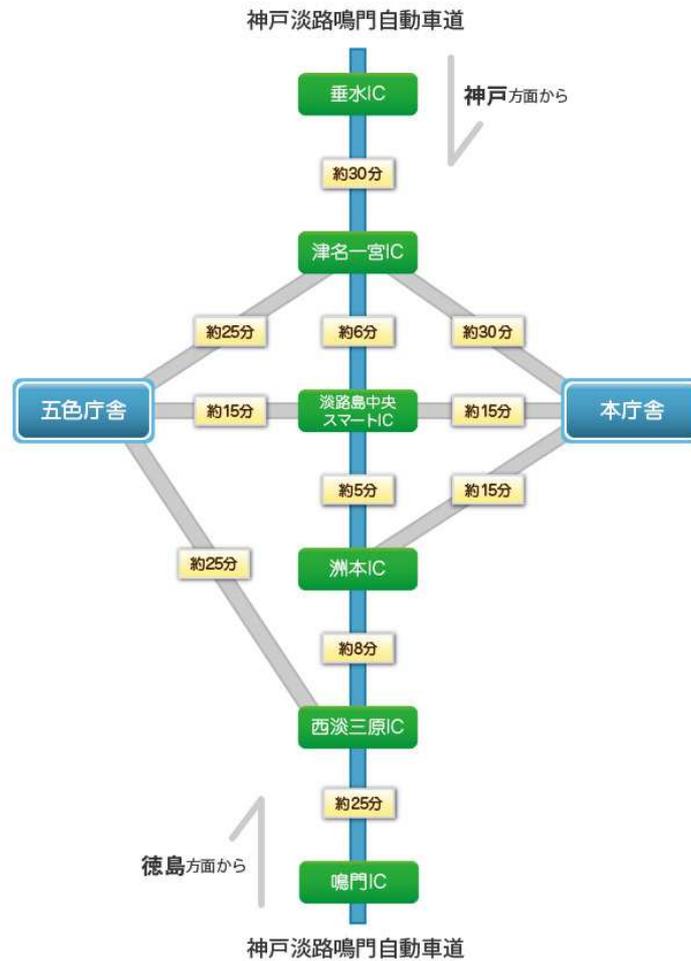
徳島方面から

- 淡路・徳島線(淡路交通など)が直通運行
- 洲本バスセンターまでの所要時間:約1時間30分前後
- 運賃の目安:片道約2,120円 ※2025年12月現在
- 洲本バスセンター到着後、徒歩やタクシーで市街地中心部にアクセス可能

(イ) 島内バス

- 淡路交通が運行する路線バス・コミュニティバスで市街地周辺や観光地に移動可能
- 一部宿泊施設では送迎バスが利用できる場合もある

② 自動車によるアクセス



自動車によるアクセス（洲本市）

神戸淡路鳴門自動車道経由

（神戸方面から）

- 洲本 IC または淡路島中央スマート IC で降車
- 本州側(大阪・神戸)から車で約 1 時間～1 時間 30 分

（徳島方面から）

- 洲本 IC または淡路島中央スマート IC で降車
- 四国側(徳島)から車で約 1 時間～1 時間 30 分

③ 電車およびバスによるアクセス

大阪方面

- 大阪駅 → JR 神戸線 → 三ノ宮駅 → 高速バス → 洲本バスセンター
 - 所要時間:約 2 時間 40 分
 - 電車賃:420 円(JR 大阪駅～三ノ宮駅)バス運賃:約 2,270 円(バス部分のみ)
- ※2025 年 12 月現在

④ 飛行機およびバスによるアクセス

関西国際空港(KIX)から

- 関西国際空港(KIX) → リムジンバス → 三ノ宮駅 → 高速バス → 洲本バスセンター
- 所要時間:約 3 時間

大阪空港(伊丹空港)から

- 大阪空港(伊丹空港) → 高速バス → 洲本バスセンター
- 所要時間:約 2 時間

神戸空港から

- 神戸空港 → 高速バス → 洲本バスセンター
- 所要時間:約 2 時間 20 分

徳島空港から

- 徳島空港 → リムジンバス → 徳島駅前 → 高速バス → 洲本バスセンター
- 所要時間:約 2 時間 20 分

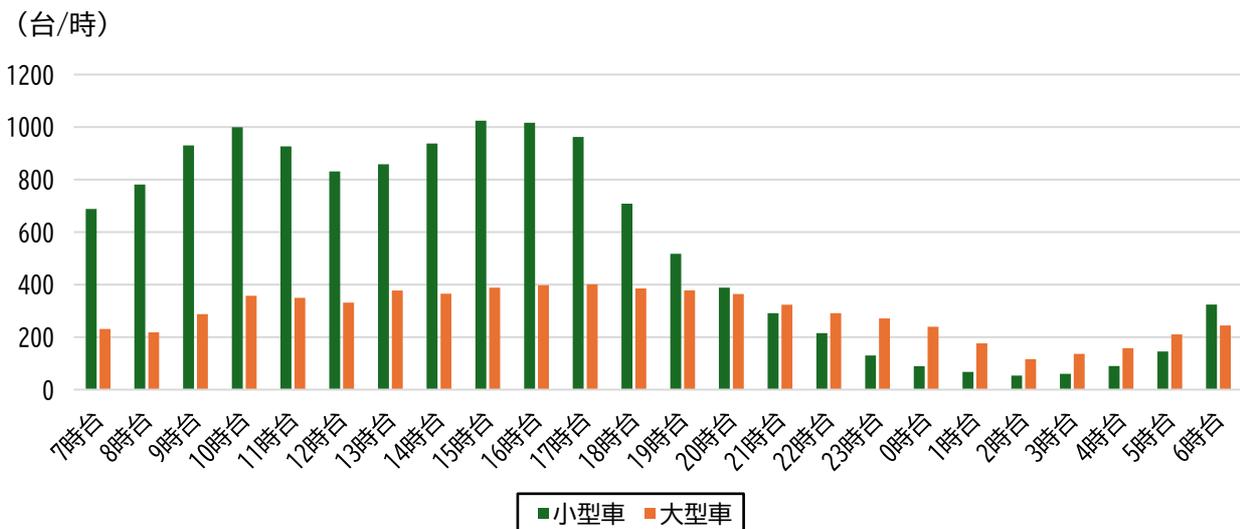
⑤ フェリーによるアクセス ※実証実験

深日港(大阪・泉南) → 洲本港(洲本市)

- 運航期間:概ね 5 月から 11 月までの期間、土・日・祝日限定運航
- 所要時間:40 分
- 料金:1,800 円

* 自動車の時間帯別交通量

淡路中央 IC～洲本 IC 間における時間帯交通量をみると、小型車の交通量は1日のうちピークが2回現れている。10 時と 15～16 時頃に上下線合わせて約 1,000 台の小型車が通行している。19 時台を過ぎると小型車の通行量が大きく減少することから、活動時間は概ね7時から 19 時の間と考えられる。大型車に関しては、日中に目立ったピークはない。



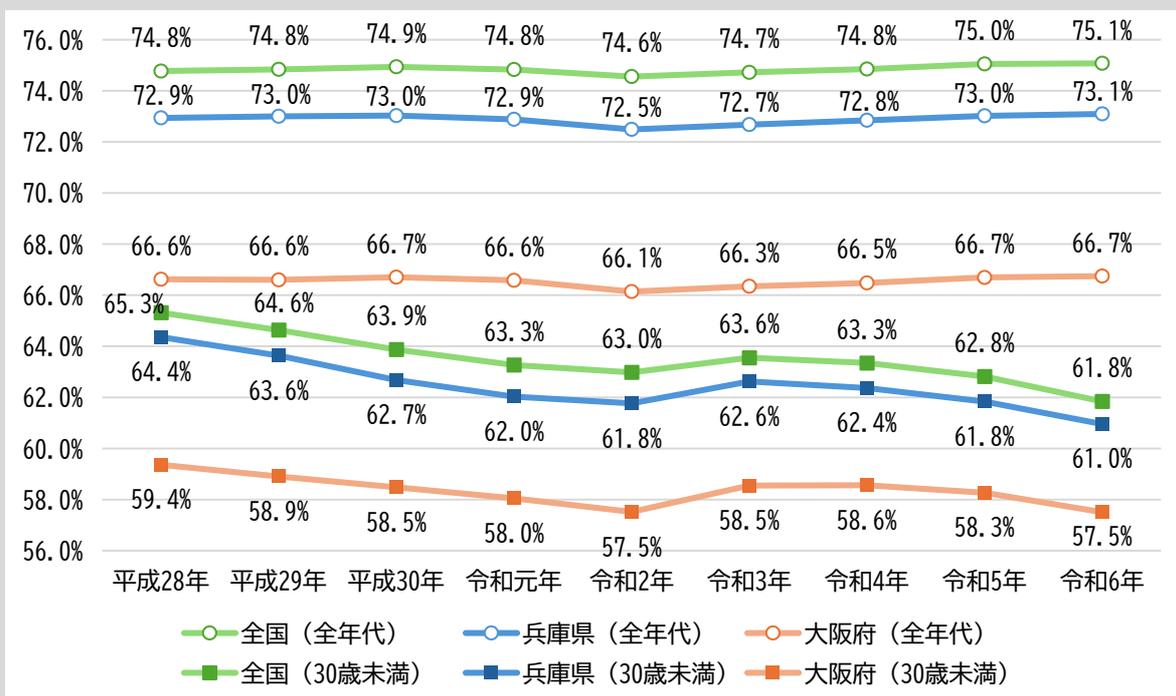
時間帯別交通量(淡路中央 IC～洲本 IC):2021/05/29 観測

<参考> 自動車免許取得率

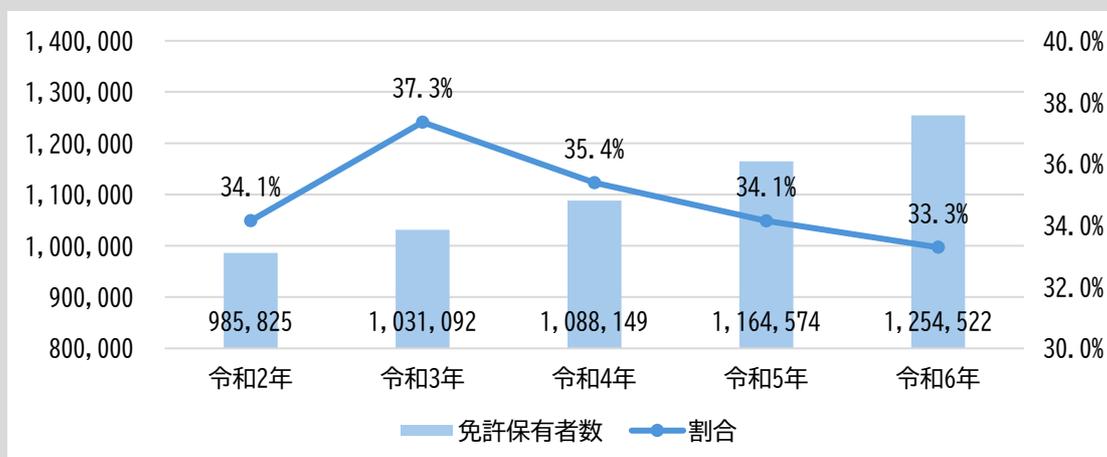
洲本市を含む淡路島への来訪者は、多くが自動車での来訪であるため、自動車免許の取得率が淡路島への来訪者数に影響を与える可能性も考えられる。

近年、若年層の自動車免許取得率は減少傾向にある。全年代での自動車免許取得率は横ばいである一方、30代未満の年齢層では、平成27年の65.3%から令和6年には61.8%と、全国平均で3.5pt低下している。兵庫県でも同様の傾向がみられており、平成27年の64.4%から、令和6年度には61.0%まで低下している。(大阪府では59.4%→57.5%)

一方で、観光の観点では従来からレンタカーの利用も選択肢の一つであり、カーシェアの普及等により気軽に運転できる環境が整備されてきていることは追い風であり、また短距離を移動するためのモビリティも普及してきていることから、技術進歩に合わせた観光施策による事業展開が求められる。



自動車免許取得率(運転免許統計(警察庁))



在留外国人の運転免許保有者数及び保有割合(内閣府)

■活用が考えられるエリアの地域資源

活用が考えられるエリアについて、以下に資源を整理する。

○旧鐘紡洲本工場周辺

機能	内容	事業者名
飲食	ハンバーガー カフェ ラーメン、定食	LL ダイニング アルチザン店 HAMBURG&STEAK WORKS AWAJISHIMA MALLOW
交流スペース	子育て施設 コワーキングスペース	ふるさと洲本交流スペース A BRICK、S BRICK
サービス	美容院、携帯ショップ、セレクトショップ	(株)ハピネス、スマホ堂淡路・洲本店、マウントブルー
公共施設	図書館	
その他事業者		(有)いきいき、武田司法書士事務所、(株)タナチョー兵庫 淡路出張所、株式会社 AWJ、レッドホースコーポレーション株式会社 Lunch & Cafe AMIAMI、長次建築設計事務所
その他機能	市営駐車場、市民広場	

○商店街周辺

機能	店舗
飲食	淡路島ダイニングバー酒林、お好み焼きタニガワ、しあわせ島ごはん まどみ、淡路島スタンダー堂、喫茶ビエン、cafe こきゅう、TOMMY COFFEE STAND 呑べい、exodus awaji、Support Square ともす、いたりあ亭、tanmi dining-Rabo、Al Ceppo、ごはん家 nana、ぴかいち中華こみち、ひさのま、チャルラル VERDE ベルデ淡路島、朝ごはん赤富士、ダイニング酒場蓮、淡路島 しるく屋 等
ファッション	K'store、kimono 唐草本店、ブティックサキタ、フクザキ、la s mode sakaiya、つばさか呉服店、マルトミ、マルハ Re+、メンズショップ シホ、レディスブティックチョーヤ、ブティック RORO、COTY&STYLE、freestars コンバースコレクターの店、さかいや、志保洋品店、ユニホームのクラモト、オリンピア、GALSON gallery ギャルソン ギャラリー、サンジップ、マルハ本店ジオスポーツ・ルイシヤンタン、freestars コンバースコレクターの店、YAMAMATSU 等
美容・ヘルシー	本町接骨院、太田化粧品店、大谷化粧品店、TOIRO、アート・イン・サエラ、Regrace、Suntotalbeauty、pash、美容プラージュ 洲本店 等
インテリア・雑貨	なべ秀陶器店、マルシェリブレ、Gardening design plaza、ママイクコ 庄田装飾、食器の店 よねざわ、carrat...+、ムーシユリーク 等

眼鏡・時計・貴金属	長井メガネ、三野時計店 等
写真・文具	Photo Studio Cadeau、坂本文昌堂、森下写真 等
食品・惣菜	中野砂糖店、出口商店、辨天堂、Sumheart、わかめ麺製造販売株式会社 等
カルチャー	西住スポーツ、マトヤ楽器、喜MONOフタツキ、Foulballrecord、Livehall Dolly's スポーツコミュニティ淡路島 等
シューズ・カバン	くつのトミモト 洲本店、コトオ靴店 等
その他	Fstudio 等

○炬口漁港周辺

機能	店舗
飲食	たけのくち食堂
その他	公共トイレ、炬口フィッシャリーナ、炬口漁港公園 等

(4) 人流データから見る洲本市の状況

■調査の目的

洲本市中心市街地における観光地域づくりを進めるにあたっては、来訪者の動向や滞在人口の特徴を把握し、地域資源や遊休地の活用可能性を適切に評価することが重要である。とりわけ、中心市街地に「どのような人が、いつ、どれくらい訪れているのか」を定量的に把握することは、遊休地の利用方針を検討する上で欠かせない基礎情報となる。

本分析では、KDDI Location Analyzer を用いて、中心市街地の来訪者数の推移、来訪者の属性、滞在人口の分布や傾向等を明らかにする。

これらの分析結果をもとに、

- ・ 遊休地周辺における利用ポテンシャルの整理
- ・ 遊休地の利用形態(用途)を検討するための基礎情報の提示

を行い、観光地域づくりに資する遊休地活用の方向性を検討するための基礎資料とする。

■調査の方法

本分析では、KDDI Location Analyzer の以下の3つの機能を用いて、中心市街地および遊休地周辺における来訪状況を把握した。詳細な設定は、後述する内容を参照。

1. 来訪者属性分析:各エリアに来訪する人の、年代・性別・時間帯別来訪者数を把握した。
 2. 来訪者居住地分析:各エリアに来訪する人の、居住地(都道府県・市町村)を把握した。
 3. 来訪者単点分析ダッシュボード:各エリアを単点として設定し、年間の滞在人口や曜日別の来訪傾向、滞在日数、リピーター率を把握した。
- ・ 調査の対象は、以下のとおりである。
 - A) (全体傾向):洲本市中心市街地全体
 - B) (エリア別):炬口漁港周辺/大浜海水浴場/商店街周辺/ 旧鐘紡洲本工場周辺/洲本温泉周辺来訪者の対象:中心市街地外からの来訪を「来訪者」と設定

*KDDI Location Analyzer とは

携帯電話の位置情報を統計加工したデータを使い、特定エリアの人流（滞在人口・来訪者属性・来訪圏域）を把握できるツールのこと。地図上で設定したエリアに「いつ・どんな人が・どれくらい滞在していたか」を匿名の位置情報データで分析することができる。

<来訪者の定義>

以下の定義に基づいて設定される「居住者」と「勤務者」を除いた者を「来訪者」として定義。滞在時間等については、任意で設定が可能。

居住者：指定した圏内に「推定居住地」がある人。推定居住地は、夜間に携帯電話が所在している位置に基づいて判定。

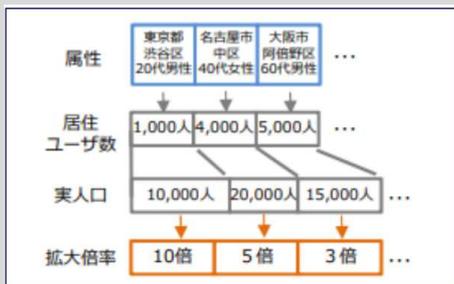
勤務者：指定した半径 1km 圏内などに「推定勤務地」がある人。推定勤務地は、昼間に携帯電話が所在している位置に基づいて判定。

<エリア設定>

人流の状況について、手動での任意の範囲設定、特定の地点からの半径、自治体単位などを対象エリアとして設定可能。また来訪者についても、人流の状況を把握する範囲とは別に、指定した対象エリア外からの来訪のみをカウントすることが可能。

<推計方法>

ユーザーの属性として、位置情報データから推計した居住地と契約情報に基づく性別・年代情報があり、2020 年国勢調査の市区町村ごとの性・世代別人口データを比較し、拡大倍率を求める。



拡大倍率は、許諾者の増加などに合わせて最適な数字となるよう、各月ごとに計算した値としている。全人口推計値は、ユーザー数に集計期間内の各月の拡大倍率を掛け合わせて、のべ人数を集計することで、より実際の通行人口、滞在人口、施設への来訪者に近い推計値を確認。なお、「国内居住者・来訪者居住地分析」の町丁目別の集計値には、2020 年国勢調査の町丁目ごとの 20 代以上人口データを比較データとして、拡大倍率を求めている。

A) 中心市街地全体の傾向

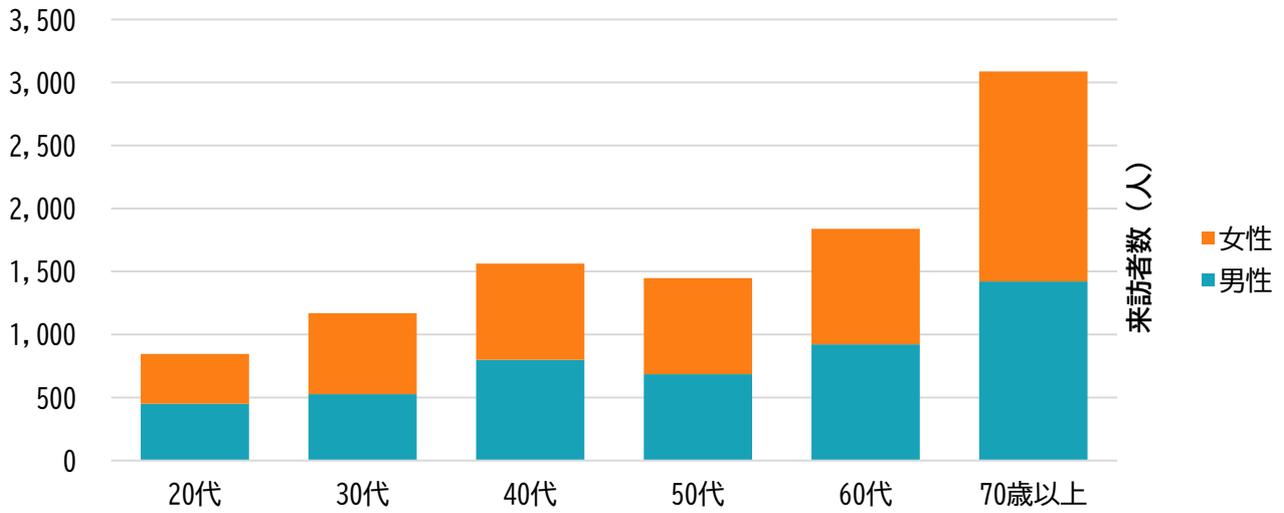
■調査概要:中心市街地全体



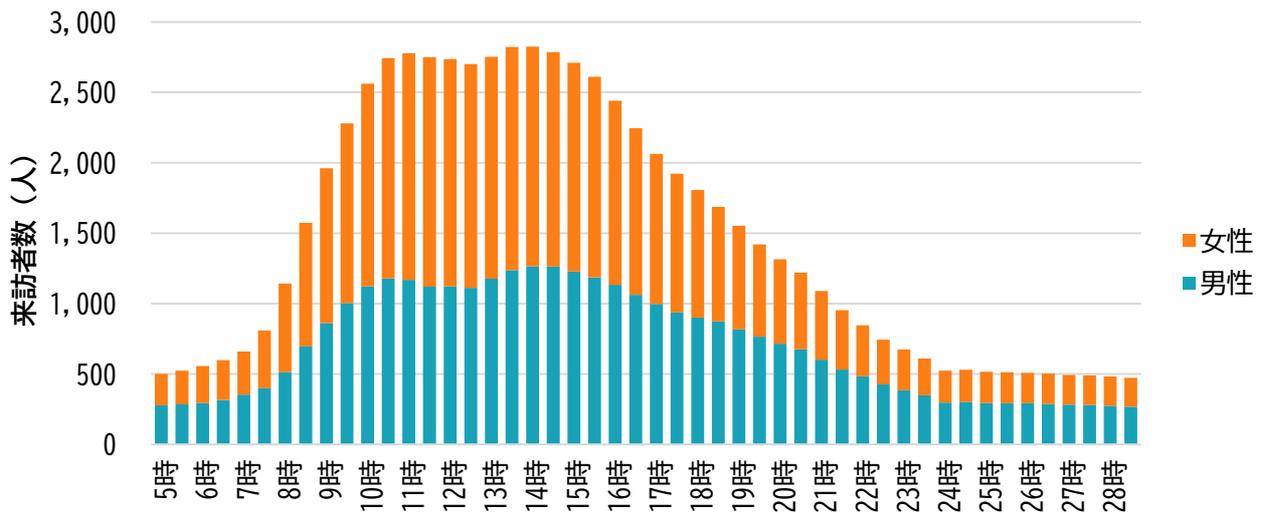
■集計方法	全人口推計値(日ユニーク)
■データ期間	2024/11/01~2025/10/31
■日にち区分	期間全体
■時間帯	05:00~29:00
■来訪日数	1日以上
■滞在時間	30分以上
■性別	男性,女性
■年代別	20代,30代,40代,50代,60代,70歳以上
■居住者/勤務者/来街者	来街者
■商圈タイプ・サイズ	フリーハンド(上図参照)

中心市街地全体:来訪者属性分析

年代×性別：1日あたり平均



時間帯別平均・性別



中心市街地全体: 来訪者居住地分析

来訪者居住地（市区町村）来訪者数上位10位



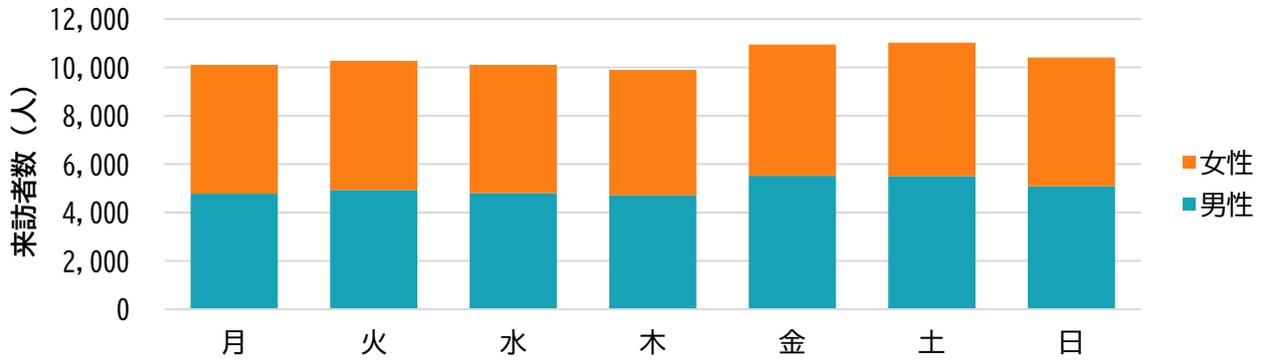
来訪者居住地（市区町村）来訪者数上位10位 ※淡路島内3市を除く



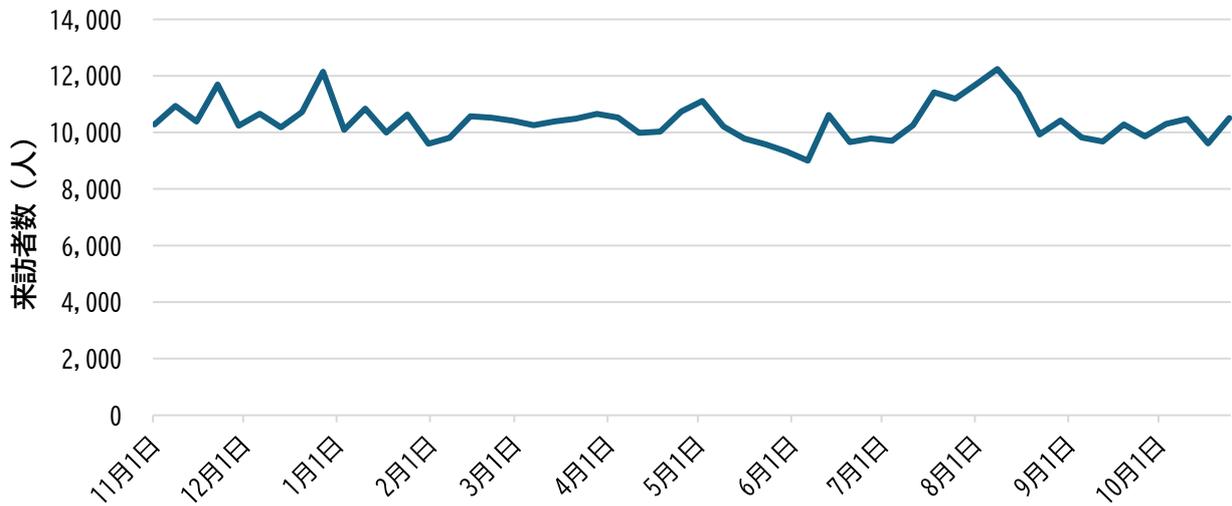
市町村別ランキング			都道府県別ランキング		
	市区町村名	人数		都道府県名	人数
1	洲本市	3,468,447	1	兵庫県	5,143,273
2	南あわじ市	686,564	2	大阪府	187,931
3	淡路市	683,576	3	徳島県	50,440
4	神戸市垂水区	30,357	4	京都府	31,565
5	明石市	29,115	5	香川県	26,681
6	神戸市西区	28,947	6	奈良県	17,471
7	西宮市	27,859	7	東京都	16,710
8	徳島市	19,968	8	愛知県	15,318
9	姫路市	19,920	9	滋賀県	13,854
10	神戸市北区	18,344	10	神奈川県	12,016
-	上記以外	591,305	-	上記以外	89,545

中心市街地全体:単点分析

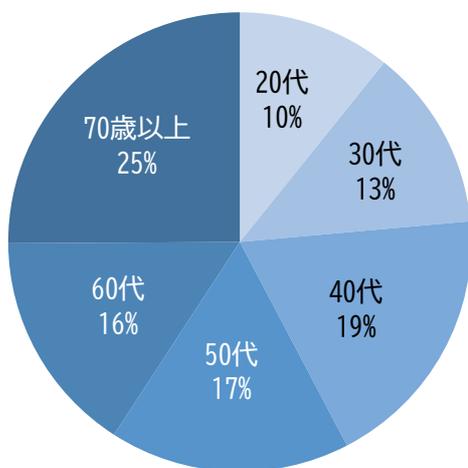
曜日別来訪者数



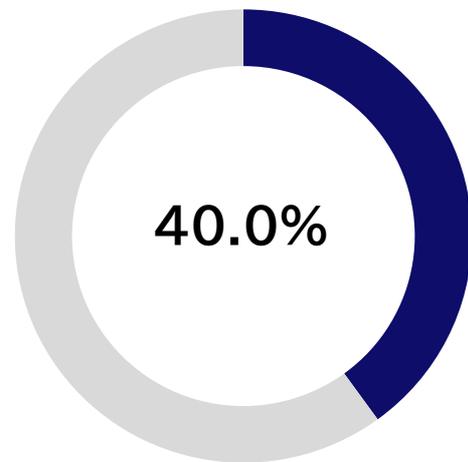
来訪者数の推移 (週平均)



年代別割合



リピーター率



中心市街地全体分析結果

以下に、中心市街地全体における分析結果を示す。

分析項目	特徴的な点
年代×性別	男女比はほぼ半々。20代の来訪者数が少なく、70代以上が多い。
時間帯別平均・性別	10時から15時半の間でピークが来ている。ピーク時には夜間人口の5倍の人が訪れている。
来訪者居住地	兵庫県内の他、徳島市(徳島県)や吹田市(大阪府)からの来訪者数も多い。
曜日別来訪者数	金曜・土曜の来訪者数が若干多い。
来訪者数の推移	クリスマスから年末にかけてや、お盆・夏休みシーズンでの来訪者数が多くなっている。 一方で、GW 終わりから梅雨時期にかけては少なくなっている。
年代別割合	70代以上の割合が1/4を占めている。

B) エリアごとの分析

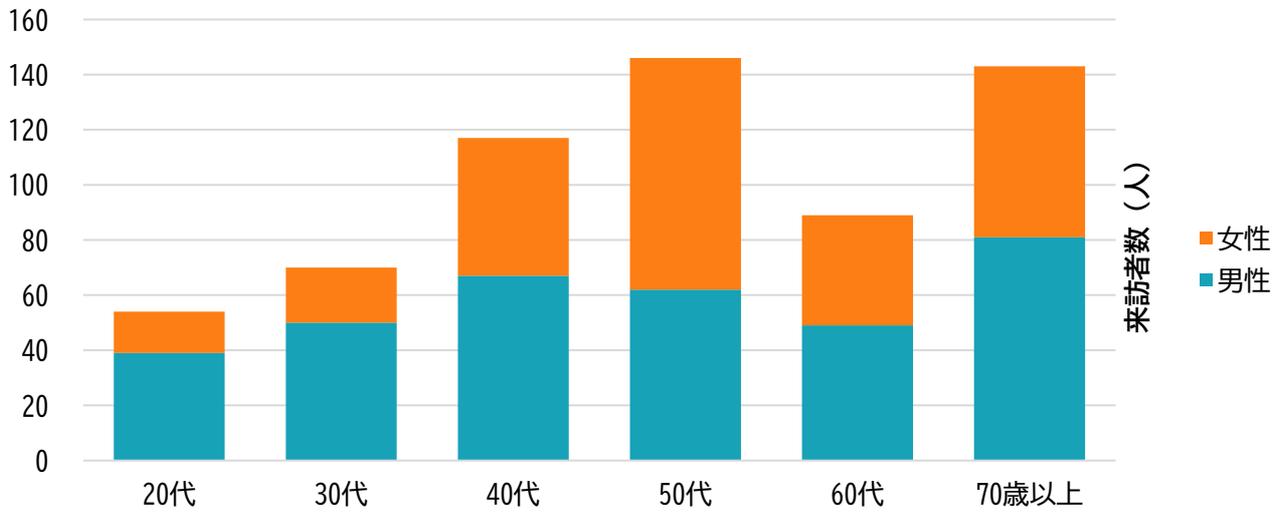
■調査概要: 炬口漁港周辺



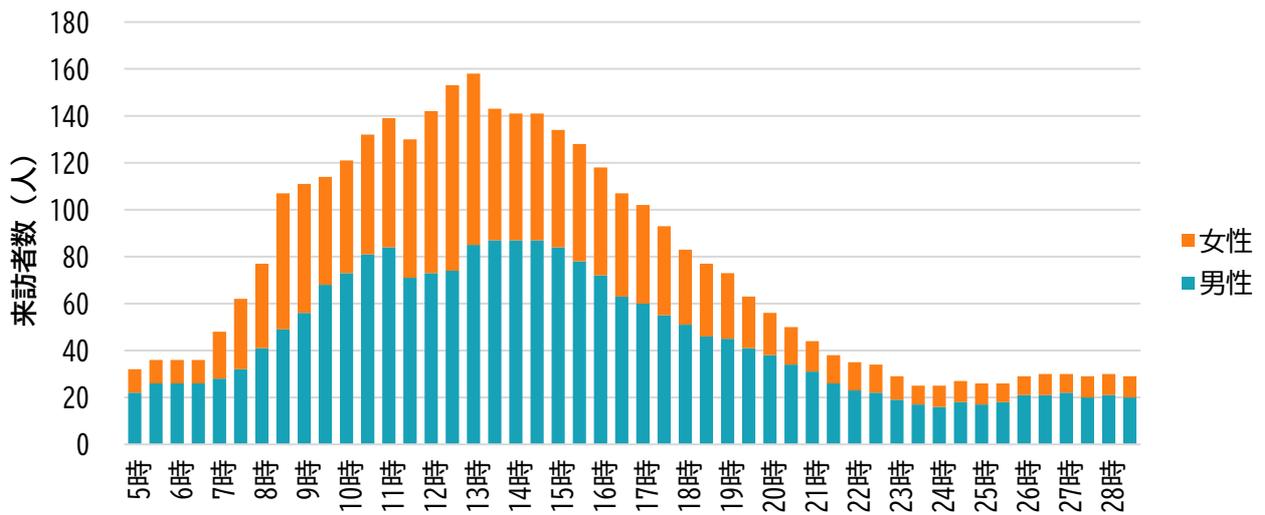
■集計方法	全人口推計値(日ユニーク)
■データ期間	2024/11/01~2025/10/31
■日にち区分	期間全体
■時間帯	05:00~29:00
■来訪日数	1日以上
■滞在時間	30分以上
■性別	男性,女性
■年代別	20代,30代,40代,50代,60代,70歳以上
■居住者/勤務者/来街者	来街者
■商圈タイプ・サイズ	フリーハンド(右図参照)

炬口漁港周辺: 来訪者属性分析

年代×性別：1日あたり平均

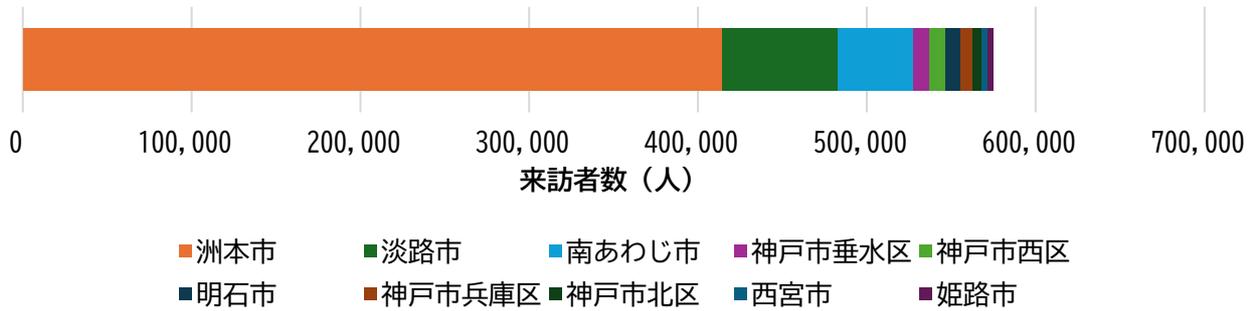


時間帯別平均・性別



炬口漁港周辺:来訪者居住地分析

来訪者居住地（市区町村）来訪者数上位10位



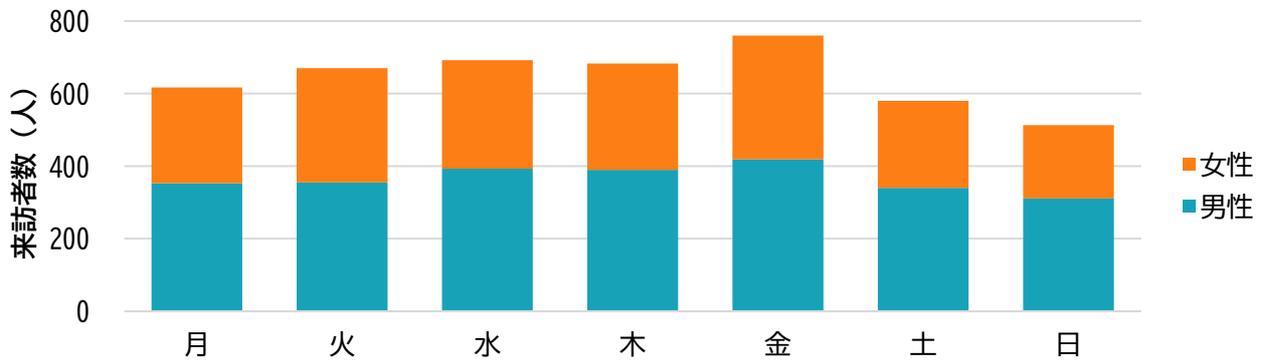
来訪者居住地（市区町村）来訪者数上位10位 ※淡路島内3市を除く



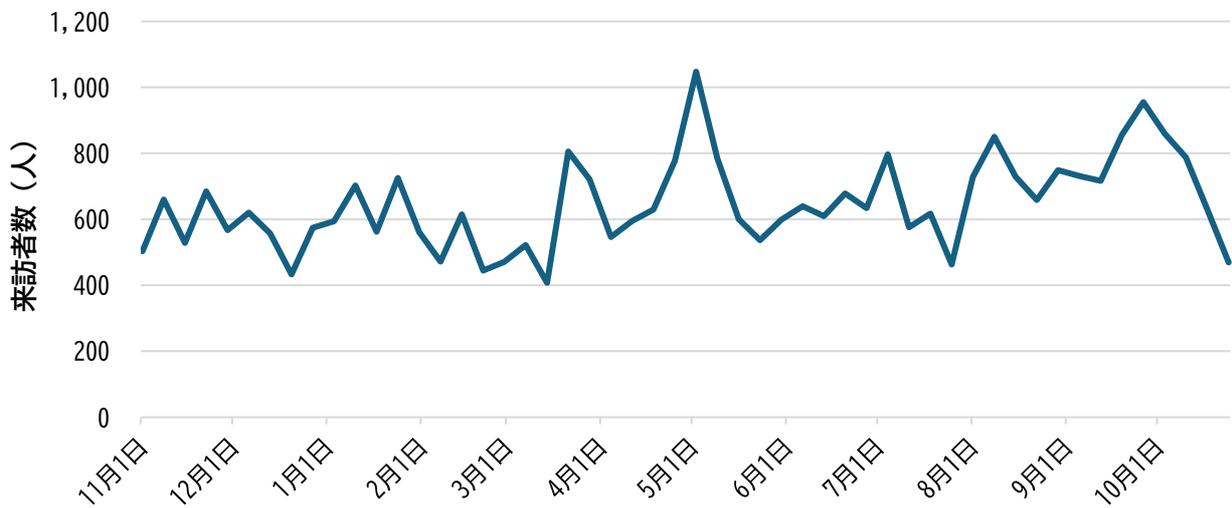
市町村別ランキング			都道府県別ランキング		
	市区町村名	人数		都道府県名	人数
1	洲本市	414,485	1	兵庫県	592,964
2	淡路市	68,244	2	大阪府	18,071
3	南あわじ市	44,590	3	京都府	3,336
4	神戸市垂水区	9,840	4	徳島県	2,617
5	神戸市西区	9,667	5	香川県	2,446
6	明石市	8,791	6	奈良県	1,581
7	神戸市兵庫区	6,988	7	滋賀県	1,388
8	神戸市北区	5,262	8	愛知県	1,332
9	西宮市	3,871	9	岡山県	1,186
10	姫路市	3,314	10	東京都	844
-	上記以外	54,863	-	上記以外	4,268

炬口漁港周辺:単点分析

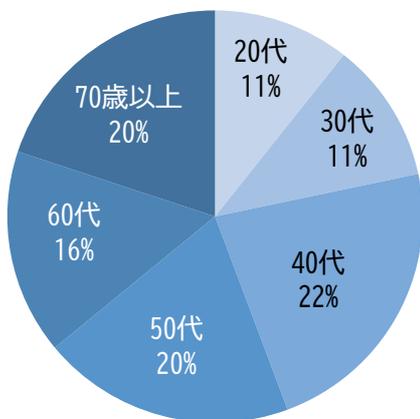
曜日別来訪者数



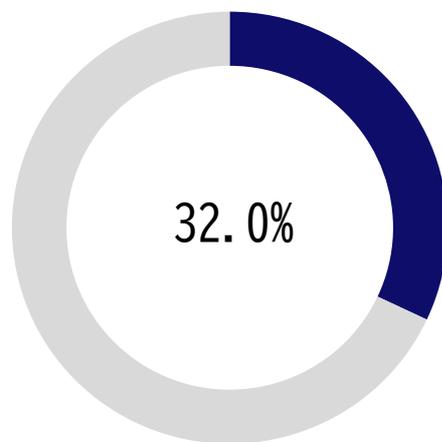
来訪者数の推移 (週平均)



年代別割合



リピーター率



炬口漁港エリア分析結果

以下に、炬口漁港における分析結果を示す。

なお、比較対象については、中心市街地全体の結果を基準として用いている。

分析項目	特徴的な点
年代×性別	20代・30代の男女に占める女性の割合が低くなっている。
時間帯別平均・性別	お昼時がピークであり、14時半ごろから減少傾向になっている。
来訪者居住地	兵庫県内からの来訪者がほとんどすべてを占めている。
曜日別来訪者数	金曜日の来訪者数が多く、日曜日は比較的少ない。
来訪者数の推移	5月の来訪者数が最も多く、次いで10月の来訪者数が多い。
年代別割合	40代・50代の割合が比較的高くなっている。

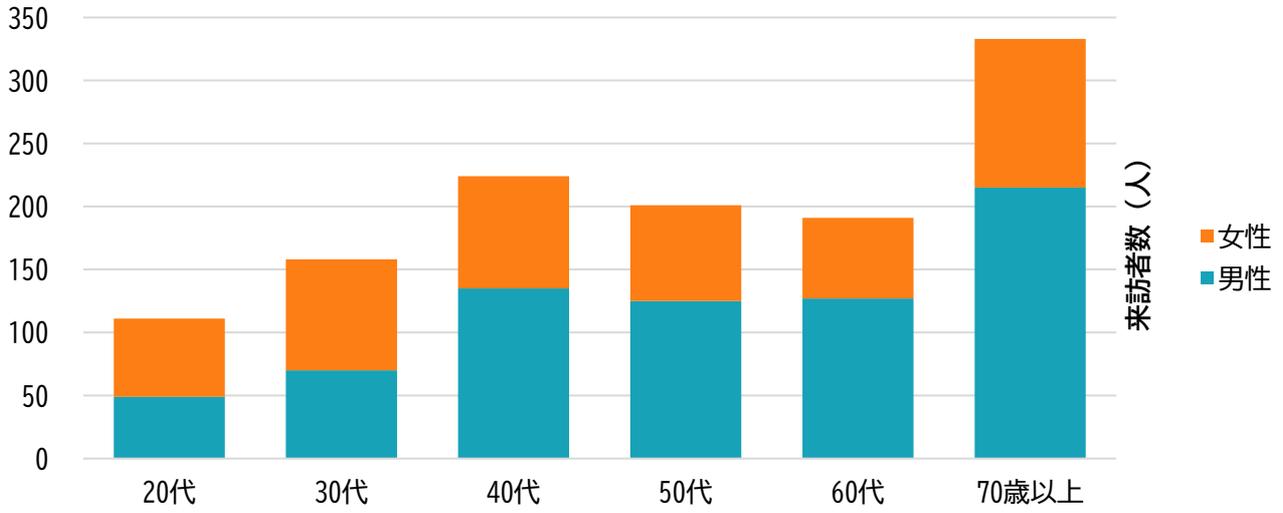
■調査概要:大浜海水浴場



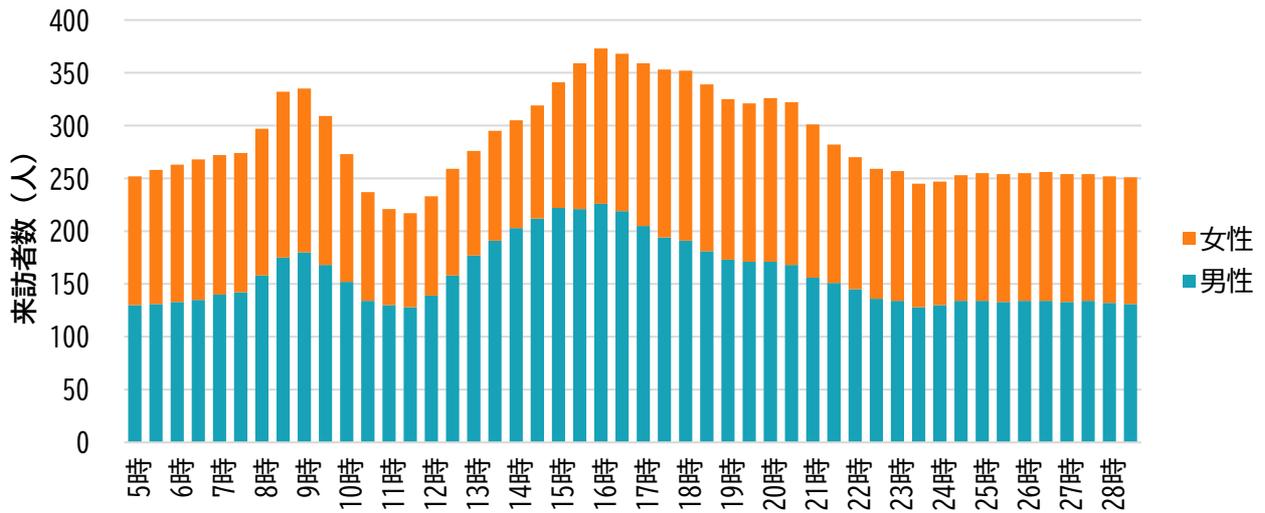
■集計方法	全人口推計値(日ユニーク)
■データ期間	2024/11/01~2025/10/31
■日にち区分	期間全体
■時間帯	05:00~29:00
■来訪日数	1日以上
■滞在時間	30分以上
■性別	男性,女性
■年代別	20代,30代,40代,50代,60代,70歳以上
■居住者/勤務者/来街者	来街者
■商圈タイプ・サイズ	フリーハンド(右図参照)

大浜海水浴場: 来訪者属性分析

年代×性別：1日あたり平均



時間帯別平均・性別



大浜海水浴場:来訪者居住地分析

来訪者居住地（市区町村）来訪者数上位10位



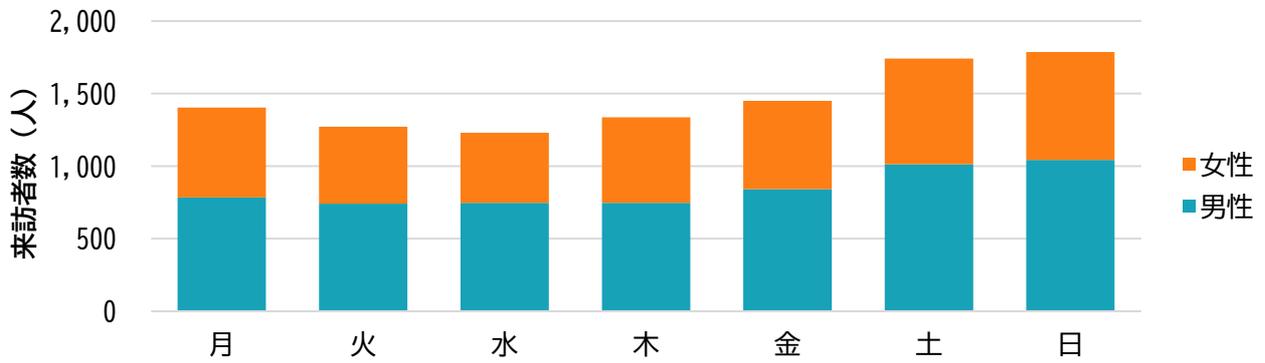
来訪者居住地（市区町村）来訪者数上位10位 ※淡路島内3市を除く



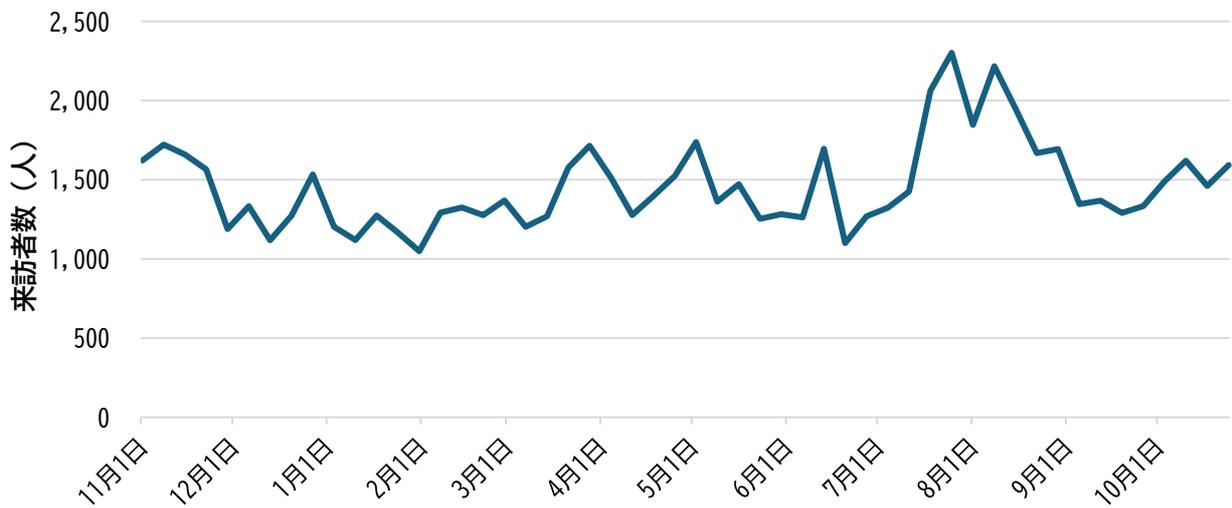
市町村別ランキング			都道府県別ランキング		
	市区町村名	人数		都道府県名	人数
1	洲本市	281,590	1	兵庫県	440,645
2	南あわじ市	51,431	2	大阪府	60,350
3	淡路市	47,866	3	京都府	10,851
4	吹田市	5,532	4	徳島県	8,699
5	西宮市	5,460	5	香川県	7,171
6	神戸市中央区	5,143	6	東京都	6,022
7	姫路市	4,075	7	愛知県	5,744
8	茨木市	3,931	8	奈良県	5,651
9	宝塚市	3,850	9	滋賀県	5,647
10	神戸市北区	3,549	10	広島県	4,911
-	上記以外	178,471	-	上記以外	35,482

大浜海水浴場:単点分析

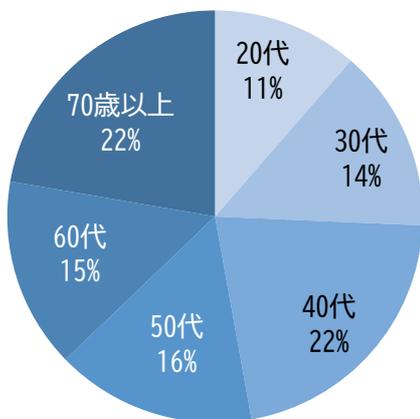
曜日別来訪者数



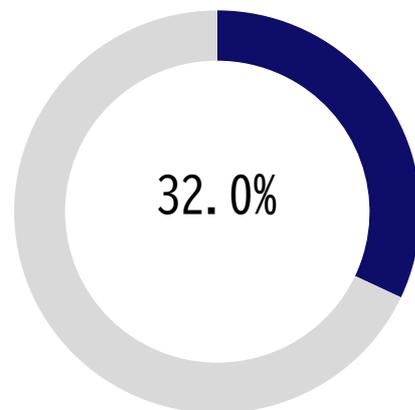
来訪者数の推移



年代別割合



リピーター率



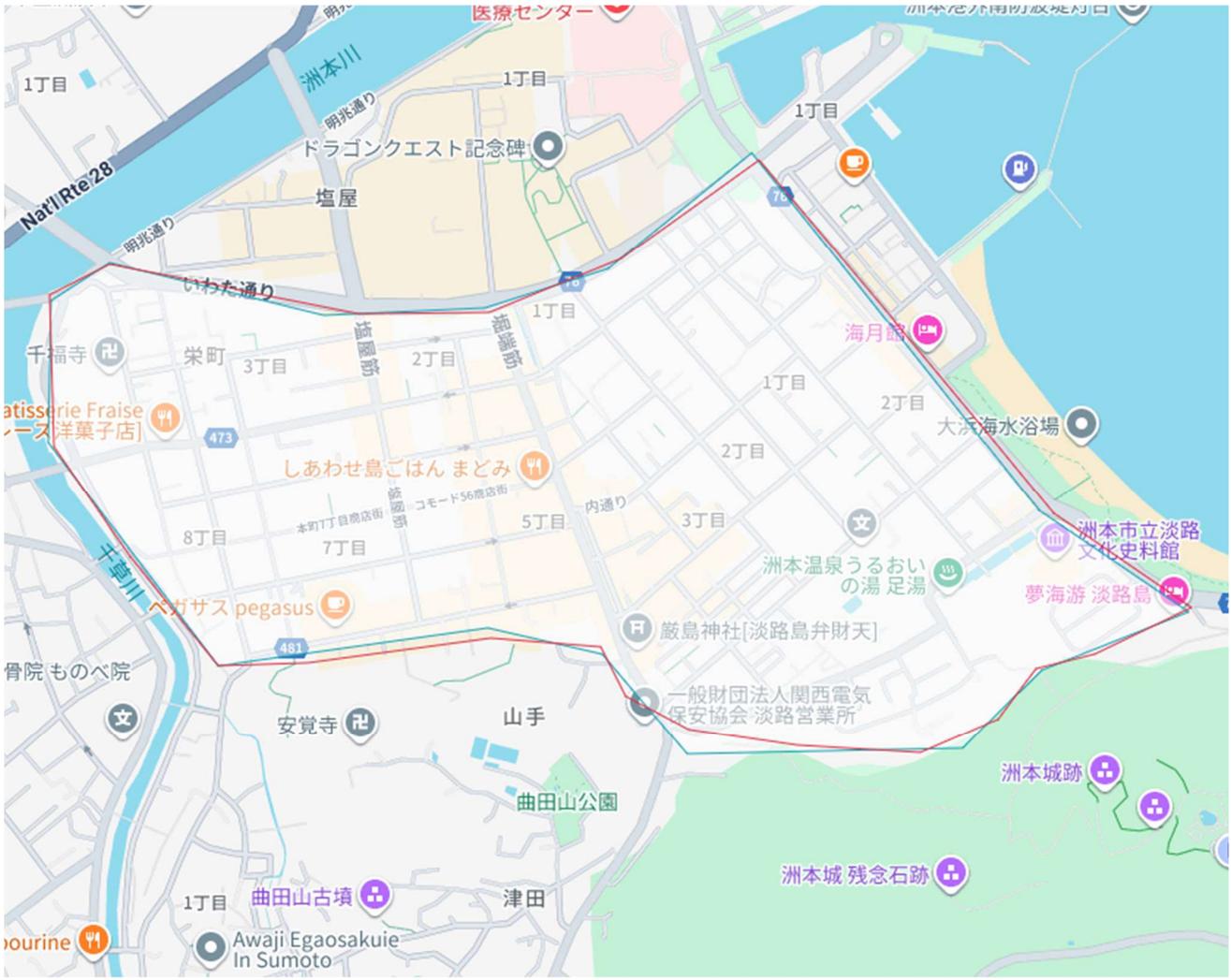
大浜海水浴場エリア分析結果

以下に、大浜海水浴場エリアにおける分析結果を示す。

なお、比較対象については、中心市街地全体の結果を基準として用いている。

分析項目	特徴的な点
年代×性別	20代・30代では女性の占める割合が高いが、40代以降男性の占める割合が高くなっている。
時間帯別平均・性別	夕方16時前後の来訪者数が多く、11時台の来訪者は少なくなっている。
来訪者居住地	大阪府内からの来訪の割合が比較的高い。
曜日別来訪者数	土日の来訪者数が多い。
来訪者数の推移	夏休みシーズンが最も多い。11月にもピークがある。
年代別割合	70歳以上の占める割合が高い。

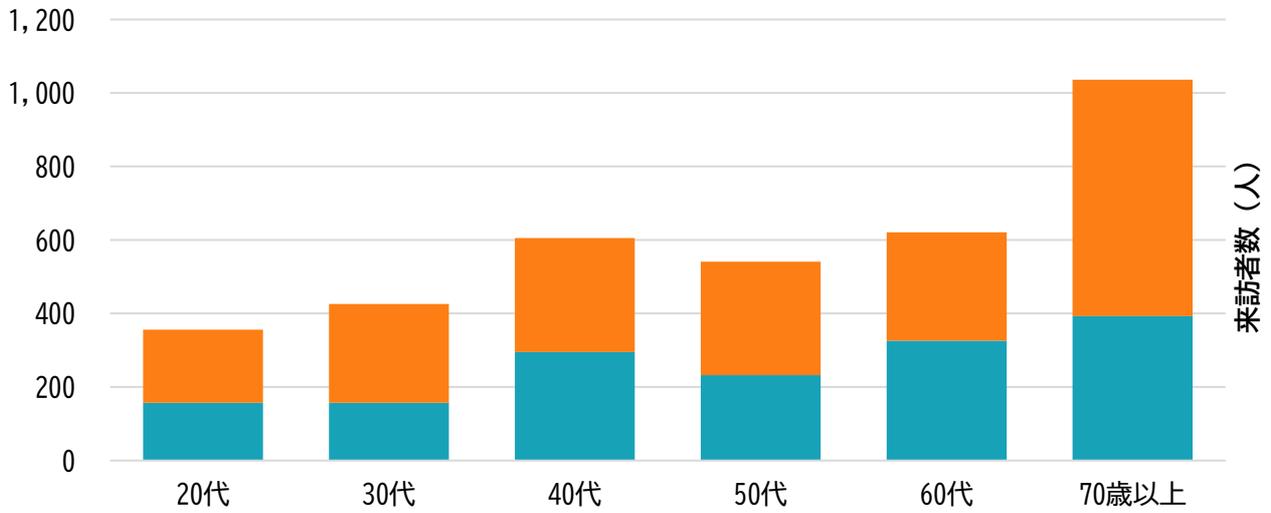
■調査概要:商店街周辺エリア



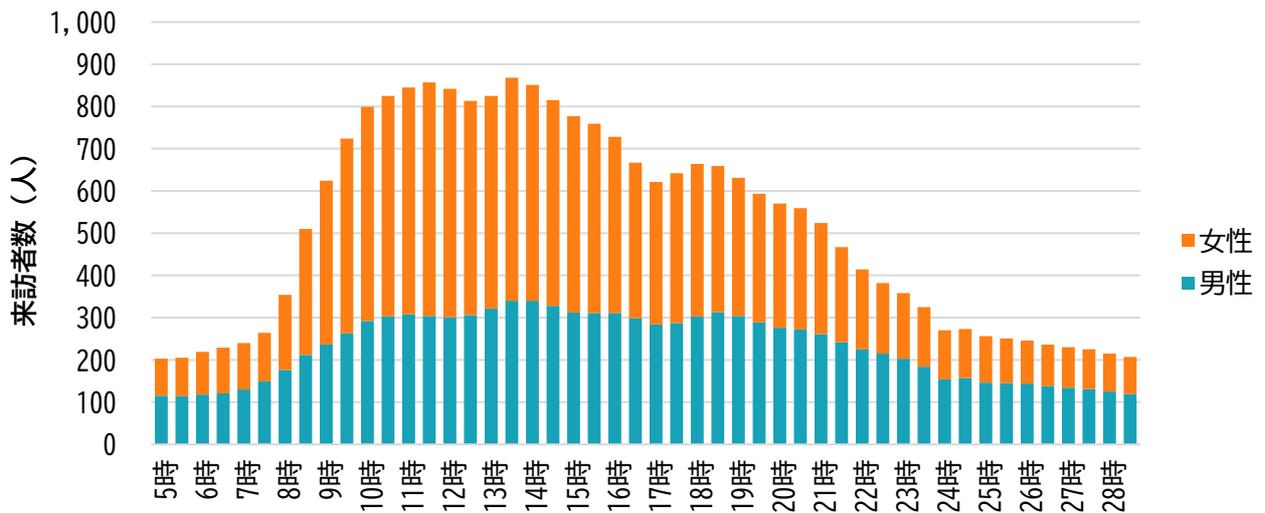
■集計方法	全人口推計値(日ユニーク)
■データ期間	2024/11/01~2025/10/31
■日にち区分	期間全体
■時間帯	05:00~29:00
■来訪日数	1日以上
■滞在時間	30分以上
■性別	男性,女性
■年代別	20代,30代,40代,50代,60代,70歳以上
■居住者/勤務者/来街者	来街者
■商圈タイプ・サイズ	フリーハンド(右図参照)

商店街周辺: 来訪者属性分析

年代×性別：1日あたり平均



時間帯別平均・性別



商店街周辺:来訪者居住地分析

来訪者居住地（市区町村）来訪者数上位10位



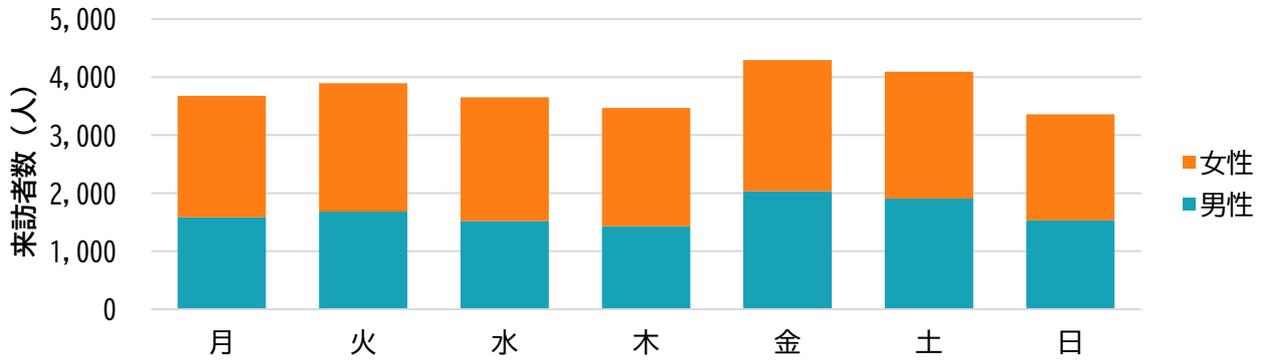
来訪者居住地（市区町村）来訪者数上位10位 ※淡路島内3市を除く



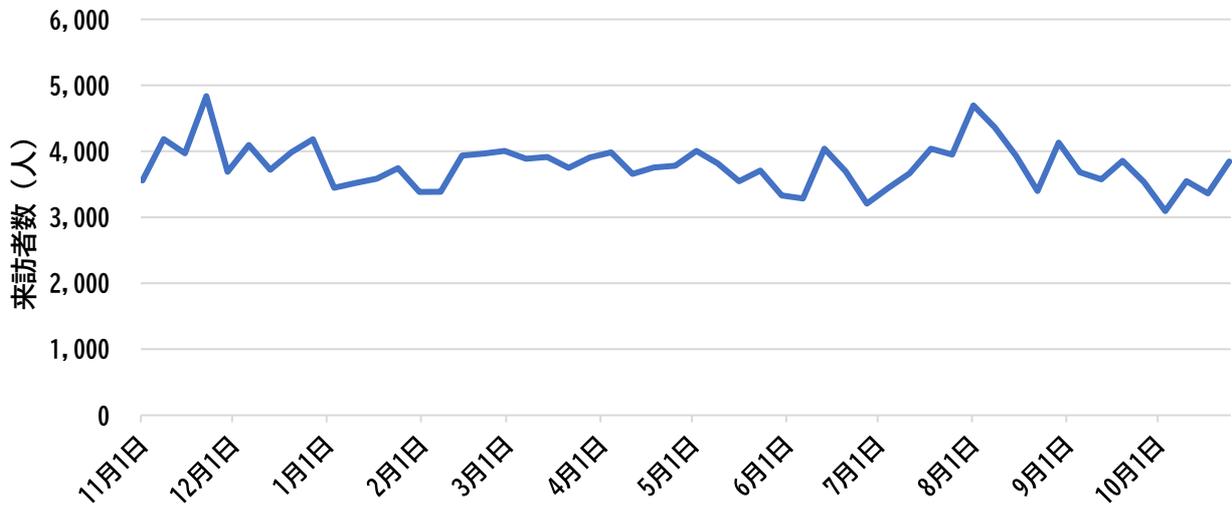
市町村別ランキング			都道府県別ランキング		
	市区町村名	人数		都道府県名	人数
1	洲本市	1,975,684	1	兵庫県	2,469,019
2	南あわじ市	197,574	2	大阪府	87,457
3	淡路市	182,091	3	徳島県	24,548
4	神戸市垂水区	13,931	4	香川県	15,681
5	西宮市	11,334	5	京都府	13,350
6	徳島市	9,593	6	東京都	8,776
7	神戸市西区	9,433	7	滋賀県	7,057
8	明石市	8,865	8	奈良県	6,904
9	姫路市	8,546	9	広島県	6,234
10	神戸市北区	6,863	10	愛知県	6,088
-	上記以外	265,855	-	上記以外	44,974

商店街周辺:単点分析

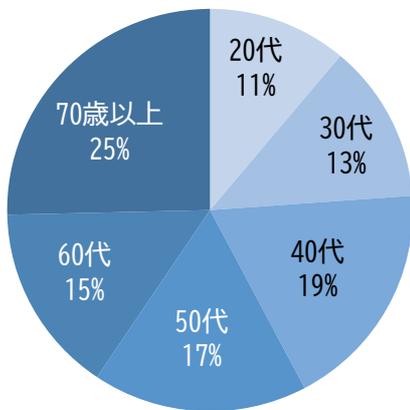
曜日別来訪者数



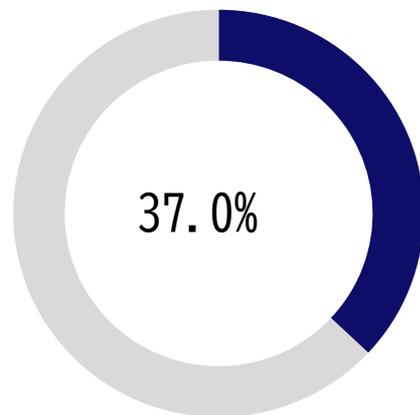
来訪者数の推移



年代別割合



リピーター率



商店街周辺エリア分析結果

以下に、商店街周辺エリアにおける分析結果を示す。

なお、比較対象については、中心市街地全体の結果を基準として用いている。

分析項目	特徴的な点
年代×性別	比較的女性の割合が高く、特に 70 歳以上の女性が多く来訪している。
時間帯別平均・性別	10 時から 16 時の間で来訪者数が多く、午前中は女性の割合が比較的高い。
来訪者居住地	徳島や香川など、四国エリアからの来訪者も多い。
曜日別来訪者数	金曜日の来訪者数が多く、日曜日は比較的少ない。
来訪者数の推移	11 月と 8 月にピークが来ている。
年代別割合	70 歳以上の占める割合が高い。

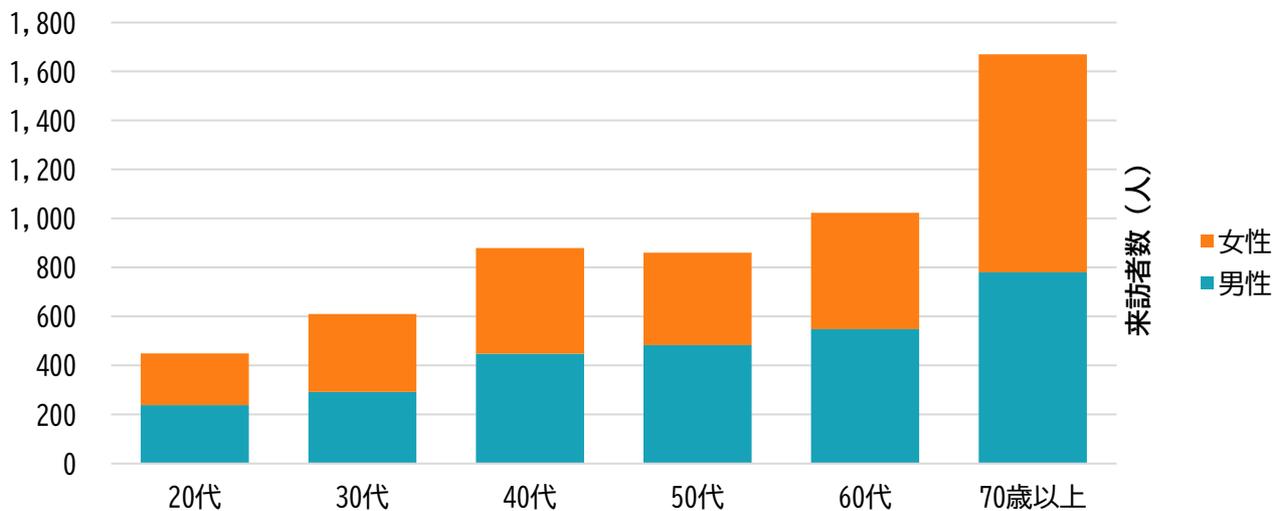
■調査概要:旧鐘紡洲本工場周辺エリア



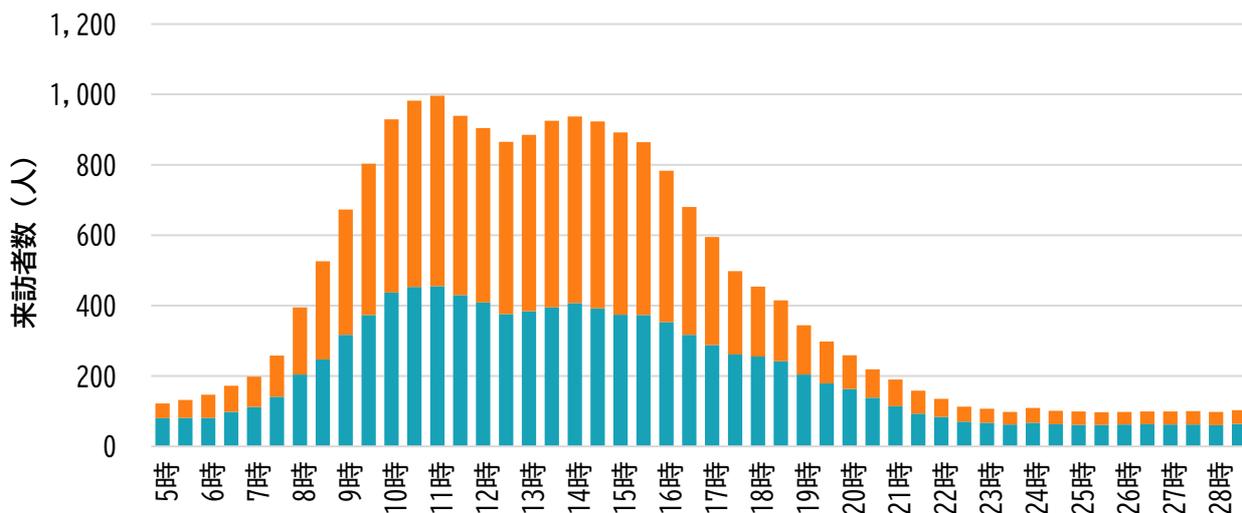
■集計方法	全人口推計値(日ユニーク)
■データ期間	2024/11/01~2025/10/31
■日にち区分	期間全体
■時間帯	05:00~29:00
■来訪日数	1日以上
■滞在時間	30分以上
■性別	男性,女性
■年代別	20代,30代,40代,50代,60代,70歳以上
■居住者/勤務者/来街者	来街者
■商圈タイプ・サイズ	フリーハンド(右図参照)

旧鐘紡洲本工場周辺：来訪者属性分析

年代×性別：1日あたり平均

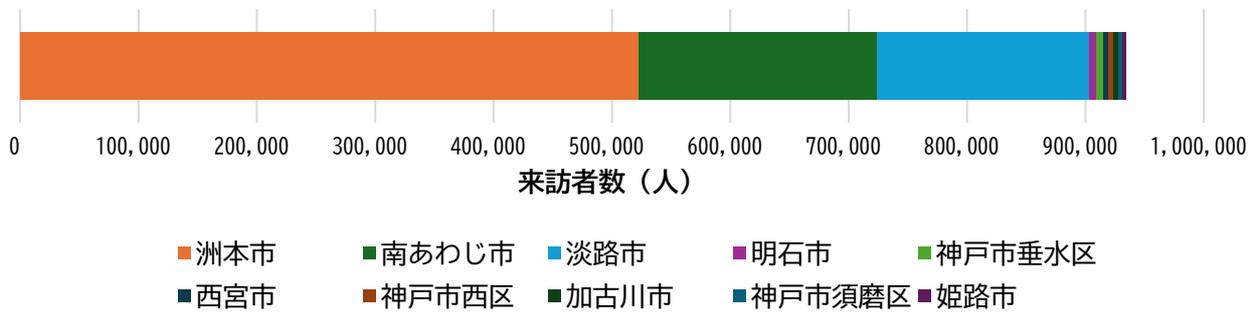


時間帯別平均・性別

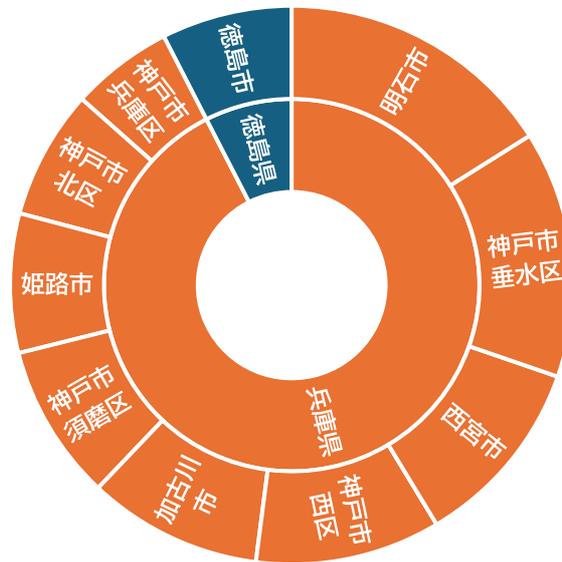


旧鐘紡洲本工場周辺：来訪者居住地分析

来訪者居住地（市区町村）来訪者数上位10位



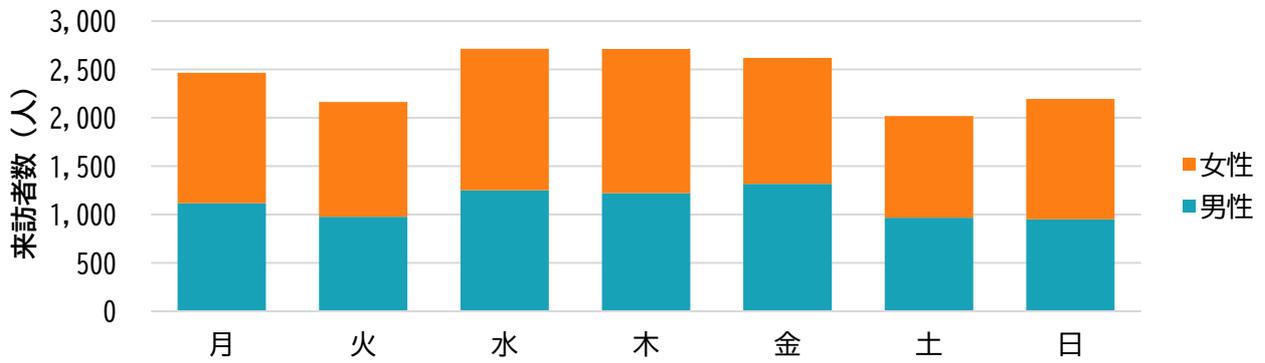
来訪者居住地（市区町村）来訪者数上位10位 ※淡路島内3市を除く



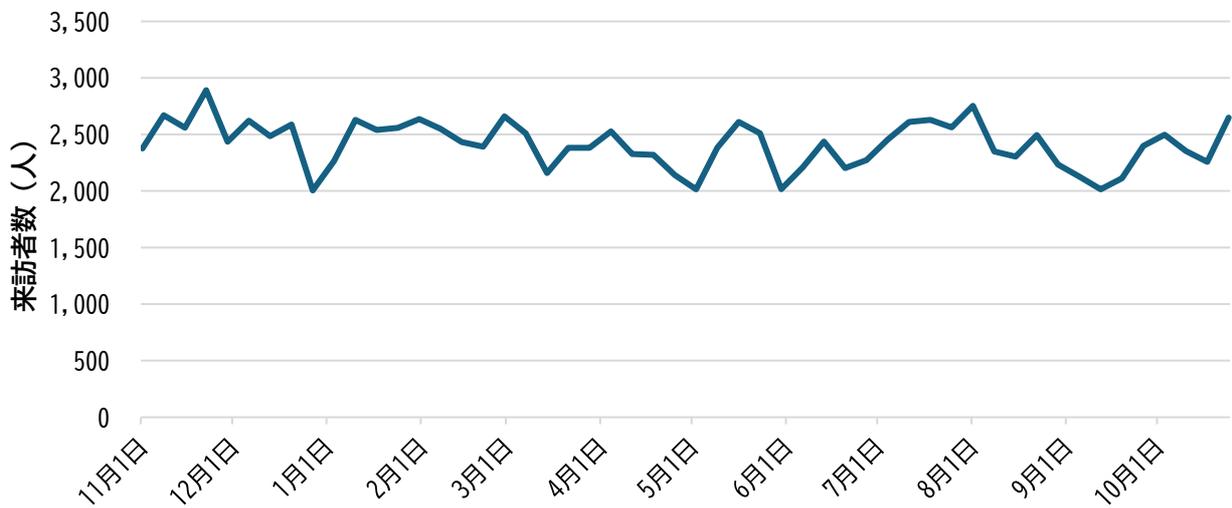
市町村別ランキング			都道府県別ランキング		
	市区町村名	人数		都道府県名	人数
1	洲本市	523,182	1	兵庫県	957,420
2	南あわじ市	201,379	2	大阪府	32,250
3	淡路市	178,494	3	徳島県	7,410
4	明石市	6,370	4	京都府	5,213
5	神戸市垂水区	5,692	5	愛知県	3,992
6	西宮市	4,406	6	奈良県	3,896
7	神戸市西区	4,234	7	東京都	3,819
8	加古川市	3,992	8	香川県	3,702
9	神戸市須磨区	3,587	9	滋賀県	2,442
10	姫路市	3,209	10	広島県	2,195
-	上記以外	103,535	-	上記以外	15,965

旧鐘紡洲本工場周辺:単点分析

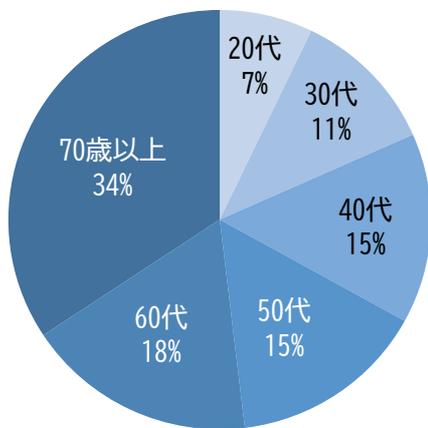
曜日別来訪者数



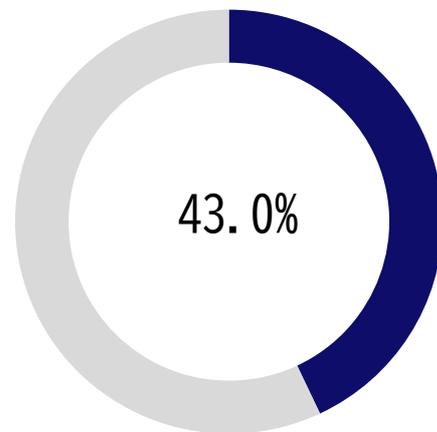
来訪者数の推移 (週平均)



年代別割合



リピーター率



旧鐘紡洲本工場周辺エリア分析結果

以下に、旧鐘紡洲本工場周辺エリアにおける分析結果を示す。

なお、比較対象については、中心市街地全体の結果を基準として用いている。

分析項目	特徴的な点
年代×性別	男女比は概ね半々である。
時間帯別平均・性別	10 時頃に一度目のピークがあり、14 時頃に 2 回目のピークがゆるやかにある。
来訪者居住地	兵庫県内(特に淡路島内)や近隣の徳島市内から来訪している。
曜日別来訪者数	土日に比べ、平日の来訪者数が多い。※火曜は S BRICK 定休日
来訪者数の推移	年間を通じて、概ね一定の来訪者数である。
年代別割合	20 代・30 代の占める割合が低く、70 歳以上の割合が高い。
年代×性別	男女比は概ね半々である。

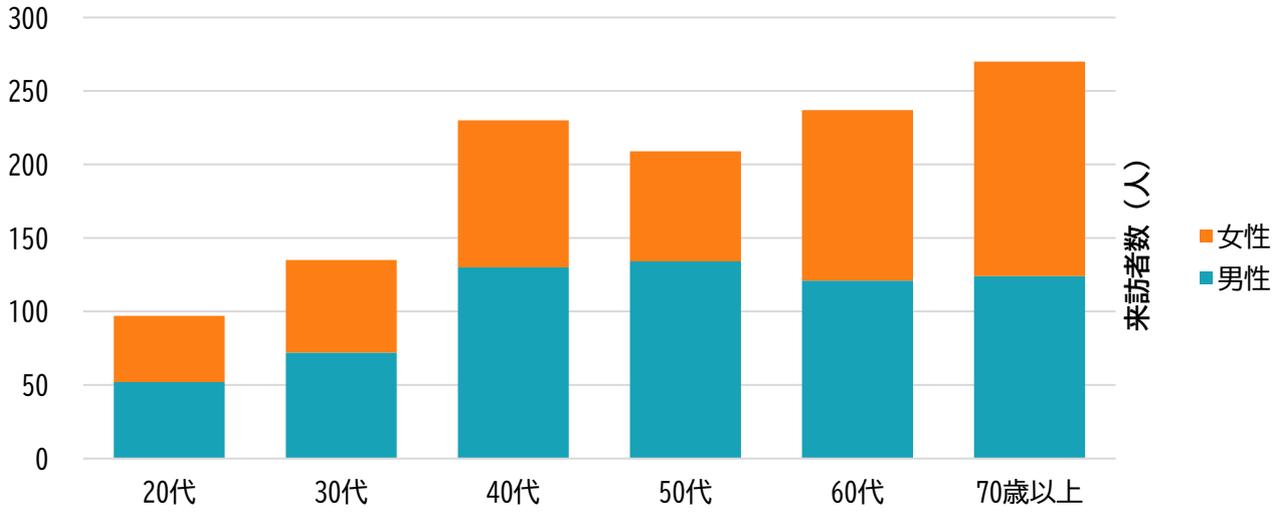
■調査概要:洲本温泉周辺エリア



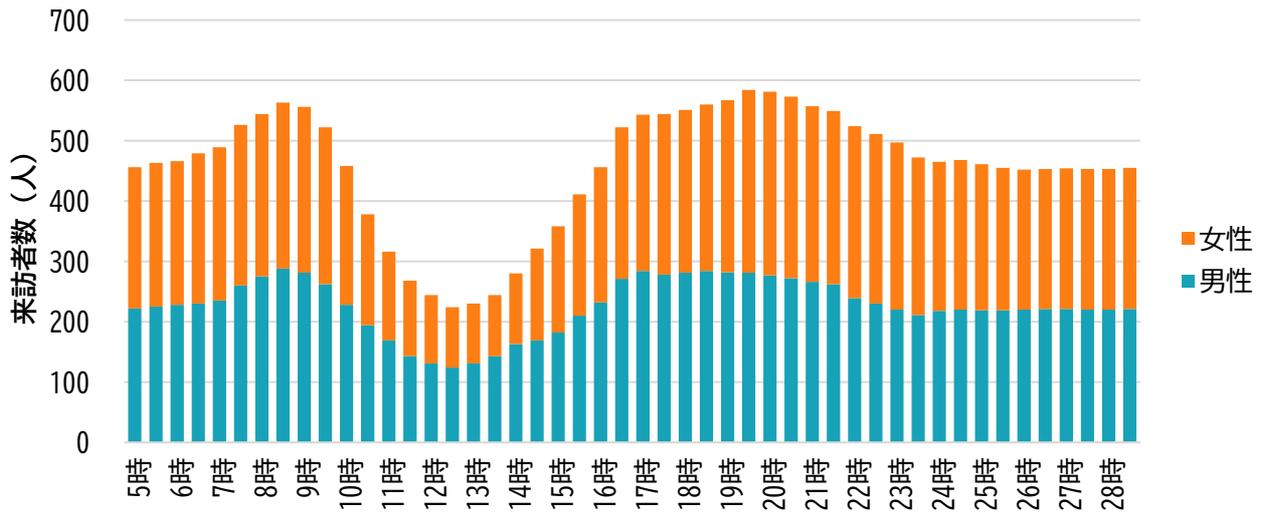
■集計方法	全人口推計値(日ユニーク)
■データ期間	2024/11/01~2025/10/31
■日にち区分	期間全体
■時間帯	05:00~29:00
■来訪日数	1日以上
■滞在時間	30分以上
■性別	男性,女性
■年代別	20代,30代,40代,50代,60代,70歳以上
■居住者/勤務者/来街者	来街者
■商圈タイプ・サイズ	フリーハンド(右図参照)

洲本温泉周辺: 来訪者属性

年代×性別：1日あたり平均



時間帯別平均・性別



洲本温泉周辺: 来訪者居住地分析

来訪者居住地（市区町村）来訪者数上位10位



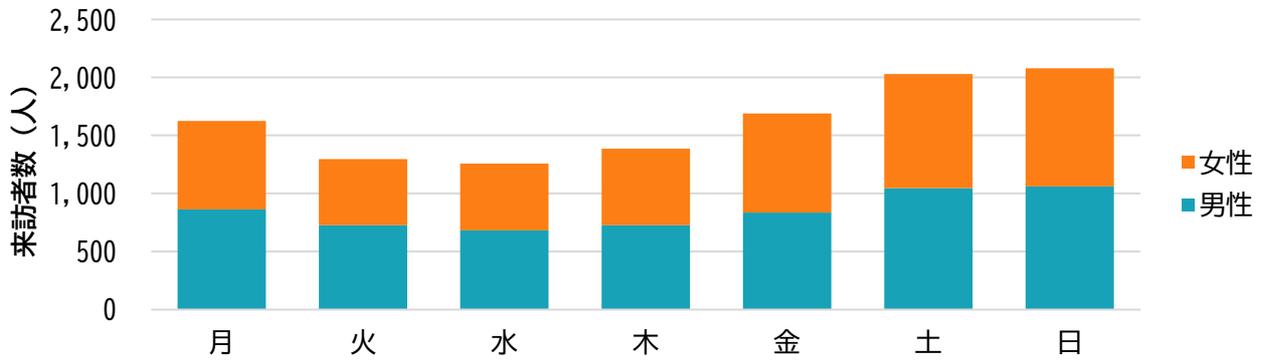
来訪者居住地（市区町村）来訪者数上位10位 ※淡路島内3市を除く



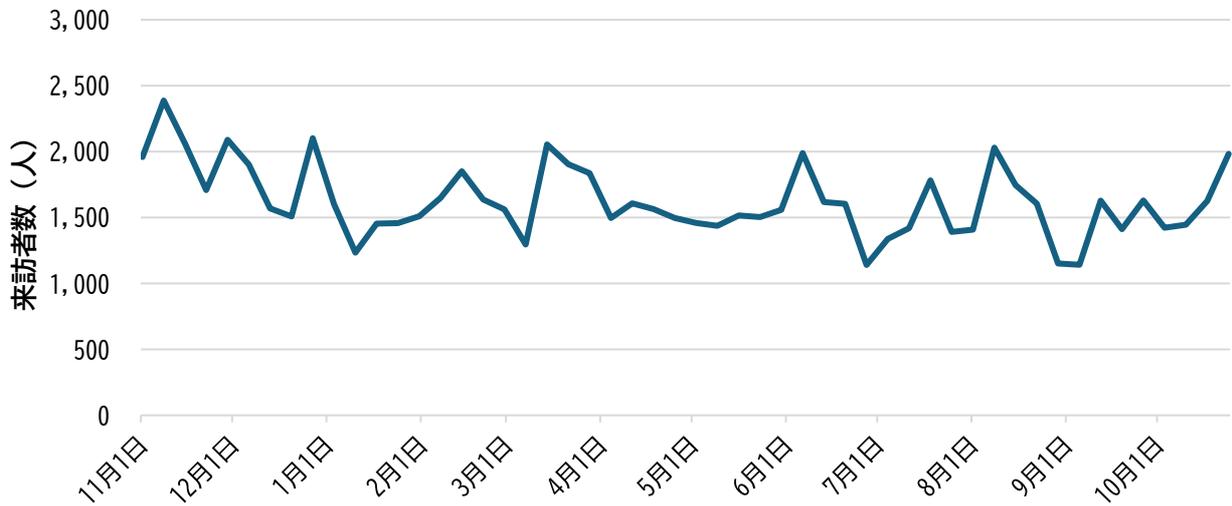
市町村別ランキング			都道府県別ランキング		
	市区町村名	人数		都道府県名	人数
1	洲本市	392,193	1	兵庫県	524,519
2	南あわじ市	39,123	2	大阪府	76,317
3	淡路市	20,873	3	京都府	17,185
4	神戸市西区	9,436	4	奈良県	10,634
5	明石市	5,655	5	愛知県	10,302
6	西宮市	5,470	6	滋賀県	10,230
7	姫路市	5,462	7	徳島県	8,556
8	東大阪市	4,385	8	東京都	7,050
9	吹田市	4,345	9	岡山県	6,153
10	茨木市	4,324	10	香川県	4,784
-	上記以外	227,912	-	上記以外	43,750

洲本温泉周辺: 単点分析

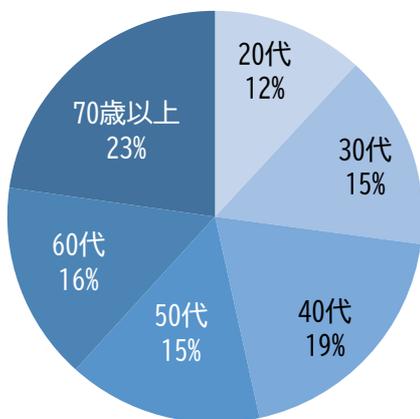
曜日別来訪者数



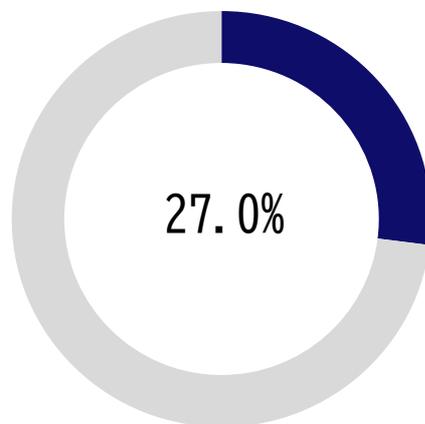
来訪者数の推移(週平均)



年代別割合



リピーター率



洲本温泉周辺エリア分析結果

以下に、洲本温泉周辺エリアにおける分析結果を示す。

なお、比較対象については、中心市街地全体の結果を基準として用いている。

分析項目	特徴的な点
年代×性別	40代以上の男性の占める割合が高い。
時間帯別平均・性別	夜間人口が多く、昼間は少ない。ピークは19時半ごろである。
来訪者居住地	大阪など兵庫県外からの来訪者の割合が比較的高い。
曜日別来訪者数	土日の来訪者数が多く、週半ばの水曜日が最も少ない。
来訪者数の推移	11月の来訪者が最も多くなっている。
年代別割合	20代の割合が低い。

■分析結果の比較

以下に、各エリアにおいて特徴的な点をまとめた。

地区	年代 ×性別	時間帯	来訪者 居住地	曜日傾向	来訪者数 の推移	年代構成	リピーター 率
炬口漁港 周辺	20-30 代 女性比率 が低い	昼ピーク 14:30頃 から減少	兵庫県内 がほぼ全 て	金曜多・ 日曜少	5月最多 次いで 10月	40-50 代が比較 的高い	32%
大浜 海水浴場 周辺	20-30 代女性比 率高 40代以 降男性比 率高	16時前後 に多く 11時台は 少ない	大阪府 からの 来訪 比較的高 い	土日多	夏休み 最多 11月にも ピーク	70歳以 上が高い	32%
商店街 周辺	女性比率 高 70歳以 上の女性 が多い	10-16時 が多い (午前は女 性比率高)	四国(徳 島・香川) から多い	金曜多・ 日曜少	8月と11 月で 2回ピーク	70歳以 上が高い	37%
旧鐘紡洲 本工場周 辺	男女ほぼ 半々	10時台に ピーク① 14時頃に 緩やかな ピーク②	兵庫県内 +徳島市 内から	平日多・ 土日少 (※火曜は S BRICK 定休日)	年間を通 じ 概ね一定	20-30 代が低く 70歳以上 が高い	43%
洲本温泉 周辺	40代以 上男性が 高い	夜間多く 19:30頃 ピーク	兵庫県外 (大阪等) 比較的高 い	土日多・ 水曜最少	11月最多	70歳以 上が高い	27%

■考察・結果

1) 地区別の特徴から示唆されること

昼・夕方・夜でピークが異なり、平日/週末、県内/県外で行動が分離している。したがって、中心市街地はモノカルチャーではなく、異なる目的・時間帯・属性の需要が併存する。そのため、地区別に強みと弱みが明確であり、それぞれの特徴を踏まえたエリアデザインが必要である。

地区	特徴 (強みと弱み)	なぜ 人が訪れるのか	今後観光面で 考えられるシーン (例)
炬口漁港 周辺	平日の日中・県内生活圏に強いが、若年女性が薄く、利用者層に偏りがある。	釣りなどを目的として、周辺の住民が日常的に利用していると考えられる。	海沿いに腰掛けて、地元の人と旅人が自然に混ざる “やすらぎの縁側”
大浜海水浴 場 周辺	夏の利用者が多い。週末夕方に強く、東側の夕焼けとビーチという景観が価値になっている可能性がある。大阪からの流入が多い。	夏は海水浴を目当てに人が訪れ、それ以外の時期も景色そのものが観光地化していると考えられる。	ドリンクを片手に色づく空と海を眺めながら過ごす “海辺の非日常”
商店街 周辺	高齢女性の利用が厚く、平日日中の利用が大きい。四国方面からの流入が多い。	高齢者にとって、信頼と安心のお買い物ができる場所になっていると考えられる。	店先のベンチでひと息つきながら、観光客にまちの歴史を語る “井戸端ストリート”
S-Brick 周辺	午前/午後で利用ピークが2回あり、リピーター率が高い。隣接する淡路市・南あわじ市からの流入も多い。70代以上の利用が多い。	日常の用事の中で習慣的に利用され、使いやすく安心できる場所として、特に淡路島内のハブになっている可能性がある。	島内観光の途中で必ず立ち寄る “ひとやすみ拠点”
洲本温泉 周辺	週末夜の観光需要が集中し、40代以上の男性を中心に市外客を最も惹きつけている。	温泉を目的に、会社員層の宿泊に利用されていると考えられる。	湯上がりに、そっと外へ出て夜のまちを歩きたくなる “ほろ酔い散歩道”

2) 周遊・複数訪問の可能性と課題

これまでの事実をもとに、来訪者の行動や傾向を整理し、洲本市中心市街地における観光地周遊・複数訪問の可能性と課題について検討する。

観光・回遊行動が成立するためには、以下の3条件がそろうことが必要条件である。

- ① 利用時間帯が連続していること
- ② 来訪者層が共通していること
- ③ 曜日傾向が一致していること

他にも、交通アクセスなど考慮すべき点はあるが、人流データから得られる(来訪者属性・時間帯・曜日)の3点の必要条件に絞って、考察を進める。

以下に各エリアにおける来訪者属性・時間帯・曜日の特徴を示す。

エリア	来訪者属性	時間帯	曜日傾向
炬口漁港	県内の中高年中心	昼利用	金曜多・日曜少
大浜海水浴場	やや若者の比率が高い 大阪府からの来訪多い	休日・夏季集中	土日多
商店街	70歳以上が多い 四国からの流入多い	平日昼中心	金曜多・日曜少
旧鐘紡洲本工場	70歳以上が多い	平日2ピーク	平日多／土日少
洲本温泉	40代以上の宿泊客中心	夜間集中	土日多・水曜最少

① 来訪者層が共通していること

炬口漁港、商店街、旧鐘紡洲本工場はいずれも中高年層・高齢層の利用が多く、来訪者層に一定の共通性がみられる。また、洲本温泉についても40代以上の宿泊客が中心であることから、昼間利用エリアとの年齢層には一定の重なりがあると考えられる。このため、来訪者層に関していえば、昼間エリアと宿泊エリアの間においても、同一来訪者による複数訪問が生じる可能性は一定程度存在する。

一方で、大浜海水浴場は比較的若年層や府外来訪者が多く、属性の重なりは限定的である。

○:炬口漁港、商店街、旧鐘紡洲本工場、洲本温泉の組み合わせ

△:大浜海水浴場の来訪者は、他と異なる場合がある

② 曜日傾向が一致していること

商店街および炬口漁港は金曜日の利用が多く、旧鐘紡洲本工場は平日利用が中心であるなど、平日型エリア間では一定の連動性がみられる。

一方で、大浜海水浴場および洲本温泉は土日の利用が中心であり、平日型エリアとの間には利用構造の違いがある。

A:炬口漁港、商店街、旧鐘紡洲本工場のうちの組み合わせ

B:大浜海水浴場と洲本温泉のうちの組み合わせ

③ 利用時間帯が連続していること

周遊行動が生じるためには、昼・夕方・夜と時間帯が連続してつながることが重要である。

商店街、旧鐘紡洲本工場、炬口漁港はいずれも昼間利用が中心であり、時間帯が大きく重なっている。

一方で、大浜海水浴場は夕方、洲本温泉は夜間に利用が集中している。

時間帯の構成としては、

昼(商店街・旧鐘紡洲本工場・炬口)→ 夕方(大浜)→ 夜(温泉)

という流れが成立し得る構造となっている。

次に、①～③より、

周遊ルートの可能性は、以下のパターンが考えられる。

(ア) 成立しやすい組み合わせ

- 商店街 × 旧鐘紡洲本工場 × 炬口漁港

ただし、日中の複数訪問と仮定。

- 昼間を中心に、複数訪問が自然に成立しやすいエリア群である。
- 現状でも一定の複数訪問が生じている可能性が高い。

(イ) 成立可能だが足りない組み合わせ(2条件+1不足)

- 昼間エリア(商店街・旧鐘紡洲本工場・炬口漁港) × 洲本温泉

- 年齢層と時間帯はつながるが、曜日傾向にずれがある。
- 平日利用者を夜間・宿泊に誘導できれば成立可能。

最後に、(成立可能だが足りない組み合わせ)を成立させるための課題を考える。

洲本温泉は、年齢層および時間帯の面では昼間エリアとの接続可能性を有しているものの、リピーター率が低いことから、市街地との継続的な回遊関係が十分にパターン化されていないと考えられる。

これは、

- 宿泊客が温泉周辺で行動を完結させている
- 翌日の市街地訪問が定着していない

ことを示している可能性が高い。

そのため、

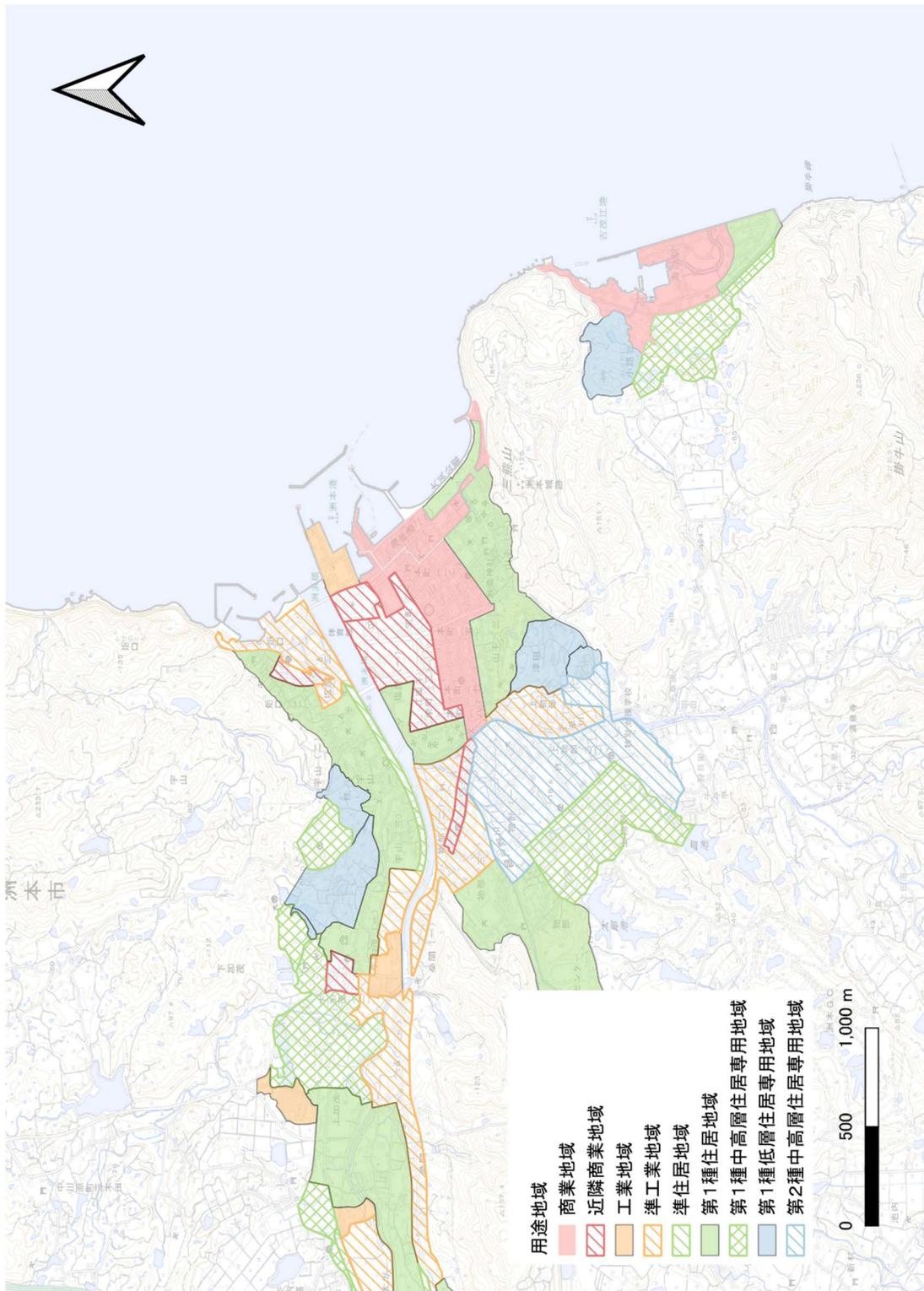
「昼間エリア → 温泉」「温泉 → 翌日市街地」

という双方向の動線が弱く、宿泊を起点とした複数訪問が十分に機能していない点が課題である。

(5) GIS データの作成

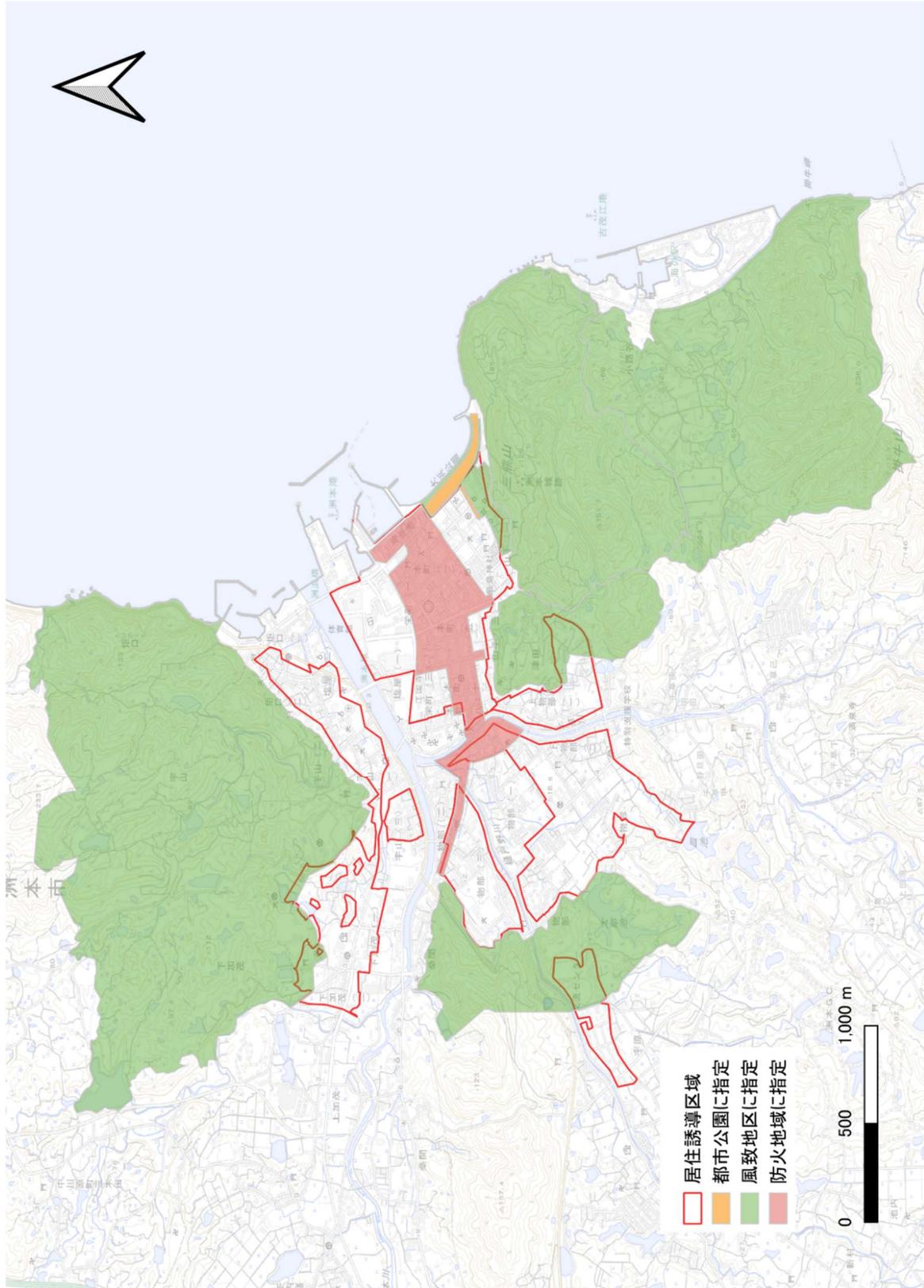
■用途地域

商店街およびその周辺、旧鐘紡洲本工場周辺、洲本温泉周辺は商業地域、近接商業地域に指定。炬口地区は準工業地域に指定されている。その他のエリアは主に住居地域に指定されている。



■居住誘導区域等

中心市街地については、本町、山手、栄町、塩屋が居住誘導区域に指定されている。また、商店街エリアを中心に防火地域に指定されている。他、洲本城址周辺は風致地区に指定されているほか、大浜海水浴場周辺は都市公園にも指定されており、規制等について留意が必要である。



(6) 類似の先行事例の整理

1) 商店街エリア

洲本市の温泉街や商店街エリアにおいては、夜の飲食や交流の場を活かしつつ、夜間の移動や情報発信と組み合わせることで、来訪者がまちなかへ自然に足を運ぶ環境づくりが重要となる。その参考として、夜のコンテンツを軸に回遊性や消費行動を高めている他地域の取組事例を以下に整理する。

■神戸市の「バー文化×夜の回遊促進」

所在地	兵庫県神戸市(主に三宮・元町エリア)
内容	<p>神戸市では、長年培われてきたバー文化や多様な飲食店集積を観光資源として位置づけ、バー情報をまとめたパンフレットやウェブサイトの整備、鉄道事業者との連携、デジタルスタンプラリーなどを通じて、夜の飲食回遊を促進する取組を展開している。</p> <p>単なる飲食紹介にとどまらず、「夜の神戸の楽しみ方」を可視化することで、来訪者が複数店舗を巡る行動を誘発し、夜間のにぎわい創出と消費拡大につなげている。</p>
洲本市へ参照する要素	<ul style="list-style-type: none"> ● バー・飲み屋街を「文化」として再定義し、観光資源化している点 ● マップやデジタル施策による回遊動線の可視化 ● 鉄道・交通事業者と連携し、夜間回遊を後押ししている点 ● 大規模イベントではなく、日常的な夜の飲食行動を観光につなげている点
イメージ画像	<p>『Kobe Bars』神戸のバーを紹介する英語パンフレット</p> 
参考 URL	<p>港町・神戸のバー文化を世界へ</p> <p>https://prt-times.jp/main/html/rd/p/000000181.000033788.html?utm</p>

■北海道ナイトタイム観光・地域発信

所在地	北海道全域(北海道観光機構による広域展開)
内容	<p>北海道観光機構では、「夜の北海道をめぐる旅」をテーマに、夜景、飲屋街、ナイトアクティビティ、夜のイベントなどを体系的に整理・発信する取組を行っている。</p> <p>夜間の飲食や体験を観光コンテンツとして明確に位置づけ、情報発信を強化することで、観光客の夜間消費の拡大や滞在時間の延長を促している。</p>
洲本市へ参照する要素	<ul style="list-style-type: none"> ● 夜間コンテンツを単発ではなく「束ねて」見せる編集手法 ● 夜の飲食・体験を観光の一部として公式に位置づけている点 ● 来訪者に「夜も楽しめる」という明確なメッセージを発信している点 ● 滞在延長・翌日行動(朝・昼)への波及を意識した構成
イメージ画像	<p>北見厳寒の焼き肉まつり</p> 
参考 URL	<p>北海道公式観光サイト「HOKKAIDO LOVE！」</p> <p>https://www.visit-hokkaido.jp/hokkaido-nighttime-economy/</p>

2)旧鐘紡洲本工場周辺エリア

■【リージョナルランドマークストア】地域の象徴となるランドマーク型カフェのデザイン

所在地	兵庫県淡路市岩屋 2568 淡路サービスエリア(下り線など)
内容	<p>スターバックスのリージョナルランドマークストアでは、各店舗がその地域の歴史・伝統・文化をデザインに反映し、その土地らしさを感じられる空間づくりを行っている。また、地域固有の素材や工芸、伝統的な建築意匠などを活用し、訪れる人に地域資源の魅力を伝える工夫がされている。こうした店舗は単なるカフェとしてではなく、地域のランドマーク的な存在として立地・設計されており、観光客の地域内回遊や体験の起点となる役割を担っている。さらに、地域住民の日常利用も念頭に置きながら、観光客と地域住民との交流空間として機能することをめざしている。これらのデザインは、地域性の表現や価値創出が高く評価され、グッドデザイン賞(ベスト100)にも選出されている。また、リージョナルランドマークストア自体が地域の象徴となることで、地域ブランド価値の向上や観光プロモーションにも貢献している。</p>
洲本市へ参照する要素	<p>スターバックスのリージョナルランドマークストアは、地域の歴史や文化をわかりやすく空間に表現し、国籍を問わず、住民も観光客も誰もが魅力を感じられる拠点となっている。また、単なる店舗ではなく、地域内の周遊や滞在のきっかけとなるランドマークとして機能している点も特徴である。洲本市においても、温泉や地域資源を生かし、誰にとってもわかりやすく親しみやすい拠点を整備することで、観光とまちづくりを一体的に進めていくことが重要である。</p>
イメージ画像	
参考 URL	<p>Starbucks Coffee Company, HP「リージョナルランドマークストア」: https://store.starbucks.co.jp/concept/ GOOD DESIGN AWARD HP:https://www.g-mark.org/gallery/winners/9dfbbc80-803d-11ed-af7e-0242ac130002</p>

■【芦原温泉「芦湯」】公設による室内型足湯の整備と観光回遊性・滞在性の強化

所在地	福井県あわら市温泉1丁目203(あわら温泉湯のまち広場内)
内容	<p>芦湯は、「湯のまち広場」内に整備された、源泉かけ流しの温泉を無料で楽しめる室内型足湯施設である。えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅から徒歩約2分とアクセス性に優れており、観光客だけでなく地元住民からも日常的に親しまれている。温泉街の中心に位置することから、地域のランドマークおよび交流スペースとしての役割を担っており、周辺に立地する「湯けむり横丁」などの観光施設と連携し、来訪者の周遊行動を促す拠点としても機能している。</p>
洲本市へ参照する要素	<p>両市ともに温泉資源が最大の地域資源である点にある。芦湯は足湯単体の集客施設ではなく、周辺施設と連動しながら地域内の周遊を生み出す拠点として機能している。さらに、芦湯は温泉街全体の回遊動線や滞在環境の整備と連動して整備されており、拠点だけでなく都市づくりの一環として位置づけられている。洲本市においても、エリア全体のまちづくり・観光戦略の中に、足湯設備を位置づけること考えられる。一方で、気候条件は本市と異なることから、施設形態については気候条件の違いを踏まえた検討が必要である。</p>
イメージ画像	
参考 URL	<p>あわら温泉「芦湯」HP:https://awara.info/cat-sightseeing/%E3%81%82%E3%82%8F%E3%82%89%E6%B8%A9%E6%B3%89%E3%80%8C%E8%8A%A6%E6%B9%AF%E3%80%8D 26 期沼尾ゼミあわら市赤神氏レポート: https://www.jcrd.jp/seminar/pdf/images/01-jinzai/01-leader/docu/23awara.pdf あわら湯けむり創生塾塾長前田氏レポート: https://www.chiikizukuri.kok.or.jp/past/pdf/hukui_2016_01.pdf</p>

3) 炬口漁港周辺エリア

■【ONOMICHI U2】サイクリストの滞在拠点

所在地	広島県尾道市西御所町 5-11
内容	<p>ONOMICHI U2 は、尾道港に面した旧海運倉庫をリノベーションし、2014 年に誕生したサイクリスト向け複合施設。しまなみ海道の本州側起点に位置し、自転車を持ったままチェックインできるホテルをはじめ、飲食、物販、サイクルショップを一体的に備えている。館内には駐輪、整備、シャワーなど走行前後を支える機能が整い、国内外のサイクリストの拠点として高い評価を得ている。また「まちの中のちいさなまち」をコンセプトに、サイクリスト以外の観光客や地域住民も利用できる開かれた空間を形成し、港湾エリアの再生と地域のにぎわい創出を同時に実現している。</p>
洲本市へ参照する要素	<p>○ アワイチ拠点としての活用 淡路島一周(アワイチ)に挑戦するサイクリストにとって、洲本は距離・時間の面で重要な中継地点となる。炬口漁港にサイクル対応施設を整備することで、休憩・補給・簡易整備・シャワーなどを一体的に提供でき、走行の安心感と満足度向上が期待される。発着・滞在拠点として位置付けることで、宿泊や飲食への波及効果も見込まれる。</p> <p>○ 釣り客・港利用者の拠点としての活用 炬口漁港は釣り客の利用も多く、早朝・夜間の滞在ニーズがある。軽食提供、休憩スペース、簡易シャワー等を備えることで、釣り客の利便性向上と滞在時間の延長が可能となる。サイクリストと時間帯・目的が異なる利用者を受け入れることで、施設稼働率を高めることができる。</p> <p>○ 港湾空間の観光・交流拠点化 倉庫や港の景観を活かした施設整備により、単なる通過点ではなく「立ち寄る目的地」としての価値を創出できる。ONOMICHI U2 同様、用途を限定しない複合的な設えとすることで、観光客・地域住民・利用者が交わる交流拠点となり、洲本らしい漁港・港湾再生モデルとして展開することが期待される。</p>
イメージ画像	
参考 URL	<p>ONOMICHI U2 https://onomichi-u2.com/</p>

■【六次産業化施設 UMIKARA】地元住民向けスーパーと一体化した水産物販売施設

所在地	福井県大飯郡高浜町塩土5-1
内容	<p>UMIKARA は、福井県高浜町の漁港に隣接して整備された、水産業の高付加価値化と観光誘客を目的とする 6 次産業型複合施設。直売所や飲食施設を核とし、毎朝水揚げされる新鮮な地魚を販売・提供することで、「獲る・加工する・食べる・伝える」を一体的に実現している。施設内には大型生簀を備え、魚を選んで食べる体験や、若狭の食文化を発信する場を創出している。また、漁師、地域商社、飲食事業者が連携することで雇用創出と漁業所得の向上を図り、漁港を観光と交流の拠点へと転換する「海業」のモデルケースとして注目されている。</p>
洲本市へ参照する要素	<p>○ 水産業×観光(6 次産業化)の拠点</p> <p>UMIKARA は、漁港に隣接した立地を生かし、水産物の直売・飲食・加工・体験を一体化。洲本市においても、炬口漁港の水揚げや地魚を「見せて・食べて・買える」場を整備することで、水産業の付加価値向上と観光消費の域内循環が期待される。</p> <p>○ 釣り客・観光客の立ち寄り拠点</p> <p>釣り客や観光客が気軽に立ち寄れる飲食・休憩・物販機能を港に集約することで、漁港を単なる作業空間から滞在型空間へと転換可能。UMIKARA のように体験性を持たせることで、釣りや観光の「前後」に利用される拠点となる。</p> <p>○ 地域連携による持続的運営</p> <p>UMIKARA では、漁師・地域商社・行政・民間が役割分担し、施設運営を支えている。洲本市においても、漁協や地元事業者と連携した運営体制を構築することで、公共負担に依存しない持続的な港湾活用モデルへの展開が可能と考えられる。</p>
イメージ画像	
参考 URL	<p>魚と旅するマーケット「UMIKARA」 https://umikara.co.jp/</p>

2. 観光ニーズ調査(インターネット調査)

(1) 来訪者調査

WEB 調査 + 旅館への留め置きアンケートにより、来訪者調査を実施した。

実施期間	WEB 調査:令和 7 年 12 月 10 日~12 月 15 日 留め置き調査:令和 7 年 11 月 27 日~令和 8 年 1 月 9 日
実施方法	○WEB 調査 以下の条件を設定し、各対象で 30 票ずつ回収する形で WEB 調査を実施。 (回収数:420 件=30 件×7 年代×2 性別) 年代:20 歳未満、20 歳代、30 歳代 40 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳代 性別:男性、女性 ○留め置き調査 以下の施設にアンケートを設置し、回答いただいた。 淡路インターナショナルホテル ザ・サンプラザ、あわかん、海月館、ホテルニューアワジ、淡路夢泉景、海のホテル島花、渚の壮花季、夢海游淡路島
回収数	839 件 内訳:WEB 調査 420 件、留め置き調査 419 件

1 単純集計

設問 1-1	あなたの性別をお知らせください。																																										
回答数(n)	839	回答方式	SA																																								
「女性」が 52.7%と多く、次いで「男性」が 46.2%となっている。																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">選択肢</th> <th>回答数(票)</th> <th>回答率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>男性</td> <td>388</td> <td>46.2%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>女性</td> <td>442</td> <td>52.7%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">無回答・無効</td> <td>9</td> <td>1.1%</td> </tr> </tbody> </table>				選択肢		回答数(票)	回答率(%)	1	男性	388	46.2%	2	女性	442	52.7%	無回答・無効		9	1.1%																								
選択肢		回答数(票)	回答率(%)																																								
1	男性	388	46.2%																																								
2	女性	442	52.7%																																								
無回答・無効		9	1.1%																																								
グラフ																																											
<p>A horizontal bar chart showing the distribution of responses for gender. The x-axis represents the percentage of respondents, ranging from 0% to 60% in 10% increments. The y-axis lists the categories: 男性 (Male), 女性 (Female), and 無回答 (No response/Invalid). The bars are blue. The values are: 男性 (46.2%), 女性 (52.7%), and 無回答 (1.1%).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>性別</th> <th>回答率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男性</td> <td>46.2</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>52.7</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>1.1</td> </tr> </tbody> </table>				性別	回答率(%)	男性	46.2	女性	52.7	無回答	1.1																																
性別	回答率(%)																																										
男性	46.2																																										
女性	52.7																																										
無回答	1.1																																										
設問 1-2	あなたの年齢をお知らせください。																																										
回答数(n)	839	回答方式	SA																																								
「20代」が 18.2%と最も多く、次いで「50代」が 18.1%、「40代」が 17.0%、「30代」が 16.8%となっている。																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">選択肢</th> <th>回答数(票)</th> <th>回答率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>15歳未満</td> <td>3</td> <td>0.4%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>15~19歳</td> <td>79</td> <td>9.4%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>20代</td> <td>153</td> <td>18.2%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>30代</td> <td>141</td> <td>16.8%</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>40代</td> <td>143</td> <td>17.0%</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>50代</td> <td>152</td> <td>18.1%</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>60代</td> <td>100</td> <td>11.9%</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>70代以上</td> <td>60</td> <td>7.2%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">無回答・無効</td> <td>8</td> <td>1.0%</td> </tr> </tbody> </table>				選択肢		回答数(票)	回答率(%)	1	15歳未満	3	0.4%	2	15~19歳	79	9.4%	3	20代	153	18.2%	4	30代	141	16.8%	5	40代	143	17.0%	6	50代	152	18.1%	7	60代	100	11.9%	8	70代以上	60	7.2%	無回答・無効		8	1.0%
選択肢		回答数(票)	回答率(%)																																								
1	15歳未満	3	0.4%																																								
2	15~19歳	79	9.4%																																								
3	20代	153	18.2%																																								
4	30代	141	16.8%																																								
5	40代	143	17.0%																																								
6	50代	152	18.1%																																								
7	60代	100	11.9%																																								
8	70代以上	60	7.2%																																								
無回答・無効		8	1.0%																																								

グラフ



設問 1-3 あなたの住まいをお知らせください。

回答数(n) 839 回答方式 SA

「大阪府」が 32.8%と最も多く、次いで「兵庫県」が 29.6%、「京都府」が 7.5%、「奈良県」が 4.1%となっている。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	大阪府	275	32.8%
2	兵庫県	248	29.6%
3	京都府	63	7.5%
4	奈良県	34	4.1%
5	滋賀県	29	3.5%
6	和歌山県	23	2.7%
7	徳島県	22	2.6%
8	愛知県	21	2.5%
9	その他国内	22	2.6%
10	国外	3	0.4%
無回答・無効		15	1.8%

グラフ



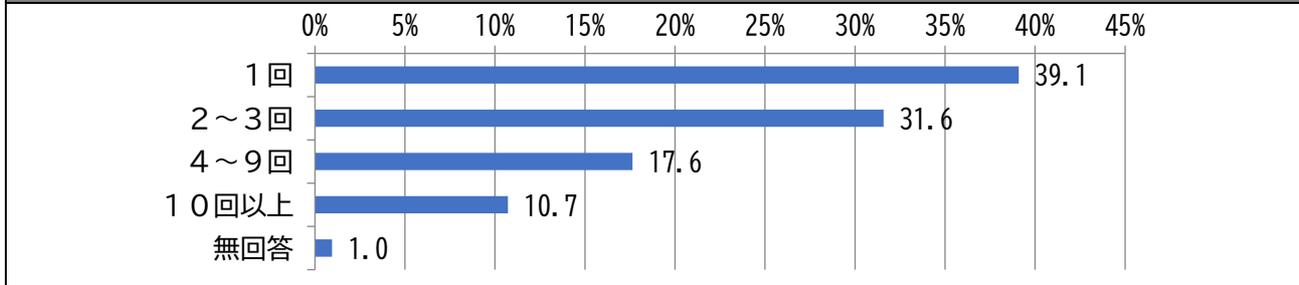
設問 1-4 あなたは過去に、何度洲本市を訪れたことがありますか。

回答数(n) 839 回答方式 SA

「1回」が 39.1%と最も多く、次いで「2～3回」が 31.6%、「4～9回」が 17.6%、「10回以上」が 10.7%となっている。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	1回	328	39.1%
2	2～3回	265	31.6%
3	4～9回	148	17.6%
4	10回以上	90	10.7%
無回答・無効		8	1.0%

グラフ



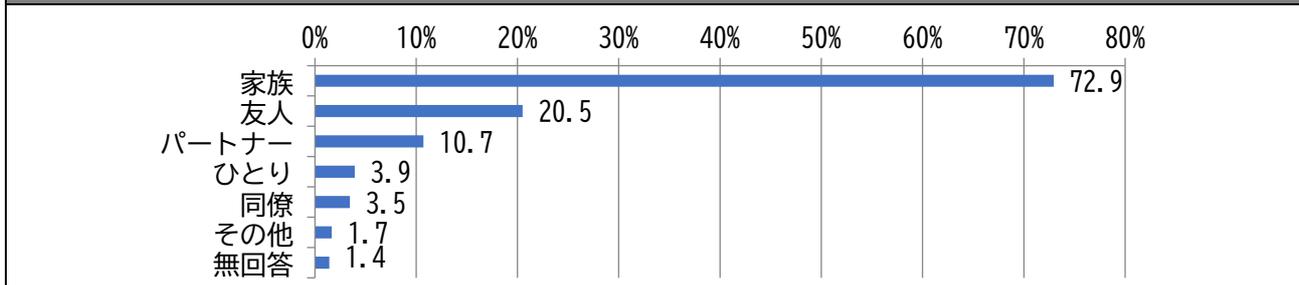
設問 1-5 直近の洲本市への旅行は、誰と一緒に旅行しましたか。

回答数(n) 839 回答方式 SA

「家族」が 72.9%と最も多く、次いで「友人」が 20.5%、「パートナー」が 10.7%、「ひとり」が 3.9%となっている。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	家族	612	72.9%
2	友人	172	20.5%
3	パートナー	90	10.7%
4	ひとり	33	3.9%
5	同僚	29	3.5%
6	その他	14	1.7%
無回答・無効		12	1.4%

グラフ



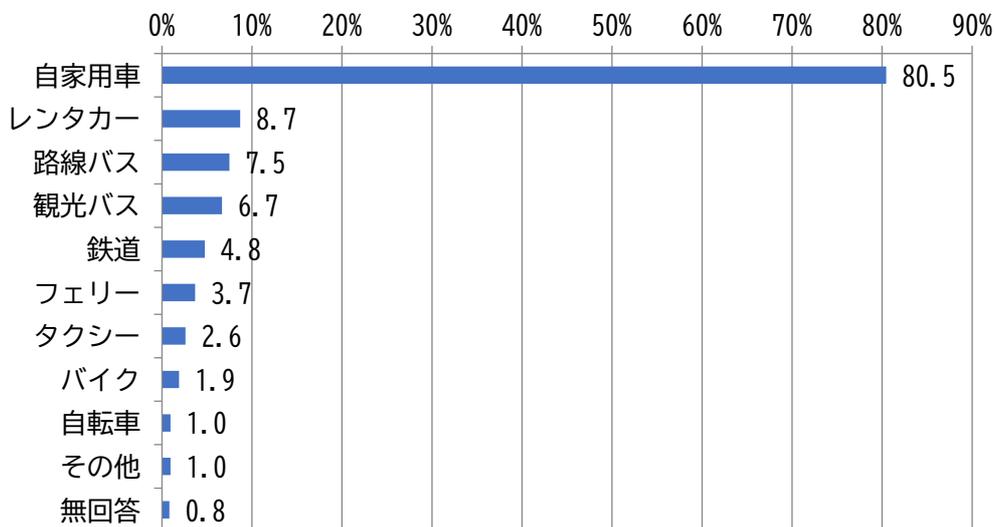
設問 1-6 直近の洲本市への旅行で、旅程全体での交通手段はどれでしたか。あてはまるもの全てお選びください。

回答数(n) 839 回答方式 MA

「自家用車」が 80.5%と最も多く、次いで「レンタカー」が 8.7%、「路線バス」が 7.5%、「観光バス」が 6.7%となっている。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	自家用車	675	80.5%
2	レンタカー	73	8.7%
3	路線バス	63	7.5%
4	観光バス	56	6.7%
5	鉄道	40	4.8%
6	フェリー	31	3.7%
7	タクシー	22	2.6%
8	バイク	16	1.9%
9	自転車	8	1.0%
10	その他	8	1.0%
無回答・無効		7	0.8%

グラフ



設問2-1 直近の淡路島旅行(洲本市を含む)で訪れた場所はどこですか。あてはまるもの全てお選びください。

回答数(n) 839 回答方式 MA

「道の駅あわじ」が 39.2%と最も多く、次いで「洲本温泉」が 30.0%、「道の駅うずしお」が 29.9%、「あわじ花さじき」が 22.3%となっている。

選択肢	回答数(票)	回答率(%)
1 道の駅あわじ	329	39.2%
2 洲本温泉	252	30.0%
3 道の駅うずしお	251	29.9%
4 あわじ花さじき	187	22.3%
5 うずの丘 大鳴門峡記念館	159	19.0%
6 国営明石海峡公園	156	18.6%
7 ワールドパークONOKORO	146	17.4%
8 淡路夢舞台	137	16.3%
9 伊弉諾神宮	125	14.9%
10 ファームパークイングランドの丘	123	14.7%
11 ニジゲンノモリ	116	13.8%
12 洲本城跡	104	12.4%
13 北淡震災記念公園	99	11.8%
14 赤レンガ施設群	70	8.3%
15 パルシェ香りの館	66	7.9%
16 淡路島牧場	66	7.9%
17 淡路島モンキーセンター	58	6.9%
18 巖島神社	53	6.3%
19 大浜海水浴場	50	6.0%
20 おのころ島神社	46	5.5%
21 洲本レトロこみち	45	5.4%
22 淡路ごちそう館御食国	43	5.1%
23 淡路人形座	43	5.1%
24 慶野松原	41	4.9%
25 あわじ花山水	34	4.1%
26 淡路香りの公園	31	3.7%
27 じゃのひれドルフィンファーム	30	3.6%
28 ウェルネスパーク五色	27	3.2%
29 鮎屋の滝	26	3.1%
30 吹き戻しの里	24	2.9%
31 炬口漁港公園	23	2.7%
32 生石公園	21	2.5%
33 沼島	19	2.3%
34 成ヶ島	16	1.9%
35 先山千光寺	13	1.5%
36 鳥飼八幡宮	11	1.3%
37 旧益習館庭園	6	0.7%
38 その他	87	10.4%
39 どこにも訪れていない	14	1.7%
無回答・無効	56	6.7%

その他の回答

<淡路市>

五斗長垣内遺跡、アースミュージアム、幸せのパンケーキ、佐野小学校、千年一酒造、淡路お菓子館、東浦ターミナルパーク、あわじシェフガーデンby PASONA、たこせんべいの里、浅野公園、淡路島リゾーナ&レストラン、魚増水産、明神崎、ハイウェイオアシス、チーズ工房、淡路シェフガーデン、淡路梅薫堂、薫寿堂、HELLO KITTY SMILE、のじまスコラ、スヌーピーアート

<洲本市>

由良、鮎原、五色体育館、安乎岩戸神社、ドラクエ記念碑

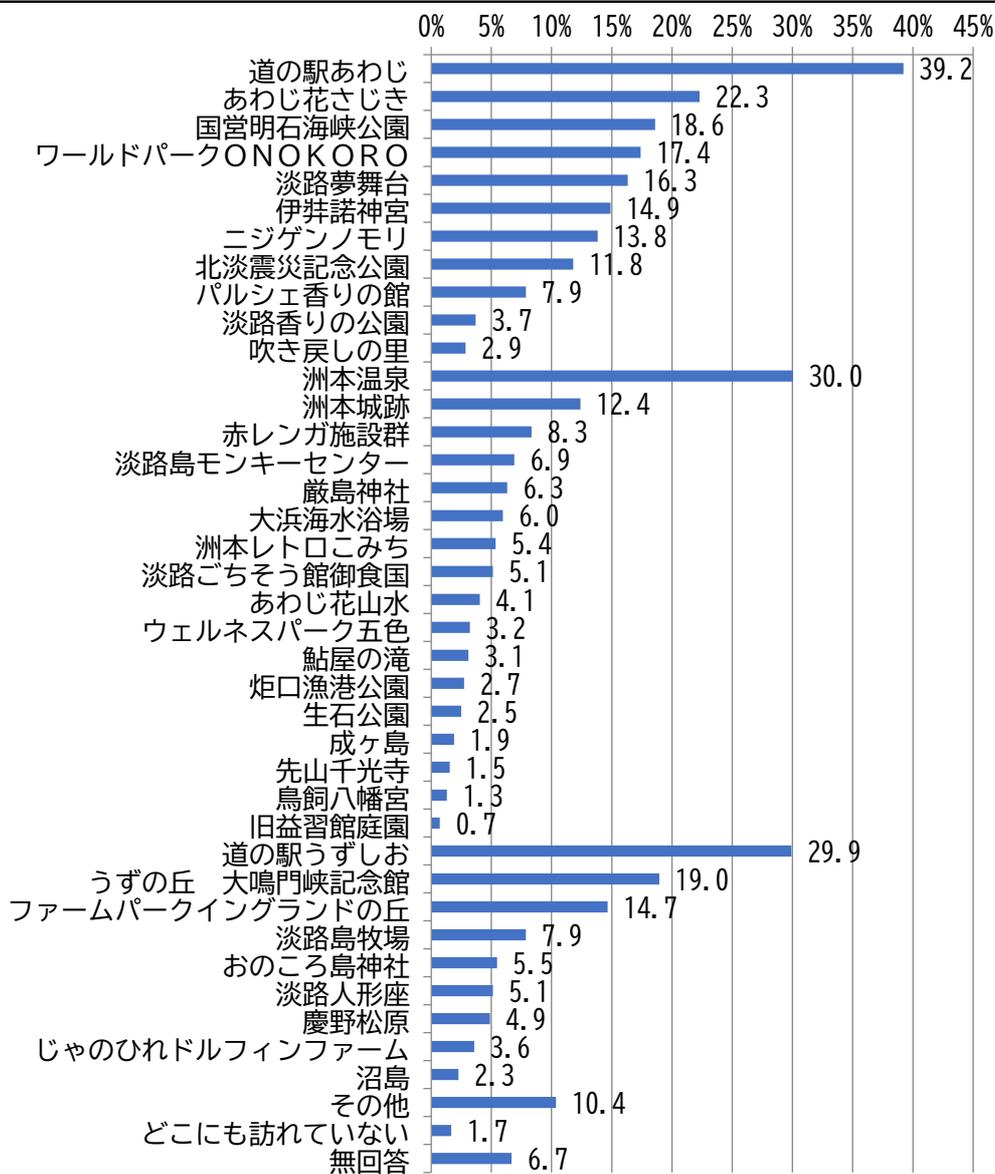
<南あわじ市>

うずの道、うずしおクルーズ

<その他>

友人宅、個人飲食店、野球場、よってって、七福神めぐり

グラフ



設問 2-2 直近の洲本市への旅行で、宿泊した場所はどこですか。あてはまるもの全てお選びください。

回答数(n) 839 回答方式 MA

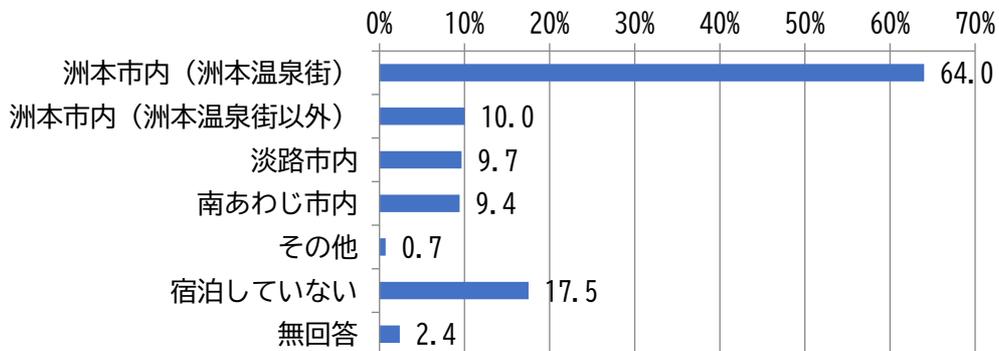
「洲本市内(洲本温泉街)」が 64.0%と最も多く、次いで「宿泊していない」が 17.5%、「淡路市内」が 9.7%、「南あわじ市内」が 9.4%となっている。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	洲本市内(洲本温泉街)	537	64.0%
2	洲本市内(洲本温泉街以外)	84	10.0%
3	淡路市内	81	9.7%
4	南あわじ市内	79	9.4%
5	その他	6	0.7%
6	宿泊していない	147	17.5%
無回答・無効		20	2.4%

その他の回答

- 徳島県内(徳島市、鳴門市)

グラフ



設問 3-1 普段旅行する前にどのような情報経路・媒体で訪問先の情報を調べますか。

回答数(n) 839 回答方式 MA

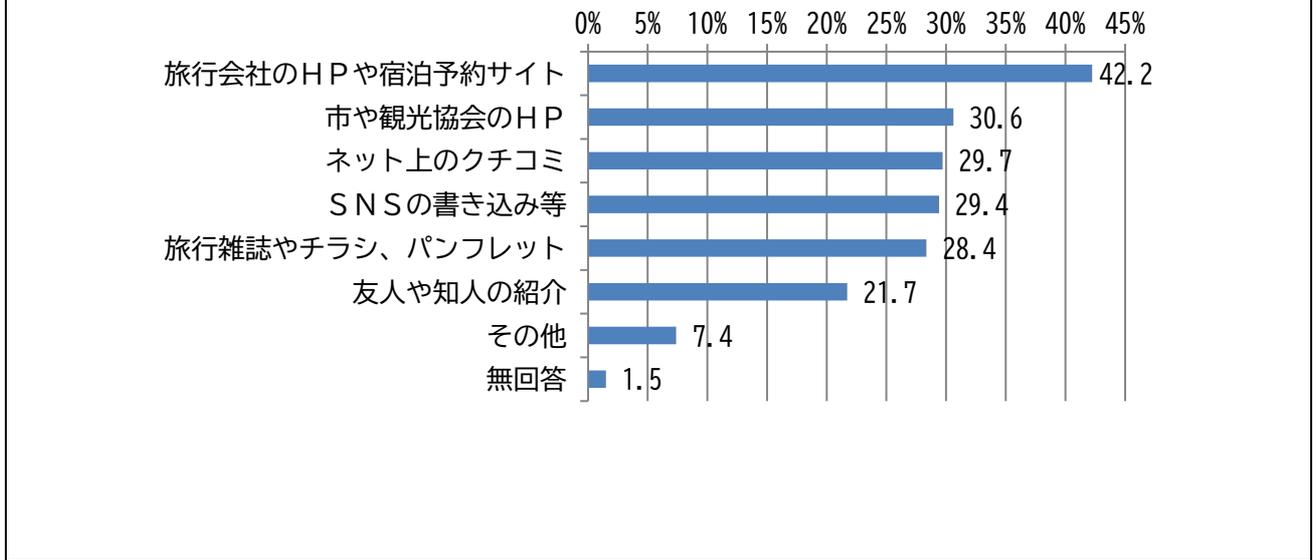
「旅行会社のHPや宿泊予約サイト」が 45.1%と最も多く、次いで「ネット上のクチコミ」が 30.6%、「SNSの書き込み等」が 30.3%、「市や観光協会のHP」が 26.9%となっている。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	旅行会社のHPや宿泊予約サイト	378	45.1%
2	ネット上のクチコミ	257	30.6%
3	SNSの書き込み等	254	30.3%
4	市や観光協会のHP	226	26.9%
5	旅行雑誌やチラシ、パンフレット	220	26.2%
6	友人や知人の紹介	170	20.3%
7	その他	65	7.7%
無回答・無効		15	1.8%

その他の回答

再来訪、TV、Google Map、ツアー、部活動、YouTube、TikTok、Instagram、ChatGPT

グラフ



設問 3-2 直近の洲本市への旅行で、淡路島を選ぶ最も決め手となった情報源を1つお選びください。

回答数(n) 839 回答方式 SA

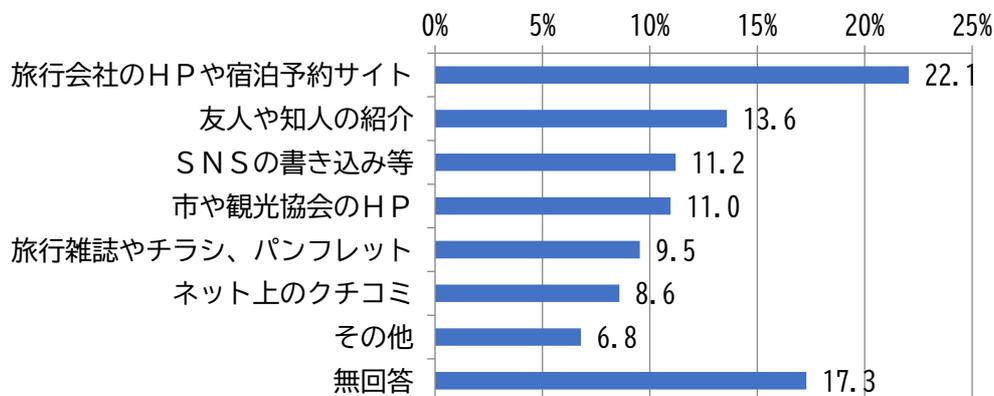
「旅行会社のHPや宿泊予約サイト」が 22.1%と最も多く、次いで「友人や知人の紹介」が 13.6%、「SNSの書き込み等」が 11.2%、「市や観光協会のHP」が 11.0%となっている。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	旅行会社のHPや宿泊予約サイト	185	22.1%
2	友人や知人の紹介	114	13.6%
3	SNSの書き込み等	94	11.2%
4	市や観光協会のHP	92	11.0%
5	旅行雑誌やチラシ、パンフレット	80	9.5%
6	ネット上のクチコミ	72	8.6%
7	その他	57	6.8%
無回答・無効		145	17.3%

その他の回答

近いから、会社の慰安旅行で幹事が決めた、万博でもらった玉ねぎチケット、もともと好きだから、部活動

グラフ

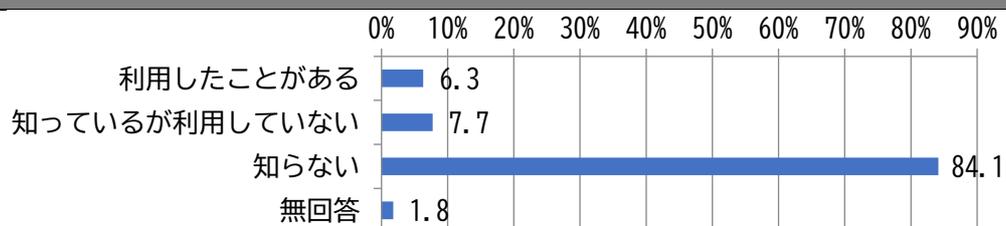


設問 4	洲本市観光アプリ「スモツアー」をご存じですか。		
回答数(n)	839	回答方式	SA

「知らない」が 84.1%と最も多く、次いで「知っているが利用していない」が 7.7%、「利用したことがある」が 6.3%となっている。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	利用したことがある	53	6.3%
2	知っているが利用していない	65	7.7%
3	知らない	706	84.1%
無回答・無効		15	1.8%

グラフ



設問 5	今回の旅行における一人当たりの支出内訳を教えてください。			
回答数(n)	839	回答方式	FA	
<p>旅行全体にかかる費用の平均値は 68,124 円。うち、宿泊費が 36,000 円程度を占めている。次いで交通費が旅行全体にかかる費用として大きく、平均は 9,391 円となっている。</p> <p>旅程全体の宿泊費が 36,356 円であるのに対し、洲本市内での宿泊費が 29,289 円となっており、多くが洲本市内で宿泊していることが分かる。全体の中では土産の市内消費が 3,810 円と他の項目と比べて低い。</p>				
		最大値	平均値	中央値
旅程全体	旅行全体	600,000 円	68,124 円	50,000 円
	交通費	150,000 円	9,391 円	5,000 円
	宿泊費	400,000 円	36,356 円	20,000 円
	飲食費	100,000 円	9,126 円	5,000 円
	土産費	100,000 円	6,181 円	5,000 円
	その他	90,000 円	3,357 円	—
洲本市内	旅行全体	600,000 円	40,138 円	25,000 円
	交通費	100,000 円	3,575 円	1,000 円
	宿泊費	400,000 円	29,289 円	15,000 円
	飲食費	100,000 円	5,782 円	4,000 円
	土産費	100,000 円	3,810 円	2,000 円
	その他	90,000 円	1,462 円	—
※旅行全体の費用を個別の費用が超えている回答については、無効回答として取り扱い				

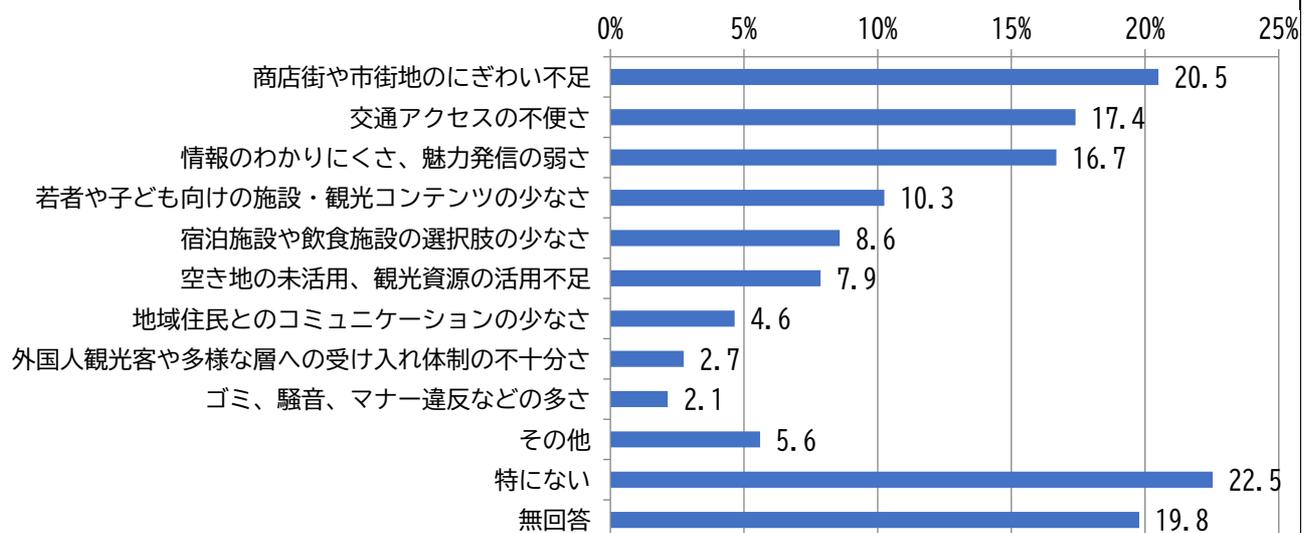
設問 6	洲本市中心市街地を訪れてみて、不便や期待にそぐわないと感じたことはありませんか。特にあてはまるものを3つまでお選びください。		
回答数(n)	839	回答方式	MA(3つまで)
「特にない」が 22.5%と最も多く、次いで「商店街や市街地のにぎわい不足」が 20.5%、「交通アクセスの不便さ」が 17.4%、「情報のわかりにくさ、魅力発信の弱さ」が 16.7%となっている。			

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	商店街や市街地のにぎわい不足	172	20.5%
2	交通アクセスの不便さ	146	17.4%
3	情報のわかりにくさ、魅力発信の弱さ	140	16.7%
4	若者や子ども向けの施設・観光コンテンツの少なさ	86	10.3%
5	宿泊施設や飲食施設の選択肢の少なさ	72	8.6%
6	空き地の未活用、観光資源の活用不足	66	7.9%
7	地域住民とのコミュニケーションの少なさ	39	4.6%
8	外国人観光客や多様な層への受け入れ体制の不十分さ	23	2.7%
9	ゴミ、騒音、マナー違反などの多さ	18	2.1%
10	その他	47	5.6%
11	特にない	189	22.5%
無回答・無効		166	19.8%

その他の回答

駐車場がわかりにくい、スケールが小さい、温泉街の車道が狭い・暗い、お店や道が混む、昔に比べて観光客が多くなった、宿泊施設のコンビニのなさ、洲本城の天守閣

グラフ



設問 7 洲本市中心市街地を訪れてみて、今後特に充実してほしい、もっとこんな場所があればいいなど感じるものはどれですか。特にあてはまるものを3つまでお選びください。

回答数(n) 839 回答方式 MA(3つまで)

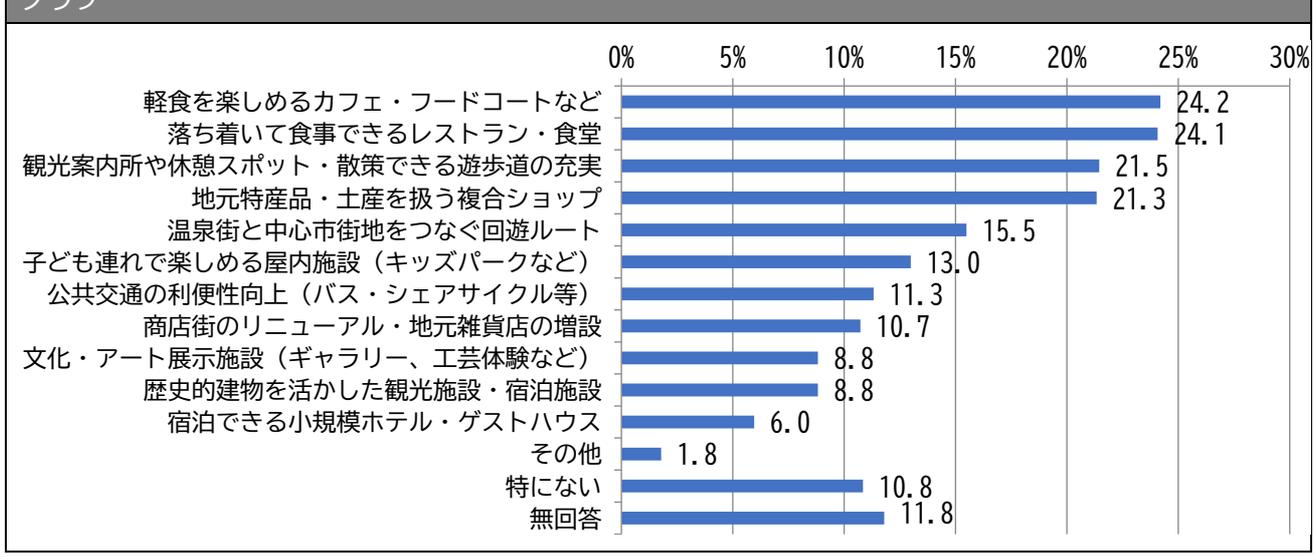
「軽食を楽しめるカフェ・フードコートなど」が 24.2%と最も多く、次いで「落ち着いて食事できるレストラン・食堂」が 24.1%、「観光案内所や休憩スポット・散策できる遊歩道の充実」が 21.5%、「地元特産品・土産を扱う複合ショップ」が 21.3%となっている。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	軽食を楽しめるカフェ・フードコートなど	203	24.2%
2	落ち着いて食事できるレストラン・食堂	202	24.1%
3	観光案内所や休憩スポット・散策できる遊歩道の充実	180	21.5%
4	地元特産品・土産を扱う複合ショップ	179	21.3%
5	温泉街と中心市街地をつなぐ回遊ルート	130	15.5%
6	子ども連れで楽しめる屋内施設(キッズパークなど)	109	13.0%
7	公共交通の利便性向上(バス・シェアサイクル等)	95	11.3%
8	商店街のリニューアル・地元雑貨店の増設	90	10.7%
9	文化・アート展示施設(ギャラリー、工芸体験など)	74	8.8%
10	歴史的建物を活かした観光施設・宿泊施設	74	8.8%
11	宿泊できる小規模ホテル・ゲストハウス	50	6.0%
12	その他	15	1.8%
13	特にない	91	10.8%
無回答・無効		99	11.8%

その他の回答

魚市場と食事、犬連れでも楽しめる施設、ペット同伴のホテル、夜でも開いている場所、道の駅、食べ歩き

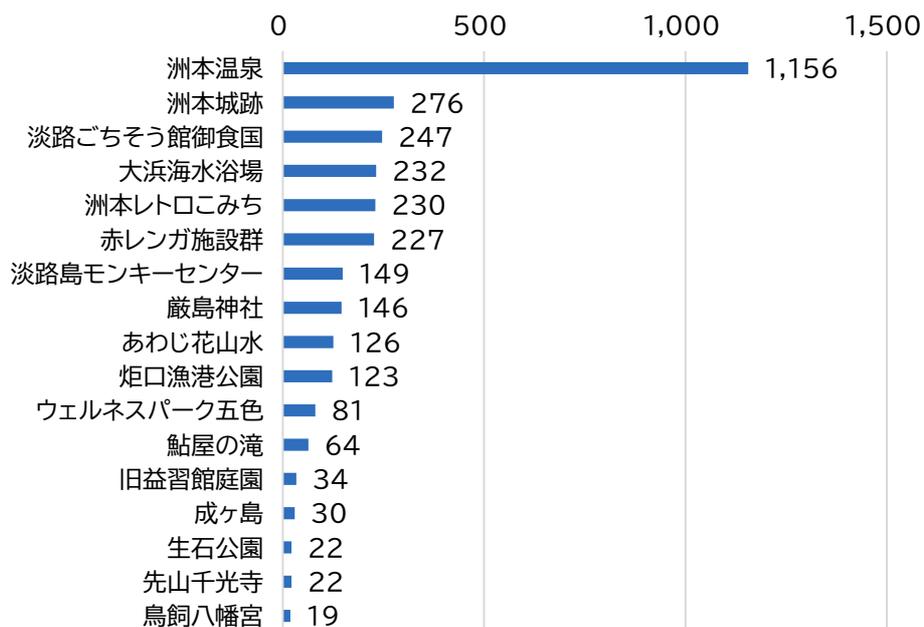
グラフ



設問 8	洲本市中心市街地の観光スポットに関して、あなたが魅力的に感じた選択肢を、1位～3位までお選びください。 1位:3pt、2位:2pt、3位:1ptとして集計		
回答数(n)	839	回答方式	1位～3位をSA
「洲本温泉」が 1,156pt と最も多く、次いで「洲本城跡」が 276pt、「淡路ごちそう館御食国」が247pt となっている。			

	選択肢	回答数(pt)
1	洲本温泉	1,156
2	洲本城跡	276
3	淡路ごちそう館御食国	247
4	大浜海水浴場	232
5	洲本レトロこみち	230
6	赤レンガ施設群	227
7	淡路島モンキーセンター	149
8	巖島神社	146
9	あわじ花山水	126
10	炬口漁港公園	123
11	ウェルネスパーク五色	81
12	鮎屋の滝	64
13	旧益習館庭園	34
14	成ヶ島	30
15	生石公園	22
16	先山千光寺	22
17	鳥飼八幡宮	19

グラフ



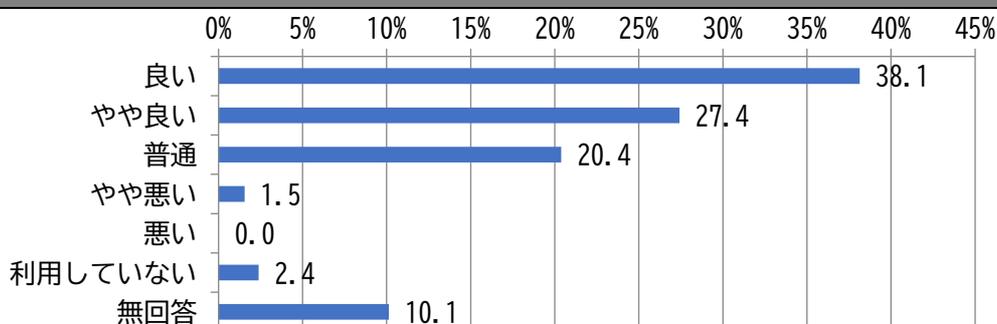
設問 9 洲本市中心市街地で滞在してみたの評価をお選びください。

回答数(n) 839 回答方式 SA

①自然の景観やまちなみ

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	良い	320	38.1%
2	やや良い	230	27.4%
3	普通	171	20.4%
4	やや悪い	13	1.5%
5	悪い	0	0.0%
6	利用していない	20	2.4%
無回答・無効		85	10.1%

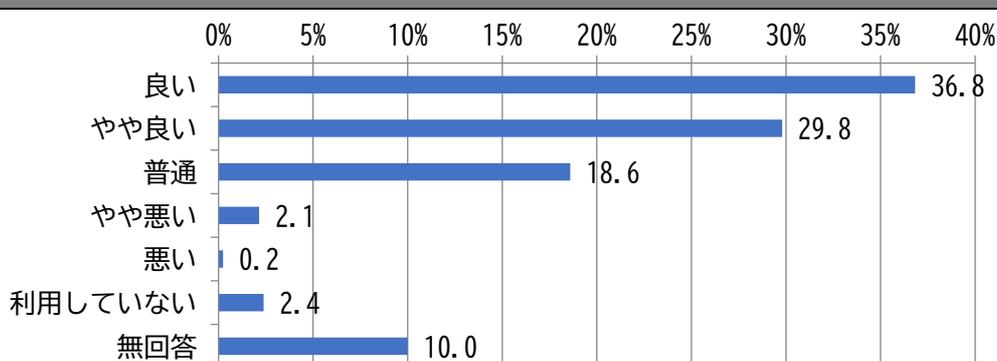
グラフ



②食事やグルメ

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	良い	309	36.8%
2	やや良い	250	29.8%
3	普通	156	18.6%
4	やや悪い	18	2.1%
5	悪い	2	0.2%
6	利用していない	20	2.4%
無回答・無効		84	10.0%

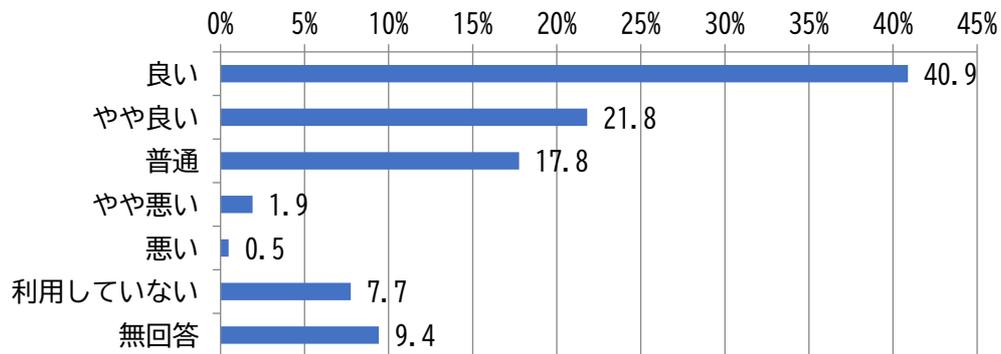
グラフ



③宿泊施設

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	良い	343	40.9%
2	やや良い	183	21.8%
3	普通	149	17.8%
4	やや悪い	16	1.9%
5	悪い	4	0.5%
6	利用していない	65	7.7%
無回答・無効		79	9.4%

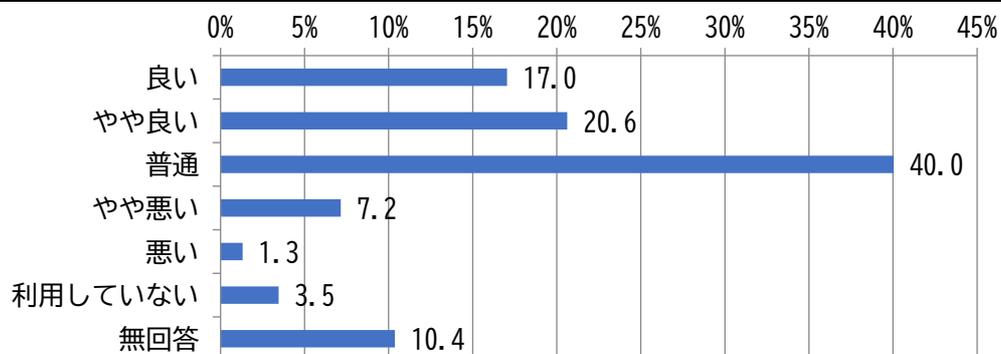
グラフ



④観光情報のわかりやすさ

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	良い	143	17.0%
2	やや良い	173	20.6%
3	普通	336	40.0%
4	やや悪い	60	7.2%
5	悪い	11	1.3%
6	利用していない	29	3.5%
無回答・無効		87	10.4%

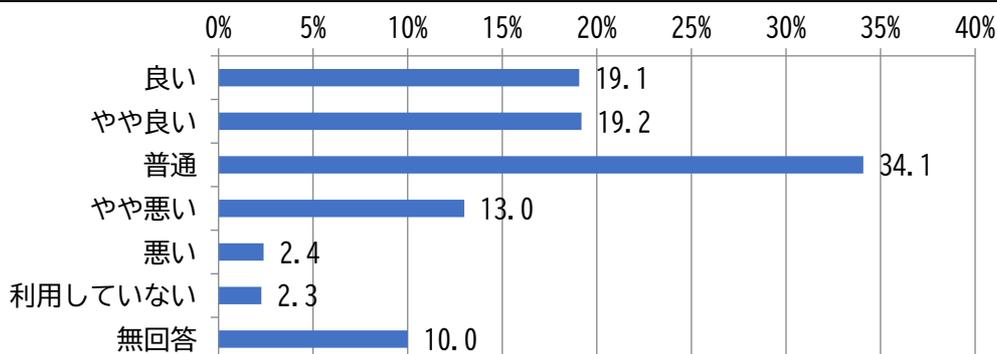
グラフ



⑤交通手段やアクセスのよさ

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	良い	160	19.1%
2	やや良い	161	19.2%
3	普通	286	34.1%
4	やや悪い	109	13.0%
5	悪い	20	2.4%
6	利用していない	19	2.3%
無回答・無効		84	10.0%

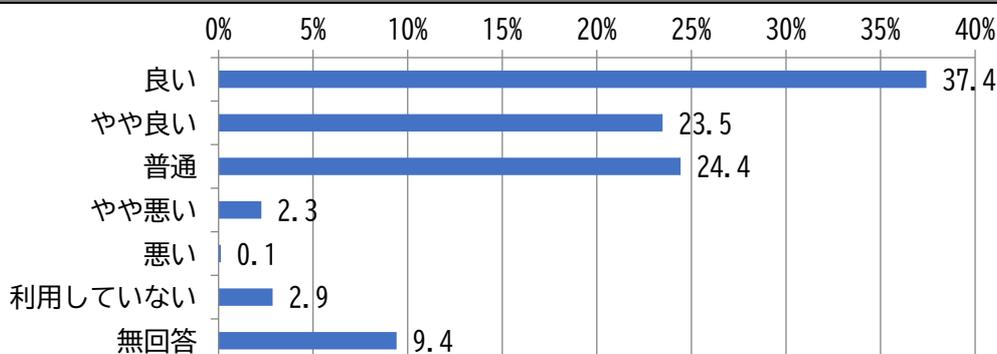
グラフ



⑥接客やおもてなし

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	良い	314	37.4%
2	やや良い	197	23.5%
3	普通	205	24.4%
4	やや悪い	19	2.3%
5	悪い	1	0.1%
6	利用していない	24	2.9%
無回答・無効		79	9.4%

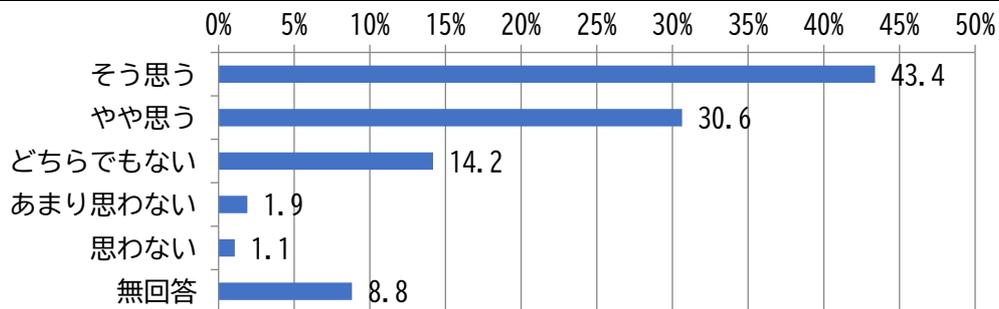
グラフ



設問 10	ご自身はまた洲本市に来たいと思いますか。		
回答数(n)	839	回答方式	SA

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	そう思う	364	43.4%
2	やや思う	257	30.6%
3	どちらでもない	119	14.2%
4	あまり思わない	16	1.9%
5	思わない	9	1.1%
無回答・無効		74	8.8%

グラフ



設問 11	その他、観光で感じたことや今後期待することなどを、自由にご記入ください。		
回答数(n)		回答方式	FA
回答			
<p>A. 交通アクセス・移動手段(課題)</p> <p>主に「車・橋の料金・バス本数・道の狭さ」などの不便の訴え。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 車や道路に関する不便 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道が狭い、走りにくい。白線が消えていて危険。夜間は街灯が少ない。 ・ 島内の移動が不便。車がないと観光が難しい。 ・ 淡路 IC から洲本まで渋滞が続くのでバイパスが欲しい。 ・ 運転免許返納後も観光できるような移動手段(自動運転バスなど)が欲しい。 ● 公共交通機関の不足 <ul style="list-style-type: none"> ・ バスの本数が少ない。移動がしづらい。 ・ 公共交通で来た観光客向けのキャンペーンがほしい。 ・ 電車を走らせてほしい。 ・ ジャンボタクシーが少ない。 ● 橋・高速料金への要望 <ul style="list-style-type: none"> ・ 明石海峡大橋の通行料が高い。 ・ 県民割引、観光客向け割引があればもっと行きやすい。 ・ 高速代全体を安くしてほしい。 ● フェリーに関する意見 <ul style="list-style-type: none"> ・ フェリーで行くと便利だが、運賃がもう少し安いと嬉しい。 <p>B. 観光施設・観光地の魅力に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ポジティブな意見 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光スポットが多くて楽しい。 ・ 自然が豊か、海が綺麗、のんびりできる非日常。 ・ 温泉がとても良い。特に「ホテルニューアワジ」への好意多数。 ・ 海鮮・肉・野菜など食べ物がとても美味しい。 ・ 景色が良い、癒される。 ● 改善を望む意見 <ul style="list-style-type: none"> ・ もっと観光スポットを増やしてほしい。 ・ 子どもが一日遊べる施設がほしい。 ・ 屋内施設がもっと欲しい(雨の日対策)。 ・ マリンスポーツの充実。 ・ 自然を活かした施設や海浜公園がほしい。 ・ テーマパーク、複合施設の誘致希望。 			

C. 町並み・雰囲気への評価と希望

● 良い点

- ・ 都会から近いのに落ち着いた雰囲気がある。
- ・ 観光地化しすぎず、静かでゆったりできるのが良い。
- ・ レトロな雰囲気をもっと活かしてほしい。

● 希望・懸念

- ・ 過度な観光地化は望まない。自然を大切にしてほしい。
- ・ 洲本市中心部はやや閑散としているので活性化に期待。
- ・ 他地域の新しい施設に負けない魅力づくりが必要。

D. 食事・飲食店への意見

● ポジティブ

- ・ 淡路島の食材が美味しい(玉ねぎ、海鮮、肉、野菜)。
- ・ 手軽に食べられる店があると嬉しい。
- ・ ホテルの料理がとても美味しい。

● 改善要望

- ・ 淡路島の飲食店は全体的に価格が高い。
- ・ 気軽な飲食店が少ない。もっと安価な店がほしい。
- ・ 混雑していてランチの店を探すのが大変。
- ・ 営業時間が短く、夜遅くまで開いている店が少ない。

E. 宿泊に関する意見

● ポジティブ

- ・ 温泉旅館・ホテルが良かった。
- ・ 特に「ホテルニューアワジ」は好意的コメント多数。
- ・ 海の見える部屋が良い。

● 改善希望

- ・ 宿泊費が高いので、もう少し安ければ行きやすい。
- ・ 1人で泊まれるホテルがもっとほしい。
- ・ 駐車場がもっと中心部にあると便利。
- ・ 宿泊施設に手すりや設備対応の改善を求める声あり。

F. イベント・体験に関する意見

- ・ 季節ごとのイベント・キャンペーン開催を望む。
- ・ 釣りが気軽にできる場所がほしい。
- ・ 子ども連れでも楽しめる遊び場や体験施設がほしい。
- ・ ボランティアの温かさがありがたかった。

G. 地域 PR・案内・情報提供に関する要望

- ・ 観光スポットの周知や情報発信が弱い。
- ・ どこへ行けば良いか分からない。
- ・ 地図や観光案内がもっとわかりやすいと良い。
- ・ お土産の「定番」を知りたい。
- ・ PR をもっと積極的に行うべき。

H. 料金に関する不満

- ・ 飲食・宿泊・土産など全体的に価格が高い。
- ・ 観光地価格になってしまっている。
- ・ 淡路島の食材(玉ねぎ・塩など)が地元より高い。

I. 外国人観光客に関する意見(安全規範系)

- ・ マナー改善を求める声が多い。

J. インフラ・設備に関する要望

- ・ トイレをもっと増やしてほしい。
- ・ 休憩スポットを増やしてほしい。
- ・ 駐車場を増やしてほしい。
- ・ 道の駅の充実を求める声。
- ・ 自転車道・ウォーキング向け整備を望む声。

K. 特定地点・施設への具体的意見

- ・ 洲本城の天守改善を望む。
- ・ 道の駅うずしお(リニューアル後)に行きたかったが場所が分からない。
- ・ 福良の二輪駐車が停めにくい。
- ・ 花さじき、うずしおなど人気スポットへの期待。

L. ポジティブコメント(総評系)

- ・ とても良い街。また来たい。
- ・ 楽しかった、満足した。
- ・ 泊まったホテルが良かった。
- ・ 景色も温泉も食事も素晴らしく、また訪れたい。

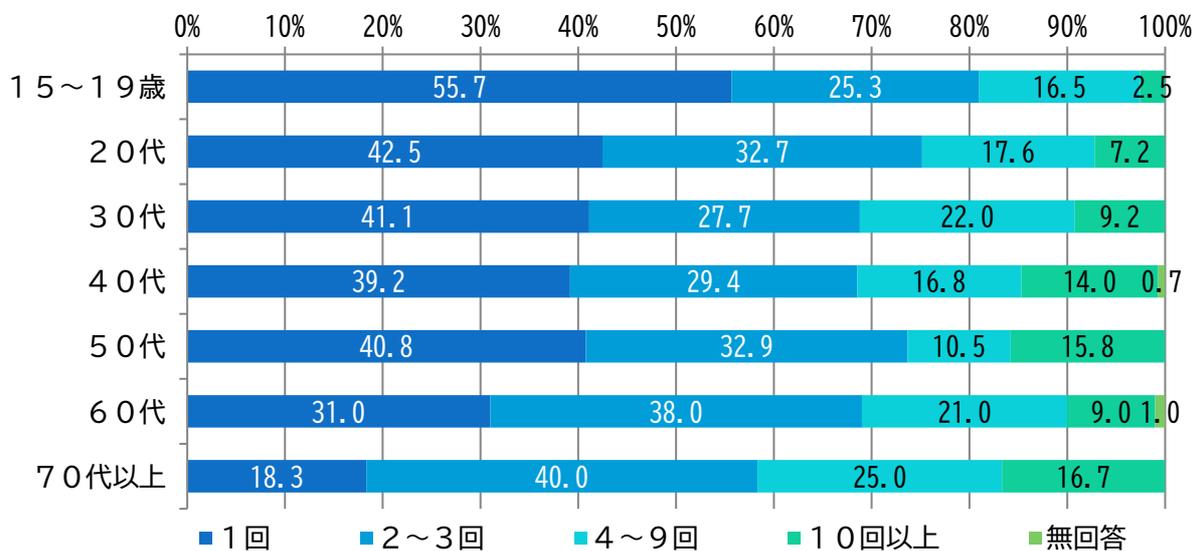
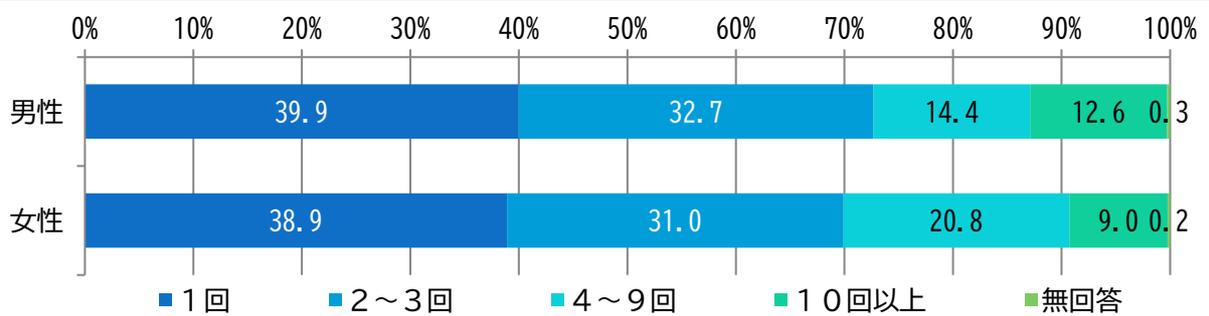
2 クロス集計

設問 1-4	あなたは過去に、何度洲本市を訪れたことがありますか。		
回答数(n)	839	回答方式	SA

男性では、来訪回数「1回」の方が最も多く39.9%、次いで「2～3回」が32.7%となっている。女性もほぼ同様の傾向で、「1回」が38.9%、「2～3回」が31.0%である。

年齢別にみると、年代が上がるにつれ来訪回数が増加傾向にある。15～19歳では半数以上が初めての来訪であるのに対し、60代では来訪回数が「1回」なのは31.0%、70代以上では18.3%となっていることから、洲本市は一度きりしか訪れない観光地ではなく、年齢を重ねる中で、何度も足を運ばれる傾向にあることがわかる。

グラフ

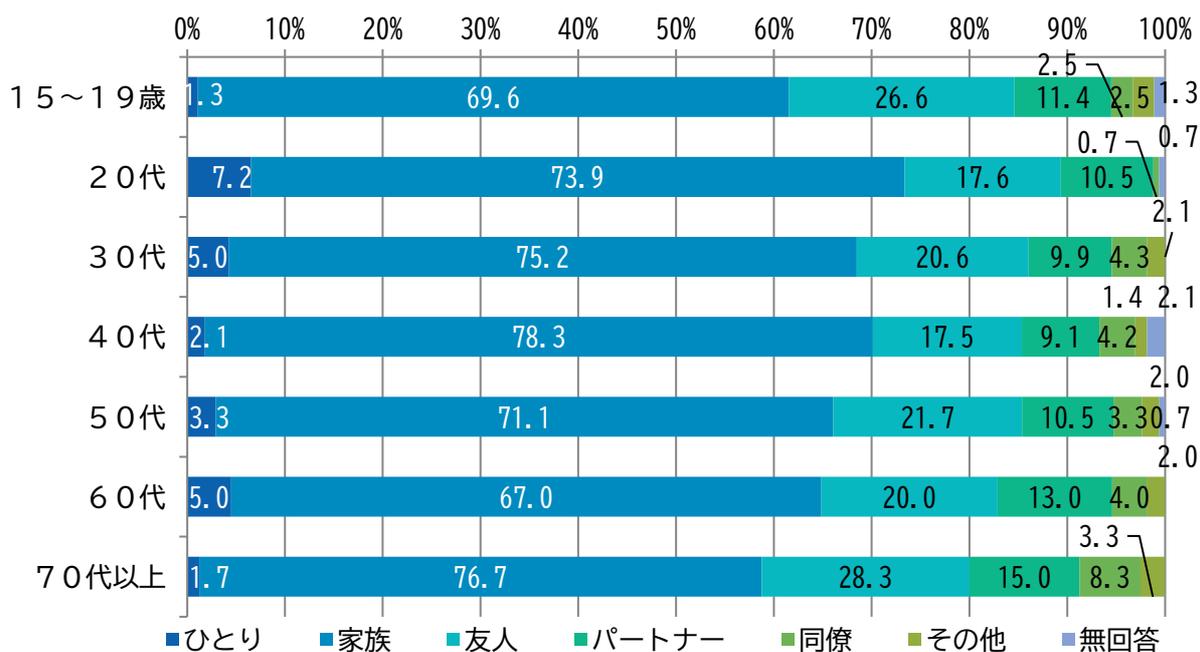
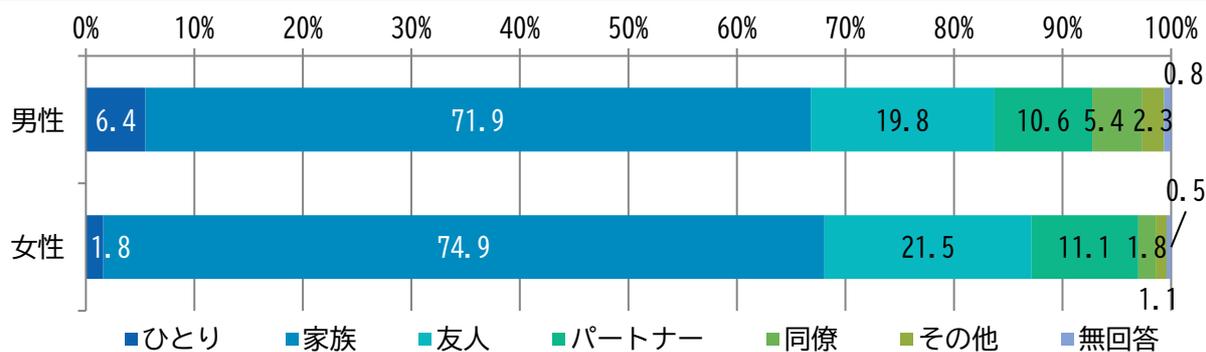


設問 1-5 直近の洲本市への旅行は、誰と一緒に旅行しましたか。

回答数(n) 839 回答方式 SA

性別・年代を問わず、「家族」と回答した割合が約70%前後を占めており、洲本市はファミリー志向の観光地であることがうかがえる。特に40代ではその比率が78.3%と最も高く、子育て世代の来訪が多い。パートナーと旅行した割合は、70代以上、次いで15～19歳で高い。カップル旅行というよりも、夫婦での落ち着いた旅行先としての需要が示唆される。

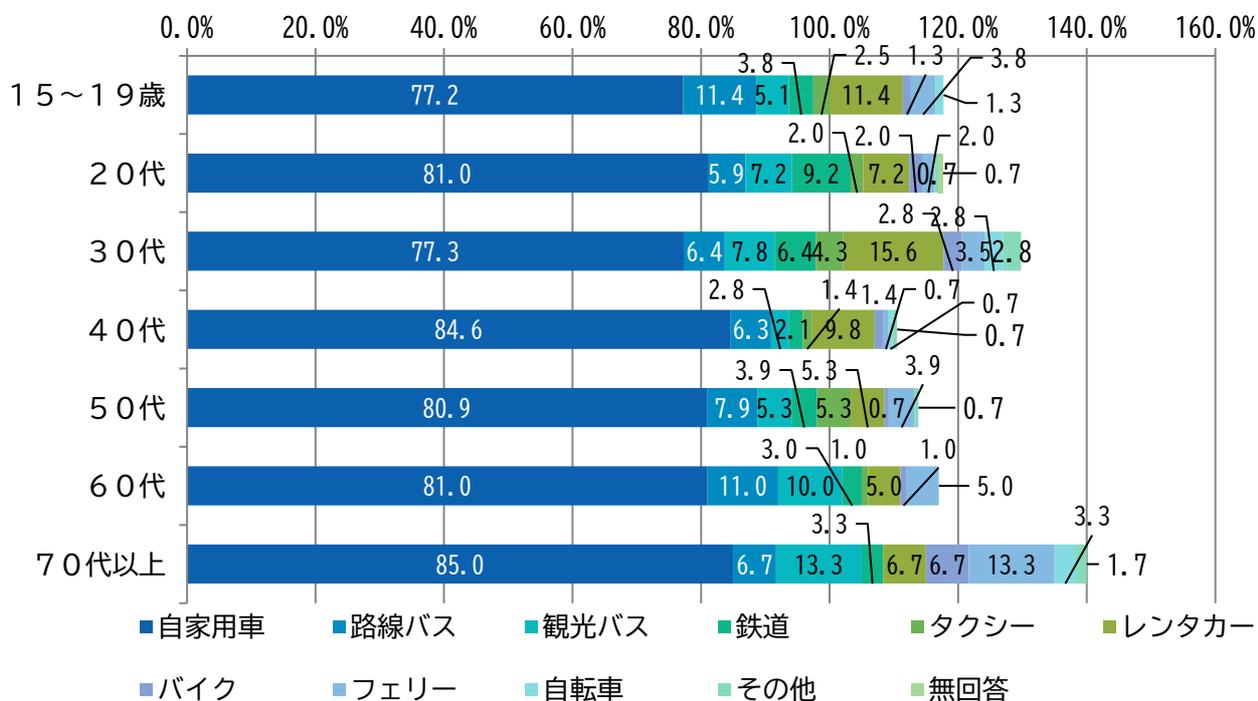
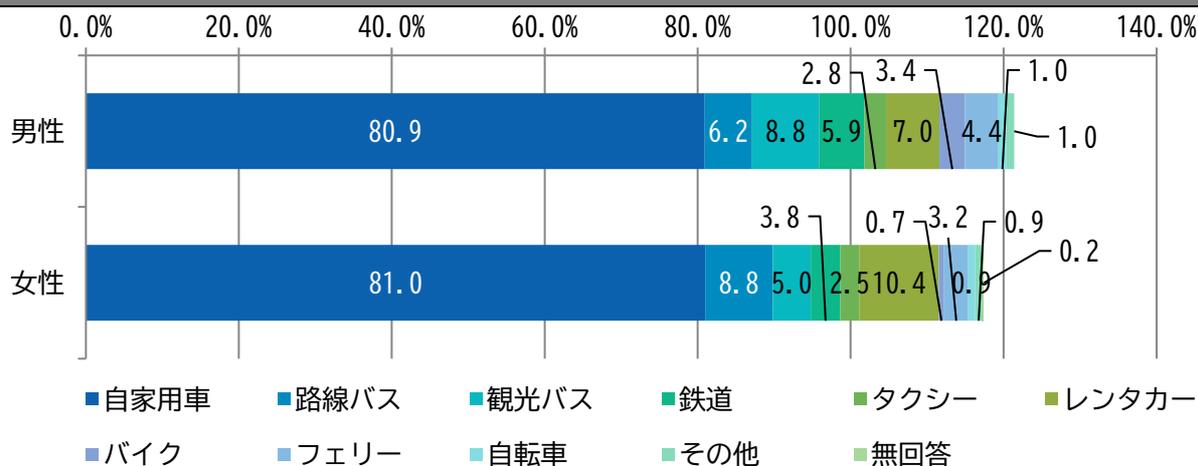
グラフ



設問 1-6	直近の洲本市への旅行で、旅程全体での交通手段はどれでしたか。		
回答数(n)	839	回答方式	MA

性別・年代を問わず、「自家用車」と回答した割合が約 77～85%で最も多い。自家用車については、15～19 歳は路線バスが 11.4%、20 代は鉄道 9.2%、30 代はレンタカー 15.6%となっている。40 代は自家用車が 84.6%と 30 代より 7.3 ポイント高く、次いでレンタカーが 9.8%となっており、公共交通の利用率は全体的に低下。50 代は自家用車に次いで路線バス 7.9%、観光バス、タクシー、レンタカー 5.3%と、交通手段の使い分けがみられる。70 代は自家用車比率が最高水準 85.0%ではあるが、観光バス・フェリーなどの割合がやや高く、運転負担を避けた移動手段や団体・夫婦旅行の増加が示唆される。

グラフ

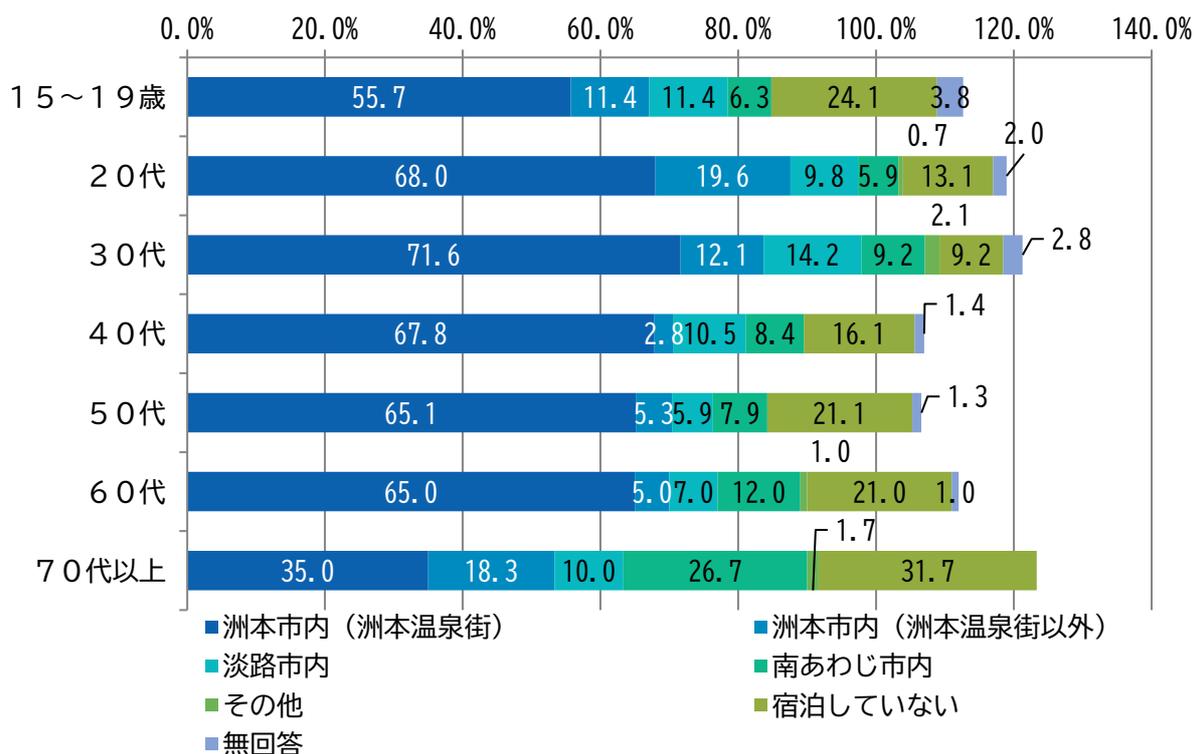
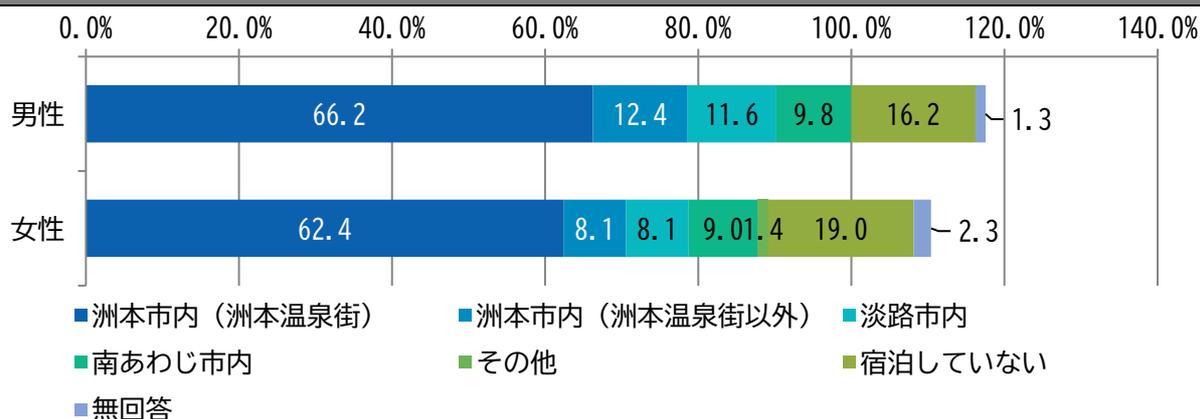


設問 2-1	直近の淡路島旅行(洲本市を含む)で訪れた場所はどこですか。		
回答数(n)	839	回答方式	MA
<p>すべての性別・年代で「道の駅あわじ」が上位に入っており、70代以上では60%弱となっている。洲本温泉は60代が約50%と突出しており、滞在型・癒し志向の需要が顕著。15～19歳、20代では、ニジゲンノモリ・ワールドパーク ONOKORO といったテーマパーク・体験型施設が上位に入る。30～50代では、道の駅・洲本温泉・あわじ花さじきといった休憩・景観・子ども対応施設がバランスよく上位を占めている。60代・70代以上では、道の駅・花さじき・うずの丘 大鳴門峡記念館・淡路夢舞台など、景観性・象徴性・滞在のしやすさを備えた施設が高い支持を得ている。</p>			
来訪状況(上位5か所)			
■性別			
男性	道の駅あわじ:40.7%、洲本温泉:32.7%、道の駅うずしお:28.9%、あわじ花さじき:22.7%、うずの丘 大鳴門峡記念館:19.8%		
女性	道の駅あわじ:38.0%、道の駅うずしお:31.0%、洲本温泉:28.1%、あわじ花さじき:21.9%、国営明石海峡公園:18.8%		
■年齢別			
15～19歳	道の駅あわじ:32.9%、ニジゲンノモリ:31.6%、道の駅うずしお:25.3%、あわじ花さじき:22.8%、ワールドパークONOKORO:19.0%		
20代	道の駅あわじ:28.1%、洲本温泉:22.2%、ニジゲンノモリ:17.6%、ワールドパークONOKORO:17.6%、道の駅うずしお:19.0%		
30代	道の駅あわじ:28.1%、洲本温泉:22.2%、道の駅うずしお:19.0%、あわじ花さじき:21.3%、国営明石海峡公園:19.1%		
40代	道の駅あわじ:43.4%、道の駅うずしお:36.4%、洲本温泉:28.7%、伊弉諾神宮:18.9%、淡路花さじき:19.6%、あわじ花さじき:18.2%		
50代	道の駅あわじ:40.1%、道の駅うずしお:30.9%、洲本温泉:29.6%、淡路夢舞台:19.1%、あわじ花さじき:17.1%		
60代	洲本温泉:48.0%、道の駅あわじ:44.0%、あわじ花さじき:36.0%、道の駅うずしお:33.0%、うずの丘 大鳴門峡記念館、洲本城跡:29.0%、		
70代以上	道の駅あわじ:58.3%、道の駅うずしお:50.0%、あわじ花さじき:48.3%、うずの丘 大鳴門峡記念館:48.3%、淡路夢舞台:46.7%		

設問 2-2	直近の洲本市への旅行で、宿泊した場所はどこですか。		
回答数(n)	839	回答方式	MA

性別・年代を問わず、「洲本市内(洲本温泉街)」が最も多い宿泊地となっており、特に 30 代では 70%を超えているなど高い。また、男性は洲本温泉街の宿泊率が 66.2%と高い。「宿泊していない」が女性：19.0%、15～19 歳：24.1%、70 代以上：31.7%と、日帰り旅行や島内他地域での宿泊が一定数存在することが示唆される。20～60 代では、洲本市内宿泊率が 60%以上と安定し、洲本市が観光の拠点として機能している。

グラフ

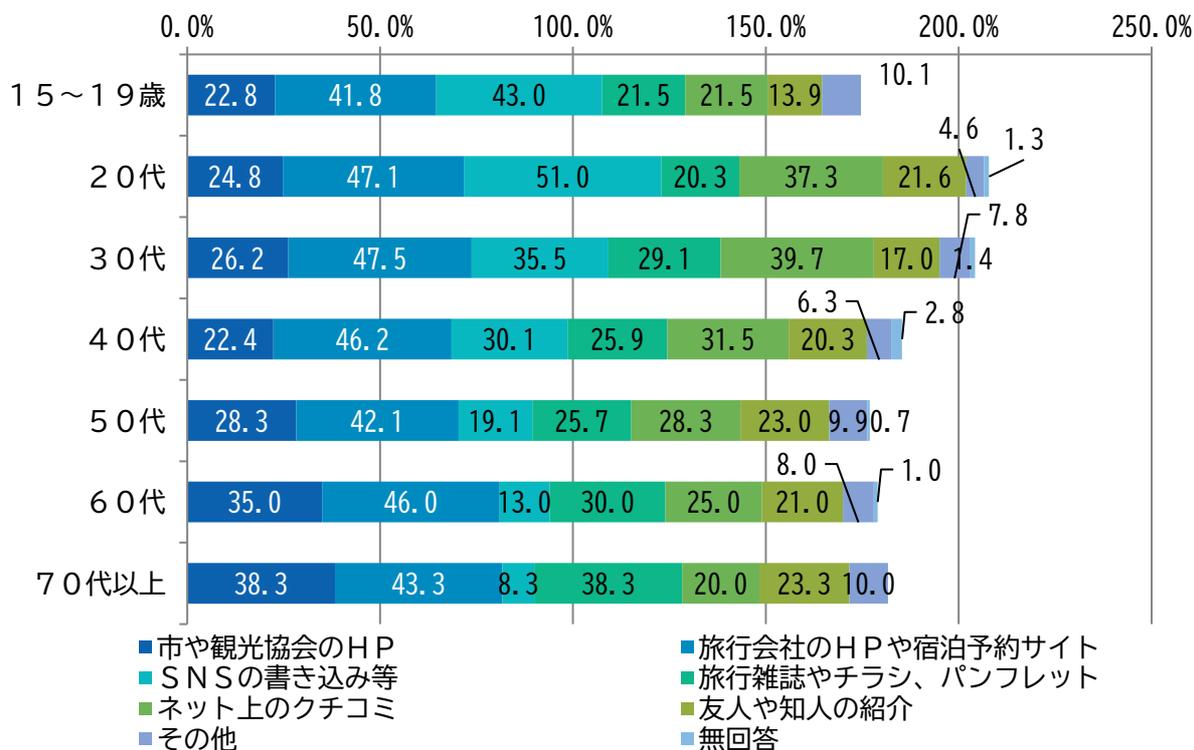
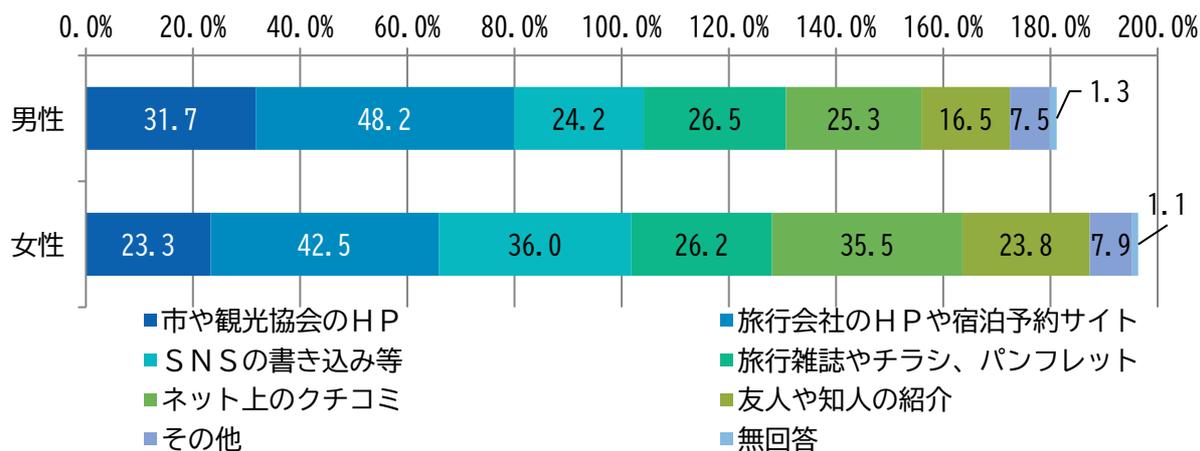


設問 3-1 普段旅行する前にどのような情報経路・媒体で訪問先の情報を調べますか。

回答数(n) 839 回答方式 MA

15～19 歳、20 代は「旅行会社の HP」「SNS の書き込み」「ネット上の口コミ」が高い。30～40 代は SNS、口コミ、公式 HP、紙媒体、紹介のいずれもバランス良く利用。50 代以上になると、公式情報・紙媒体「市や観光協会の HP」「旅行会社の HP」「旅行雑誌・チラシ・パンフレット」の利用率が高い。また、男性は公式系・機能系サイト「市や観光協会の HP」「旅行会社の HP・宿泊予約サイト」の比重が女性より高く、女性は「ネット上の口コミ」「友人や知人の紹介」といった口コミ・人由来の情報源利用が男性より高い。

グラフ



設問 3-2 直近の洲本市への旅行で、淡路島を選ぶ最も決め手となった情報源を1つお選びください。

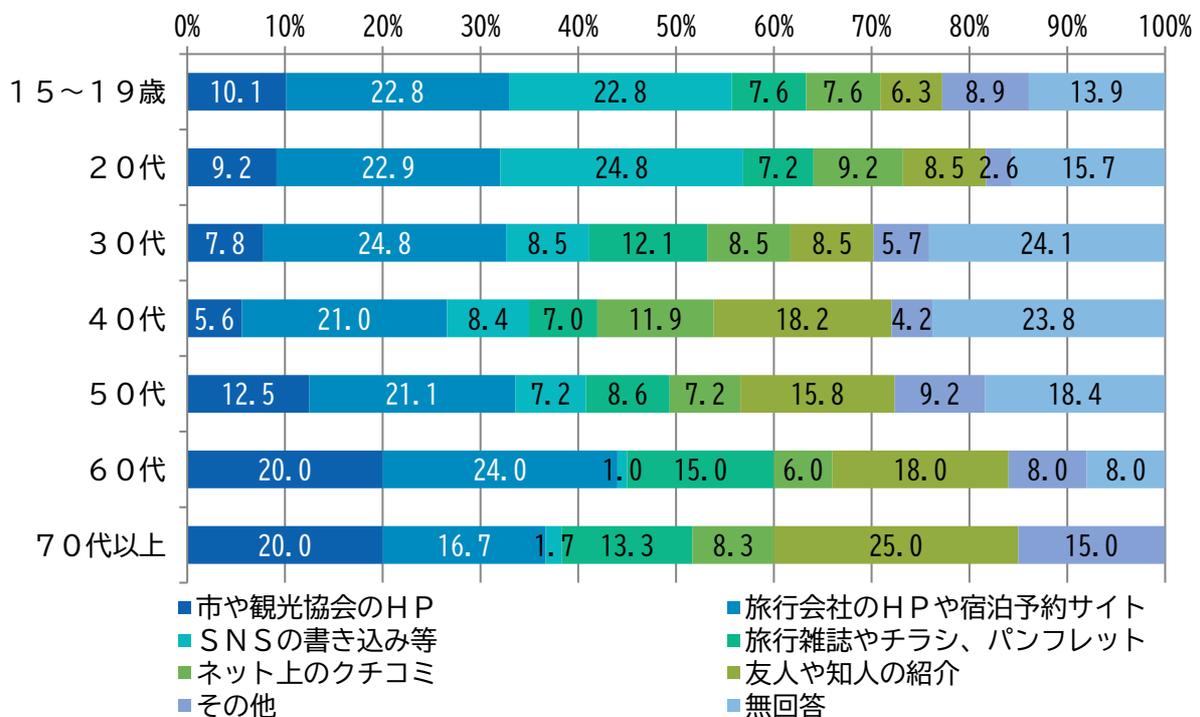
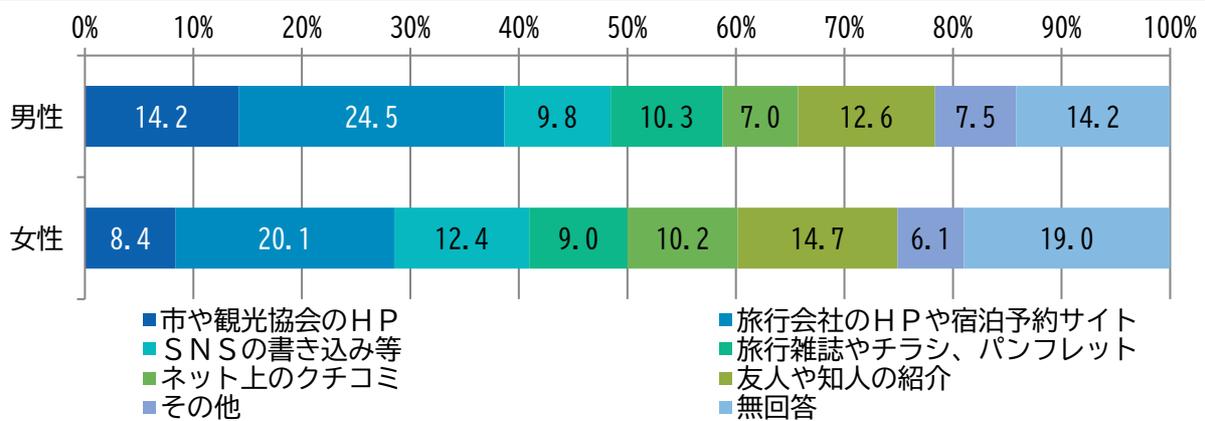
回答数(n) 839 回答方式 SA

15～20代は「SNSの書き込み等」の割合が約22～24%と決め手になっている。30代は「旅行会社のHP・宿泊予約サイト」24.8%と決め手になっている。

50代は「友人・知人の紹介」18.2%+「旅行会社のHP・宿泊予約サイト」21.1%が割合を占め、SNSは大きく低下。60代は「市や観光協会のHP」20.0%、「旅行会社のHP・宿泊予約サイト」24.0%と公式HP・予約サイトが突出、SNSはほぼ影響なし。70代以上は「友人・知人の紹介」25.0%で全年代最高。

また、男性はデジタル公式情報「市や観光協会のHP」「旅行会社のHP・宿泊予約サイト」が決め手、女性は「ネット上の口コミ」「友人や知人の紹介」といった人・共感系情報が決め手となっている。

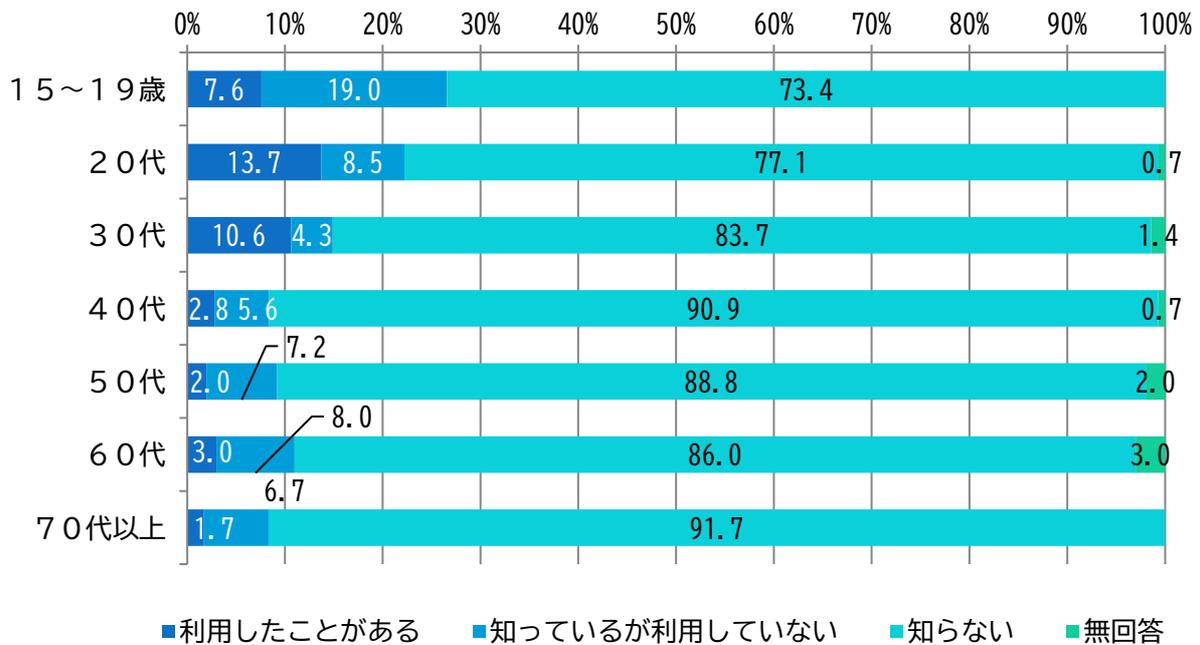
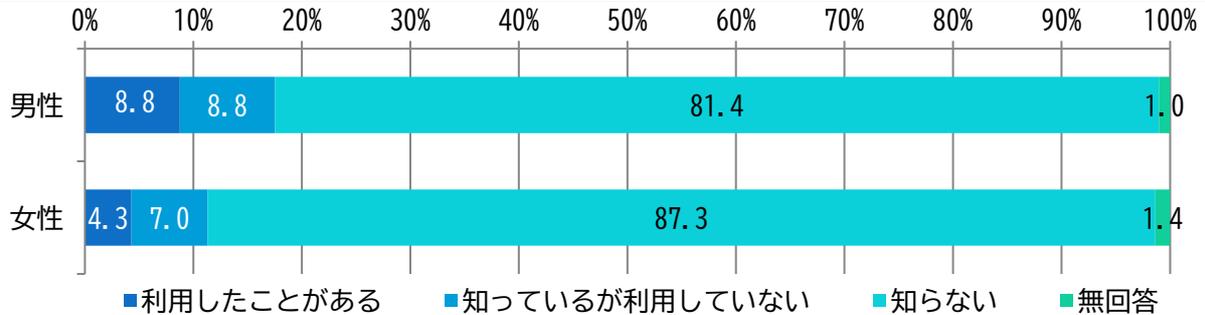
グラフ



設問 4	洲本市観光アプリ「スモツー」をご存じですか。		
回答数(n)	839	回答方式	SA

「知らない」の回答数が男性 81.4%、女性 87.3%と圧倒的多数。
「利用したことがある」のは男性 8.8%、女性 4.3%となっており、実際に使われている割合は非常に低い。

グラフ

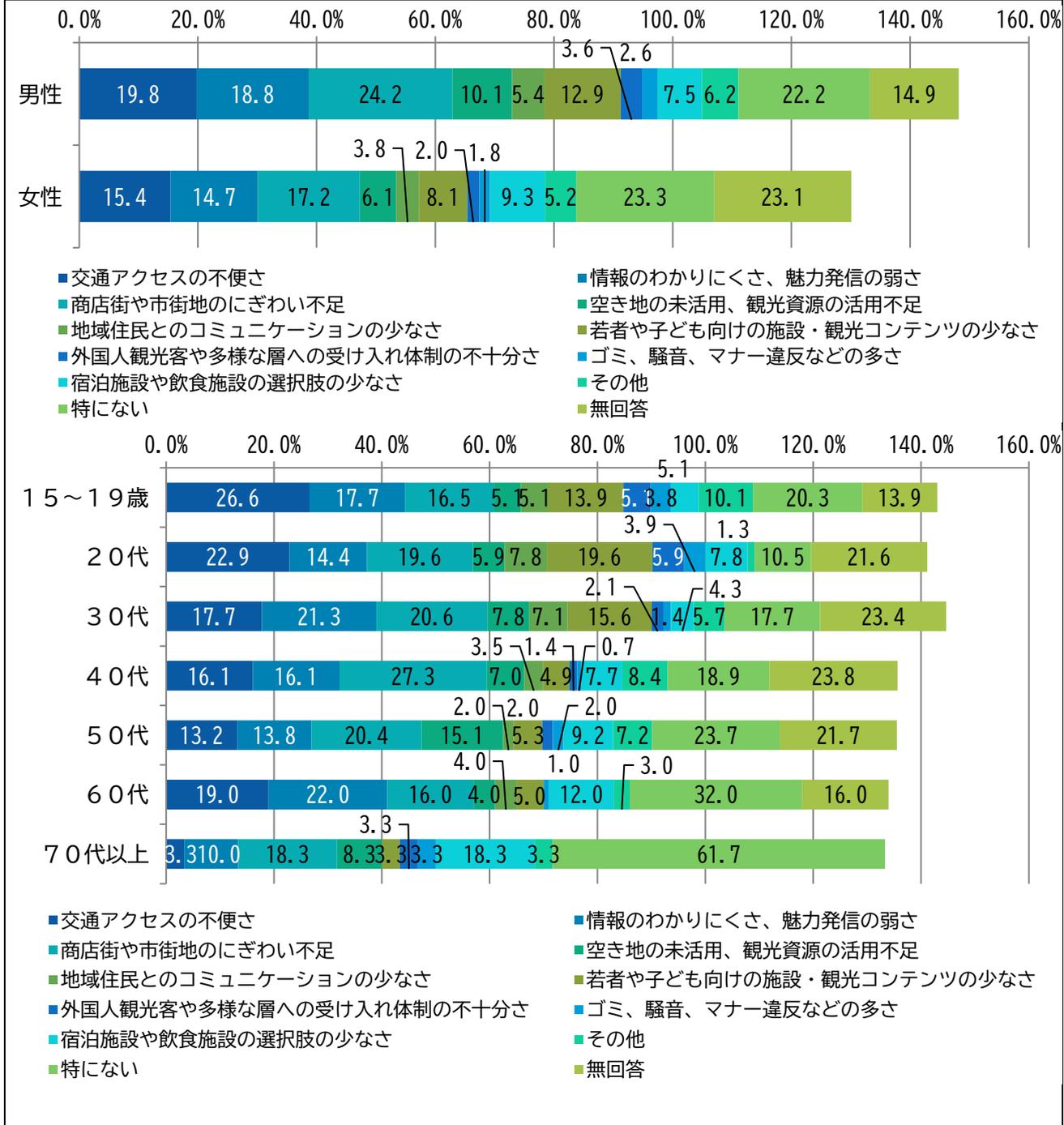


設問 6 洲本市中心市街地を訪れてみて、不便や期待にそぐわないと感じたことはありましたか。

回答数(n) 839 回答方式 MA(3つまで)

男女ともに「特にない」が最多だが、「商店街や市街地のにぎわい不足」「交通アクセスの不便さ」が次いで上位に入り、ほぼ全世代が「情報源のわかりにくさ」をあげている。また、15歳～30代は「若者や子ども向けの施設・観光コンテンツの少なさ」を中高年より多く感じている。

グラフ



設問 7 洲本市中心市街地を訪れてみて、今後特に充実してほしい、もっとこんな場所があればいいと感じるものはどれですか。

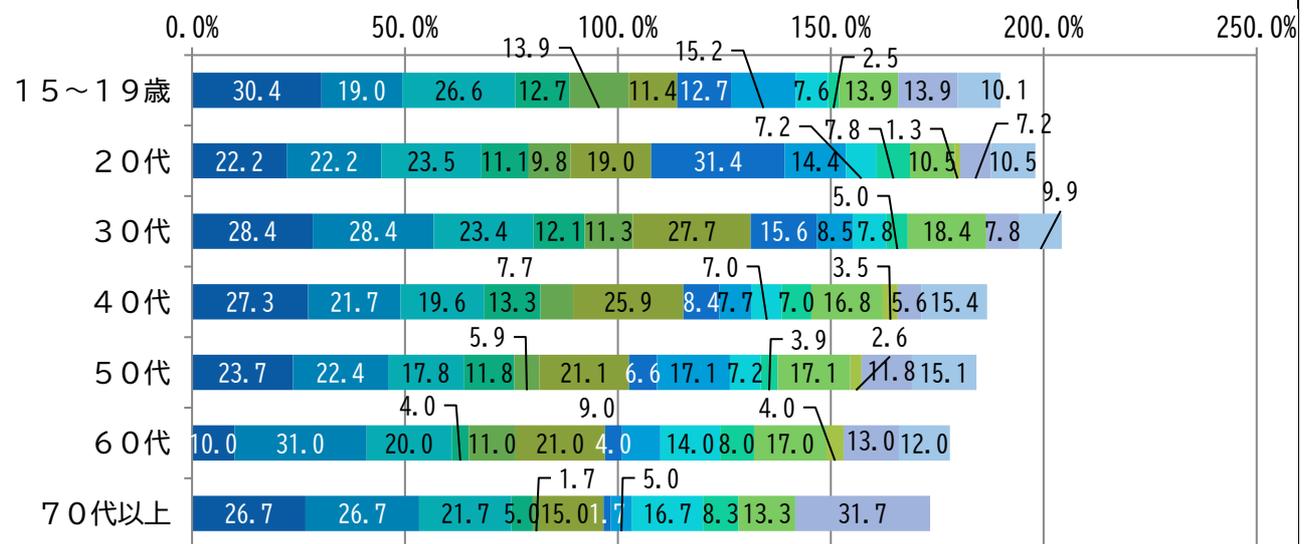
回答数(n) 839 回答方式 MA(3つまで)

男性は「落ち着いて食事できるレストラン・食堂」、女性は「軽食を楽しめるカフェ・フードコート」「地元特産品・土産を扱う複合ショップ」などが最多。年代別にみても、上記 2 つの選択肢や「観光案内嬢や休憩スポット・散策できる遊歩道の充実」を選んでいる割合は高い。加えて、20代では「子ども連れで楽しめる屋内施設」、40代では「地元特産品・土産を扱う複合ショップ」などの割合も高くなっている。

グラフ



- 軽食を楽しめるカフェ・フードコートなど
- 観光案内所や休憩スポット・散策できる遊歩道の充実
- 文化・アート展示施設（ギャラリー、工芸体験など）
- 子ども連れで楽しめる屋内施設（キッズパークなど）
- 歴史的建物を活かした観光施設・宿泊施設
- 温泉街と中心市街地をつなぐ回遊ルート
- 特にない
- 落ち着いた食事できるレストラン・食堂
- 商店街のリニューアル・地元雑貨店の増設
- 地元特産品・土産を扱う複合ショップ
- 公共交通の利便性向上（バス・シェアサイクル等）
- 宿泊できる小規模ホテル・ゲストハウス
- その他
- 無回答



- 軽食を楽しめるカフェ・フードコートなど
- 観光案内所や休憩スポット・散策できる遊歩道の充実
- 文化・アート展示施設（ギャラリー、工芸体験など）
- 子ども連れで楽しめる屋内施設（キッズパークなど）
- 歴史的建物を活かした観光施設・宿泊施設
- 温泉街と中心市街地をつなぐ回遊ルート
- 特にない
- 落ち着いた食事できるレストラン・食堂
- 商店街のリニューアル・地元雑貨店の増設
- 地元特産品・土産を扱う複合ショップ
- 公共交通の利便性向上（バス・シェアサイクル等）
- 宿泊できる小規模ホテル・ゲストハウス
- その他
- 無回答

設問 8	洲本市中心市街地の観光スポットに関して、あなたが魅力的に感じた選択肢を、1位～3位までお選びください。		
回答数(n)	839	回答方式	SA
<p>各年代・各性別とも、洲本温泉を魅力的に感じている割合が高い。次いで、男性、女性共に「洲本城跡」「淡路ごちそう館御食国」が上位となっている。</p> <p>年代別にみると、若年層では「大浜海水浴場」が上位に、高年齢層では「赤レンガ倉庫群」が上位に入っており、アクティビティを楽しむ年代と史跡等を見て楽しむ年代で、魅力的に感じる資源に違いが生まれている。</p>			
内訳			
■性別			
男性	1位:洲本温泉 543pt 2位:洲本城跡 155pt 3位:淡路ごちそう館御食国 124pt		
女性	1位:洲本温泉 610pt 2位:淡路ごちそう館御食国 123pt 3位:洲本城跡 121pt		
■年齢別			
15～19歳	1位:洲本温泉 88pt 2位:大浜海水浴場、淡路ごちそう館御食国 24pt		
20代	1位:洲本温泉 226pt 2位:大浜海水浴場 69pt 3位:洲本城跡 54pt		
30代	1位:洲本温泉 212pt 2位:洲本城跡 55pt 3位:淡路ごちそう館御食国 51pt		
40代	1位:洲本温泉 220pt 2位:洲本レトロこみち 45pt 3位:大浜海水浴場 39pt		
50代	1位:洲本温泉 214pt 2位:洲本レトロこみち 64pt 3位:赤レンガ施設群 60pt		
60代	1位:洲本温泉 135pt 2位:洲本城跡 48pt 3位:淡路ごちそう館御食国 40pt		
70代以上	1位:洲本温泉 49pt 2位:あわじ花山水 26pt 3位:赤レンガ施設群 23pt		

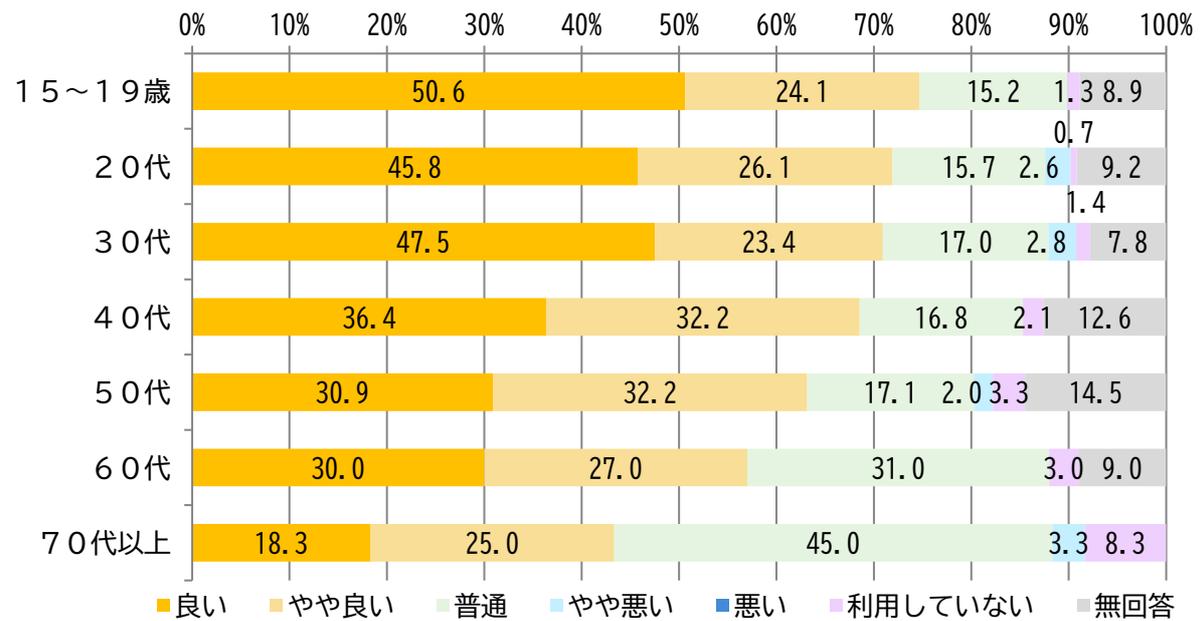
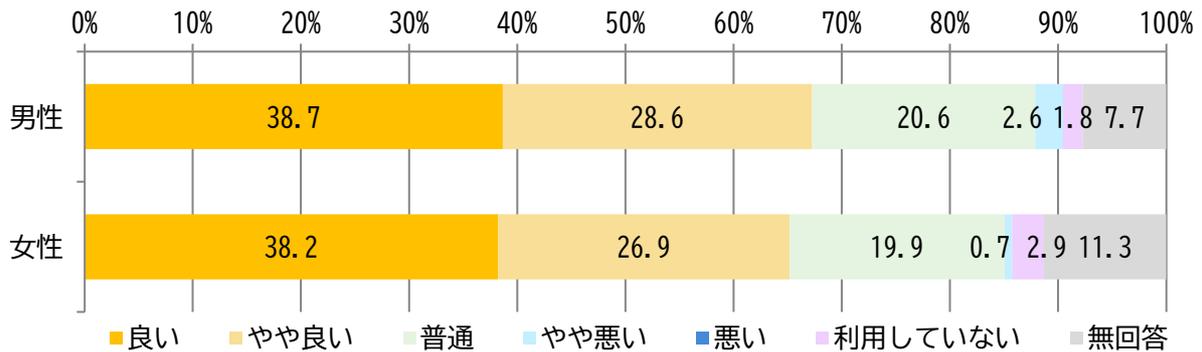
設問 9 洲本市中心市街地で滞在してみたの評価をそれぞれ1つお選びください。

回答数(n) 839 回答方式 SA

■自然の景観やまちなみ

男性・女性ともに「良い」「やや良い」が60%以上。15～19歳は「良い」が50.6%、「やや良い」が24.1%と全世代で最も高く、若年層ほど高く評価している傾向にある。中高年層(40～70代)は評価が分散し、特に「普通」が増える。40代以降は「良い」が3割前後、60代は「普通」が31.0%、70代以上は45.0%と最も高い。年齢が上がるほど「可もなく不可もなく」という受け止め方が増える。

グラフ

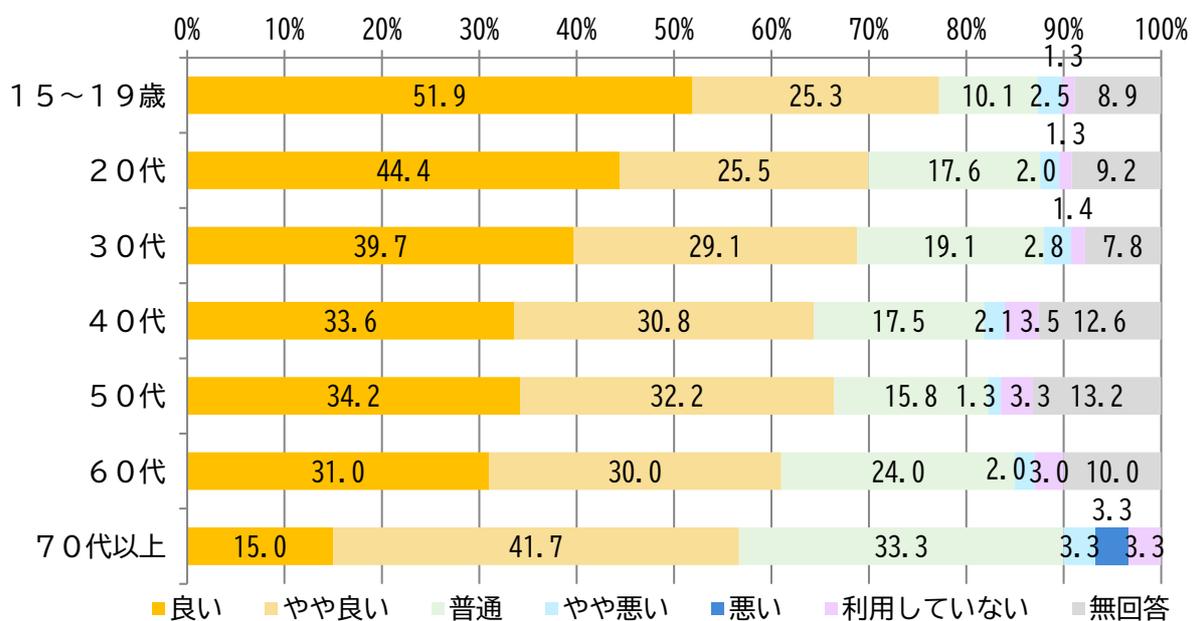
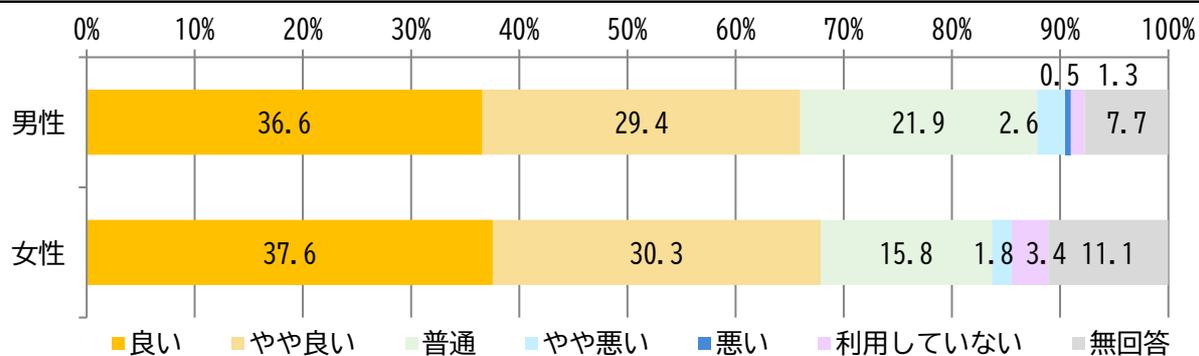


■食事やグルメ

男性は「良い」「やや良い」があわせて67.0%、女性は67.9%。

15～19歳は「良い」が51.9%と全世代で最高。60代以下では、すべての年代において「良い」「やや良い」があわせて60%以上。70代以上は「普通」の割合が増える。

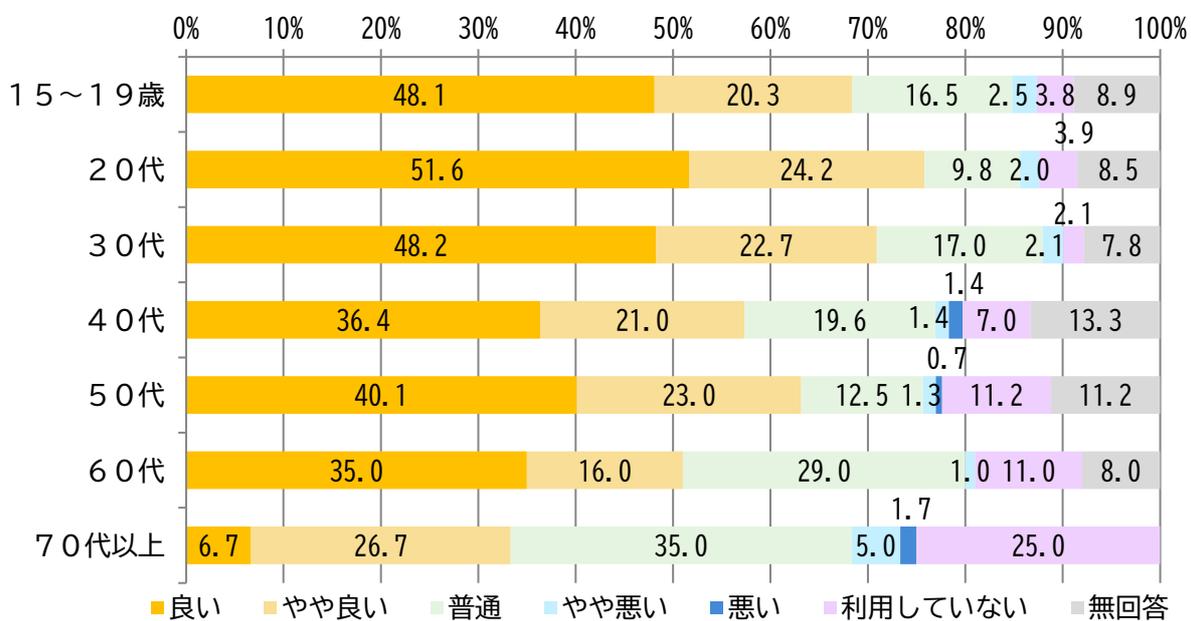
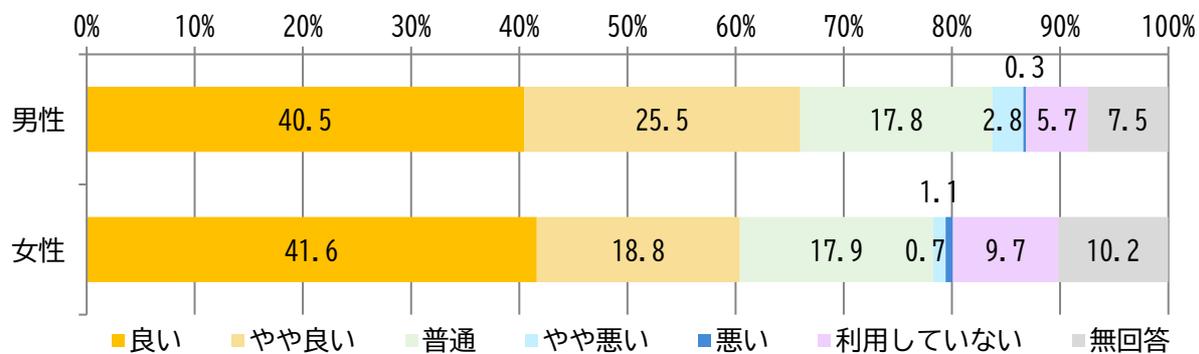
グラフ



■宿泊施設

男女ともに「良い」「やや良い」が6割程度。30代以下は「良い」「やや良い」をあわせて約7割。60代以降は高評価の割合が減少する。

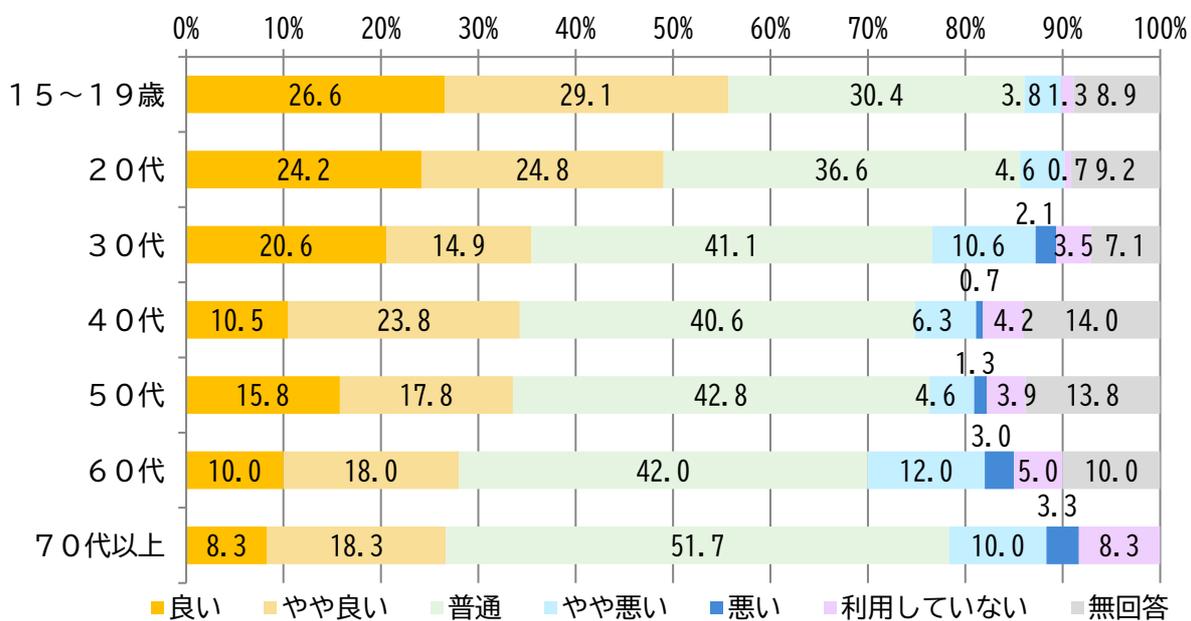
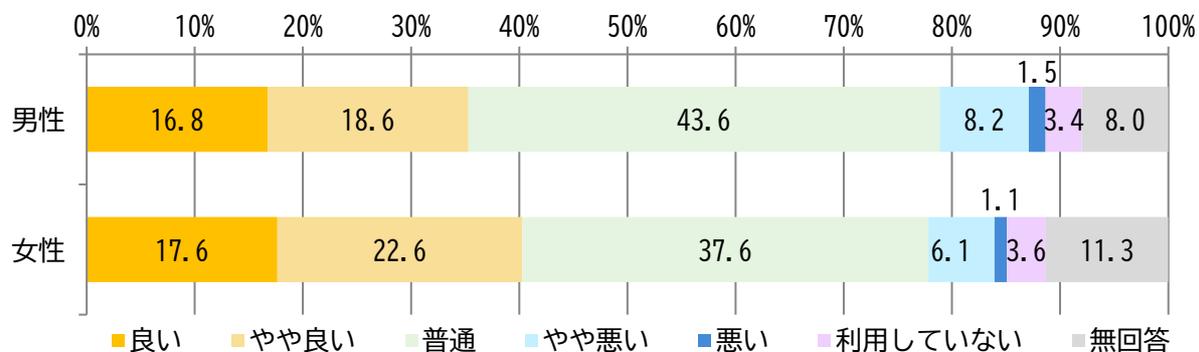
グラフ



■観光情報のわかりやすさ

男性 43.6%、女性 37.6%と、男女ともに「普通」が最も多い。どの年代も「普通」が中心で、特に 30 代以降は4割以上。年齢が上がるほど「良い」よりも「普通」が増える。

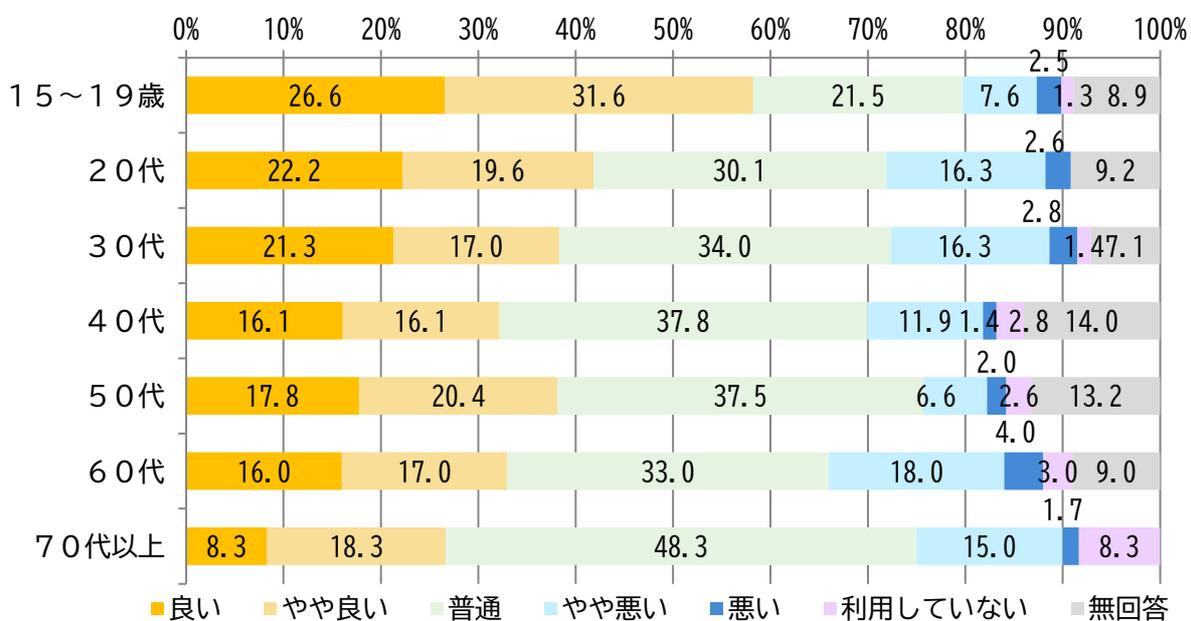
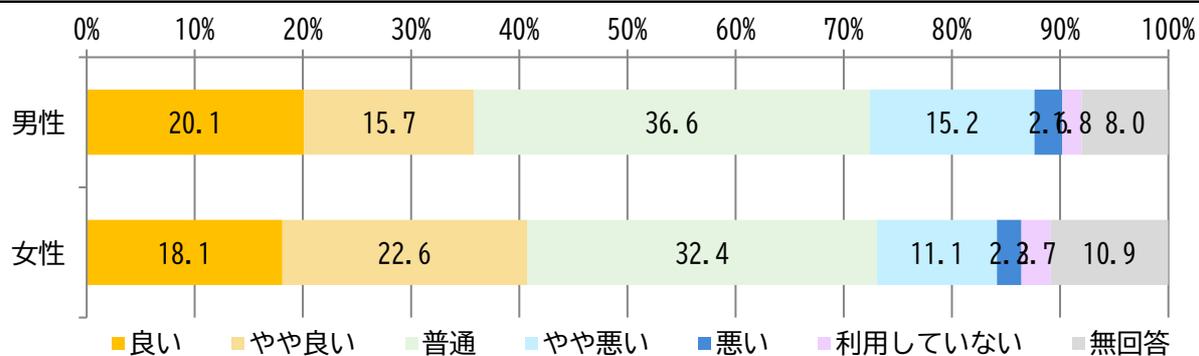
グラフ



■交通手段やアクセスのよさ

男性 36.6%、女性 32.4%と男女ともに「普通」が最多。15～19 歳は「良い」「やや良い」をあわせて 58.2%と半数以上が評価しているが、20 代以上は各年代で高評価の割合が半数以下となっている。特に 60 代では、「やや悪い」「悪い」の割合が 22.0%となっている。

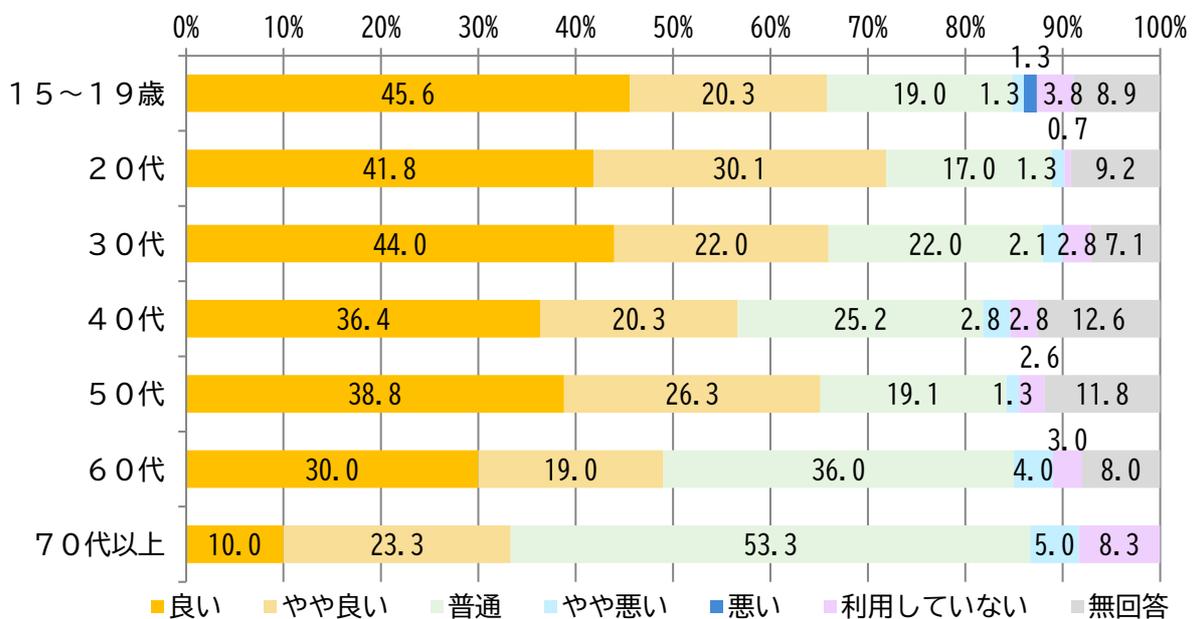
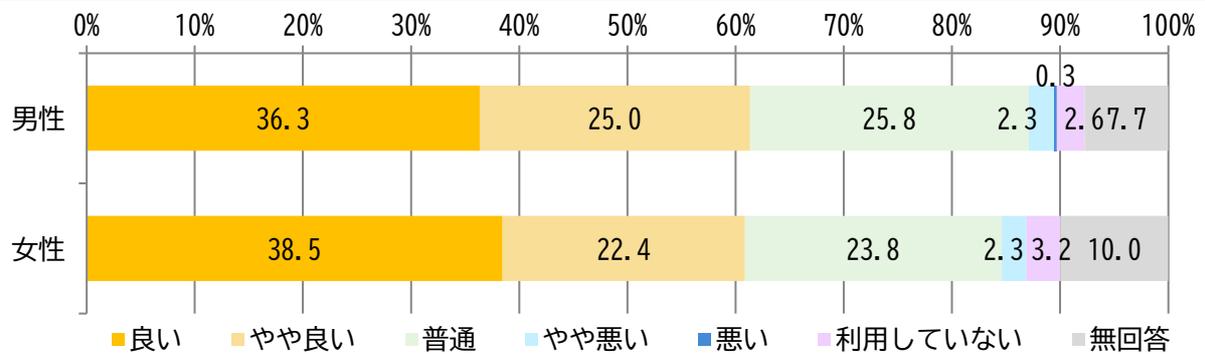
グラフ



■接客やおもてなし

「良い」「やや良い」をあわせて男性、女性ともに60%程度。15～19歳は65.9%、20代は71.9%と今回のデータでは最も高い。また、60代は「普通」が36.0%、70代以上は53.3%と「普通」の割合が大きくなる。

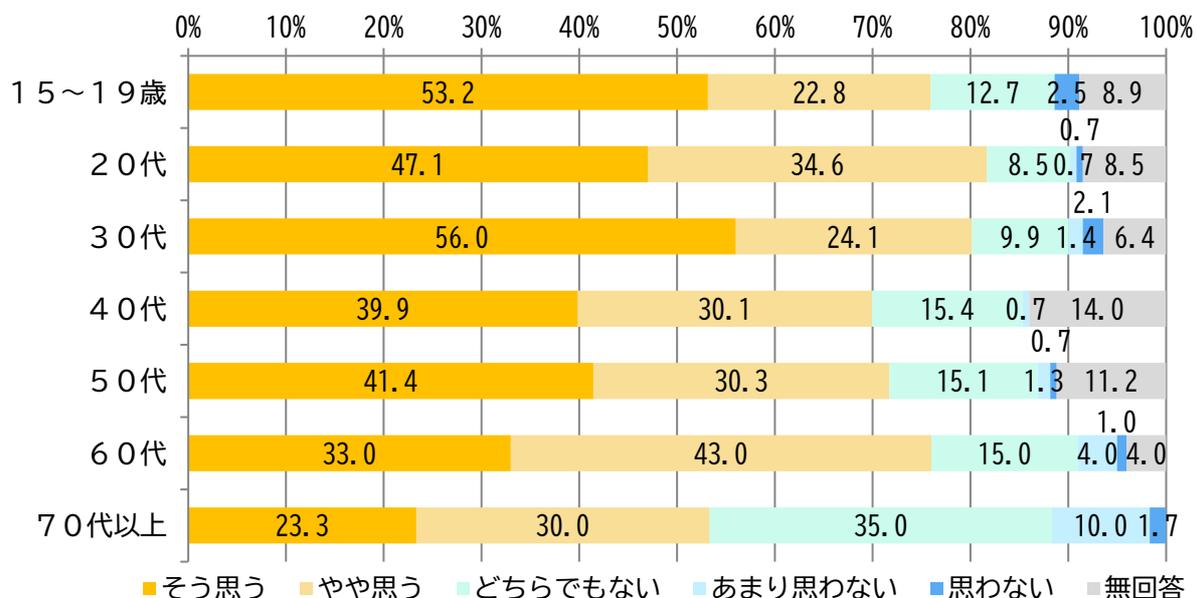
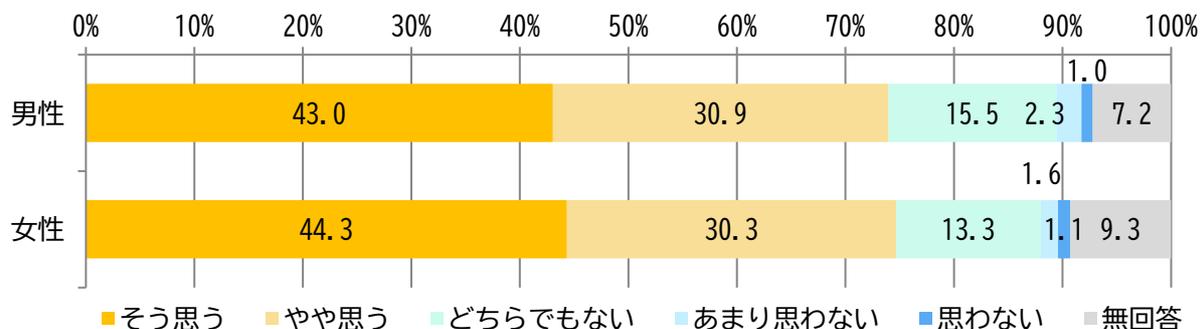
グラフ



設問 10	ご自身はまた洲本市に来たいと思いますか。		
回答数(n)	839	回答方式	SA

「そう思う」「やや思う」をあわせて、男性 73.9%、女性 74.6%と男女ともに 7 割を超える方が再来訪意向を示している。30 代以下は 8 割前後、40 代以上は 7 割前後の再来訪意向となっている。70 代以上は「どちらでもない」が最多。

グラフ



■まとめ

本報告書で実施した観光ニーズ調査(WEB・留め置き調査:計 839 件)は、洲本市および淡路島を訪れる来訪者像や旅行行動、満足度、課題認識、今後求められる観光地の方向性を多角的に把握するものであった。全体を通じて、洲本市は「ファミリー層を中心に繰り返し訪れられる観光地」であり、「温泉・景観・食」を軸とした滞在ニーズが高い一方、**交通アクセスの不便さや市街地のにぎわい不足、情報提供の弱さが課題として浮き彫りになった。**

1. 来訪者像と旅行行動の特徴

来訪者の性別・年代は幅広いが、特に「家族旅行」の比率が高く(約 71%)、洲本市はファミリー層に強い支持を得ている。また、若年層から高齢層まで幅広く来訪がみられるが、**年代が上がるほどリピーター割合が増える傾向が確認でき、定期的に訪れられる「安定した観光地」としての性質を持っている。**

交通手段は自家用車が約 80%と圧倒的多数で、公共交通利用は年代によって偏りがある。若年層はバス利用、30~40 代はレンタカー利用、60 代以上では観光バスの利用も見られ、ライフステージによって利用手段が変化している。これは、**自家用車依存が極めて高い一方で、公共交通の利便性が十分ではない**という構造を示唆している。

訪問先としては「道の駅あわじ」「道の駅うずしお」「洲本温泉」「あわじ花さじき」など、島内の主要観光地が広く支持を集めている。特に洲本温泉は高齢層での利用率が高く、「滞在型観光の核」として重要な役割を担っている。一方、若年層ではニジゲンノモリや ONOKORO など体験型施設が選ばれ、年代間で楽しみ方に多様性がみられた。

2. 情報収集と旅行動機

旅行前の情報収集では、「旅行会社や予約サイト」「市や観光協会の HP」「口コミ・SNS」が上位を占める。年代別では、若年層が SNS・口コミに強く依存し、中高年層は公式サイトや紙媒体の利用が目立った。これは、来訪者への情報提供において、**デジタルとアナログ両面の発信強化が不可欠**であることを示している。

さらに、淡路島旅行を選ぶ決め手となった情報源では、若年層が SNS の影響を強く受ける一方、40 代以上では「友人・知人の紹介」や「旅行会社・公式 HP」が決め手として挙げられた。特に 60 代以上では公式情報の信頼性が重視される傾向があり、年代に応じた情報戦略が必要である。

また、洲本市観光アプリ「スモツー」は認知・利用ともに低く、**デジタルツールの普及が十分に進んでいない**現状が明らかとなった。

3. 中心市街地での評価・課題

中心市街地の滞在評価では、「自然景観」「食事」「宿泊」「接客」などの項目で概ね良好な評価を得た。一方、「交通手段・アクセス」「観光情報のわかりやすさ」では「普通」評価が最も多く、強い満足に結びついていない。

不便・期待外れとして挙げられた項目では、

- 市街地のにぎわい不足(21%)
- 交通アクセスの不便さ(19%)

- **情報提供のわかりにくさ(15%)**

が課題として大きく、年代を問わず共通の問題意識となっている。また、若年層からは「若者向けコンテンツ不足」、高齢層からは「歩行環境や案内の不足」も指摘され、幅広い来訪者に対応する観光地としての改善余地が大きい。

自由記述においても、交通(特に自家用車前提の不便さ)や橋の料金、道路環境に関する不満が多く見られた。飲食・宿泊・土産物に関する価格の高さや、店舗数・営業時間の不足に対する指摘も多く、**観光地全体の利便性向上**が強く求められている。

4. 今後求められる観光地域づくりの方向性

来訪者のニーズを踏まえると、今後は以下の方向性が重要となる。

(1)滞在価値の向上

「落ち着いて食事できるレストラン」「軽食を楽しめるカフェ」へのニーズが高く、飲食機能の拡充は最優先課題である。また、「休憩スポット・遊歩道」「地元特産品の複合ショップ」など、**街歩きを楽しむための環境整備**も求められている。

(2)情報発信力の強化

年代に応じて求める媒体が異なるため、

- SNS・口コミを重視した若年層向け広報
- 公式 HP や紙媒体の充実による中高年層向け発信
- デジタルツール(アプリ)の活性化が必要である。

(3)公共交通・移動手段の改善

自家用車依存が極めて高い現状を踏まえ、

- バス本数の見直し
- シェアサイクルの拡充
- 高齢者や免許返納者向け移動手段の検討など、**持続性の高いアクセス改善策**が求められる。

(4)市街地のにぎわい創出

飲食・物販・体験施設の多様化や、歴史的建物の利活用、イベント開催など、**中心市街地の回遊促進とにぎわいづくり**が重要である。

5. 総括

本調査により、洲本市は温泉・自然・食といった魅力を背景に、幅広い世代から高い満足を得ていることが確認できた。一方で、情報発信力、交通環境、市街地のにぎわいといった基盤整備の不足が、さらなる満足度の向上を妨げている。今後は、来訪者の行動特性を踏まえたターゲット別戦略を展開し、「滞在価値の向上」「回遊性の向上」「交通利便性の改善」「多様なニーズに応える受入れ体制」の4つを軸に施策を進めることで、洲本市の観光地域としての競争力を一層高めることができると考えられる。

(2) 非来訪者アンケート

WEB 調査により、非来訪者調査を実施した。

実施期間	WEB 調査:令和 7 年 12 月 10 日~12 月 15 日
実施方法	○WEB 調査 以下の条件を設定し、各対象で 30 件ずつ回収する形で WEB 調査を実施。 (回収数:420 件=30 票×7 年代×2 性別) 年代:20 歳未満、20 歳代、30 歳代 40 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳代 性別:男性、女性
回収数	420 件

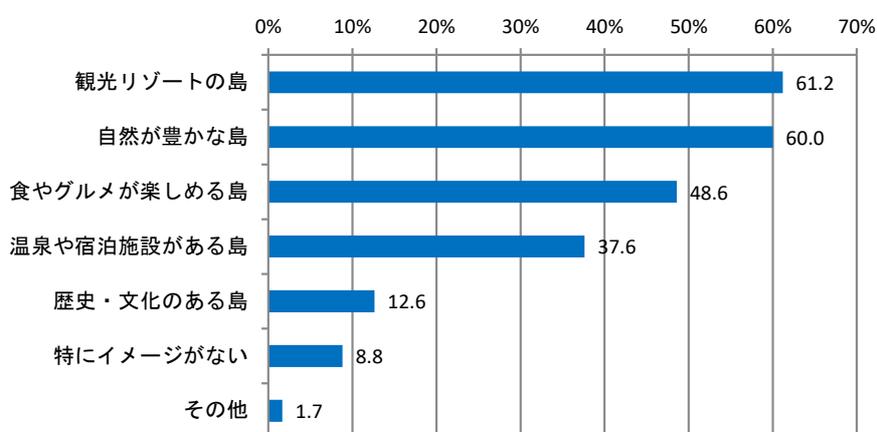
本調査は、洲本市に訪れたことはないが、洲本市のことを知っている男女 420 名が回答した。

回答者の年齢は、15-19 歳、20 代、30 代、40 代、50 代、60 代、70 代以上に区分し、それぞれ男女 30 名ずつの回答となっている。なお、15-19 歳の男性のみ 27 名、20 代の男性のみ 33 名となっている。

回答者の住まいは、滋賀県 19 名、京都府 57 名、大阪府 155 名、兵庫県 141 名、奈良県 28 名、和歌山県 8 名、徳島県 12 名となっている。

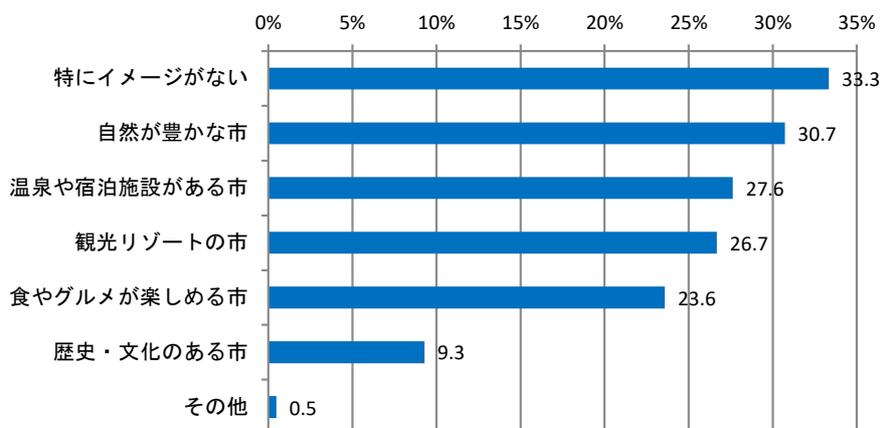
Q1 あなたは、淡路島といえばどのようなイメージがありますか。

「観光リゾートの島」が 61.2%と最も多く、次いで「自然が豊かな島」が 60.0%、「食やグルメが楽しめる島」が 48.6%となっている。



Q2 あなたは、洲本市といえばどのようなイメージがありますか。

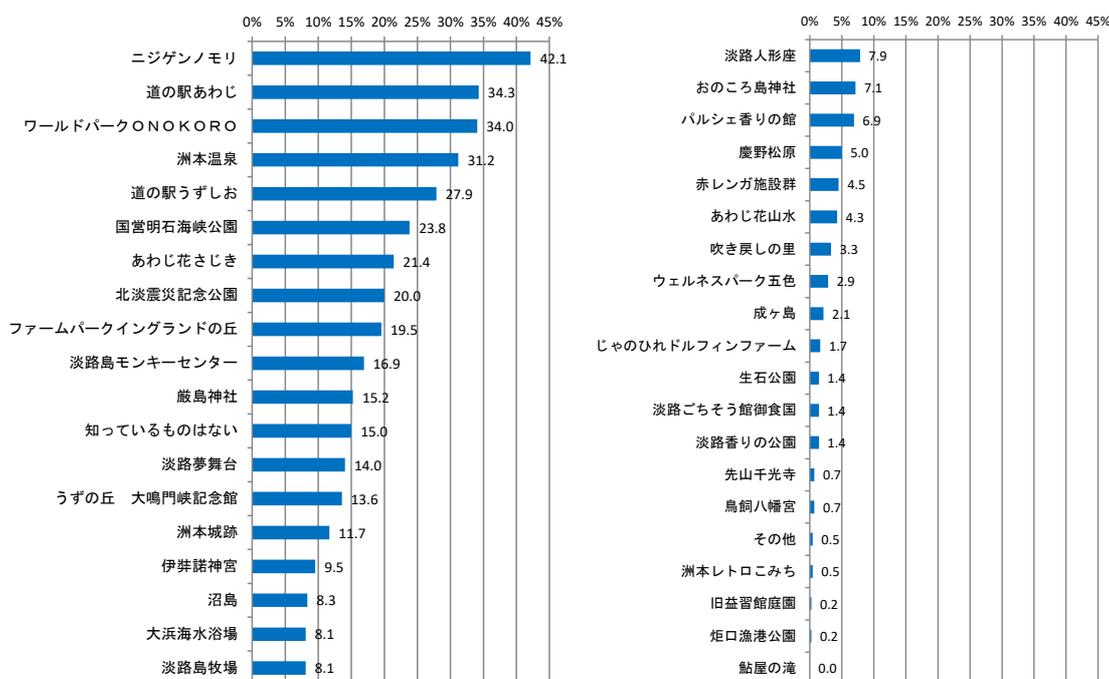
「特にイメージがない」が 33.3%と最も多く、次いで「自然が豊かな市」が 30.7%、「温泉や宿泊施設がある市」が 27.6%、「観光リゾートの市」が 26.7%となっている。



Q3 あなたは、次のうちのどの観光地を知っていますか。(複数回答)

「ニジゲンノモリ」が 42.1%と最も多く、次いで「道の駅あわじ」が 34.3%、「ワールドパークONOKORO」が 34.0%、「洲本温泉」が 31.2%となっている。一方で、「鮎屋の滝」が 0.0%と最も少なく、次いで「炬口漁港公園」と「旧益習館庭園」が 0.2%、「洲本レトロこみち」が 0.5%となっている。

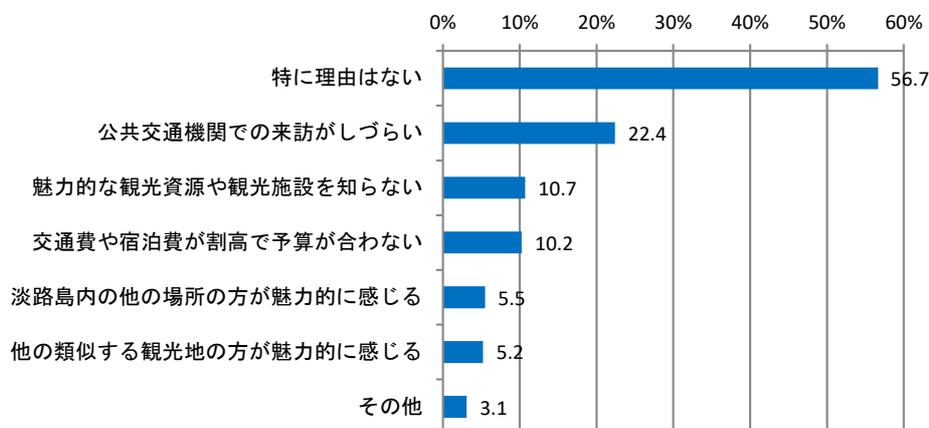
なお、「知っているものはない」は 15.0%となっている。



Q4 あなたがこれまで洲本市を訪れたことがない理由はなんですか。(複数回答)

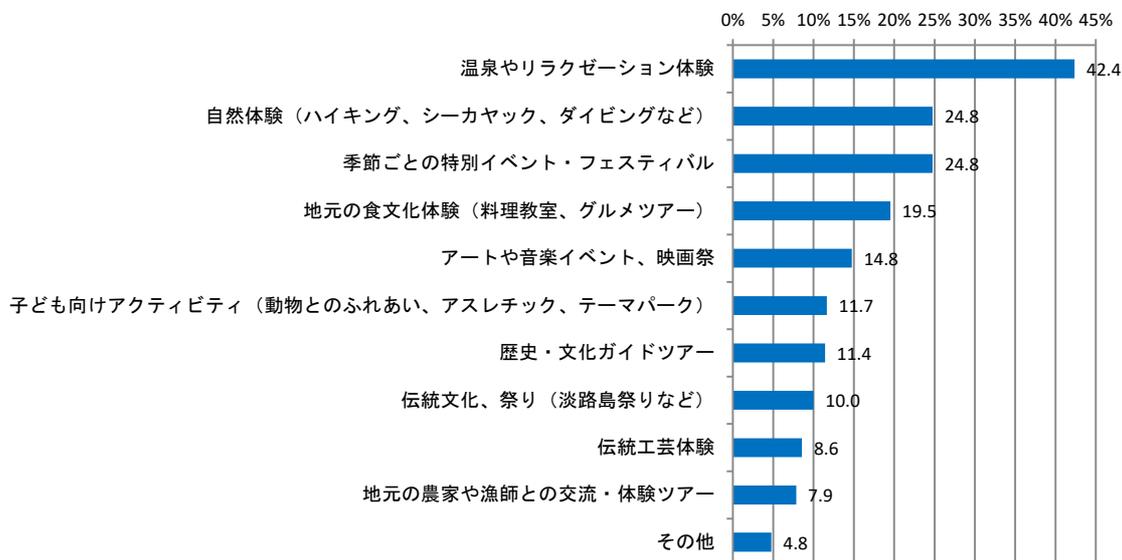
「特に理由はない」が 56.7%と最も多く、次いで「公共交通機関での来訪がしづらい」が 22.4%、「魅力的な観光資源や観光施設を知らない」が 10.7%、「交通費や宿泊費が割高で予算が合わない」が 10.2%となっている。

なお、「その他」では、過去に訪れた経験はあるものの、近年は訪問機会がないという声が多くみられた。



Q5 洲本市にあったらよいと思うコンテンツは何ですか。(複数回答)

「温泉やリラクゼーション体験」が 42.4%と最も多く、次いで「自然体験(ハイキング、シーカヤック、ダイビングなど)」と「季節ごとの特別イベント・フェスティバル」が 24.8%となっている。



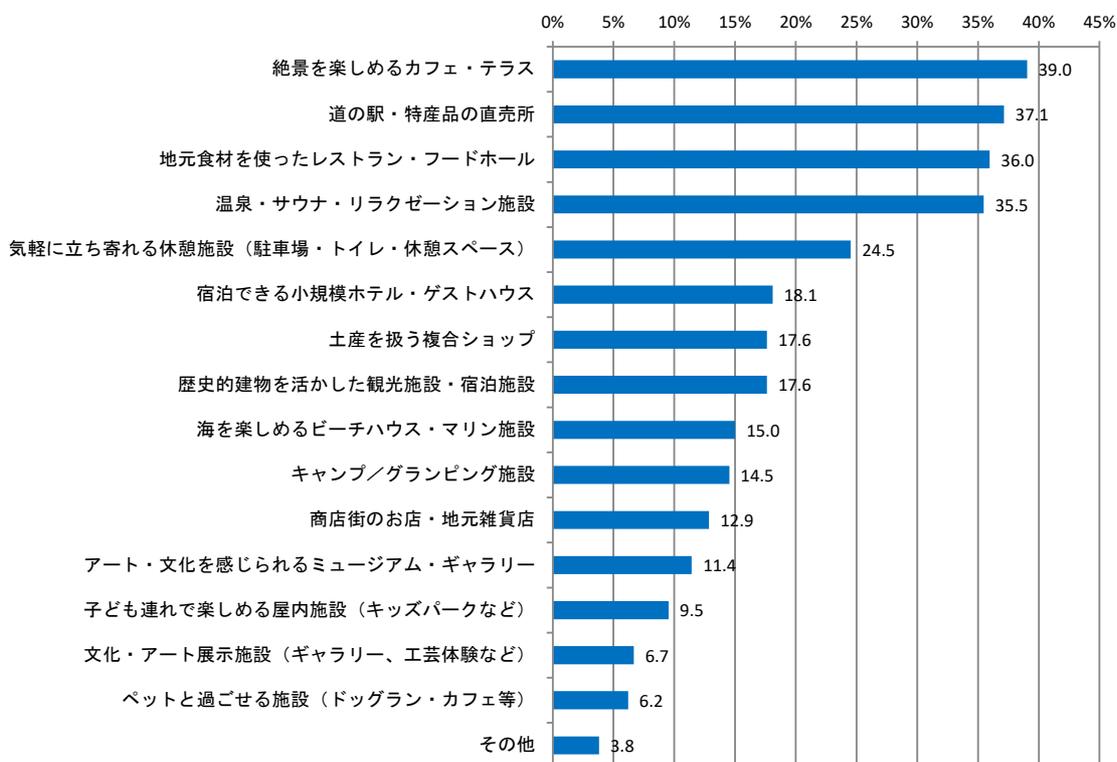
男女別で見ると、男女ともに「温泉やリラクゼーション体験」が最も多いものの、男性に比べ女性が 6.7 ポイント高くなっている。次いで多いのは、男性が「自然体験(ハイキング、シーカヤック、ダイビングなど)」で 29.5%、女性が「季節ごとの特別イベント・フェスティバル」で 27.6%となっている。



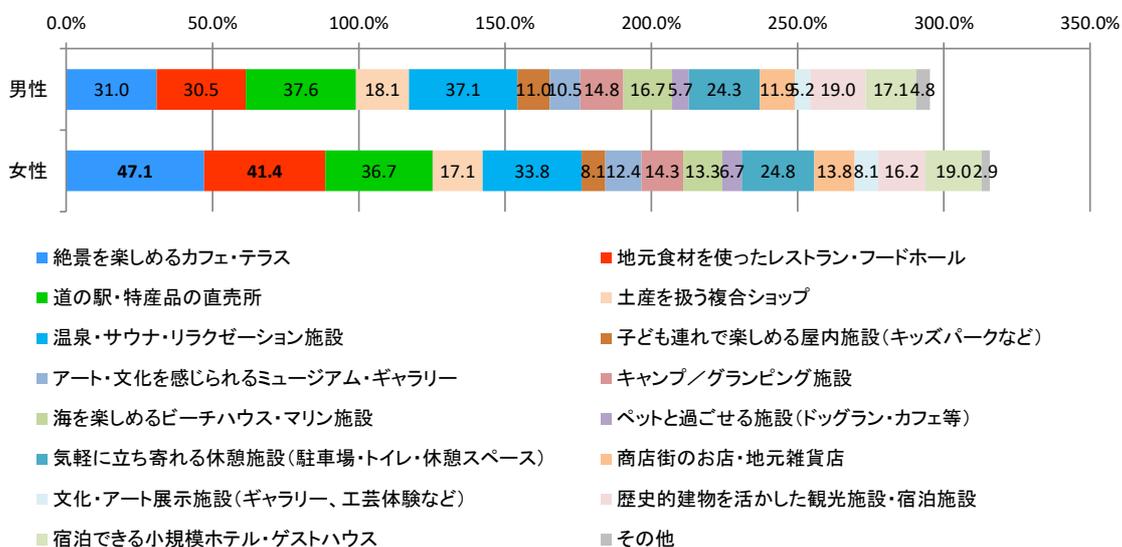
- 自然体験(ハイキング、シーカヤック、ダイビングなど)
- 歴史・文化ガイドツアー
- 伝統工芸体験
- 地元の食文化体験(料理教室、グルメツアー)
- 地元の農家や漁師との交流・体験ツアー
- 温泉やリラクゼーション体験
- 子ども向けアクティビティ(動物とのふれあい、アスレチック、テーマパーク)
- アートや音楽イベント、映画祭
- 伝統文化、祭り(淡路島祭りなど)
- 季節ごとの特別イベント・フェスティバル
- その他

Q6 洲本市にあったらいいと思う“施設”はどれですか。(複数回答)

「絶景を楽しめるカフェ・テラス」が 39.0%と最も多く、次いで「道の駅・特産品の直売所」が 37.1%、「地元食材を使ったレストラン・フードホール」が 36.0%、「温泉・サウナ・リラクゼーション施設」が 35.5%となっている。

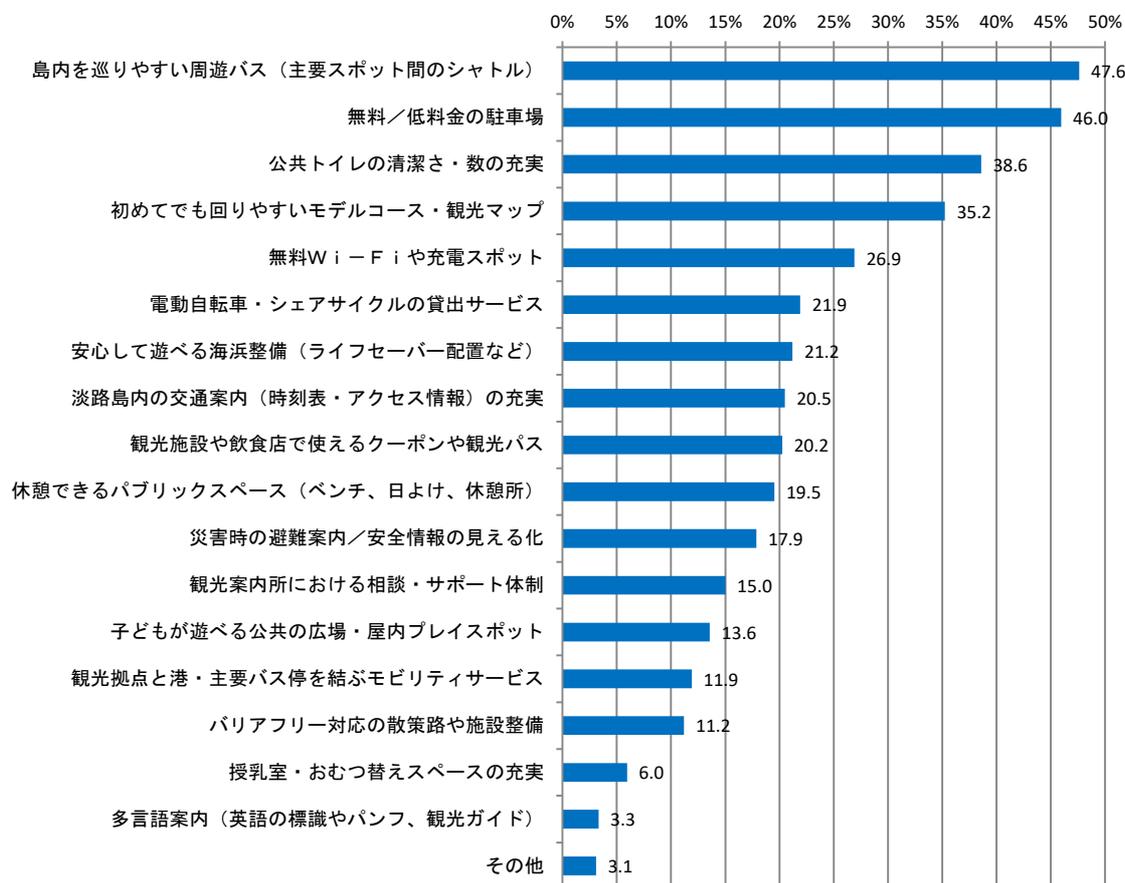


男女別で見ると、女性で「絶景を楽しめるカフェ・テラス」が 47.1%、「地元食材を使ったレストラン・フードホール」が 41.4%と、いずれも 4 割以上となっている。



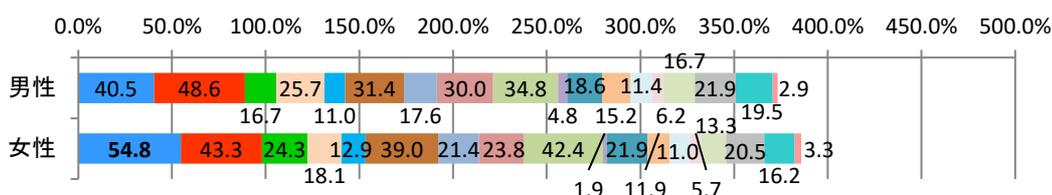
Q7 洲本市にあつたら嬉しいと思う 公共サービス はどれですか。(複数回答)

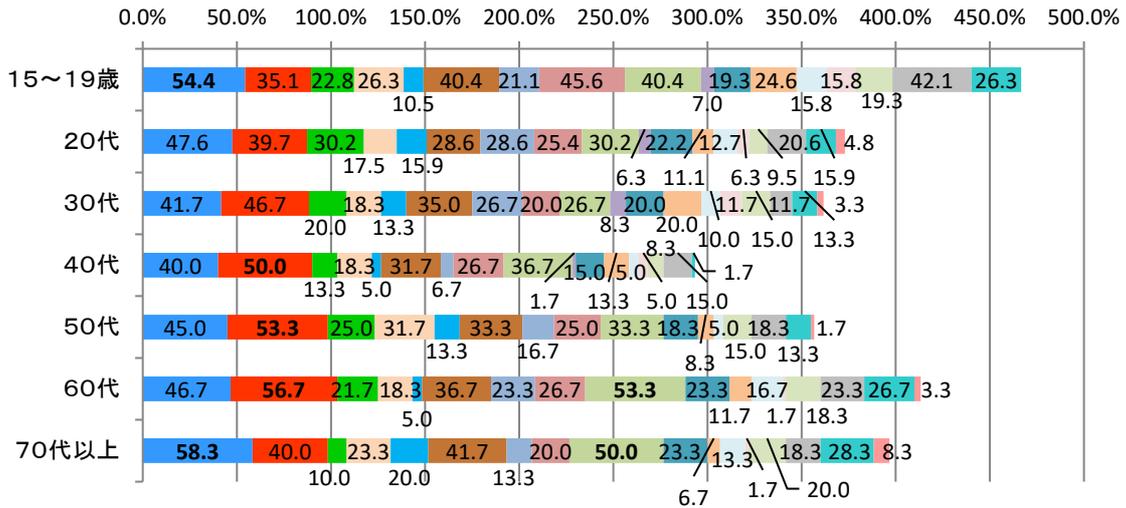
「島内を巡りやすい周遊バス(主要スポット間のシャトル)」が 47.6%と最も多く、次いで「無料／低料金の駐車場」が 46.0%、「公共トイレの清潔さ・数の充実」が 38.6%、「初めてでも回りやすいモデルコース・観光マップ」が 35.2%となっている。



男女別で見ると、女性で「島内を巡りやすい周遊バス(主要スポット間のシャトル)」が 5 割以上となっている。

年齢別で見ると、15～19歳と70代以上で「島内を巡りやすい周遊バス(主要スポット間のシャトル)」が、40～60代で「無料／低料金の駐車場」が、60～70代以上で「公共トイレの清潔さ・数の充実」が 5 割以上となっている。

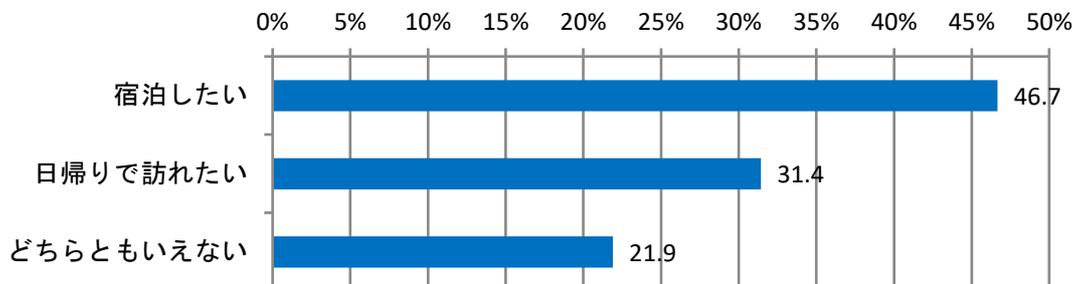




- 島内を巡りやすい周遊バス(主要スポット間のシャトル)
- 無料/低料金の駐車場
- 淡路島内の交通案内(時刻表・アクセス情報)の充実
- 電動自転車・シェアサイクルの貸出サービス
- 観光拠点と港・主要バス停を結ぶモビリティサービス
- 初めてでも回りやすいモデルコース・観光マップ
- 休憩できるパブリックスペース(ベンチ、日よけ、休憩所)
- 無料Wi-Fiや充電スポット
- 公共トイレの清潔さ・数の充実
- 多言語案内(英語の標識やパンフ、観光ガイド)
- 観光施設や飲食店で使えるクーポンや観光パス
- 子どもが遊べる公共の広場・屋内プレイスポット
- バリアフリー対応の散策路や施設整備
- 授乳室・おむつ替えスペースの充実
- 観光案内所における相談・サポート体制
- 安心して遊べる海浜整備(ライフセーバー配置など)
- 災害時の避難案内/安全情報の見える化
- その他

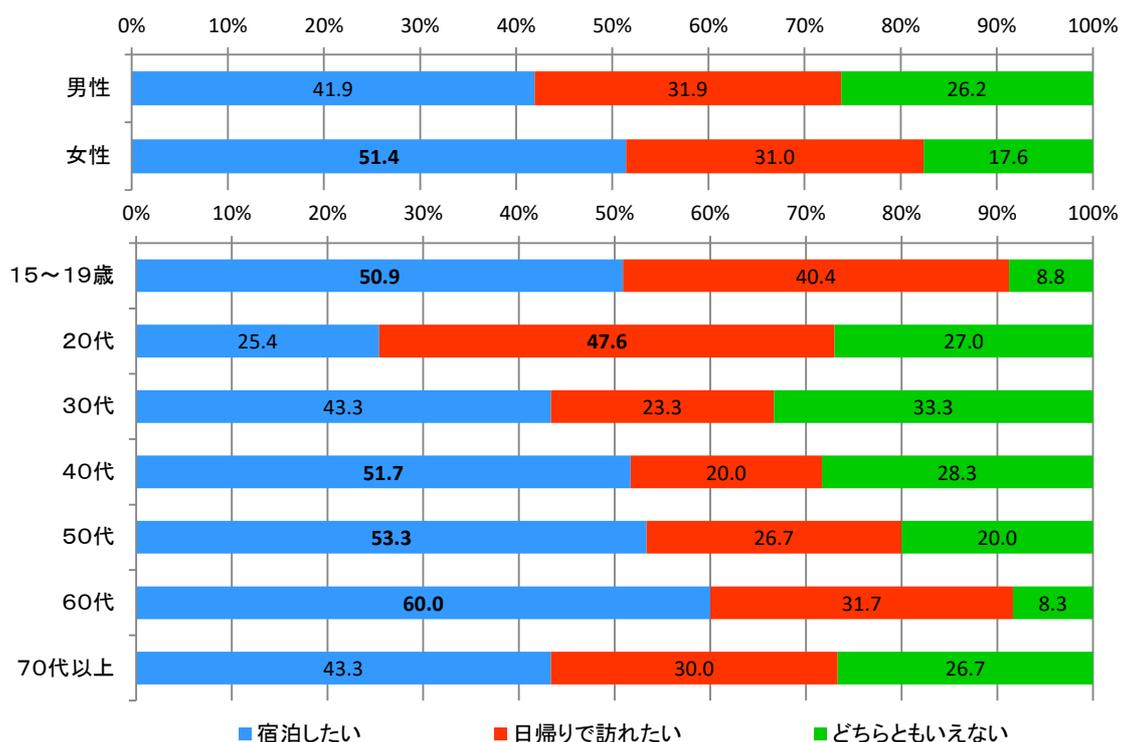
Q8 淡路島を訪れる場合、宿泊したいと思いますか。

「宿泊したい」が 46.7%、「日帰りで訪れたい」が 31.4%、「どちらともいえない」が 21.9%となっている。



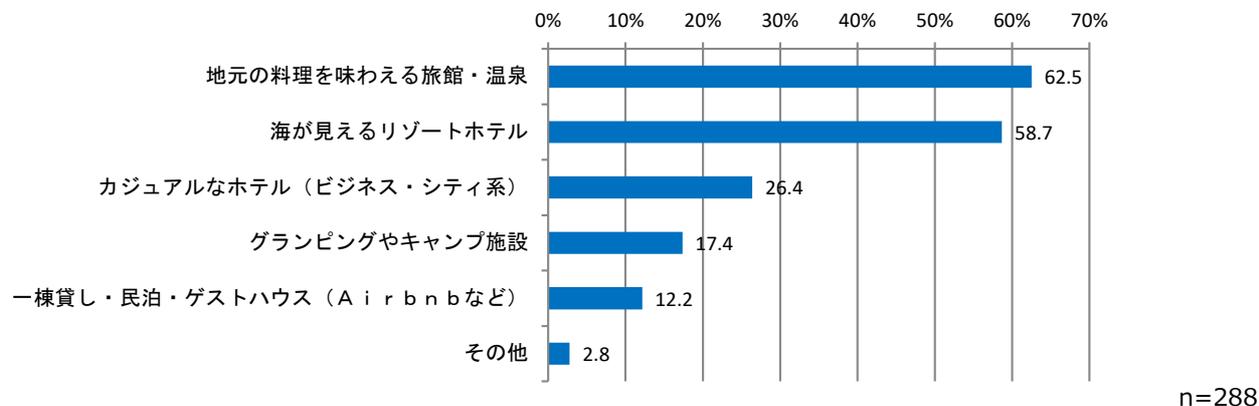
男女別で見ると、女性で「宿泊したい」が 5 割以上となっている。

年齢別で見ると、15～19 歳と 40～60 代で「宿泊したい」が 5 割以上となっており、多くの年代でも「宿泊したい」が最も多くなっている一方、20 代では「日帰りで訪れたい」が最も多くなっている。

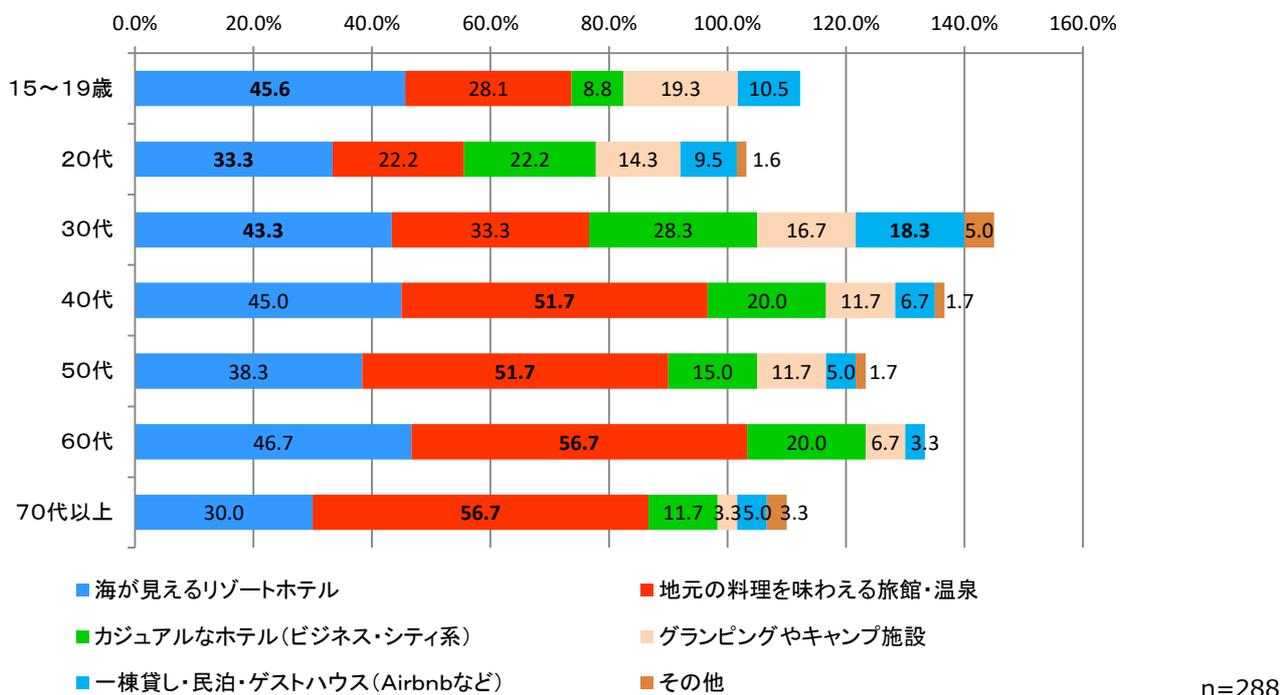


Q9 淡路島で宿泊する場合、どんなタイプの宿に魅力を感じますか。(複数回答)

「地元の料理を味わえる旅館・温泉」が62.5%と最も多く、次いで「海が見えるリゾートホテル」が58.7%、「カジュアルなホテル(ビジネス・シティ系)」が26.4%となっている。

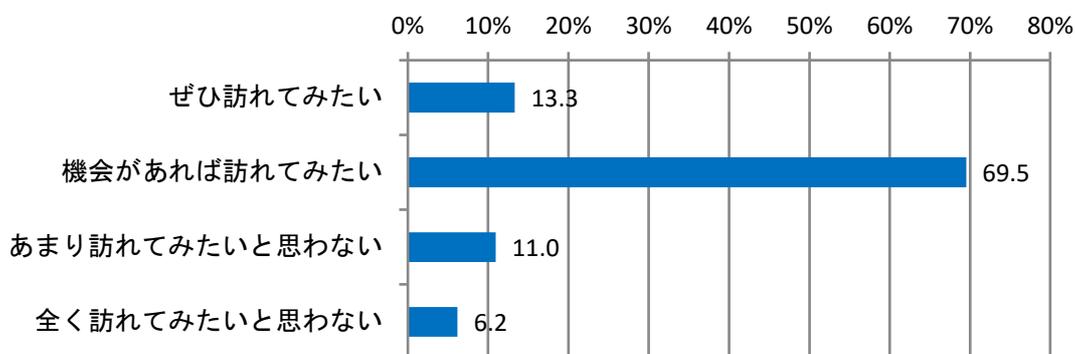


年齢別でみると、30代以下は「海が見えるリゾートホテル」が、40～70代以上は「地元の料理を味わえる旅館・温泉」が最も多くなっている。また、「グランピングやキャンプ施設」は年齢が若い方の回答が多くなっており、「一棟貸し・民泊・ゲストハウス(Airbnbなど)」は30代の回答が最も多くなっている。

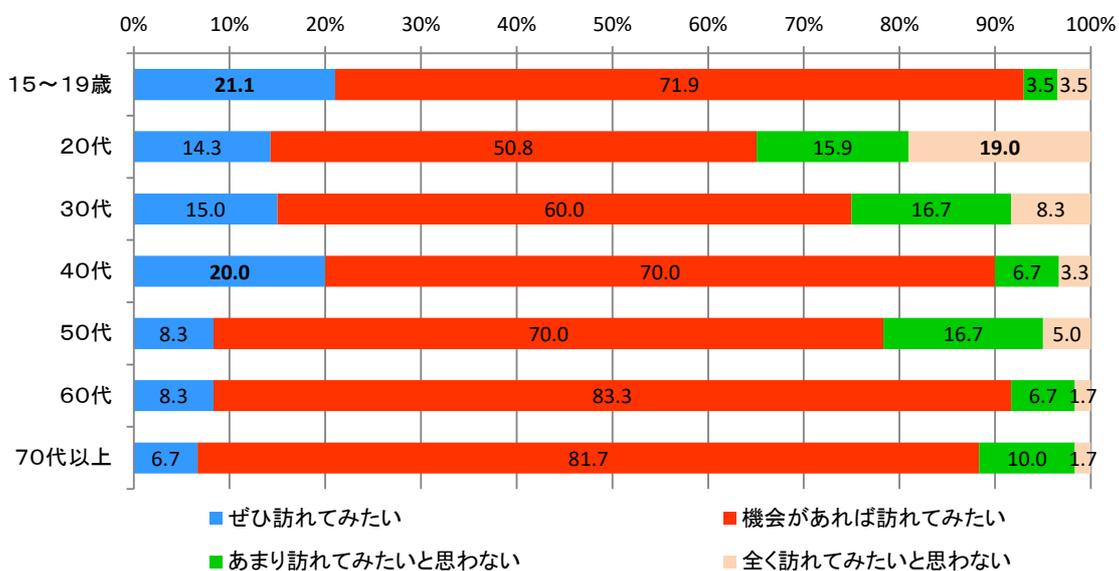


Q10 洲本市を訪れてみたいと思いますか。

「ぜひ訪れてみたい」が 13.3%、「機会があれば訪れてみたい」が 69.5%と、82.8%が訪れたい意向がある一方、「あまり訪れてみたいと思わない」が 11.0%、「全く訪れてみたいと思わない」が 6.2%となっている。



年齢別でみると、15～19歳と40代で「ぜひ訪れてみたい」が2割以上となっている一方、20代では「全く訪れてみたいと思わない」が19.0%と他の年代に比べて高くなっている。



Q11 その他、観光まちづくりに関して期待することなどがあればご記入ください。

- 自然環境や景観を守りながら、静かでゆったり過ごせる観光まちづくり(自然を残してほしい、オーバーツーリズムにならないでほしい、静かでのんびりできる環境、日常を忘れられる時間)
- 温泉資源、景観と一体となった癒しの体験(海が見える温泉、日帰り温泉施設、温泉があること)
- 公共交通機関の利便性向上(電車で行けるようにしてほしい、車がなくても観光できる環境、公共交通で周遊できる仕組み、神戸・大阪からのアクセス向上、レンタカー以外の移動手段)
- 車利用を前提とした観光構造への課題意識(自家用車がないと不便、日帰りツアーの復活を望む声、バス・リムジンバスの充実)
- 高速道路や橋梁の通行料金の高さが来訪の障壁になっている(明石海峡大橋の通行料が高い、料金が下がれば頻りに訪れたい)
- 宿泊料金や物価に対し、庶民でも利用しやすい価格設定(繁忙期の宿泊料が高い、良心的な料金設定、コスパの良さ、物価を抑えてほしい)
- 地元食材や特産品を活かしたグルメ・名物づくりへの期待(淡路産野菜や食材を活かした料理、玉ねぎ料理のPR、新しい名物料理、ご当地グルメの充実)
- わかりやすい情報提供や「定番」の特産品やお土産(どこで食べられるか分からない、名産品が分かる発信、間違いのないお土産)
- 観光情報の発信方法について、SNS やテレビなど多様な媒体を活用すべき(SNS での発信強化、テレビでの紹介、わかりやすいネット情報)
- 観光コンセプトや「洲本市らしさ」を明確にすべき(洲本市イコールのインパクトが必要、淡路島独自の観光地に、他地域と同じでない魅力)
- 歴史・文化資源の保全と活用への期待(洲本城や炬口台場の保全・整備、歴史や文化を大事にしてほしい、昔の淡路島の風情を残す)
- 子どもから高齢者まで楽しめる体験型観光への期待(子どもが体験できる施設、どの年齢でも楽しめる、体験型観光)
- 天候に左右されにくい屋内施設や複合型施設(雨の日でも楽しめる施設)
- ペット同伴観光(ペットと行ける場所を増やしてほしい)
- イベントや期間限定企画が来訪動機になる(季節イベント、有名人を招いた催し、期間限定キャンペーン)
- 観光客の増加による混雑や地域住民への影響の懸念(渋滞緩和、地元の人に迷惑がかからない観光、オーバーツーリズム対策)
- 防災・安全面への配慮(災害時の避難先や避難経路の明示、誰でも安心して利用できる環境)
- 外国人観光客の増加は慎重に(外国人が多すぎない方がよい)
- フリーWi-Fi や多言語表記など、基礎的な受入環境整備(フリーWi-Fi 設置、外国語表記のパンフレット)
- 海・釣り・クルージングなど、淡路島の立地特性を活かした体験型観光に期待(釣り体験、淡路一周クルージング、海水浴・海釣り公園)

■まとめ

本調査は、洲本市における観光イメージや潜在的な訪問意向を把握し、今後の観光施策の立案に役立てることを目的として実施されたものである。来訪経験の有無に応じて対象者を分け、年代・性別ごとに均等にサンプルを収集することで、世代別の意識差やニーズを明らかにする点が特徴である。調査はWEB アンケート方式で行われ、非来訪者(潜在的に洲本市を認知しており、洲本市への観光の潜在可能性がある層)420名が対象となった。

結果として、淡路島全体については「観光リゾート」「自然が豊か」という肯定的なイメージが強い一方、洲本市単体では「特にイメージがない」とする回答が最多であり、情報発信の不足が示唆された。また、認知されている観光地には偏りがあり、一部スポットは認知率が極めて低いことから、資源の周知不足が明確になった。

洲本市を訪れたことがない理由としては「特に理由はない」が半数を超え、次いで公共交通の不便さが挙げられた。裏を返せば、適切な情報提供やアクセス改善により来訪を促せる可能性が高いといえる。

望ましい観光コンテンツとしては「温泉・リラクゼーション体験」が最も高く、施設面でも「絶景を楽しめるカフェ・テラス」や「特産品の直売所」など、景観と地域性を活かした要素が支持された。公共サービス面では「周遊バス」「無料駐車場」「公共トイレの充実」など、移動と利便性向上に対する期待が大きい。

滞在意向については「宿泊したい」が最多であり、特に女性や40～60代で高い傾向がみられた。宿泊タイプの希望では「地元料理を味わえる旅館・温泉」や「海が見えるリゾートホテル」が人気で、自然や食を活かした滞在価値が求められている。

総じて、洲本市は潜在的な訪問意向を十分に有しながら、その魅力が十分に伝わっていない状況にある。今後は、自然・景観・温泉・食といった既存資源を軸に、アクセス改善や情報発信の強化、年代に応じた体験コンテンツの充実を図ることで、来訪促進と満足度向上が期待される。

3. 地域住民向け調査

(1) 地域住民向けアンケート調査

紙媒体での配布および WEB 調査により、洲本市民向けのアンケート調査を実施した。

実施期間	令和 7 年 11 月 8 日～令和 7 年 12 月 12 日
実施方法	<p>○郵送回収による紙媒体でのアンケート調査 中心市街地(本町、山手、栄町、海岸通、塩屋、炬口)の全世帯を対象に、回覧板に封入する形で紙媒体でのアンケート調査票を配布。返信用封筒を同封し、回答いただいた。</p> <p>○WEB アンケート調査 広報すもと令和 7 年 11 月号に「洲本市の観光地域づくりに関するアンケート調査ご協力をお願い」として回答用二次元コードを掲載し、洲本市全域の方に回答いただいた。</p>
回収数	446 件

1 単純集計

1 あなた自身についてお答えください。

1-1	性別																				
回答数(n)	446	回答方式	SA																		
男性 47.3%、女性 49.8%であった。																					
グラフ																					
<table border="1"><thead><tr><th>性別</th><th>割合 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>男性</td><td>47.3</td></tr><tr><td>女性</td><td>49.8</td></tr><tr><td>その他</td><td>0.0</td></tr><tr><td>回答しない</td><td>0.9</td></tr><tr><td>無回答</td><td>2.0</td></tr></tbody></table>				性別	割合 (%)	男性	47.3	女性	49.8	その他	0.0	回答しない	0.9	無回答	2.0						
性別	割合 (%)																				
男性	47.3																				
女性	49.8																				
その他	0.0																				
回答しない	0.9																				
無回答	2.0																				
1-2	年齢																				
回答数(n)	446	回答方式	SA																		
年齢は、70代以上が最も多く 35.0%、次いで 50代が 17.5%、60代が 17.0%、40代が 12.1%、30代が 10.5%、20代が 5.8%、10代が 0.7%であった。																					
グラフ																					
<table border="1"><thead><tr><th>年齢</th><th>割合 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>10代</td><td>0.7</td></tr><tr><td>20代</td><td>5.8</td></tr><tr><td>30代</td><td>10.5</td></tr><tr><td>40代</td><td>12.1</td></tr><tr><td>50代</td><td>17.5</td></tr><tr><td>60代</td><td>17.0</td></tr><tr><td>70代以上</td><td>35.0</td></tr><tr><td>無回答</td><td>1.3</td></tr></tbody></table>				年齢	割合 (%)	10代	0.7	20代	5.8	30代	10.5	40代	12.1	50代	17.5	60代	17.0	70代以上	35.0	無回答	1.3
年齢	割合 (%)																				
10代	0.7																				
20代	5.8																				
30代	10.5																				
40代	12.1																				
50代	17.5																				
60代	17.0																				
70代以上	35.0																				
無回答	1.3																				

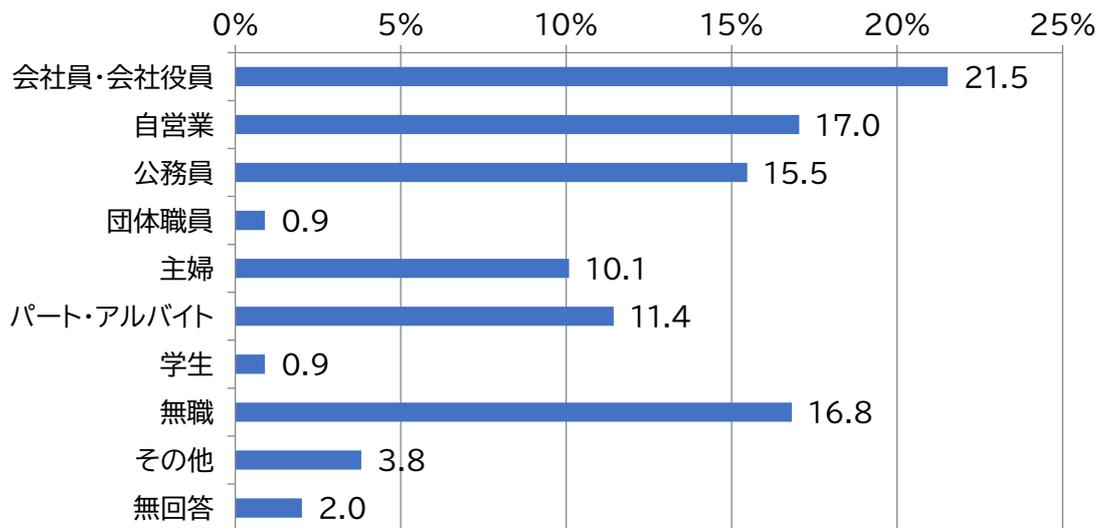
1-3	職業		
回答数(n)	446	回答方式	SA

職業は会社員・会社役員が最も多く、21.5%、次いで自営業が 17.0%、無職が16.8%、公務員が 15.5%、パート・アルバイトが 11.4%、主婦が10.1%、その他 3.8%、無回答2%、学生及び団体職員が 0.9%であった。

その他の回答

ケアマネジャー、団体役員、退職公務員、YouTuber

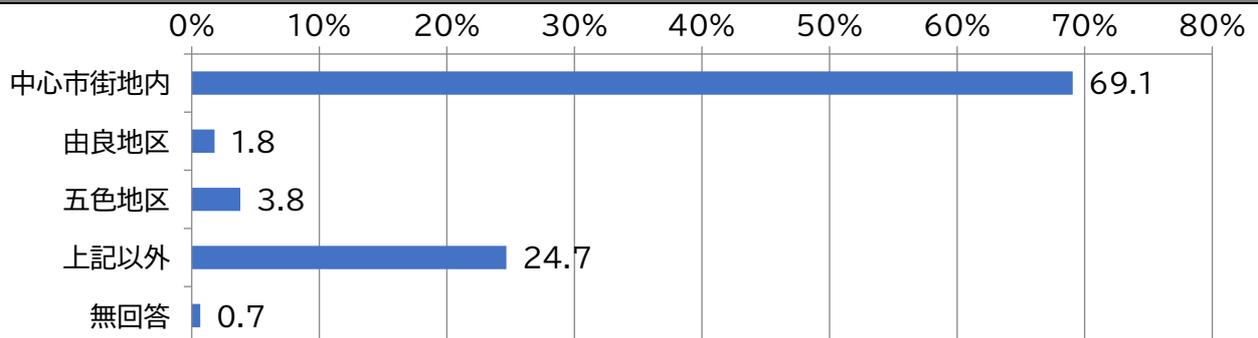
グラフ



1-4	居住地について		
回答数(n)	446	回答方式	SA

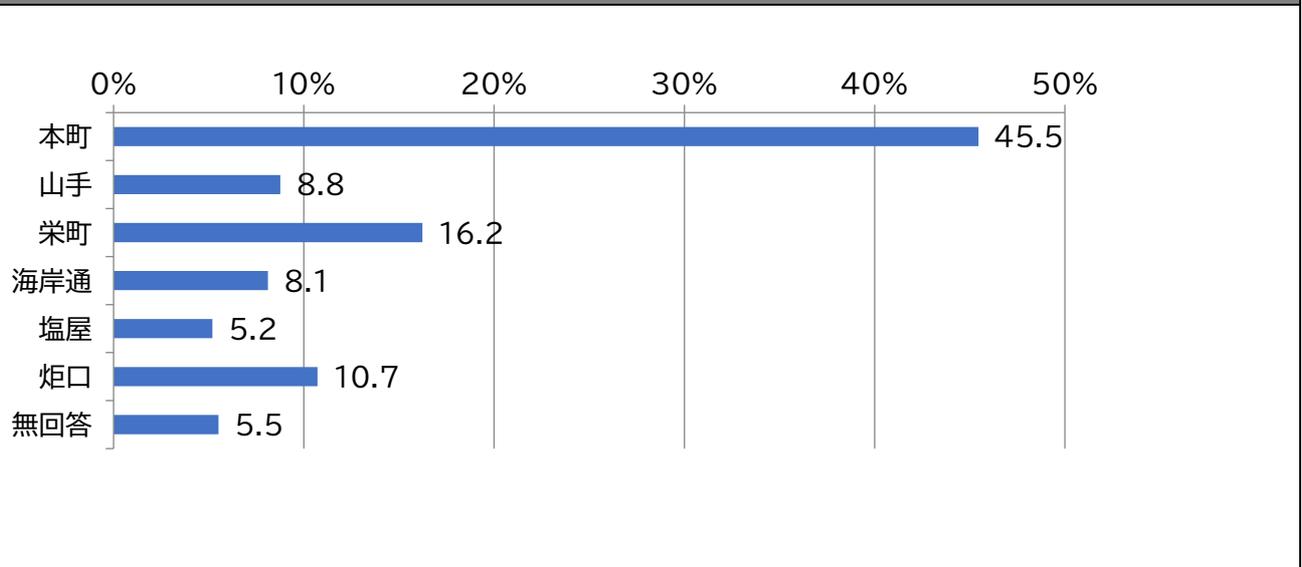
居住地は、中心市街地が最も多く 69.1%、次いで中心市街地・由良地区・五色地区以外が 24.7%、五色地区が 3.8%、由良地区が 1.8%であった。

グラフ



1-5	居住地について(中心市街地内)		
回答数(n)	308	回答方式	SA
中心市街地内の居住地については、本町が最も多く 45.5%、次いで栄町が 16.2%、炬口が 10.7%、山手 8.8%、海岸通 8.1%、塩屋 5.2%となっている。			

グラフ



1-6	居住年数		
回答数(n)	446	回答方式	SA

居住年数については、20年以上が最も多く65.7%、次いで10年以上20年未満が11.4%、1年以上5年未満が11.0%となっている。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	1年未満	11	2.5%
2	1年以上5年未満	49	11.0%
3	5年以上10年未満	41	9.2%
4	10年以上20年未満	51	11.4%
5	20年以上	293	65.7%
無回答・無効		1	0.2%

グラフ



1-7	家族構成																		
回答数(n)	446	回答方式	SA																
<p>家族構成は、夫婦のみが最も多く 32.3%、次いで一人暮らし 27.4%、子育て世帯 18.2%、その他 9.2%、親と同居 8.5%、三世代で同居 3.1%となっている。</p>																			
その他の回答																			
・祖母と同居																			
グラフ																			
<p>A horizontal bar chart illustrating the distribution of family types. The x-axis represents the percentage, ranging from 0% to 35% in 5% increments. The y-axis lists the family types. The bars are blue, and the exact percentage values are labeled at the end of each bar.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>家族構成</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一人暮らし</td> <td>27.4</td> </tr> <tr> <td>夫婦のみ</td> <td>32.3</td> </tr> <tr> <td>子育て世帯</td> <td>18.2</td> </tr> <tr> <td>親と同居</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>三世代で同居</td> <td>3.1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>9.2</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>1.3</td> </tr> </tbody> </table>				家族構成	割合 (%)	一人暮らし	27.4	夫婦のみ	32.3	子育て世帯	18.2	親と同居	8.5	三世代で同居	3.1	その他	9.2	無回答	1.3
家族構成	割合 (%)																		
一人暮らし	27.4																		
夫婦のみ	32.3																		
子育て世帯	18.2																		
親と同居	8.5																		
三世代で同居	3.1																		
その他	9.2																		
無回答	1.3																		

2 洲本市の観光や地域資源についてお答えください。

問1	洲本市の観光の取組について、あなたの満足度を1つ選び、その理由を教えてください。																
回答数(n)	446	回答方式	SA														
満足度は、どちらともいえないが 49.6%と約半数で最も多く、次いで不満が 25.6%、満足が 11.7%、大変不満が 11.0%、大変満足が 0.2%であった。																	
選択肢		回答数(票)	回答率(%)														
1	大変満足	1	0.2%														
2	満足	52	11.7%														
3	どちらともいえない	221	49.6%														
4	不満	114	25.6%														
5	大変不満	49	11.0%														
6	無回答	9	2.0%														
グラフ																	
<p>A horizontal bar chart illustrating the distribution of satisfaction levels. The x-axis represents the percentage of respondents, ranging from 0% to 60% in 10% increments. The y-axis lists the satisfaction levels. The bars are blue, and the exact percentage values are labeled at the end of each bar.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>回答率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大変満足</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>満足</td> <td>11.7</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない</td> <td>49.6</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>25.6</td> </tr> <tr> <td>大変不満</td> <td>11.0</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>2.0</td> </tr> </tbody> </table>				満足度	回答率(%)	大変満足	0.2	満足	11.7	どちらともいえない	49.6	不満	25.6	大変不満	11.0	無回答	2.0
満足度	回答率(%)																
大変満足	0.2																
満足	11.7																
どちらともいえない	49.6																
不満	25.6																
大変不満	11.0																
無回答	2.0																

理由回答	<p>【① 肯定的意見(ポジティブな評価)】</p> <p>海が美しい。</p> <p>海が目前に広がり、かつ温泉もあるので、ゆっくりとした時間を過ごすことが出来る。</p> <p>自然。</p> <p>海、山、緑と自然が近く食もおいしい。</p> <p>環境が良い(静かである)。</p> <p>大きな災害がない。</p> <p>海あり山あり景色がきれい。町内がいつもきれい。</p> <p>歴史、文化、自然。</p> <p>観光スポットが増えてきたから。</p> <p>2025年11月花火大会～OK。</p> <p>イベントは沢山あり、沢山の地元客、観光客を呼ぶ事は出来ている。</p> <p>淡路島まつりなど、観光については力を入れていると感じる。</p> <p>地域のイベントなどで市外島外からの観光客も増えてきていると感じる。</p> <p>弁天祭りや淡路島祭りがあること。</p> <p>ちょうど良い賑やかさ。</p> <p>オーバーツーリズム状態にならず、保養できる温泉もあり、飲食にも困らない。</p> <p>自然に関する観光取組は良いと思う。</p> <p>シェアサイクル(スモクル)や夜間シャトルバスなど、お店や観光スポットに立ち寄りやすくなる取組がある。</p> <p>無料バスがとてもいい。</p> <p>【② 観光資源・観光スポットの少なさ】</p> <p>洲本市に来て周遊する所が少なく、すぐに他の市に行ってしまう。</p> <p>魅力ある観光施設がない。</p> <p>もっと利用出来る遊び場、入浴施設、海釣り公園など出来るのでは。</p> <p>洲本の観光イコール温泉になってしまっているように思う。</p> <p>夏場以外、見る所がない。観光する所が少ない。</p> <p>名所がわかりにくい。</p> <p>観光する所があまり無い。発展性に欠ける。</p> <p>リピート率の向上が望めない。</p> <p>半日過ごせる施設が無い。</p> <p>【③ PR 不足・情報発信不足】</p> <p>取組を地元住民が知らないケースが多い。</p> <p>何をどうやっているのかわからない。</p> <p>PRが出来ていない。</p> <p>洲本市のHPが更新されておらず、検索しづらい。</p>
------	--

ドラクエ関連を活かせていない。
情報提供が一方的で継続性がない。
発信不足。
色々取り組んでいるが反映されていない。
SNS 発信が弱く、魅力が伝わっていない。

【④ 市街地のにぎわい不足・空き店舗】

商店街の活性化、人通りを増やしてほしい。
商業地や住宅地ににぎわいが無い。有効活用できていない。
レトロこみちも営業していない店舗が多い。
若い人がチャレンジできる空き店舗活用策が必要。
市街地に空き家が増え、楽しさが少ない。

【⑤ 子ども・若者向け／遊べる場所・雨の日コンテンツの不足】

地元民が気楽に遊べる所が少ない(子ども)。
子どもの遊べるスポットが少ない。
公園が少ない、遊具が少ない。
雨の日に行く所がない。
魚釣り公園などがあれば良い。
三熊山のアスレチックを復活してほしい。
屋内体験型施設が不足している。

【⑥ 他市(淡路市・南あわじ市)との比較での遅れ】

淡路市に比べて差がつく。
南あわじ・淡路市より PR が弱い。
北と南に負けている感がある。
洲本の魅力が検索しても出てこない。
淡路市は華やかな施設が次々建ち、洲本市は少ない。

【⑦ 観光と市民生活の距離(恩恵の偏り)】

観光の恩恵は一部市民しか得ていない。
観光費用が市民生活に反映されていない。
特定の人にメリットが偏っている。
観光が日常生活に直結しない。
住民として満足度は特にない。

【⑧ その他】

中途半端で PR も弱い。

市政が新しいことをしない、「出来ない理由」ばかりという印象。
観光組合に偏っている。
マーケティングが十分に行われていない。
公園・観光資源の管理ができていない。
調整不足を感じる(例:花火大会の駐車場)。
場当たりの見える。
方向性がわからない。

問2-1 洲本市の観光で、特に魅力を感じる資源は何ですか？以下の選択肢から1～3位まで選び、番号を記入してください。(1位)

回答数(n) 446 回答方式 SA

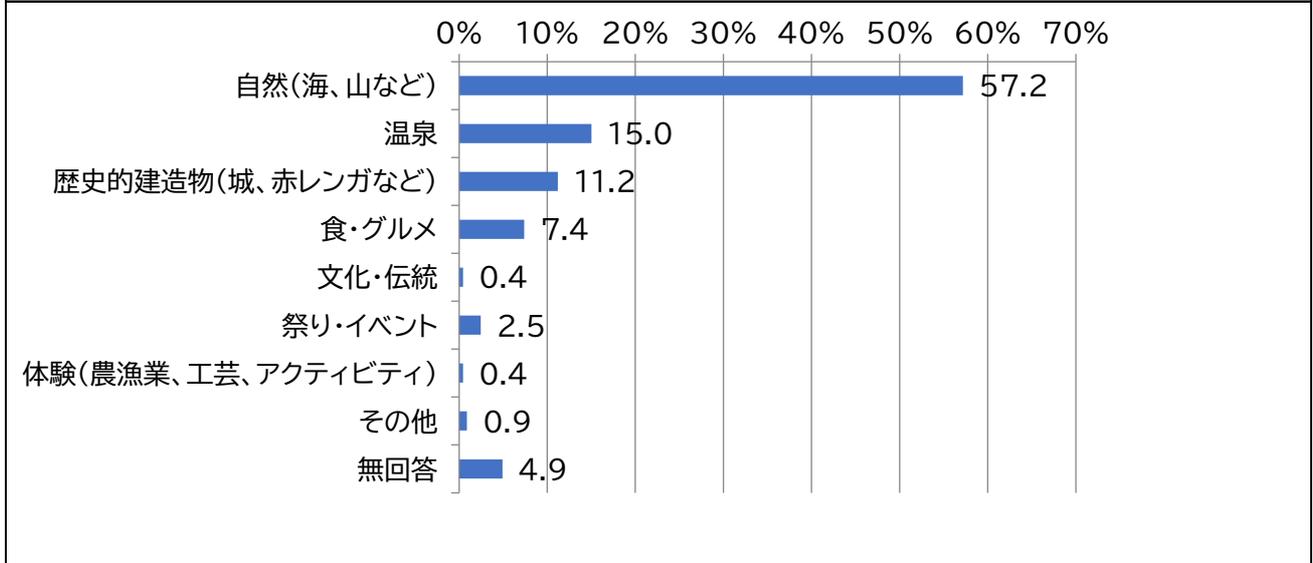
1位として、最も多かったのは、自然(海、山など)で半数以上の57.2%、ついで温泉15.0%、歴史的建造物(城、赤レンガなど)11.2%、食・グルメ7.4%、祭り・イベント2.5%、文化伝統及び体験が0.4%であった。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	自然(海、山など)	255	57.2%
2	温泉	67	15.0%
3	歴史的建造物(城、赤レンガなど)	50	11.2%
4	食・グルメ	33	7.4%
5	文化・伝統	2	0.4%
6	祭り・イベント	11	2.5%
7	体験(農漁業、工芸、アクティビティ)	2	0.4%
8	その他	4	0.9%
9	無回答	22	4.9%

その他の回答

- ドラクエ
- 淡路島の中心(真ん中)であり、城下町であること

グラフ



問2-2 洲本市の観光で、特に魅力を感じる資源は何ですか？以下の選択肢から1～3位まで選び、番号を記入してください。(2位)

回答数(n) 446 回答方式 SA

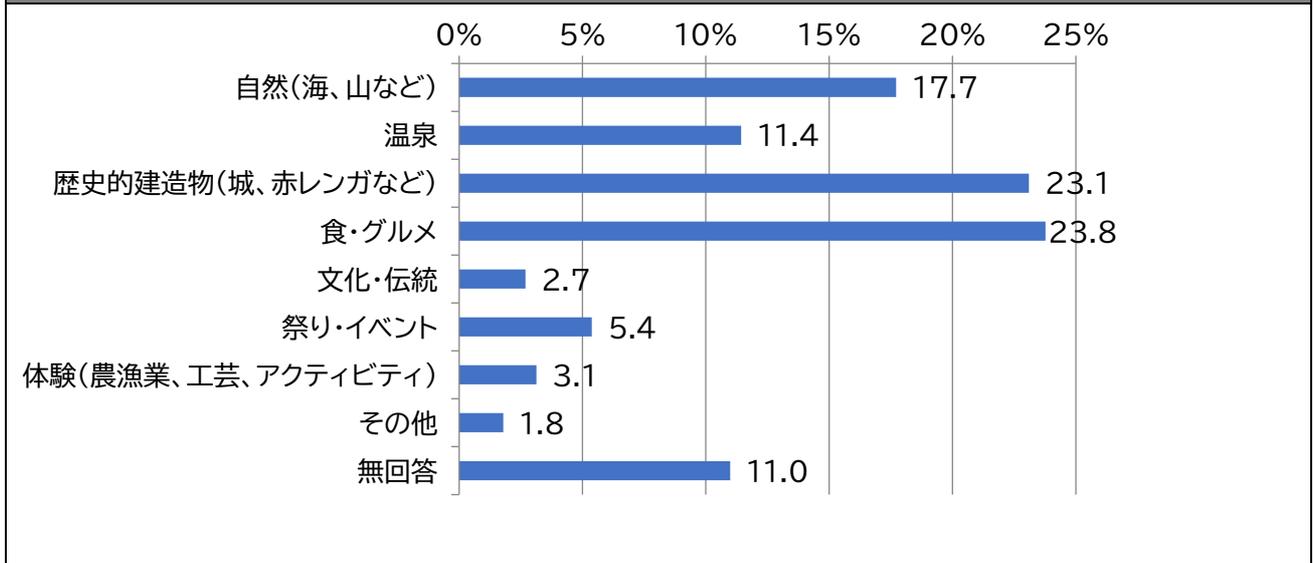
2位として、最も多かったのは食・グルメ 23.8%、歴史的建造物 23.1%、自然 17.7%、温泉 11.4%、祭り・イベント 5.4%、体験 3.1%、文化伝統 2.7%であった。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	自然(海、山など)	79	17.7%
2	温泉	51	11.4%
3	歴史的建造物(城、赤レンガなど)	103	23.1%
4	食・グルメ	106	23.8%
5	文化・伝統	12	2.7%
6	祭り・イベント	24	5.4%
7	体験(農漁業、工芸、アクティビティ)	14	3.1%
8	その他	8	1.8%
9	無回答	49	11.0%

その他の回答

- 観光
- 気候、魚
- 歴史的建造物といって建物に着目するよりは、歴史的資産(城跡一帯、生石一帯、千山一帯)ではないかと思う。

グラフ



問2-3 洲本市の観光で、特に魅力を感じる資源は何ですか？以下の選択肢から1～3位まで選び、番号を記入してください。(3位)

回答数(n) 446 回答方式 SA

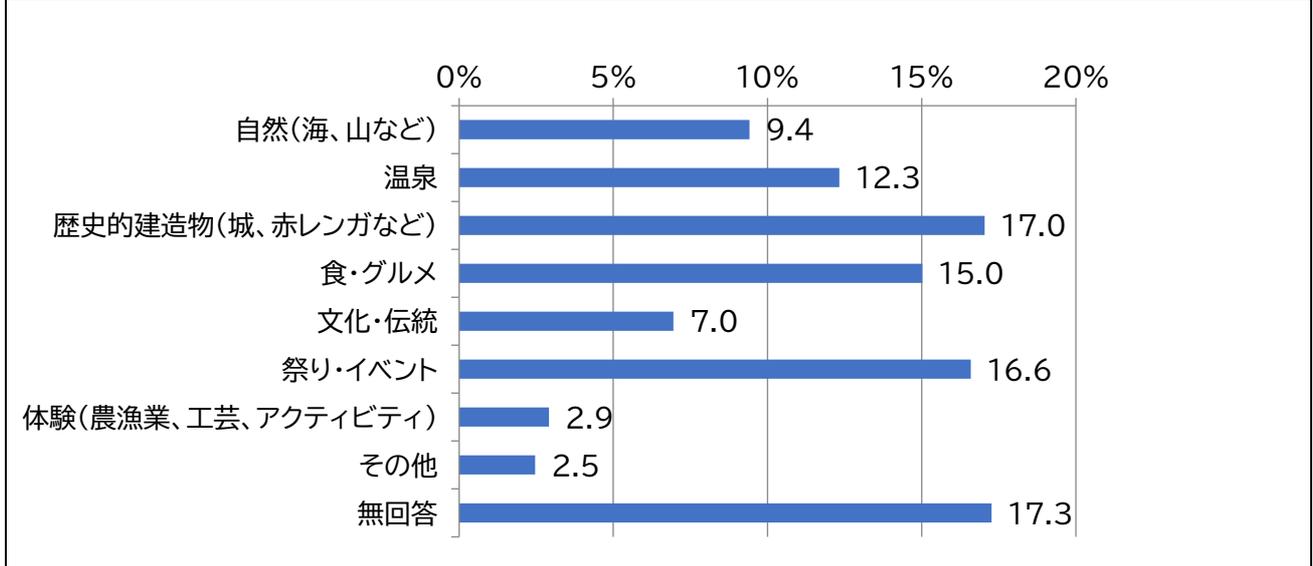
3位として最も多かったのは、歴史的建造物 17.0%、祭り・イベント 16.6%、食・グルメ 15.0%、温泉 12.3%、自然9.4%、文化・伝統 7.0%、体験 2.9%であった。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	自然(海、山など)	42	9.4%
2	温泉	55	12.3%
3	歴史的建造物(城、赤レンガなど)	76	17.0%
4	食・グルメ	67	15.0%
5	文化・伝統	31	7.0%
6	祭り・イベント	74	16.6%
7	体験(農漁業、工芸、アクティビティ)	13	2.9%
8	その他	11	2.5%
9	無回答	77	17.3%

その他の回答

● 人

グラフ



問3 洲本市に観光客が増えることについて、どのように感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。

回答数(n) 446 回答方式 SA

期待しているが約半数の 50.2%と最も多く、次いで期待・不安の両方を感じてるが 39.5%、不安に思っているが 9.9%であった。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	期待している	224	50.2%
2	不安に思っている	44	9.9%
3	期待・不安の両方を感じている	176	39.5%
4	無回答	2	0.4%

グラフ



問4 問3で回答した理由について、どのようなことに**期待**を感じていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

回答数(n) 400 回答方式 MA

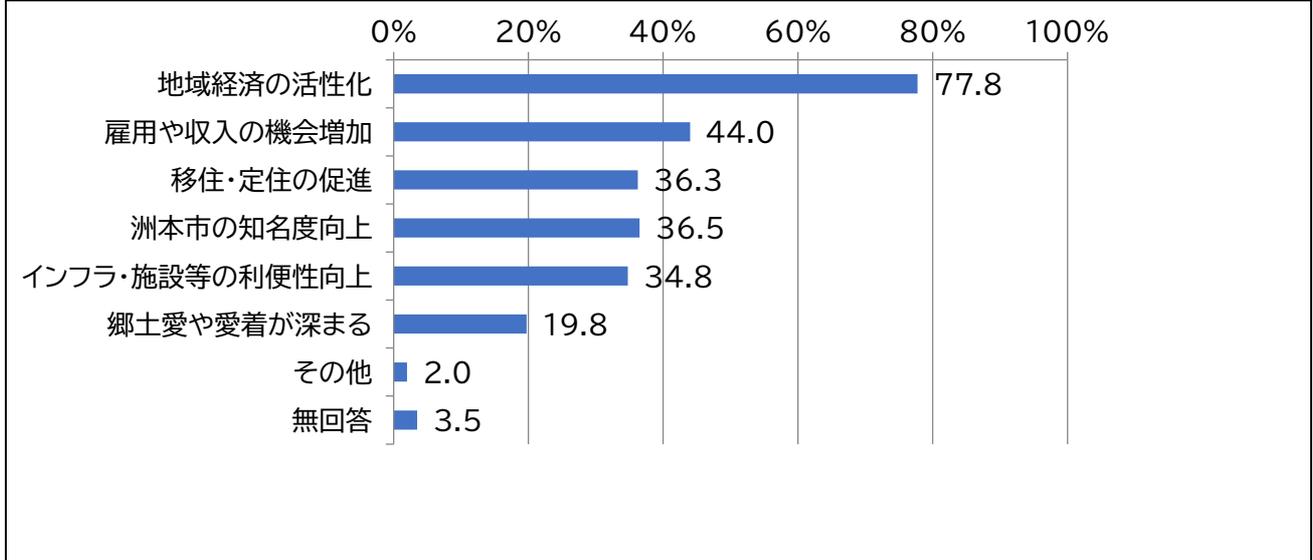
地域経済の活性化が 77.8%と最も多く、雇用や収入の機会増加 44.0%、洲本市の知名度向上 36.5%、移住・定住の促進 36.3%、インフラ・施設等の利便性向上 34.8%、郷土愛や愛着が深まる 19.8%であった。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	地域経済の活性化	311	77.8%
2	雇用や収入の機会増加	176	44.0%
3	移住・定住の促進	145	36.3%
4	洲本市の知名度向上	146	36.5%
5	インフラ・施設等の利便性向上	139	34.8%
6	郷土愛や愛着が深まる	79	19.8%
7	その他	8	2.0%
8	無回答	14	3.5%

その他の回答

大型銭湯を開設すべき。
 税収の増加。
 洲本の魅力を多くの人に知ってもらえるから。
 移住してきた方が、他の市と比べると市街地で島外へのバス乗り場が近いのがよいといっていました。洲本市は住みやすくてよいと聞いたことがあります。

グラフ



問4-2 問3で回答した理由について、どのようなことに不安を感じていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

回答数(n) 220 回答方式 MA

最も多かったのは「混雑や騒音、ゴミなど生活環境の変化」で 71.8%、次いで「道路渋滞等の交通状況悪化」が 60.9%、「観光客とのトラブル増加」が 35.9%、「観光地化による地域らしさの喪失」が 29.5%、「レンタカーや観光バス増加による事故の危険性増加」が 20.0% であった。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	混雑や騒音、ゴミなど生活環境の変化	158	71.8%
2	観光地化による地域らしさの喪失	65	29.5%
3	観光客とのトラブル増加	79	35.9%
4	道路渋滞等の交通状況悪化	134	60.9%
5	レンタカーや観光バス増加による事故の危険性増加	44	20.0%
6	その他	17	7.7%
7	無回答	4	1.8%

その他の回答

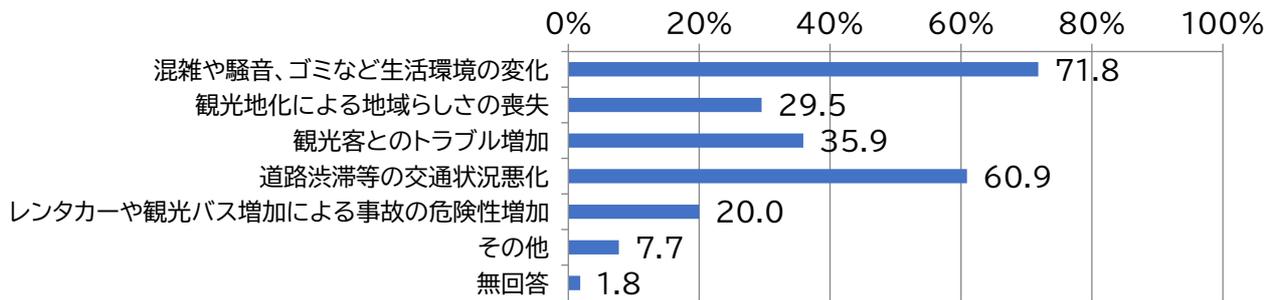
【インバウンドへの拒否感・マナー問題】
 マナーが悪い、モラルが低い。
 観光客のゴミのマナーが悪い。
 観光客が増えたとしても、外国語やインフラが対応できると思わない。

【治安・防犯の不安】
 防犯面で不安。昔に比べ地区人口が少なくポツンと暮らしてる感がある。
 雇用外国人増加による地域治安の低下(既に始まっている)。
 住宅の中をのぞく、又、敷地内に入ってくるから。

【生活環境への影響】
 インフラ、施設の利便性の悪化。物価の高騰。
 それぞれの施設のキャパシティ問題、駐車場。
 迷惑駐車。

【その他】
 行政における発信能力のなさ。
 市職員(議会議員も含む)何を見てるのか。
 移住、定住が今でも進まないのに。
 店舗運営が難しく、閉店するお店が増えている。
 駐車場の確保。
 オーバーツーリズムにならなければ OK。

グラフ



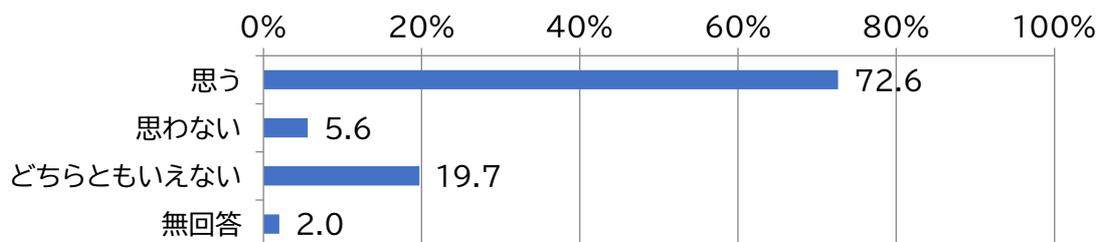
問5 観光振興に取り組むことが、市の発展につながるといいますか。

回答数(n) 446 回答方式 SA

最も多かったのは「思う」で 72.6%、次いで「どちらともいえない」が 19.7%、「思わない」が 5.6%であった。

選択肢	回答数(票)	回答率(%)
1 思う	324	72.6%
2 思わない	25	5.6%
3 どちらともいえない	88	19.7%
4 無回答	9	2.0%

グラフ



問6 観光振興のために地域住民としてどのような協力や参加が可能だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

回答数(n) 446 回答方式 MA

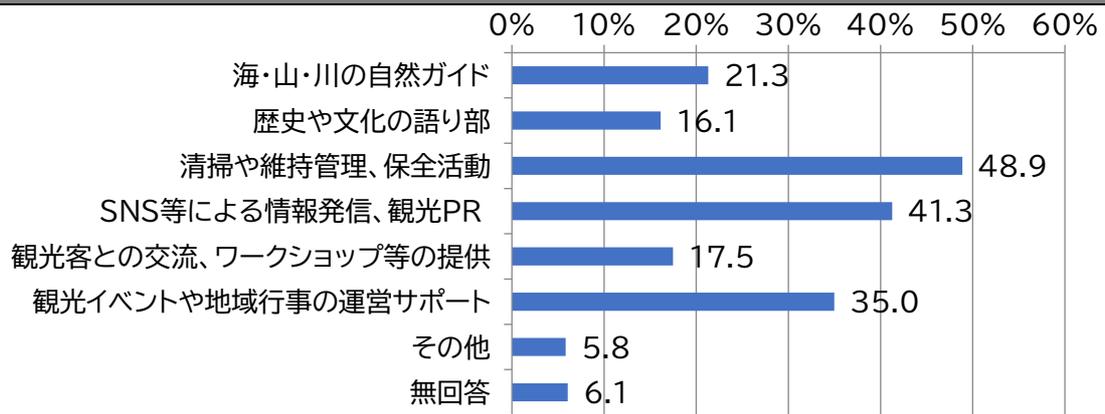
最も多かったのは「清掃や維持管理、保全活動」で 48.9%、次いで「SNS 等による情報発信、観光 PR」が 41.3%、「観光イベントや地域行事の運営サポート」が 35.0%、「海・山・川の自然ガイド」が 21.3%、「観光客との交流、ワークショップ等の提供」が 17.5%、「歴史や文化の語り部」が 16.1% であった。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	海・山・川の自然ガイド	95	21.3%
2	歴史や文化の語り部	72	16.1%
3	清掃や維持管理、保全活動	218	48.9%
4	SNS 等による情報発信、観光 PR	184	41.3%
5	観光客との交流、ワークショップ等の提供	78	17.5%
6	観光イベントや地域行事の運営サポート	156	35.0%
7	その他	26	5.8%
8	無回答	27	6.1%

その他の回答

公共空地进行を花壇整備して花を植えて美化を図る。
 樹木をもっと多く美しく整備すること。住民、旅行者、両方にメリットが。
 どうして住民がガイドや語り部をしないといけないのか?この質問。まずは行政として目玉を作って下さい。
 ずさんな市政ではホテルにぶらさがる以外を考え行動する。県や国への要望不足。
 観光スポットを増してほしい。
 土地の提供や町ぐるみの取組。例えば商店街に淡路のソウルフードの店が軒を並べているような取組が出来れば、一大観光スポットになり得る。
 市出身の有名人をもっと利用する。
 単身赴任なので、できることは期間に限られる。
 地域住民というより、お店屋さんがお土産物や飲食など貢献できるのでは。清掃や維持管理は行政が担うべきでは。
 観光振興に関しては一部の業界を除き、地元住民への恩恵が少ないため、関係者に頑張ってほしいと思う。
 安全運転。
 SNS ではないが、一人一人が「洲本のここが好き」というおすすめポイントを持てるようにする。近所の夕焼けポイントでも良いと思う。
 上記の企画立案に対するコンサルティング、企画運営のサポート。

グラフ



問7 洲本市の観光の課題は何だと思えますか。特にあてはまるものを3つまで選んでください。

回答数(n) 446 回答方式 MA

最も多かったのは「商店街や市街地のにぎわい不足」で 52.2%、次いで「交通アクセスの不便さ」が 35.0%、「空地や空き家の未活用」が 31.8%、「情報発信やPRの不足」が 24.7%、「駐車場の不足」が 22.0%、「夜のまちが暗い」が 19.3%、「イベントや体験コンテンツの不足」が 18.4%、「飲食店や宿泊施設の選択肢が少ない」が 15.7%、「外国人観光客への対応の遅れ」が 5.4%、「観光公害(ゴミ、騒音など)への対応の遅れ」が 4.9% であった。

	選択肢	回答数(票)	回答率(%)
1	交通アクセスの不便さ	156	35.0%
2	情報発信やPRの不足	110	24.7%
3	商店街や市街地のにぎわい不足	233	52.2%
4	イベントや体験コンテンツの不足	82	18.4%
5	外国人観光客への対応の遅れ	24	5.4%
6	空地や空き家の未活用	142	31.8%
7	駐車場の不足	98	22.0%
8	観光公害(ゴミ、騒音など)への対応の遅れ	22	4.9%
9	飲食店や宿泊施設の選択肢が少ない	70	15.7%
10	夜のまちが暗い	86	19.3%
11	その他	26	5.8%
12	無回答	54	12.1%

その他の回答

【遊べる場所・集客施設の不足】

遊ぶ場所、見る所が無い。淡路市、南あわじ市は有る

【その他】

観光…何をめざしたいか。何を売りにするか。まず住民が関心を持たないといけない。

地域活性。

仕掛け不足。

強力な目玉がない。創造出来ていない行政の問題。交通アクセスではなく市内移動の不便さ。

公共交通、タクシー、代行運転の不足。

交通費が高い。

7、8丁目商店街はシャッター街。空いたところに JA さいさい館Ⅱを持って来る。

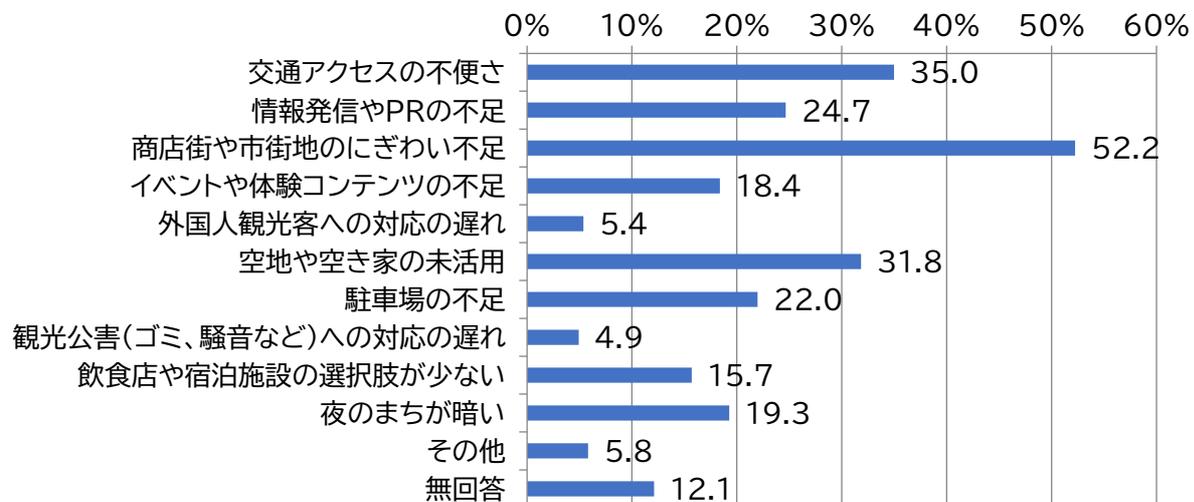
映えスポットが無い。皆写真を撮りに来ている。

先人が創ったものはしっかり次世代につないでほしい。史料、大浜の白砂青松、城壁。

市政の保守性。

食堂という道の駅がない。選択肢がまばら。
 大きな取組(プロジェクト)がない。
 欠点を逆手にとる発想の転換。
 商店街は人が通らなくても電気をつけないと活気がない。
 カフェなどが少なすぎる。
 スーパー銭湯。
 観光の核となるものがない。観光より少子高齢化のほうが問題。
 大企業誘致による施設・雇用創出が必要。
 島外の観光客のニーズを理解していない。
 情報発信や宿泊・飲食は不足というより、繁忙期に増えるとオーバーツーリズムになる。単発イベントの費用対効果が低い。
 観光スポット不足。洲本城も単発で終わっている印象。
 町の清潔度。
 駐車料金が人口規模の割に高すぎる。
 交番が少ない、あるいは目立たない。
 行政・企業の本気がない。本気で稼ぐ意志と熱気が必要。
 テーマ性の不足、観光資源のリンク不足。淡路島全体を一つの観光地とした企画立案が必要。

グラフ



3 中心市街地の遊休地等(未利用の公有資産や既存の地域資源)についてお答えください。

問8	中心市街地(本町、山手、柴町、海岸通、塩屋、炬口)について、今後どのような観光の形態を推進すべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。		
回答数(n)	446	回答方式	MA
最も多かったのは「食を楽しむ観光」で 55.4%、次いで「若者が訪れ、滞在しやすい観光」が 50.0%、「海水浴、サイクリング、トレッキングなどのアクティビティ」が 48.0%、「体験型観光(農業、工芸、釣りなど)」が 29.6%、「自然と調和したエコツーリズム」が 25.1%、「歴史文化観光」が 22.2%、「滞在型リゾート観光」が 22.0% であった。			

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	滞在型リゾート観光	98	22.0%
2	若者が訪れ、滞在しやすい観光	223	50.0%
3	体験型観光(農業、工芸、釣りなど)	132	29.6%
4	歴史文化観光	99	22.2%
5	自然と調和したエコツーリズム	112	25.1%
6	食を楽しむ観光	247	55.4%
7	海水浴、サイクリング、トレッキングなどのアクティビティ	214	48.0%
8	その他	28	6.3%
9	無回答	10	2.2%

その他の回答

【子どもが遊べる場所】

子育て世代が遊びに来れる遊具を図書館前に欲しい。
幼児から中学生ぐらいまでの子が遊べる場所。

【その他】

食、自然が良いのでスポーツ選手などの合宿等ができる施設。
スーパー銭湯(温泉、食事)。
市内に駐車場と食、レクリエーションできるビルを作る。
内田セメントの浅橋に大規模な海釣り公園。
歩いて楽しい街にする。車を置いて歩く市街地の魅力づくり。
近くで行ける「海外旅行」のようにキャッチーに売り出す。
若者だけでなく広い世代に対応すべき。
高齢者のリハビリセンターやタコバスの運行。
川をもっと美しくすべき。
若い人を呼ぶことが大事。

旧 Time after Time RE の場所を夜遅くまで営業するカフェにしてほしい。

コンサート等のイベントと自然観光の組み合わせ。

それぞれが自分の楽しみ方を見つけられる仕組みにする。

常設のドラクエ周遊イベントやモニュメント。

水族館や映画館など、地元民と観光客の両方が楽しめる施設。

レトロな街をしっかりと魅せる。喫茶店や海の見えるカフェの充実。

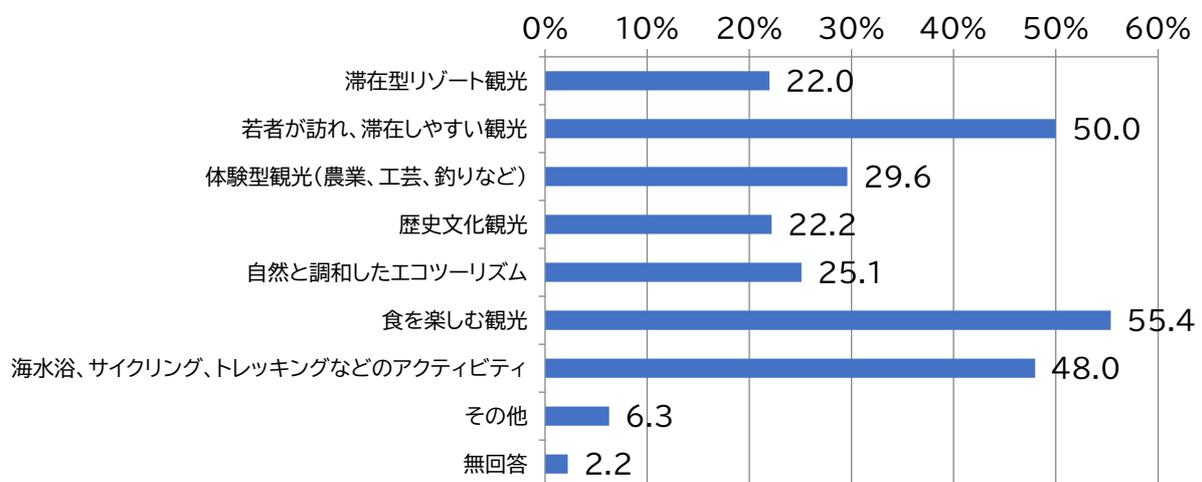
フリーマーケット。

淡路島のお2市のように、景色と食と一緒に楽しめる場所。

市街地は観光推進から外すという考え方。

既存の観光資源を全て洗い出し、リンクさせ、優先施策と予算配分を再検討すべき。

グラフ



問9 中心市街地の魅力的な観光地域づくりを進めていくためには、何が必要であると思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

回答数(n) 446 回答方式 MA

最も多かったのは「遊休地や未利用資源の活用」で 28.5%、次いで「商店街の活性化」が 26.9%、「交通手段の充実・利便性向上」が 27.6%、「グルメ・食文化の魅力づくり」が 24.9%、「飲食店や宿泊施設の充実」が 18.8%、「自然景観の魅力向上」が 17.5%、「駐車場の確保」が 15.7%、「情報発信・PR 活動の強化」が 15.2%、「夜間のにぎわいづくり」が 11.4%、「地域製品の開発」が 9.9%、「港や高速道路の整備充実」が 7.6%、「寺町周辺の整備」が 4.0%、「美化活動・街の清掃」が 4.5%、「観光ガイドの強化」および「島全体としてのおもてなしの心の向上」がともに 3.4%、「案内表示等の充実」が 2.5%、「外国人観光客への対応の強化」および「地域住民の観光参加の促進」がともに 1.6% であった。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	自然景観の魅力向上	78	17.5%
2	歴史・文化資源の活用	60	13.5%
3	グルメ、食文化の魅力づくり	111	24.9%
4	地域製品の開発	44	9.9%
5	飲食店や宿泊施設の充実	84	18.8%
6	遊休地や未利用資源の活用	127	28.5%
7	交通手段の充実、利便性向上	123	27.6%
8	港や高速道路の整備充実	34	7.6%
9	情報発信、PR 活動の強化	68	15.2%
10	観光ガイドの強化	15	3.4%
11	案内表示等の充実	11	2.5%
12	外国人観光客への対応の強化	7	1.6%
13	寺町周辺の整備	18	4.0%
14	美化活動、街の清掃	20	4.5%
15	駐車場の確保	70	15.7%
16	商店街の活性化	120	26.9%
17	夜間のにぎわいづくり	51	11.4%
18	地域住民の観光参加の促進	7	1.6%
19	島全体としてのおもてなしの心の向上	15	3.4%
20	その他	13	2.9%
21	無回答	65	14.6%

その他の回答

三熊山への観光リスト設置。

かまくらのように食べ歩きが出来る場所。

空き家を使えるようにすることにつきる。

淡路・洲本といえば“これ”というお土産がない。

資金が必要、絶対必要。

二輪レーン等インフラ整備。

関空⇄洲本間の船路復活。

観光だけでなく地域の楽しいイベントを多くする。観光はその後。

外国人には来て欲しくない。

三市の合併である。

夜間のタクシーや送迎バス。

各資源を総合的に連携・活用する施策。

交通インフラの整備(特に歩道)。

市政が本当にどうにかしようと動けば、すぐに解消できると思う。

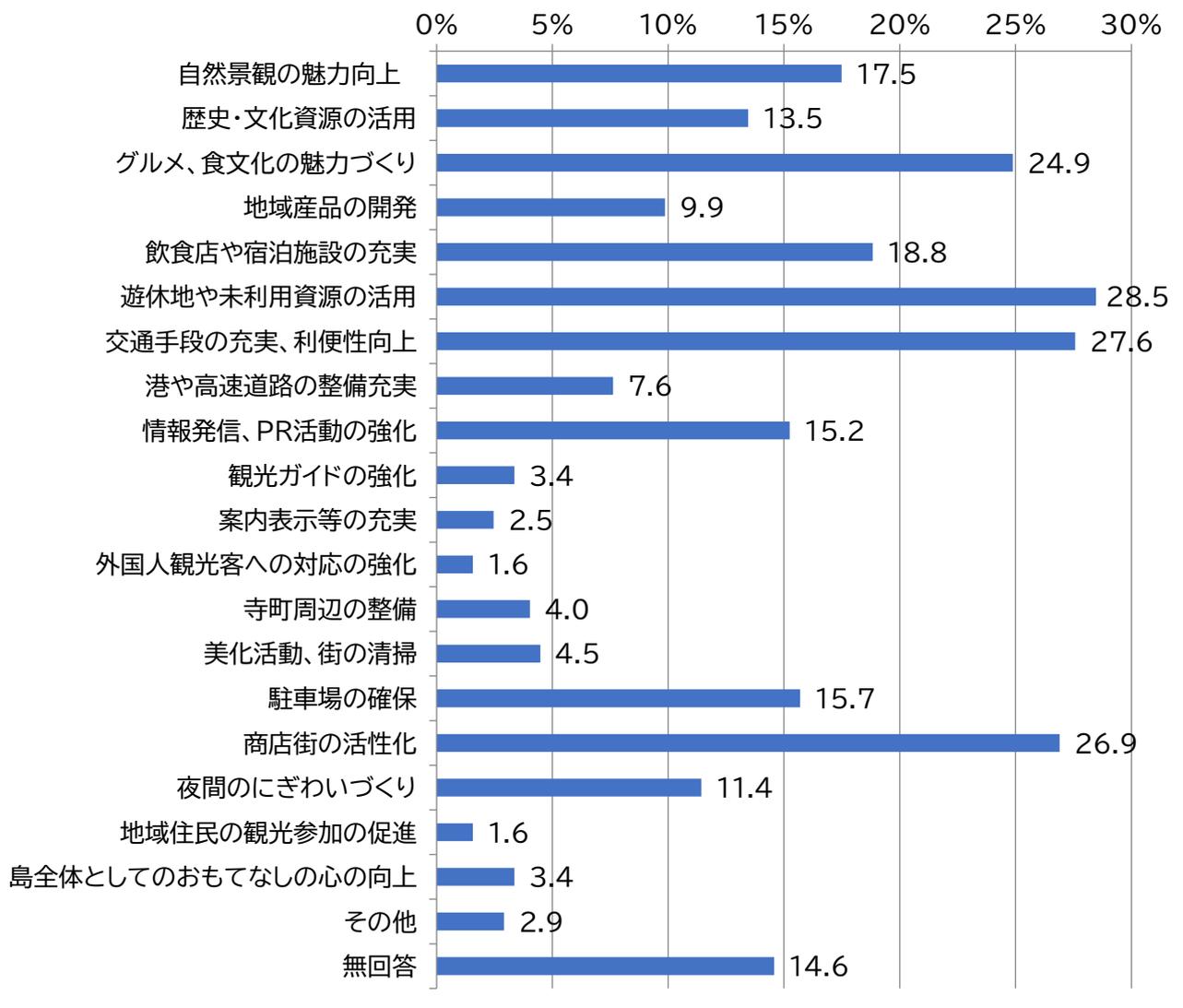
交通手段の利便性はもちろんだが、交通費が高い。

ドラクエショップなど誘致できないか。ドラクエ好きが来るコンテンツも入れると良い。

交番の設置、または安心感につながる外観の工夫。

上記以上に観光資源はあると考える。全てを洗い出しリンクさせ、優先施策や予算配分を検討すべき。

グラフ



問10 中心市街地では、空き家・空地が年々増加傾向にあります。空き家・空地の増加により、感じている影響はありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

回答数(n) 446 回答方式 MA

最も多かったのは「家屋の倒壊など危険がある」で 68.8%、次いで「地域のにぎわいが減った」が 59.9%、「景観が悪くなった」が 46.0%、「防犯・治安が不安」が 38.1%、「ごみや不法投棄が増えた」が 16.1%、「特に影響は感じない」が 4.3% であった。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	景観が悪くなった	205	46.0%
2	防犯・治安が不安	170	38.1%
3	ごみや不法投棄が増えた	72	16.1%
4	地域のにぎわいが減った	267	59.9%
5	家屋の倒壊など危険がある	307	68.8%
6	特に影響は感じない	19	4.3%
7	その他	21	4.7%
8	無回答	6	1.3%

その他の回答

【空き家・空地の増加による影響】
 空き家が目立つので寂れた感じがでてしまう。空き家空地が有効に使えないため子育て世代の住む場所がなく、中心街の児童数が増えずドーナツ化が起きている。

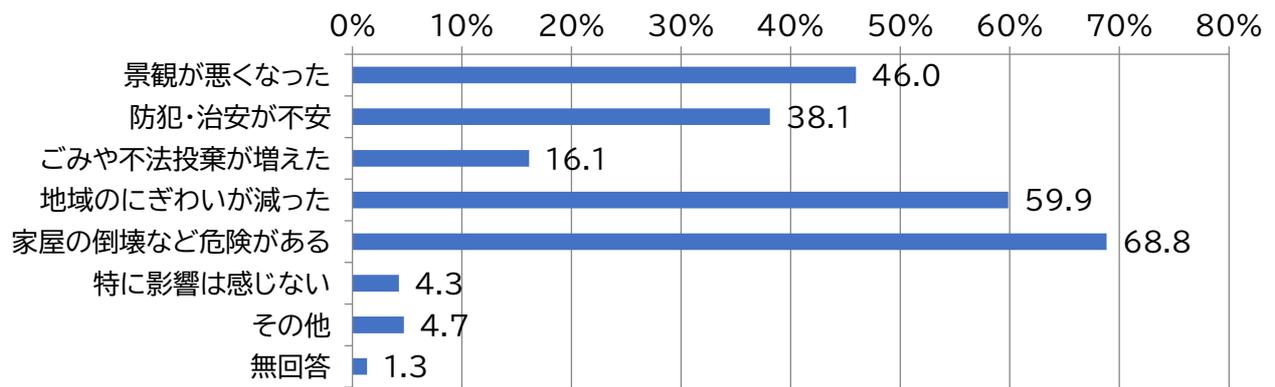
【雑草や管理されていない土地の問題】
 歩道の雑草が気になる。空地の草刈りが困難です。雑草多い。

【治安・不安感の増大】
 アパートが増え、中国人の恐怖だけです。犯罪も増えつつあります。カメラ必要。住宅の明りや人の気配が少なくて夜が不安。夜間、イオンのあたりでも人がいない。

【寂れた雰囲気・にぎわいの減少】
 さみしく感じる。空き家が目立つので寂れた感じが出てしまう。住宅の明かりや人の気配が少なくて夜が不安(重複するが「にぎわいの減少」の側面も含む)。

【その他】
 安く住めるようにすればいい。仏陀仏川を挟んで竹一前の家屋が倒壊しそう。対策・解体が必要。駐車場だらけ。害虫・野良猫等の増加。野良猫がうろちょろ。家賃が高い。中心部で空き家が駐車場やマンション建設に転用され、交通事故の心配がある。使わないなら売る・貸す促進を。景観が損なわれる。市街地に限らず、まず「洲本に住みたい人を増やす」ことが先決。特に影響は感じない。子どもが少なくなり地域の未来を感じられなくなった。高齢化で自治会が機能しにくく基盤が弱くなっている。

グラフ



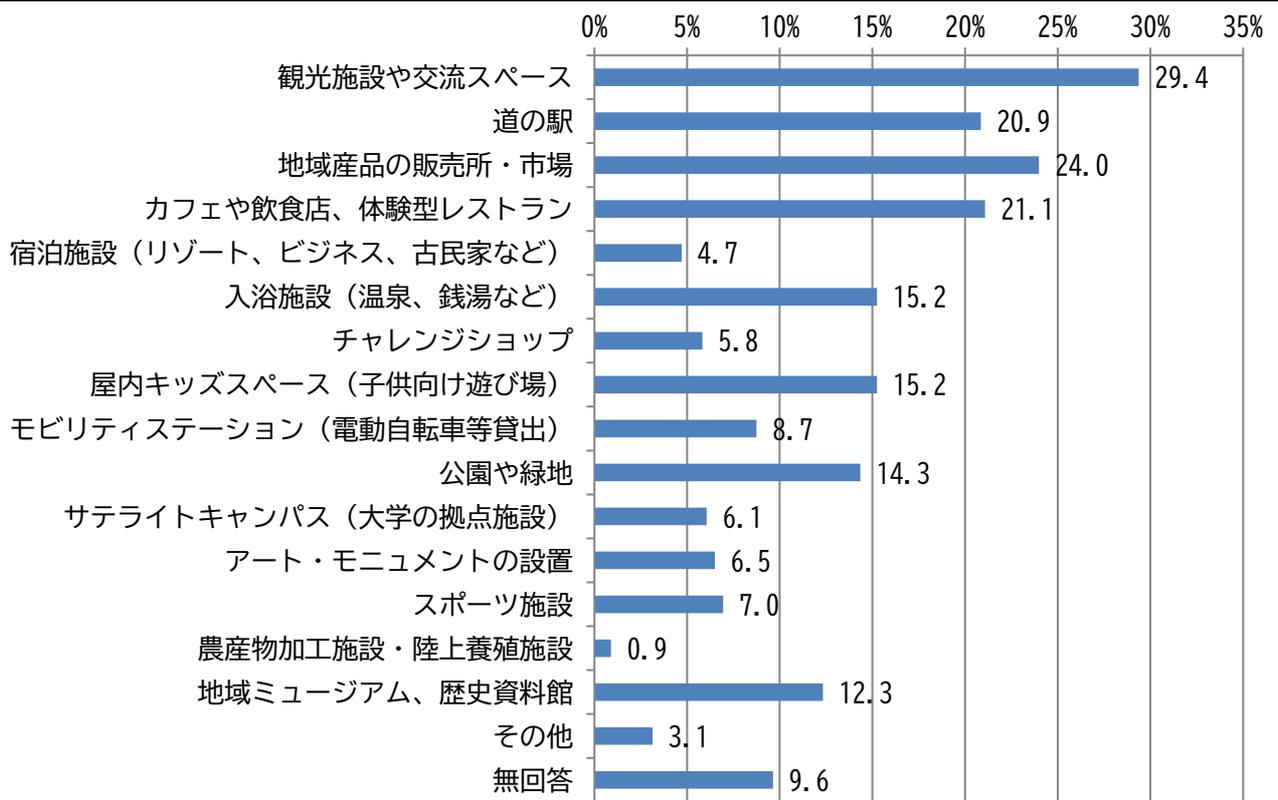
問11-1	中心市街地の各エリアに点在する遊休地や地域資源について、どのような用途での活用が望ましいと思いますか。それぞれあてはまる番号をすべて記入してください。 (旧鐘紡工場跡地周辺)
-------	--

回答数(n)	446	回答方式	MA
--------	-----	------	----

最も多かったのは「観光施設や交流スペース」で 29.4%、次いで「地域製品の販売所・市場」が 24.0%、「カフェや飲食店、体験型レストラン」が 21.1%、「道の駅」が 20.9%、「入浴施設(温泉・銭湯など)」および「屋内キッズスペース」がともに 15.2%、「公園や緑地」が 14.3%、「地域ミュージアム・歴史資料館」が 12.3%、「モビリティステーション」が 8.7%、「スポーツ施設」が 7.0%、「アート・モニュメントの設置」が 6.5%、「サテライトキャンパス」が 6.1%、「チャレンジショップ」が 5.8%、「宿泊施設」が 4.7%、「農産物加工施設・陸上養殖施設」が 0.9% であった。

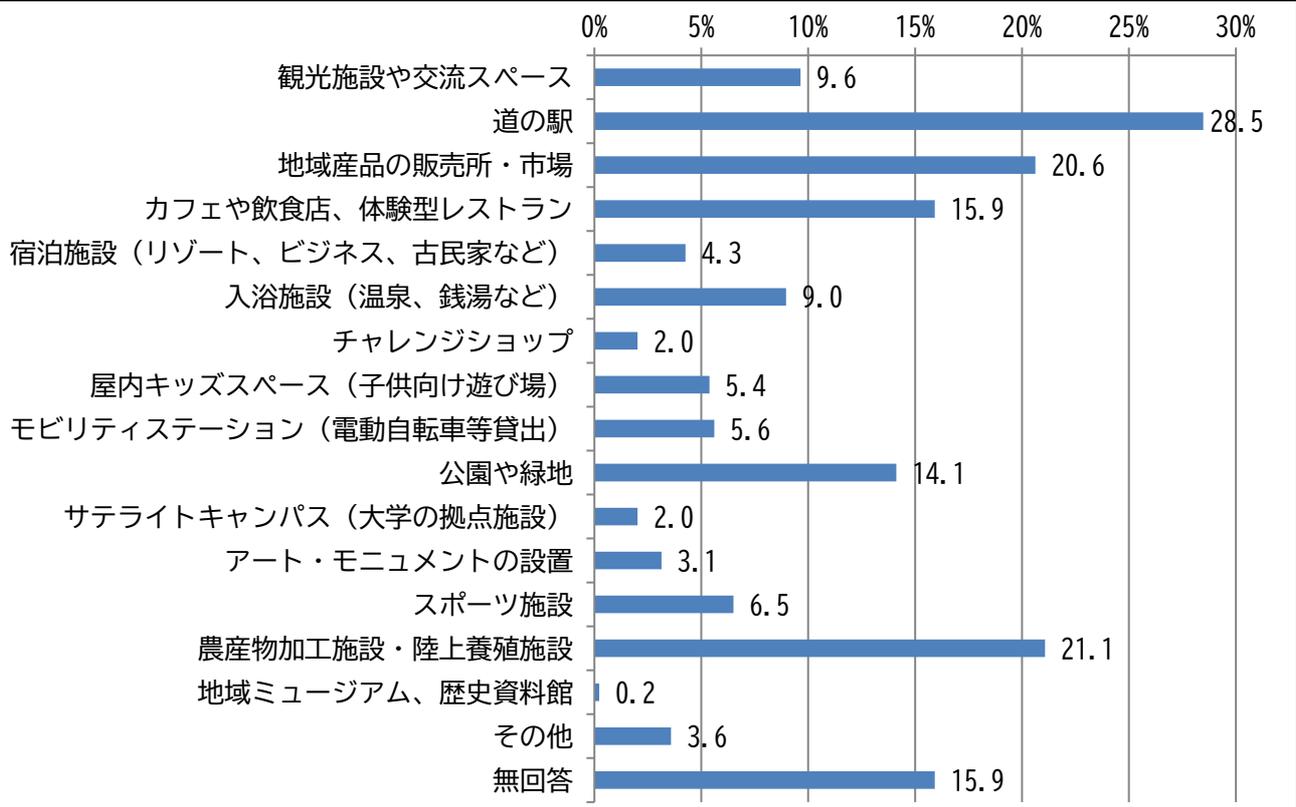
選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	観光施設や交流スペース	131	29.4%
2	道の駅	93	20.9%
3	地域製品の販売所・市場	107	24.0%
4	カフェや飲食店、体験型レストラン	94	21.1%
5	宿泊施設(リゾート、ビジネス、古民家など)	21	4.7%
6	入浴施設(温泉、銭湯など)	68	15.2%
7	チャレンジショップ	26	5.8%
8	屋内キッズスペース(子供向け遊び場)	68	15.2%
9	モビリティステーション(電動自転車等貸出)	39	8.7%
10	公園や緑地	64	14.3%
11	サテライトキャンパス(大学の拠点施設)	27	6.1%
12	アート・モニュメントの設置	29	6.5%
13	スポーツ施設	31	7.0%
14	農産物加工施設・陸上養殖施設	4	0.9%
15	地域ミュージアム、歴史資料館	55	12.3%
16	その他	14	3.1%
17	無回答	43	9.6%

グラフ



問11-2	中心市街地の各エリアに点在する遊休地や地域資源について、どのような用途での活用が望ましいと思いますか。それぞれあてはまる番号をすべて記入してください。(炬口漁港公園周辺)		
回答数(n)	446	回答方式	MA
最も多かったのは「道の駅」で 28.5%、次いで「農産物加工施設・陸上養殖施設」が 21.1%、「地域製品の販売所・市場」が 20.6%、「カフェや飲食店、体験型レストラン」が 15.9%、「公園や緑地」が 14.1%、「観光施設や交流スペース」が 9.6%、「入浴施設(温泉・銭湯など)」が 9.0%、「モビリティステーション」が 5.6%、「屋内キッズスペース」が 5.4%、「スポーツ施設」が 6.5%、「アート・モニュメントの設置」が 3.1%、「チャレンジショップ」および「サテライトキャンパス」がともに 2.0%、「宿泊施設」が 4.3%、「地域ミュージアム・歴史資料館」が 0.2% であった。			
選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	観光施設や交流スペース	43	9.6%
2	道の駅	127	28.5%
3	地域製品の販売所・市場	92	20.6%
4	カフェや飲食店、体験型レストラン	71	15.9%
5	宿泊施設(リゾート、ビジネス、古民家など)	19	4.3%
6	入浴施設(温泉、銭湯など)	40	9.0%
7	チャレンジショップ	9	2.0%
8	屋内キッズスペース(子供向け遊び場)	24	5.4%
9	モビリティステーション(電動自転車等貸出)	25	5.6%
10	公園や緑地	63	14.1%
11	サテライトキャンパス(大学の拠点施設)	9	2.0%
12	アート・モニュメントの設置	14	3.1%
13	スポーツ施設	29	6.5%
14	農産物加工施設・陸上養殖施設	94	21.1%
15	地域ミュージアム、歴史資料館	1	0.2%
16	その他	16	3.6%
17	無回答	71	15.9%

グラフ



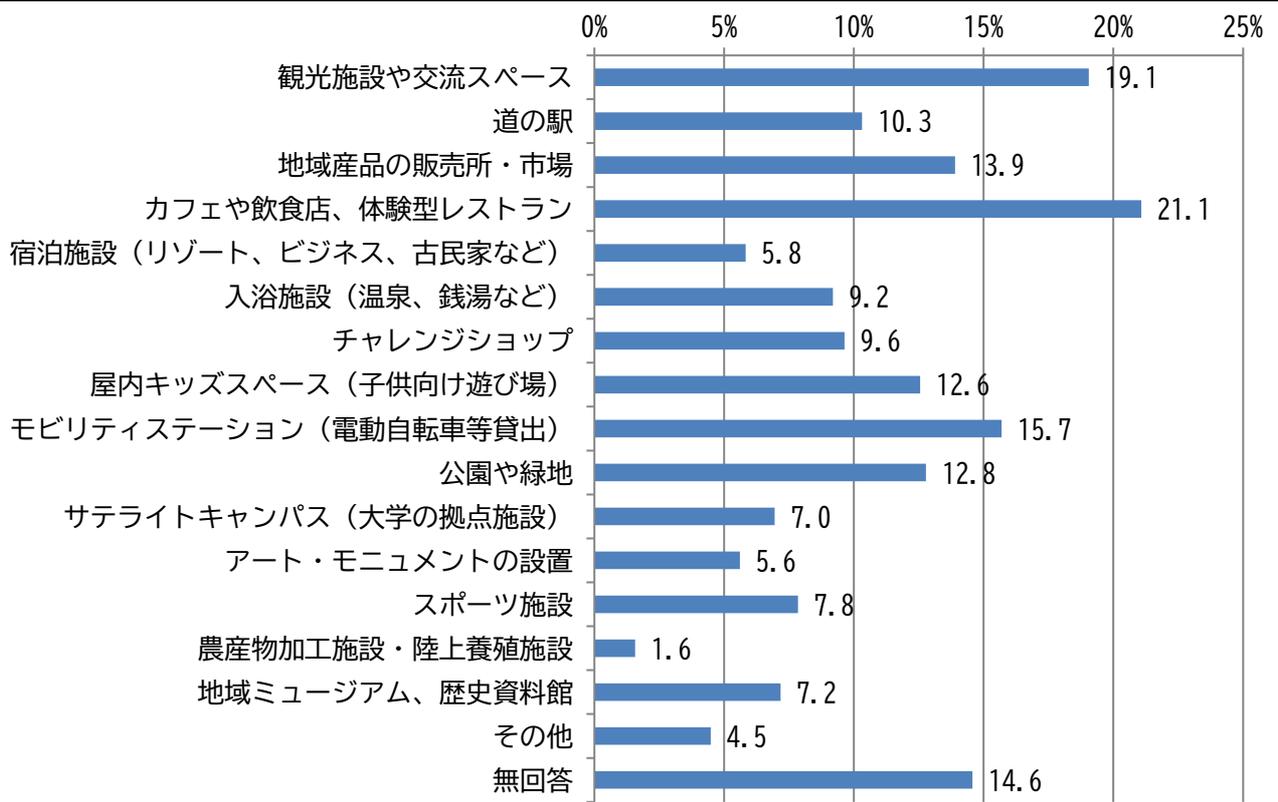
問11-3	中心市街地の各エリアに点在する遊休地や地域資源について、どのような用途での活用が望ましいと思いますか。それぞれあてはまる番号をすべて記入してください。 (洲本市役所周辺)
-------	--

回答数(n)	446	回答方式	MA
--------	-----	------	----

最も多かったのは「カフェや飲食店、体験型レストラン」で 21.1%、次いで「観光施設や交流スペース」が 19.1%、「モビリティステーション」が 15.7%、「公園や緑地」が 12.8%、「屋内キッズスペース」が 12.6%、「地域製品の販売所・市場」が 13.9%、「チャレンジショップ」が 9.6%、「入浴施設(温泉・銭湯など)」が 9.2%、「道の駅」が 10.3%、「スポーツ施設」が 7.8%、「地域ミュージアム・歴史資料館」が 7.2%、「サテライトキャンパス」が 7.0%、「宿泊施設」が 5.8%、「アート・モニュメントの設置」が 5.6%、「農産物加工施設・陸上養殖施設」が 1.6% であった。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	観光施設や交流スペース	85	19.1%
2	道の駅	46	10.3%
3	地域製品の販売所・市場	62	13.9%
4	カフェや飲食店、体験型レストラン	94	21.1%
5	宿泊施設(リゾート、ビジネス、古民家など)	26	5.8%
6	入浴施設(温泉、銭湯など)	41	9.2%
7	チャレンジショップ	43	9.6%
8	屋内キッズスペース(子供向け遊び場)	56	12.6%
9	モビリティステーション(電動自転車等貸出)	70	15.7%
10	公園や緑地	57	12.8%
11	サテライトキャンパス(大学の拠点施設)	31	7.0%
12	アート・モニュメントの設置	25	5.6%
13	スポーツ施設	35	7.8%
14	農産物加工施設・陸上養殖施設	7	1.6%
15	地域ミュージアム、歴史資料館	32	7.2%
16	その他	20	4.5%
17	無回答	65	14.6%

グラフ



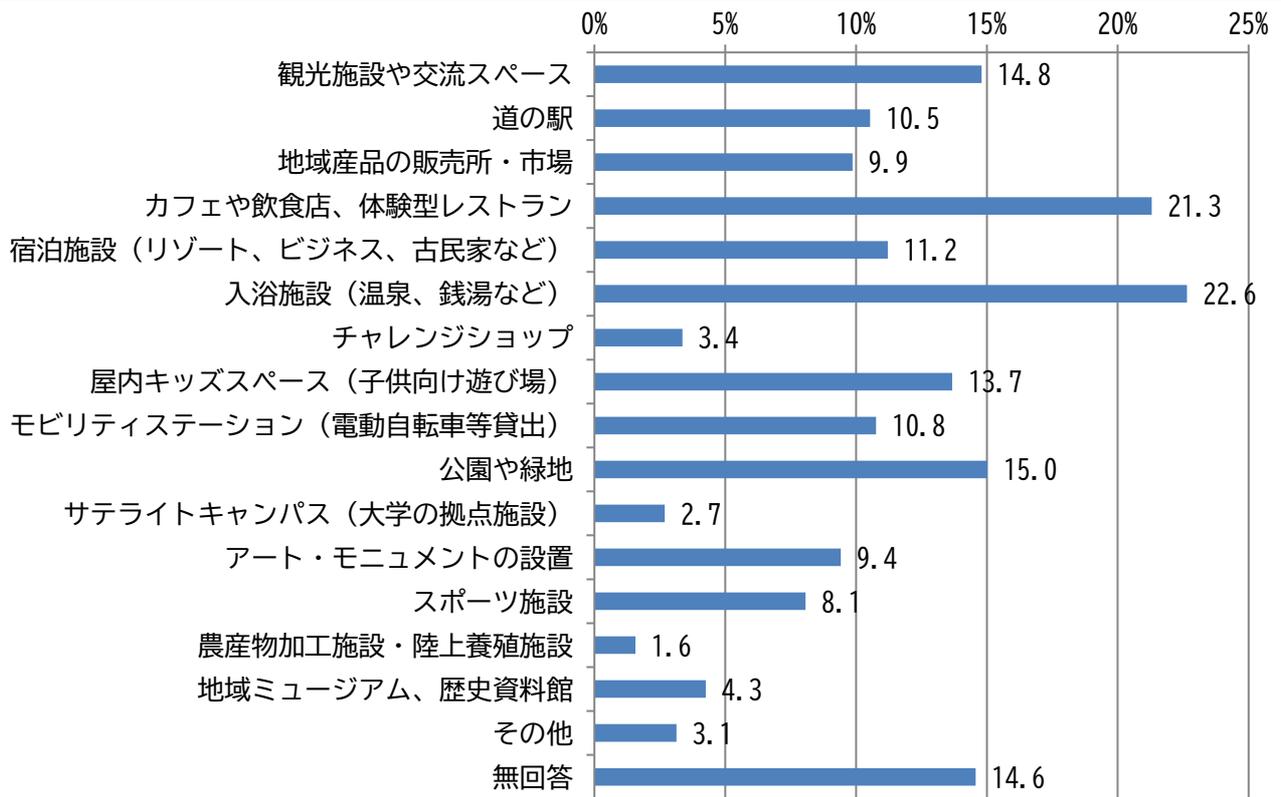
問11-4	中心市街地の各エリアに点在する遊休地や地域資源について、どのような用途での活用が望ましいと思いますか。それぞれあてはまる番号をすべて記入してください。 (大浜公園周辺)
-------	---

回答数(n)	446	回答方式	MA
--------	-----	------	----

最も多かったのは「入浴施設(温泉、銭湯など)」で 22.6%、次いで「カフェや飲食店、体験型レストラン」が 21.3%、「観光施設や交流スペース」が 14.8%、「公園や緑地」が 15.0%、「屋内キッズスペース」が 13.7%、「宿泊施設」が 11.2%、「モビリティステーション」が 10.8%、「道の駅」が 10.5%、「地域製品の販売所・市場」が 9.9%、「アート・モニュメントの設置」が 9.4%、「スポーツ施設」が 8.1%、「地域ミュージアム・歴史資料館」が 4.3%、「チャレンジショップ」が 3.4%、「サテライトキャンパス」が 2.7%、「農産物加工施設・陸上養殖施設」が 1.6% であった。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	観光施設や交流スペース	66	14.8%
2	道の駅	47	10.5%
3	地域製品の販売所・市場	44	9.9%
4	カフェや飲食店、体験型レストラン	95	21.3%
5	宿泊施設(リゾート、ビジネス、古民家など)	50	11.2%
6	入浴施設(温泉、銭湯など)	101	22.6%
7	チャレンジショップ	15	3.4%
8	屋内キッズスペース(子供向け遊び場)	61	13.7%
9	モビリティステーション(電動自転車等貸出)	48	10.8%
10	公園や緑地	67	15.0%
11	サテライトキャンパス(大学の拠点施設)	12	2.7%
12	アート・モニュメントの設置	42	9.4%
13	スポーツ施設	36	8.1%
14	農産物加工施設・陸上養殖施設	7	1.6%
15	地域ミュージアム、歴史資料館	19	4.3%
16	その他	14	3.1%
17	無回答	65	14.6%

グラフ



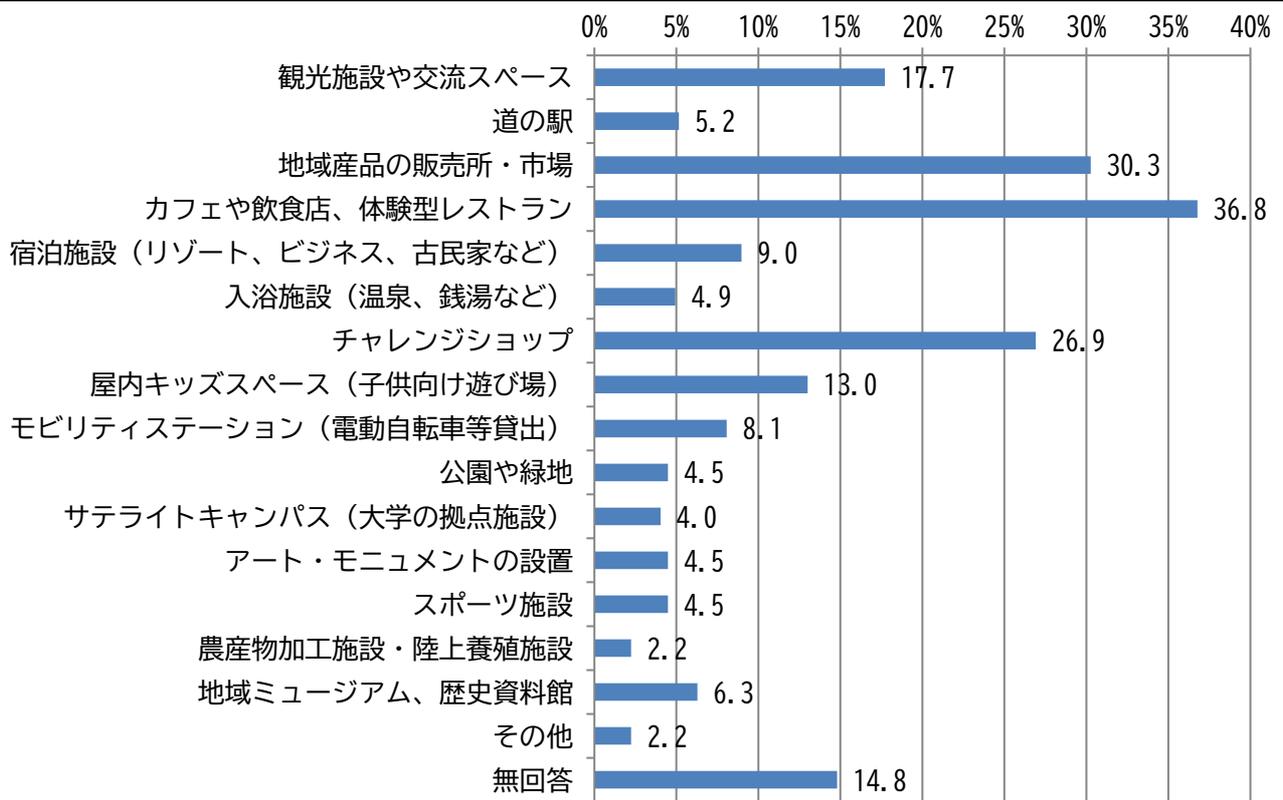
問11-5	中心市街地の各エリアに点在する遊休地や地域資源について、どのような用途での活用が望ましいと思いますか。それぞれあてはまる番号をすべて記入してください。 (商店街エリア)
-------	---

回答数(n)	446	回答方式	MA
--------	-----	------	----

最も多かったのは「カフェや飲食店、体験型レストラン」で 36.8%、次いで「地域製品の販売所・市場」が 30.3%、「チャレンジショップ」が 26.9%、「観光施設や交流スペース」が 17.7%、「屋内キッズスペース」が 13.0%、「宿泊施設」が 9.0%、「モビリティステーション」が 8.1%、「地域ミュージアム・歴史資料館」が 6.3%、「道の駅」が 5.2%、「入浴施設」が 4.9%、「公園や緑地」「アート・モニュメントの設置」「スポーツ施設」がそれぞれ 4.5%、「サテライトキャンパス」が 4.0%、「農産物加工施設・陸上養殖施設」および「その他」がともに 2.2% であった。

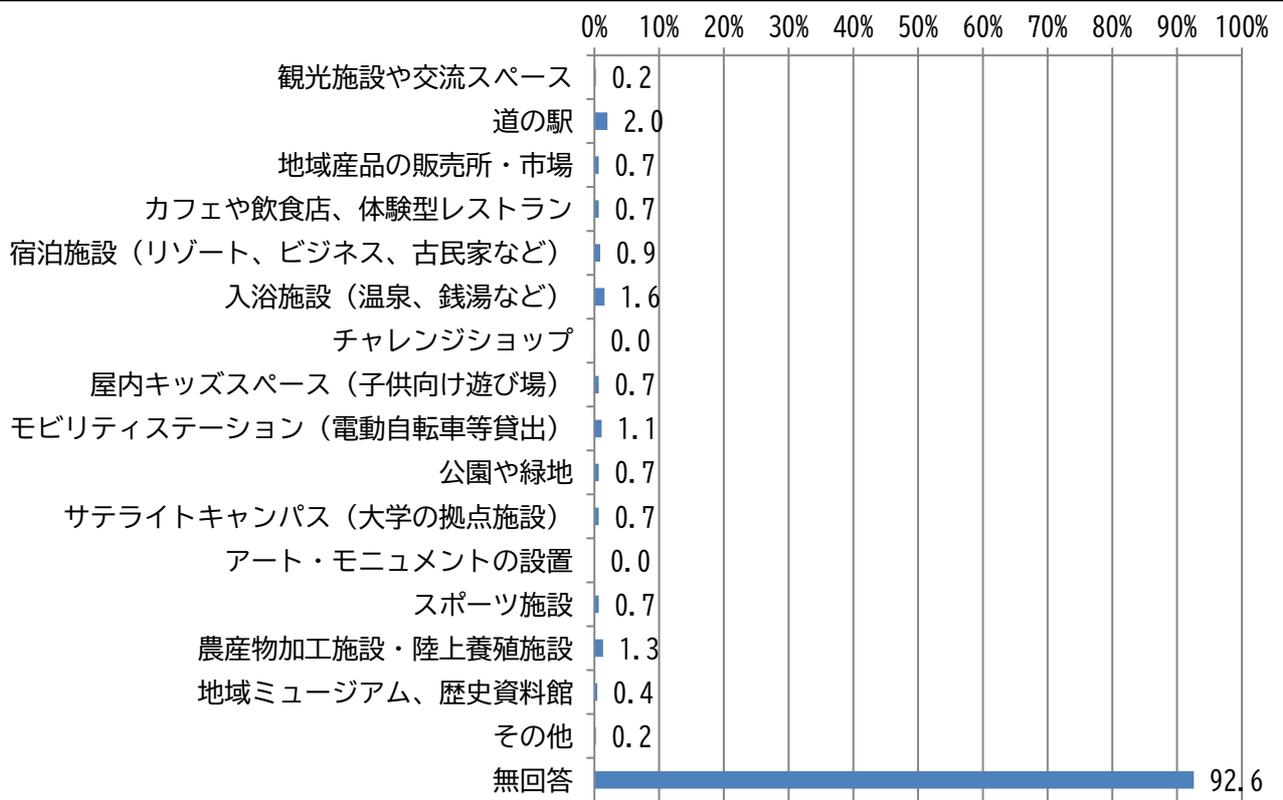
選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	観光施設や交流スペース	79	17.7%
2	道の駅	23	5.2%
3	地域製品の販売所・市場	135	30.3%
4	カフェや飲食店、体験型レストラン	164	36.8%
5	宿泊施設(リゾート、ビジネス、古民家など)	40	9.0%
6	入浴施設(温泉、銭湯など)	22	4.9%
7	チャレンジショップ	120	26.9%
8	屋内キッズスペース(子供向け遊び場)	58	13.0%
9	モビリティステーション(電動自転車等貸出)	36	8.1%
10	公園や緑地	20	4.5%
11	サテライトキャンパス(大学の拠点施設)	18	4.0%
12	アート・モニュメントの設置	20	4.5%
13	スポーツ施設	20	4.5%
14	農産物加工施設・陸上養殖施設	10	2.2%
15	地域ミュージアム、歴史資料館	28	6.3%
16	その他	10	2.2%
17	無回答	66	14.8%

グラフ



問11-6	中心市街地の各エリアに点在する遊休地や地域資源について、どのような用途での活用が望ましいと思いますか。それぞれあてはまる番号をすべて記入してください。 (その他)		
回答数(n)	446	回答方式	MA
有効回答の中では「道の駅」が 2.0% と最も多く、「農産物加工施設・陸上養殖施設」が 1.3%、「入浴施設」が 1.6%、「モビリティステーション」が 1.1% と続いた。その他の項目はいずれも 1%未満 の回答であった。			
選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	観光施設や交流スペース	1	0.2%
2	道の駅	9	2.0%
3	地域製品の販売所・市場	3	0.7%
4	カフェや飲食店、体験型レストラン	3	0.7%
5	宿泊施設(リゾート、ビジネス、古民家など)	4	0.9%
6	入浴施設(温泉、銭湯など)	7	1.6%
7	チャレンジショップ		0.0%
8	屋内キッズスペース(子供向け遊び場)	3	0.7%
9	モビリティステーション(電動自転車等貸出)	5	1.1%
10	公園や緑地	3	0.7%
11	サテライトキャンパス(大学の拠点施設)	3	0.7%
12	アート・モニュメントの設置		0.0%
13	スポーツ施設	3	0.7%
14	農産物加工施設・陸上養殖施設	6	1.3%
15	地域ミュージアム、歴史資料館	2	0.4%
16	その他	1	0.2%
17	無回答	413	92.6%

グラフ



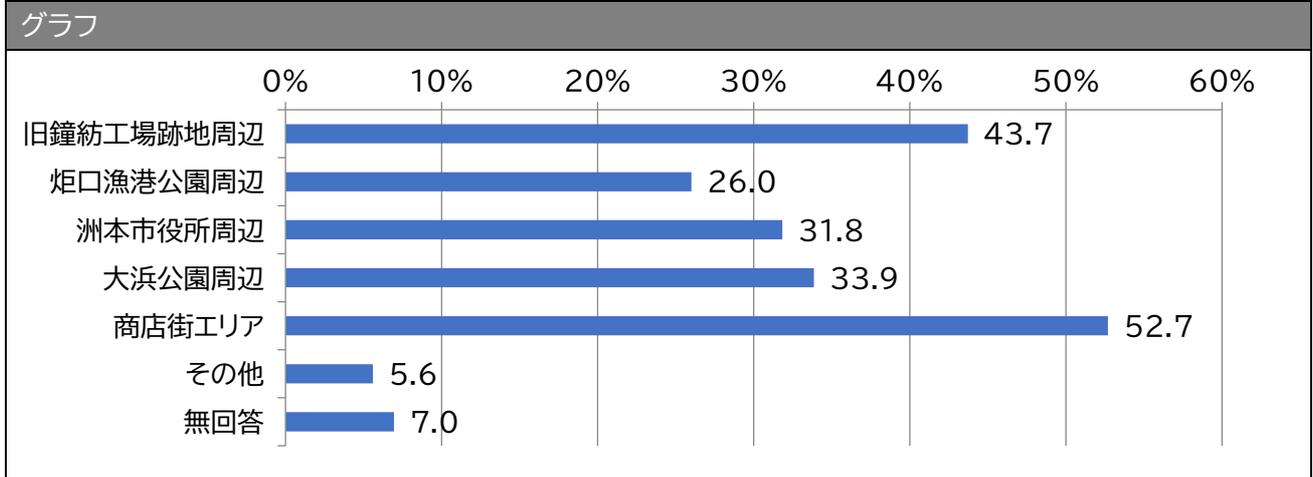
問12 問11で回答した各エリアのうち、特に活用を推進すべきだと考えるエリアについて、あてはまるものをすべて選んでください。

回答数(n) 446 回答方式 MA

最も多かったのは「商店街エリア」52.7%、次いで「旧鐘紡工場跡地周辺」43.7%、「大浜公園周辺」33.9%、「洲本市役所周辺」31.8%、「炬口漁港公園周辺」26.0% の順であった。

選択肢		回答数(票)	回答率(%)
1	旧鐘紡工場跡地周辺	195	43.7%
2	炬口漁港公園周辺	116	26.0%
3	洲本市役所周辺	142	31.8%
4	大浜公園周辺	151	33.9%
5	商店街エリア	235	52.7%
6	その他	25	5.6%
7	無回答	31	7.0%

- その他の回答
- ・五色
 - ・淡路交通跡地
 - ・由良方面
 - ・寺町
 - ・曲田山・三熊山
 - ・母子センター跡地
 - ・宇山
 - ・洲本港
 - ・洲本バスセンター
 - ・内田
 - ・洲本インター
 - ・王色町



問13	その他、中心市街地で活用すべきと思う遊休地や地域資源はありますか。活用すべきと思う遊休地や地域資源とその活用方法について、自由にご回答ください。
活用すべきと思う遊休地や地域資源	
<p>【旧鐘紡工場跡地・淡路交通跡地・バスセンター等の活用】 炬口漁港周辺にバーベキュー広場、大浜公園にミニ遊園地、レストラン、旅宿、屋台、駐車場。いずれも面積が小さく活用するには不十分である。 淡路交通跡地に入浴施設・・・今は観光ホテルしかない。洲本市だけがない。 旧鐘紡洲本工場周辺。 洲本バス跡地を何とかしてほしい。 昔のバスターミナルがそのままになっているので、場所もいいし何か活用出来ないかなと思っています。 洲本消防署周辺。 淡路交通跡地、港、下の城の国の機関が使用している場所、関電横、益習館～中央公民館、第二小学校。 淡路交通のバスターミナル跡地は立地条件が良いのもったいない。</p> <p>【商店街エリア・空き家・空き店舗の活用】 商店街(コモード)は全く活気がない。店が少ない、暗い。どうにか活気を戻してほしい。 商店街の空き家をチャレンジショップに活用。 本町1～8の空家。 商店街の空き家が増えている。外から来た観光客はそれを見てがっかりしているので市、県が整備して公園などトイレなど、もっと充実するべき。 外町(特に7、8丁目周辺)の空き家と空き地。 旧新開地近辺、閉店したパチンコ店周辺。 淡路交通バス車庫跡地、旧 Time after Time RE、アルチザンスクエアの空きテナント。</p> <p>【大浜公園・港・海側エリア】 海側周辺(港や大浜周辺)。 炬口海水浴場の活用。 洲本港。 洲本ポートターミナルビル、洲本観光案内所。 大浜公園の松の植樹。 大浜公園、旧鐘紡跡。</p> <p>【三熊山・山・自然資源】 三熊山、せん山。 洲本城。 山手の文化史料館。 生石の砲台跡地や龍宝寺。</p>	

曲山の桜の木が老木になってきている。

生石公園砲台跡。

三熊山のアスレチックを復活してほしい。

【入浴施設・温泉需要】

入浴施設・・・今は観光ホテルしかない。洲本市だけがない。

市役所、商店街の空地进行温泉、入浴場にするべき。

五色のゆーゆファイブ湯のようなスーパー銭湯誘致。

【子育て・福祉・市民利用】

洲本市役所周辺は洲本の中心地なので子育てしている人はキッズが遊べる屋内設備があればいいと考えてる人が多い。

高齢者や子育て世代の集う場を増やす。

保育園空教室、運動場、市役所横サッカー場を利用。

観光とか島外だけでなく、市民の住む市営住宅とか建ててほしい。

【駐車場・交通環境】

駐車場。

大浜公園の駐車場の有料化提案。

【ドラクエ・文化資源】

生石の砲台跡地や龍宝寺はドラクエの世界観にピッタリ。

洲本市の大きな地域資源として堀井雄二さんの出身地であることが挙げられると思う。

常設のドラクエ関連があれば良い。

具体的な活用イメージやご意見

【観光施設・遊び場・イベント】

大浜公園から三熊山への観光リフトの設置。

オートキャンプ場、釣堀など。

水族館などファミリーで楽しめる施設が欲しい。

スケボー広場、キッズのボールを使える遊び場(安心して)。

アスレチック等、ネスタリゾートのようにする。

博多のような屋台、キッチンカーなど。比較的、住民が少ない場所で常設出来れば良い。

眺めが非常に良く、もっと商業施設や土産物屋があっても良いのではと思う。香川の高屋神社の「天空の鳥居」の様に空に飛んでいくブランコとしてブランコを置くのも良いと思う。市内に幾つかブランコを置いて、回って写真を撮ってもらうのもいいかも。大浜の竹ブランコが良かった。

島民にも利用、活用出来る設備が良い、・遊歩道と公園のコラボで憩い場所を提供する(住みやすい町作り)。

スポッチャとか雨の日でも年中遊べる所があればいいと思います。

大人もたのしめる公園 健康維持、身体をうごかすイベント

ライトアップはされてるけど、洲本城跡周辺をイルミネーションにしてみたらどうか

三熊城天守のバージョンアップと市内資源との連携 島内城跡の整備とスタンプラリーのようなイベント

アーケードを活用したスポーツイベントやアウトドアイベント

アスレチックを各所につくり周遊してスタンプラリーができるようにする。大人もウォーキングや景色、ドッグランなどを楽しめるなど

セグウェイやトゥクトゥクや、人力車など楽しく城下町巡り。食べ歩きができたり城下町ならではのお土産やグッズ販売店の設置。デジタルスタンプ集めなど。

【飲食店・食の場づくり】

商店街エリアに食を一堂に出来るスペース(広め広場の様なもの)、曲田山を見直す、桜の山にするとか。市民広場を野外コンサート場。

魚釣り体験などで GET した海産物をバーベキュー等で楽しめるファミリーエンjoy型の飲食店。

バーベキュー場所がない。肉、玉ねぎが特産なのに、それを利用してもらう場所がない。

手頃な値段でおいしくいただける食堂(地場産利用)、気安く入れる休憩場。

ランチなどをできる場所を増やす。バスセンターから徒歩圏内で行ける場所にあるといいと思います。

街歩きが楽しくなるお店を増やす

ラーメン、カレーなどの万人受けするジャンルの店をまとめて誘致する

【道の駅・直売所・物産・市場】

道の駅

炬口を海釣り公園になる様に道の駅を作ったり、エサを販売したりする。旧鐘紡跡の空き施設の利用。

道の駅や入浴施設、又コインパーキングやサイクルパーキングなど。

休憩所やトイレ、野菜の直売所。

レストラン、土産等を備えた道の駅、海側に海水浴、山側にアスレチックや海の見える展望レストラン。
観光物産とお手軽温泉で、日帰り観光客の集客
淡路交通跡地で地域ミュージアムや物産館

【入浴施設・温泉・温浴】

五色にはユーフアインがあるが旧市内は料金の高い温泉しか無い。市民は利用出来る銭湯が1件だけはおかしい。

温泉、大衆演劇

淡路交通跡地、洲本は温泉地でありながら外湯を楽しめる施設が無い！ 外湯と物産店をセットにした施設は必須。

温浴施設 スポーツ施設 プール コメダ珈琲誘致

【キッズスペース・子ども向け施設】

雨天や夏など子供を外で遊ばせることが難しい中、洲本に(淡路島に)屋内キッズ遊び場がないのは困りました(S BRICKのみ)。質問と違う回答ですみません。

①キッズスペース拡大、体験型イベント②今まででは・・・ワークショップ

図書館前に遊具、旧 Time after Time RE に遅い時間まで開いているカフェ、商店街に飲食店を集めて、その後、夜スナックとかまで賑わえる動線、7～8丁目は全国から希望した人の作品を展示出来るアートギャラリー、何か月かごとに契約。

1つの建物、スポーツジム、飲食店、キッズスペース

ボーンランド等がてがける有料の子ども向けの屋内で遊べるスペースがある。有料でも良いので、規模の大きい施設を作れば、島外からの来客も見込める。屋内は比較的安全なので、子育て世代は助かるので、子育てと観光の両方の推進が図れる。

【空き家・チャレンジショップ・起業支援・宿泊】

空き家を飲食とした活用。空き地を駐車場(店用)にしてみても・・・。

空家を利用してチャレンジショップを運営する。

飲食を中心とした若い起業したい人に向けて利活用してもらう(古民家活用とその利用者向け駐車場)。

町全体で宿泊できるような取組。空き家を改装した宿泊施設、食事は地元のお店、遊びは各種観光案内など地域一体での宿泊リゾートを提供できるように複数の事業者が一体となって実施する。

若手起業家への空き家貸し出し(チャレンジショップのような形態など)

倒壊しそうな建物を壊して市営の全天候型ドッグランや広場など観光客がゆっくりと過ごせるようなスペース作り、市民と観光客とが交流できる休憩スペース。

市街地の古い家屋はリノベーション可能であれば、貸家や店舗、宿泊施設に。難しければ解体し、ミニ駐車場もしくは、ミニ広場。ただし、市が主導するよりは補助金等の支援施策を実施し、民間が主導で実施していくべき。

【ドラクエ・恐竜・ゲーム・物語性の活用】

ゲームクリエイターの堀井雄二さんの製作した色々の物を展示して記念館にすれば、観光地域になると思う。

商店街の空家の活用(ドラクエ)。

生石の砲台跡をジブリのテーマパークに。

ドラクエ→ドラクエで推すならモニュメントだけでなく、たとえばドラクエモチーフのコンセプトカフェをやるとか。ただの置き物でも来てくれる人たちはいるので、その人たちが楽しんでお金を落とせるような施設を。

せっかく恐竜という一大コンテンツをもっているのに全く生かしきれていない。大浜海岸に、イザナギイを模した恐竜滑り台など遊び場を作るなど市民に対しても恐竜認知度あげる工夫がほしい。もしくは S BRICK キッズスペースを恐竜をモチーフにした遊び場に大改修するとか、とにかく子連れのお客がいきたくなることを！！(ポーネランドなど参考に)

福崎町の「妖怪ベンチ」や鳥取県境港市の「水木しげるロード」が成功しているように、街中に世界観に沿ったオブジェや店舗を配置することで観光客を大きく呼び込むモデルがすでに実証されています。洲本市でも、「ドラクエのキャラクター像」や「冒険をイメージしたフォトスポット」の設置 空き店舗を活用した「ルイーダの酒場風カフェ」「宿屋風ゲストハウス」 商店街を「冒険の町」風にデザインした街歩きルート整備 などを行えば、SNS でも話題になり、若年層からファミリー層まで幅広い層が訪れる観光コンテンツになると考えます。

【交通・駐車場・モビリティ】

市内周回公共交通機関の停留所。

レンタカー、レンタサイクル、観光施設、屋内キッズスペース

駐車場

淡路交通跡地は駐車場にしてほしい。旧 Time after Time RE は活用できないなら更地にしてほしい。アルチザンの空きテナントの場所は市役所で使えばいいと思う。

洲本市だけのことではないです。島一体で交通の便がスムーズになることを願います。

バスセンターを市役所前に高速バス停を移動して中心街への動線を作る。築地町バス停に高速バス停車。バスセンターは県病に貸すか、レストランなどテナントを入れる。コンパクトシティー化で。

洲本市の大きな地域資源として、堀井雄二さん(ドラクエ生みの親)の出身地であることが挙げられると思います。現在も一部に銅像などがありますが、より体系的に「ドラクエのまち」として活用できる余地が大きいと感じています。

【緑・桜・景観・ゆとり空間】

桜の木、もみじの木など植えてみたい。

淡路信用金庫本店から洲本 IC に向かう道路を桜に変更し、春は「桜ロード」にしても良いのでは・・・。

そうすることで地域全体に希望が湧いてきます。木一本、多年草の花一つ植えていくだけで町は徐々に変わっていきます。

あまり施設の建設よりも、ゆとり空間を設けてほしい。

わたしの希望ですが、曲山にも桜の木を植えて 桜の名所を未来に繋げて行って欲しいです！ 大浜海岸

はとても綺麗で洲本で一番好きな場所です。洲本城の石垣も綺麗にしてくれていて 今はライトアップも素敵で、はやく石垣の整備が完成して欲しいと心待ちにしています。

【城下町・景観・まち全体のイメージ】

旧町名の復活もしくは旧町名に合わせた街づくり。城下町としての誇りを持った町づくり。

城下町の再現

観光もよし、地域にも住みたいと思うようなハワイのような島になってほしい。

ヨーロッパ各国のように自然と住宅を共存するイメージ。

【起業・誘致・大規模構想】

市長自ら先頭に立ち企業誘致し人口増加、図る。由良・上灘、山を切り開き、ディズニーランド、キャンプ場、バーベキュー場所のような企業を誘致する。

観光資源で他の2市に勝てないので、人を呼ぶことに特化したお店を誘致する(例えば KALDI や無印良品など他市にある確実に集客のあるお店)

淡路市のパソナではないが、洲本市だけでの開発は無理がある。日本企業に限らず、海外も含めたパートナーが必要。大学、高等学校や研究施設等も選択肢に入ると考える。

【その他(原文のまま・分類しにくいもの)】

カフェなど以外に衣類や雑貨などの販売店が欲しい。

人が集まりやすい広場としての活用。

若い人達の集まる所がない。イベントや飲食店でにぎわいが欲しい。

中心部に住居を増やして人口増。

北屋町の様に安く提供して下さる様に市は努力する。

夜間も歩いて行けるビューイングスポット。

中心市街地は死んでいると思う。手の施しようがないかも。一部だけでなく全体的に。

市の公民館をきれいな物にしてほしい。市民が一番多く利用している。日本一粗末だ。

問14

今後、洲本市の観光に関して改善してほしい点やアイデアがあれば教えてください。その他、ご意見やご要望がありましたらお聞かせください。

【雇用・若者・働く場・教育】

若人のために働ける会社を作ってほしい。

有償ボランティアがあれば参加したい。若者がUターンしたい町にしてほしい。

地元の人が観光以外でも働ける場(工場、会社等)が必要ではないかと思います。

洲本にも大学を建てて若い人が住んでほしい。また、卒業後も淡路に残って仕事ができる所があれば。

トライやるウィークで、子どもたちが「洲本で働きたい」「ずっと洲本に住み続けたい」と思える教育をしてほしい。

メインとなるものが少ないと思う。

若い人が本当に少ない。このままだと不安。もっと市役所が市民の暮らしを豊かにしてほしい。

洲本市にもっと楽しめる場所を作らないと、三市の中で取り残される。

過疎化が進み、子どもの姿が少なく活気がない。

高齢者が多く、若者がいなくなる町になっている。若者が集まる魅力ある町にしてほしい。

年配者向けの店ばかりでなく、若い家族向けの飲食店(駐車場付き)が必要。

中心市街地を無理に観光地化せず、若者が住める住宅地化も一つの方法。

子どもが室内で遊べる場所、小学生・中学生の居場所づくりが必要。

雨の日でも遊べる施設(プラネタリウム、科学館など)があれば、子育て世代にも観光客にも良い。

旅行先を決める際、子ども向けの遊び場があるかどうかは重要。

イオン再建に市も関わり、無印良品など大型店+公園・カフェを誘致してほしい。

【行政・市政・市の姿勢・ふるさと納税】

市は「お金がない」と言い過ぎで、市民への印象が悪い。

観光より先に、市民が楽しみ幸せを感じられるまちづくりが必要。

南あわじ市・淡路市に負けない洲本市の広報・PRが必要。

一過性のイベントではなく、文化や資産として残る取組に投資してほしい。

アンケート結果を公表してほしい。

河川や街の清掃が行き届いていない。

コミュニティバスの運行情報がわかりにくい。

人口減少の中で市議会議員の数が多いと感じる。

雇用につながる特産品開発や企業誘致による基盤づくりが必要。

防災の視点が弱い。

ふるさと納税や市政運営に不信感がある。

洲本市は以前は華やかな街だった。若い人を呼ばなければ衰退する。

観光だけに偏らない活性化策が必要。

抜本的な改革を求める。

観光施策の企画・広報は、専門性のある人材・団体が担うべき。

宿泊税導入、交通事業者の整理、HP刷新、デジタル化、歴史ガイド育成などを進めてほしい。

【観光・大浜・三熊山・海・山】

大浜から三熊山への観光リフトやロープウェイを設置してほしい。
観光客は「わかりやすい目玉」を求めている。
県農業試験場跡地を道の駅などに活用してほしい。
三熊山や先山など、軽登山ができる山をもっとPRしてほしい。
桜や紅葉を楽しめる、ゆっくり過ごせる場所が少ない。
観光ルート上に土産物と試食がまとまってあると便利。
観光客の昼食場所が少ない。
洲本～深日航路の定期化、和歌山方面への航路検討をしてほしい。
写真映えスポットや屋台、港周辺の夜のにぎわいが欲しい。
他地域の成功事例(公園、アート、キャラクター活用)を参考にしてほしい。
三市合同の「島まつり」を復活させてほしい。
洲本港に入浴施設や魚市場を整備してほしい。
市街地・大浜・三熊山を車なしで回れるエリアにほしい。
夏以外の季節も人を呼べる仕組みが必要。
わかりやすく集客できる観光施設が必要。

【温泉・入浴施設】

市民や観光客が気軽に使える日帰り温泉がない。
洲本温泉は高く、市民が利用しにくい。
旧市街地に大型銭湯・スーパー銭湯が必要。
五色まで行かないと入浴できないのは不便。
宿泊しなくても利用できる温泉施設がほしい。
道の駅と外湯の併設は必須。

【空き家・空き地・施設活用】

倒壊しそうな空き家が多く不安。
解体後の空き地が駐車場のままで寂しい。
点在する空き家より、まとまった空地整備が必要。
空き家・空き店舗は交流スペースや店舗に活用してほしい。
旧 Time after Time RE、アルチザンスクエア、炬口漁港の再活用を。
使われていない駐車場や公共スペースを有効活用すべき。

【商店街・城下町】

商店街には飲食・宿泊・キッズスペース・市場を集約できる可能性がある。
本町 7・8 丁目は特に活性化が必要。
アルチザンスクエア 1 階が空いているのは市の顔として問題。

歴史的景観や城下町の価値を大切にしてほしい。
古い町家のリノベーションで活性化できる。
旧町名(大工町・紺屋町など)を活かしたまちづくりを。
レトロこみちは評価が分かれている。

【交通】

市街地へのアクセスと駐車場整備が不十分。
バスセンターをもっと使いやすくしてほしい。
公共交通・レンタサイクルの利便性向上が必要。
自転車と車が安全に共存できる道路整備を。
高速バス料金が高く不便。

【ごみ・美化・安全】

大浜が汚い。
歩道の段差、街灯不足、雑草が多く危険。
河川や溝の清掃が不十分。
ゴミのポイ捨てが目立つ。
公園の清掃と遊具整備が必要。

【市民生活・住宅】

一人暮らし高齢者が住み続けられる住宅対策が必要。
観光より先に市民が住みやすい町にしてほしい。
イオン洲本店の空き店舗増加が不安。
市民の暮らしが楽しくなる施設を増やしてほしい。

【ドラクエ・コンテンツ】

ドラクエ記念碑をもっと活用・発信すべき。
ドラクエミュージアムや世界観を活かした施策が可能。
洲本城や海岸を使ったイベント・コスプレ企画。
VR・AR・プロジェクションマッピング活用。
スマホで歴史を体験できる仕組みがあれば良い。

2 クロス集計

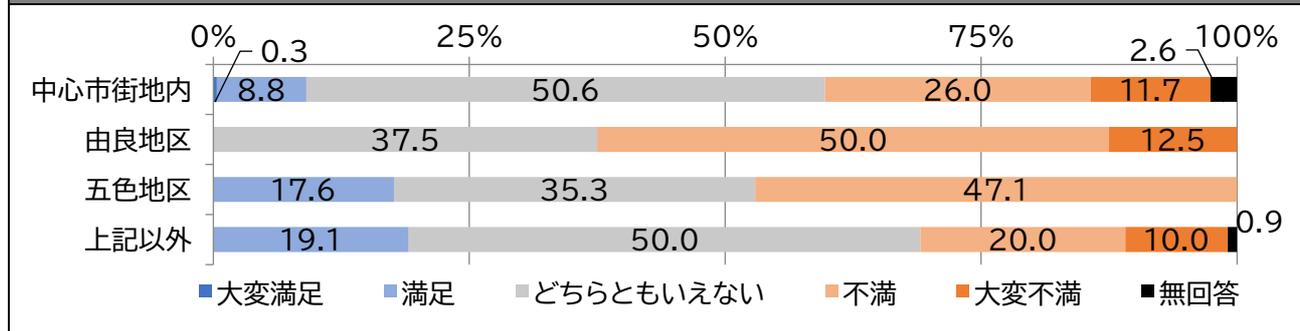
洲本市の観光や地域資源についてお答えください。

問1 洲本市の観光の取組について、あなたの満足度を1つ選び、その理由を教えてください

回答数(n) 446 回答方式 SA

中心市街地では「どちらともいえない」が 50.6%と半数を占め、肯定的回答は 9.1%、不満層は 37.7%である。一方、由良地区では「不満」50.0%と「大変不満」12.5%を合わせた不満層が 62.5%を占め、肯定的回答は 0.0%となっている。五色地区では「不満」47.1%が最も多く、「満足」17.6%、「どちらともいえない」35.3%という構成である。その他の地区では「どちらともいえない」が 50.0%と最多で、「満足」19.1%、「不満」20.0%、「大変不満」10.0%となっている。

グラフ

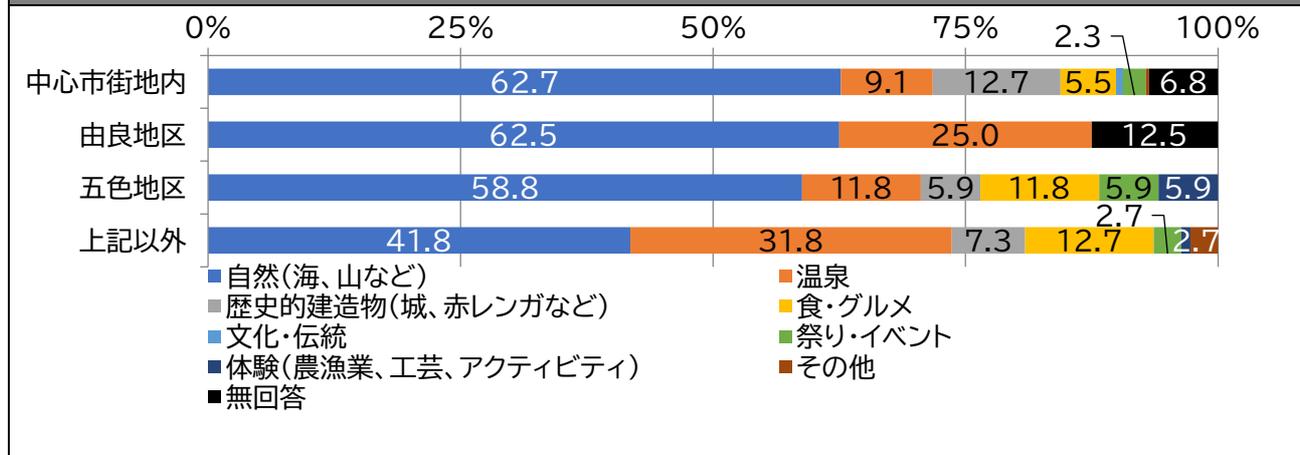


問2-1 洲本市の観光で、特に魅力を感じる資源は何ですか？以下の選択肢から1~3位まで選び、番号を記入してください。(1位)

回答数(n) 446 回答方式 SA

中心市街地では 自然が 62.7%と突出して高く、温泉は 9.1%にとどまっている。由良地区も 自然が 62.5%と最多で、次いで温泉が 25.0%を占め、他項目はほぼ選択されていない。五色地区では自然(58.8%)に加え、食・グルメ(11.8%)と温泉(11.8%)が同程度に選ばれている。一方、その他の地区では 自然が 41.8%と相対的に低く、温泉が 31.8%と高い割合を占めている点が特徴である。

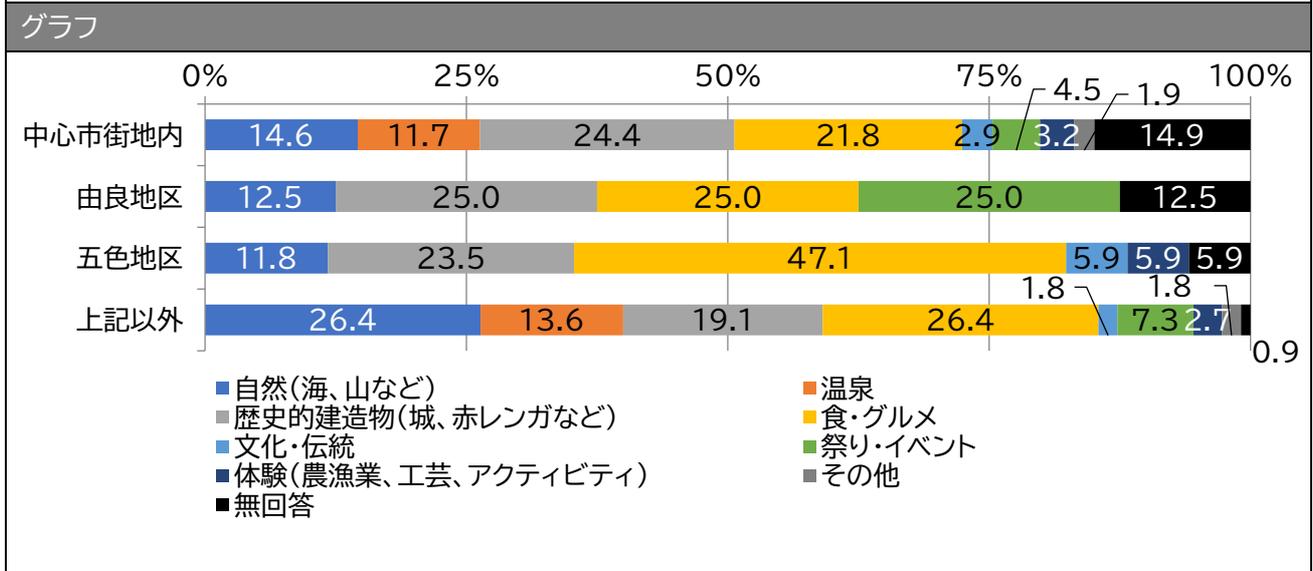
グラフ



問2-2 洲本市の観光で、特に魅力を感じる資源は何ですか？以下の選択肢から1～3位まで選び、番号を記入してください。(2位)

回答数(n) 446 回答方式 SA

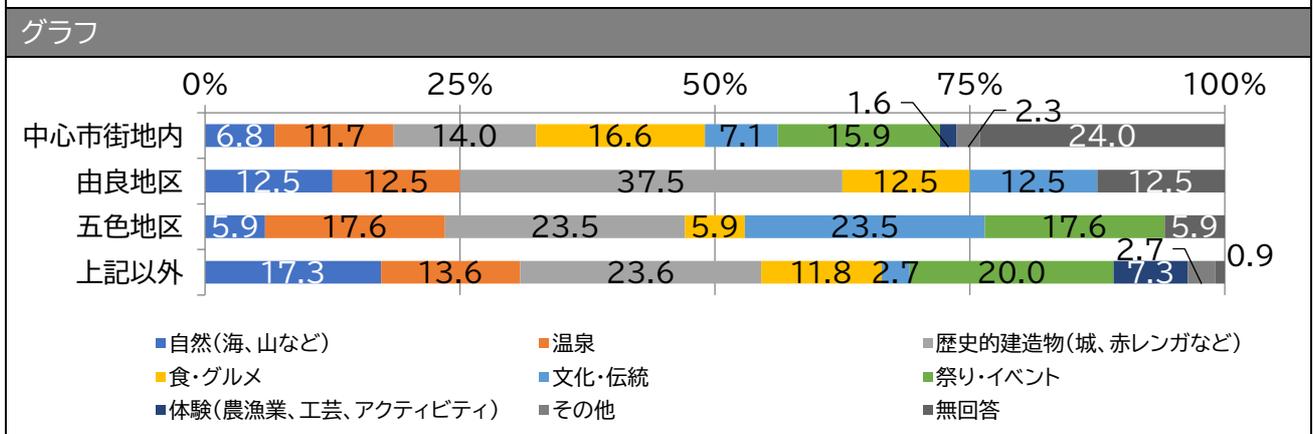
中心市街地では「歴史的建造物」24.4%と「食・グルメ」21.8%が相対的に高い。由良地区では「歴史的建造物」「食・グルメ」「祭り・イベント」がそれぞれ 25.0%と並び、項目が分散している。五色地区では「食・グルメ」が 47.1%と突出して高く、他項目との差が大きい。その他の地区では「自然」と「食・グルメ」がともに 26.4%と最も多い。



問2-3 洲本市の観光で、特に魅力を感じる資源は何ですか？以下の選択肢から1～3位まで選び、番号を記入してください。(3位)

回答数(n) 446 回答方式 SA

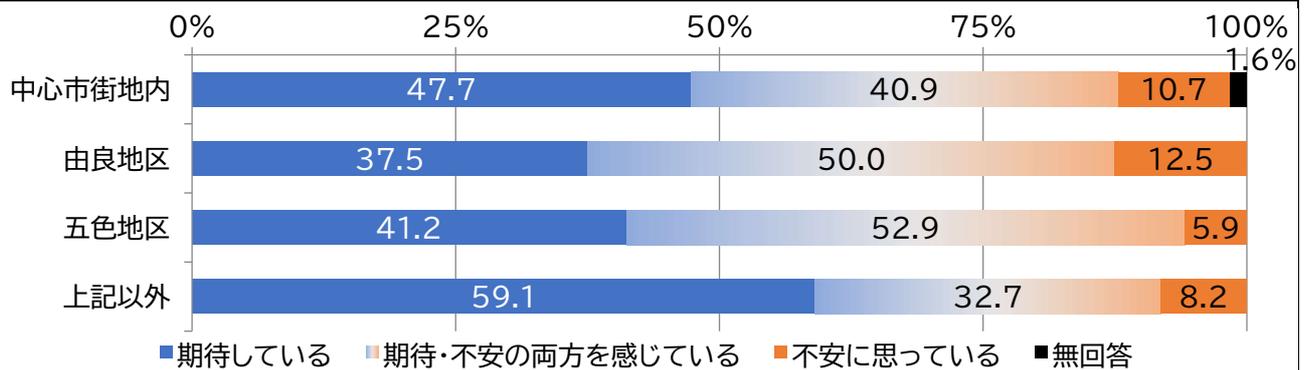
中心市街地では、「食・グルメ」16.6%、「祭り・イベント」15.9%、「歴史的建造物」14.0%、由良地区では、「歴史的建造物」が 37.5%と突出して高く、「自然」「温泉」「食・グルメ」「文化・伝統」がそれぞれ 12.5%で並ぶ。五色地区では、「歴史的建造物」と「文化・伝統」がともに 23.5%と高く、「温泉」「祭り・イベント」も 17.6%と比較的高い割合を示している。その他の地区では、「祭り・イベント」20.0%、「歴史的建造物」23.6%、「自然」17.3%が高く、資源評価が分散している。



問3	洲本市に観光客が増えることについて、どのように感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。		
回答数(n)	446	回答方式	SA

中心市街地では、「期待している」47.7%、「期待・不安の両方を感じている」40.9%と全体とほぼ同様の構成となっている。由良地区では、「期待・不安の両方を感じている」が 50.0%と最も高く、「期待している」は 37.5%にとどまっている。五色地区でも同様に、「期待・不安の両方を感じている」が 52.9%一方、その他の地区では「期待している」が 59.1%と最も高く、他地区と比べて期待感は相対的に強い。

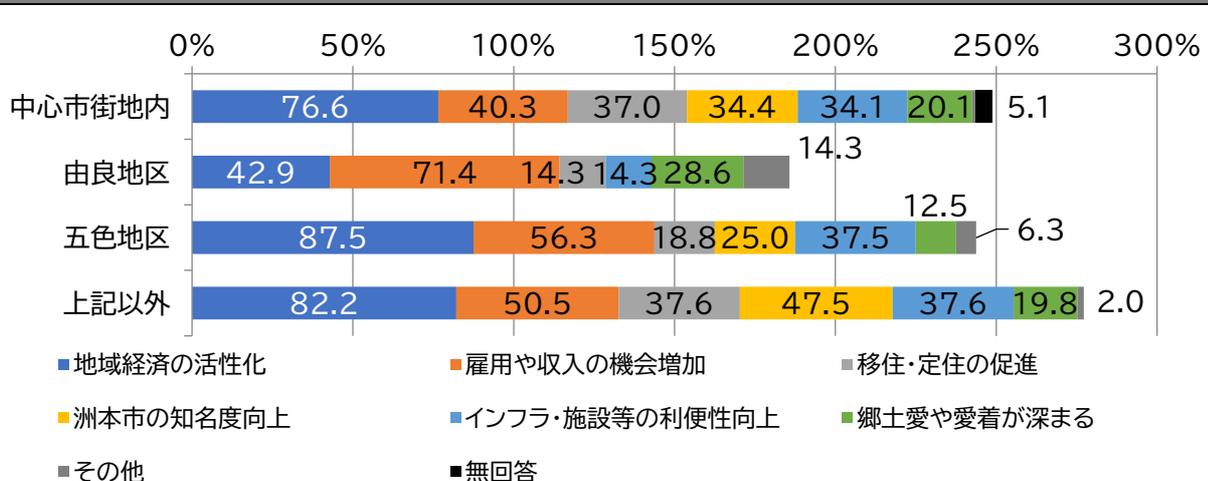
グラフ



問4	問3で回答した理由について、どのようなことに期待・不安を感じていますか。あてはまるものをすべて選んでください。(期待)		
回答数(n)	446	回答方式	MA

中心市街地では、「地域経済の活性化」76.6%、「雇用や収入の機会増加」40.3%、「移住・定住の促進」37.0%、「インフラ・施設等の利便性向上」34.1%と、全体とほぼ同様の割合構成である。由良地区では、「雇用や収入の機会増加」が 71.4%と最も高く、「地域経済の活性化」42.9%、「洲本市の知名度向上」0.0%となっている。五色地区では、「地域経済の活性化」87.5%、「雇用や収入の機会増加」56.3%、「インフラ・施設等の利便性向上」37.5%が高い。その他の地区では、「地域経済の活性化」82.2%に加え、「洲本市の知名度向上」47.5%が比較的高い。

グラフ



問 4 問3で回答した理由について、どのようなことに期待・不安を感じていますか。あてはまるものをすべて選んでください。(不安)

回答数(n) 446 回答方式 MA

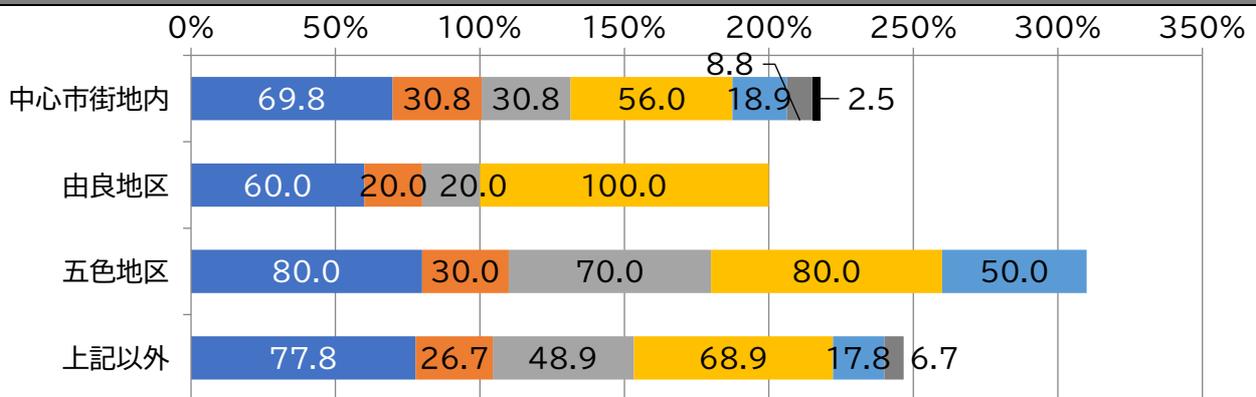
中心市街地では、「混雑や騒音等」69.8%、「交通状況悪化」56.0%が高く、全体と近い傾向を示している。

由良地区では、「道路渋滞等の交通状況悪化」が100.0%と突出して高く、他項目は相対的に低い。

五色地区では、「混雑や騒音等」80.0%、「交通状況悪化」80.0%に加え、「観光客とのトラブル増加」70.0%、「事故の危険性増加」50.0%と、複数の不安項目が高い。

その他の地区では、「混雑や騒音等」77.8%、「交通状況悪化」68.9%に加え、「観光客とのトラブル増加」48.9%が比較的高い。

グラフ



- 混雑や騒音、ゴミなど生活環境の変化
- 観光地化による地域らしさの喪失
- 観光客とのトラブル増加
- 道路渋滞等の交通状況悪化
- レンタカーや観光バス増加による事故の危険性増加
- その他
- 無回答

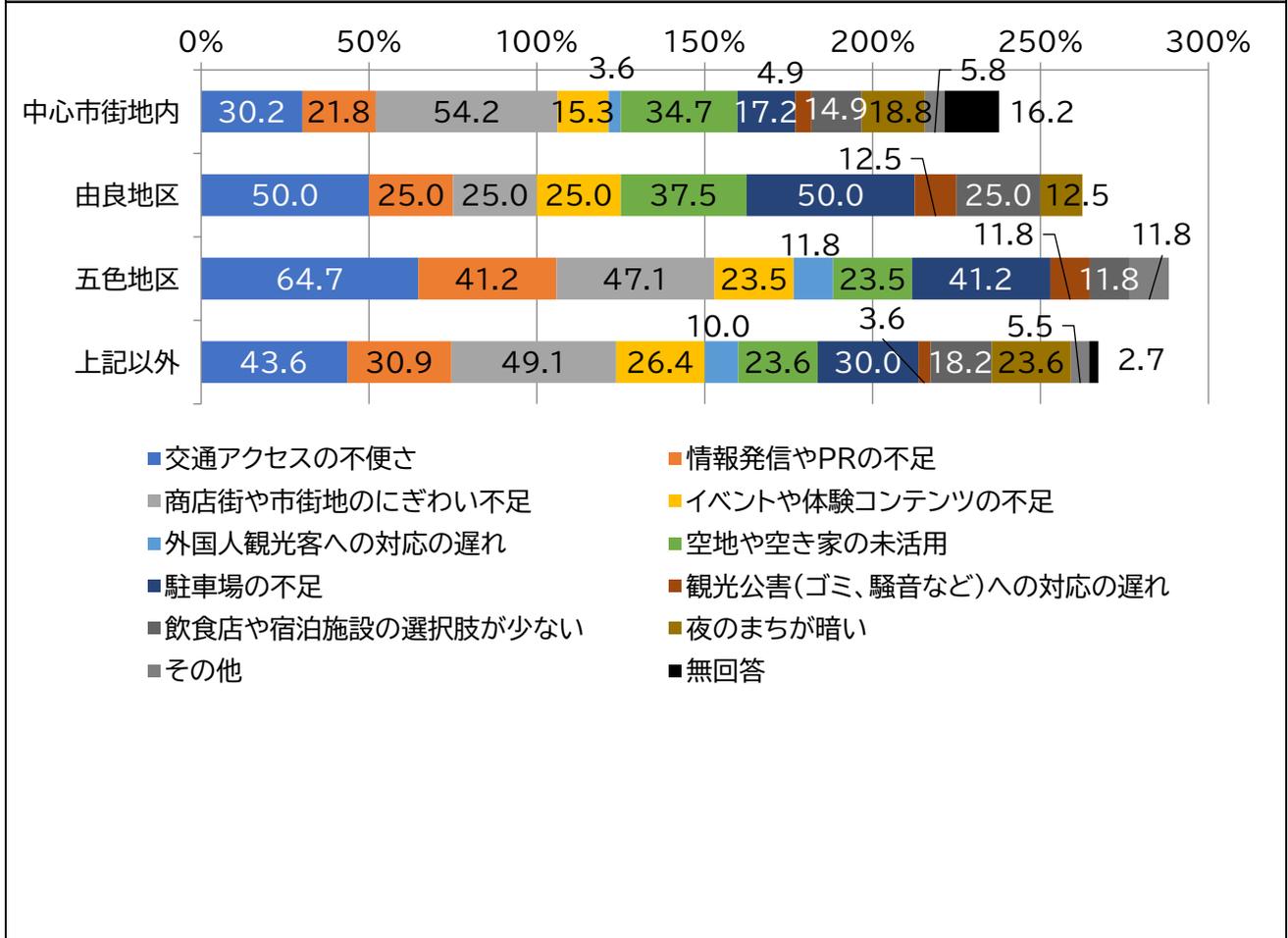
問5	観光振興に取り組むことが、市の発展につながると思えますか。																																															
回答数(n)	446	回答方式	SA																																													
<p>中心市街地では「思う」70.1%、「どちらともいえない」21.4%となっており、全体と近い構成である。由良地区では「思う」62.5%に対し、「思わない」25.0%と否定的回答の割合が他地区より高い。五色地区では「思う」70.6%が中心で、「どちらともいえない」29.4%と判断保留層が比較的多い。その他の地区では「思う」が80.9%と最も高く、肯定的な意見が際立っている。</p>																																																
グラフ																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>地区</th> <th>思う (%)</th> <th>どちらともいえない (%)</th> <th>思わない (%)</th> <th>無回答 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中心市街地内</td> <td>70.1</td> <td>21.4</td> <td>5.8</td> <td>2.6</td> </tr> <tr> <td>由良地区</td> <td>62.5</td> <td>12.5</td> <td>25.0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>五色地区</td> <td>70.6</td> <td>29.4</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>上記以外</td> <td>80.9</td> <td>14.5</td> <td>4.5</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				地区	思う (%)	どちらともいえない (%)	思わない (%)	無回答 (%)	中心市街地内	70.1	21.4	5.8	2.6	由良地区	62.5	12.5	25.0	0	五色地区	70.6	29.4	0	0	上記以外	80.9	14.5	4.5	0																				
地区	思う (%)	どちらともいえない (%)	思わない (%)	無回答 (%)																																												
中心市街地内	70.1	21.4	5.8	2.6																																												
由良地区	62.5	12.5	25.0	0																																												
五色地区	70.6	29.4	0	0																																												
上記以外	80.9	14.5	4.5	0																																												
問6	観光振興のために地域住民としてどのような協力や参加が可能だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。																																															
回答数(n)	446	回答方式	MA																																													
<p>中心市街地でも同様に「清掃・保全活動」(50.0%)が最多で、「観光 PR」(34.7%)、「イベント運営」(33.4%)が続く構成となっている。由良地区では「SNS 等による情報発信・観光 PR」が75.0%と突出して高く、他の項目は相対的に低い。五色地区では「清掃・保全活動」(58.8%)と「観光 PR」(47.1%)が中心で、環境維持への関心が強い傾向がみられる。その他の地区では「観光 PR」(56.4%)、「イベント運営」(41.8%)、「清掃・保全活動」(45.5%)と幅広い関わり方に意欲が示されている。</p>																																																
グラフ																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>地区</th> <th>海・山・川の自然ガイド (%)</th> <th>歴史や文化の語り部 (%)</th> <th>清掃や維持管理、保全活動 (%)</th> <th>SNS等による情報発信、観光PR (%)</th> <th>観光客との交流、ワークショップ等の提供 (%)</th> <th>観光イベントや地域行事の運営サポート (%)</th> <th>その他 (%)</th> <th>無回答 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中心市街地内</td> <td>24.0</td> <td>15.6</td> <td>50.0</td> <td>34.7</td> <td>14.9</td> <td>33.4</td> <td>6.5</td> <td>8.1</td> </tr> <tr> <td>由良地区</td> <td>12.5</td> <td>25.0</td> <td>12.5</td> <td>75.0</td> <td>12.5</td> <td>12.5</td> <td>0</td> <td>12.5</td> </tr> <tr> <td>五色地区</td> <td>5.9</td> <td>11.8</td> <td>58.8</td> <td>47.1</td> <td>17.6</td> <td>29.4</td> <td>0</td> <td>5.9</td> </tr> <tr> <td>上記以外</td> <td>16.4</td> <td>17.3</td> <td>45.5</td> <td>56.4</td> <td>24.5</td> <td>41.8</td> <td>4.5</td> <td>0.9</td> </tr> </tbody> </table>				地区	海・山・川の自然ガイド (%)	歴史や文化の語り部 (%)	清掃や維持管理、保全活動 (%)	SNS等による情報発信、観光PR (%)	観光客との交流、ワークショップ等の提供 (%)	観光イベントや地域行事の運営サポート (%)	その他 (%)	無回答 (%)	中心市街地内	24.0	15.6	50.0	34.7	14.9	33.4	6.5	8.1	由良地区	12.5	25.0	12.5	75.0	12.5	12.5	0	12.5	五色地区	5.9	11.8	58.8	47.1	17.6	29.4	0	5.9	上記以外	16.4	17.3	45.5	56.4	24.5	41.8	4.5	0.9
地区	海・山・川の自然ガイド (%)	歴史や文化の語り部 (%)	清掃や維持管理、保全活動 (%)	SNS等による情報発信、観光PR (%)	観光客との交流、ワークショップ等の提供 (%)	観光イベントや地域行事の運営サポート (%)	その他 (%)	無回答 (%)																																								
中心市街地内	24.0	15.6	50.0	34.7	14.9	33.4	6.5	8.1																																								
由良地区	12.5	25.0	12.5	75.0	12.5	12.5	0	12.5																																								
五色地区	5.9	11.8	58.8	47.1	17.6	29.4	0	5.9																																								
上記以外	16.4	17.3	45.5	56.4	24.5	41.8	4.5	0.9																																								

問7 洲本市の観光の課題は何だと思いますか。特にあてはまるものを3つまで選んでください。

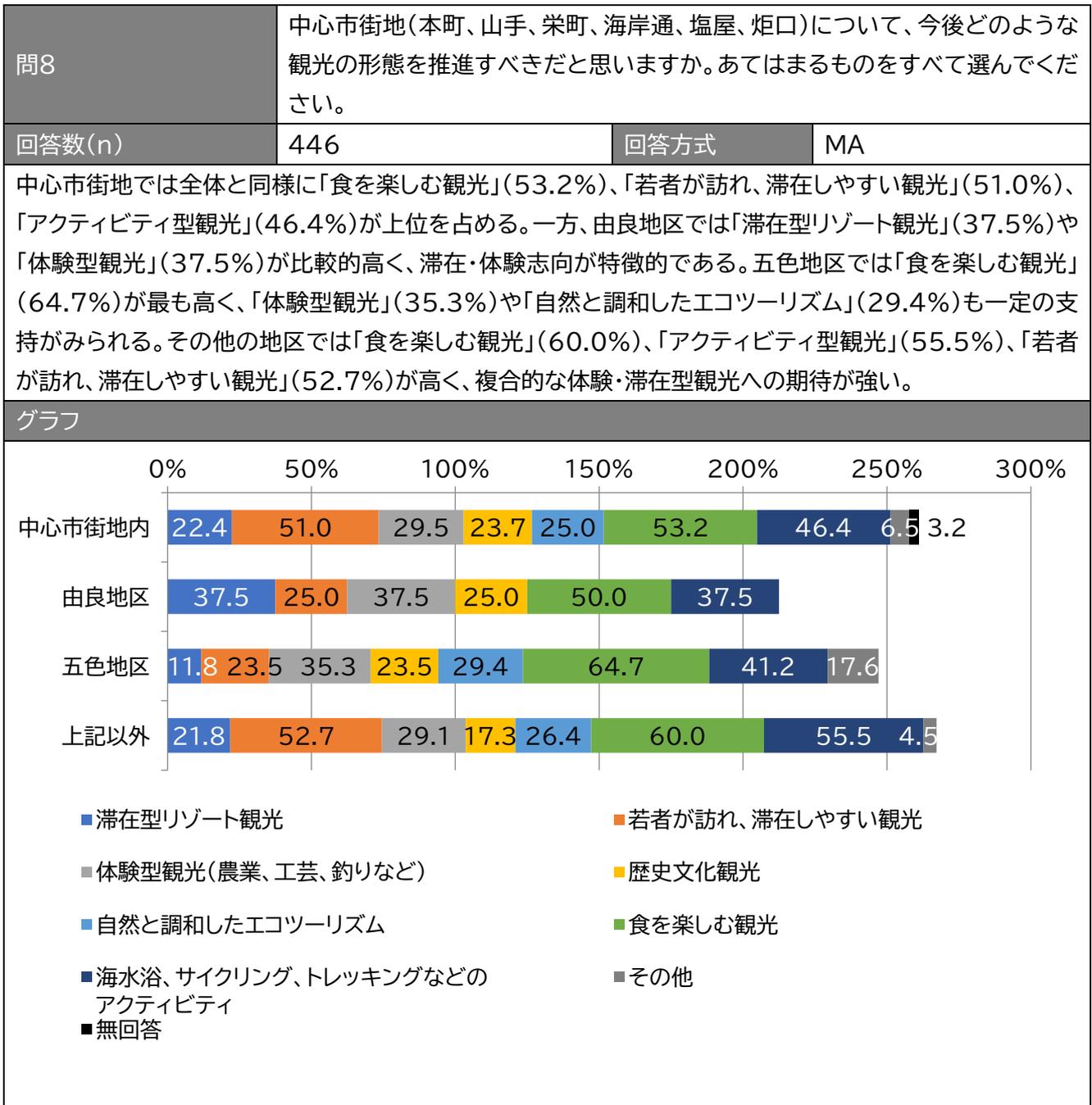
回答数(n) 446 回答方式 MA

中心市街地では「商店街や市街地のにぎわい不足」が 54.2%と突出して高く、「空地や空き家の未活用」(34.7%)も上位に挙げられている。一方、由良地区では「交通アクセスの不便さ」(50.0%)と「駐車場の不足」(50.0%)が特に高く、移動や受入環境への不満が顕著である。五色地区では「交通アクセスの不便さ」(64.7%)、「情報発信や PR の不足」(41.2%)、「商店街や市街地のにぎわい不足」(47.1%)が高い。その他の地区では「商店街や市街地のにぎわい不足」(49.1%)、「交通アクセスの不便さ」(43.6%)、「イベントや体験コンテンツの不足」(26.4%)など、複合的な課題が挙げられている。

グラフ



3 中心市街地の遊休地等(未利用の公有資産や既存の地域資源)についてお答えください。

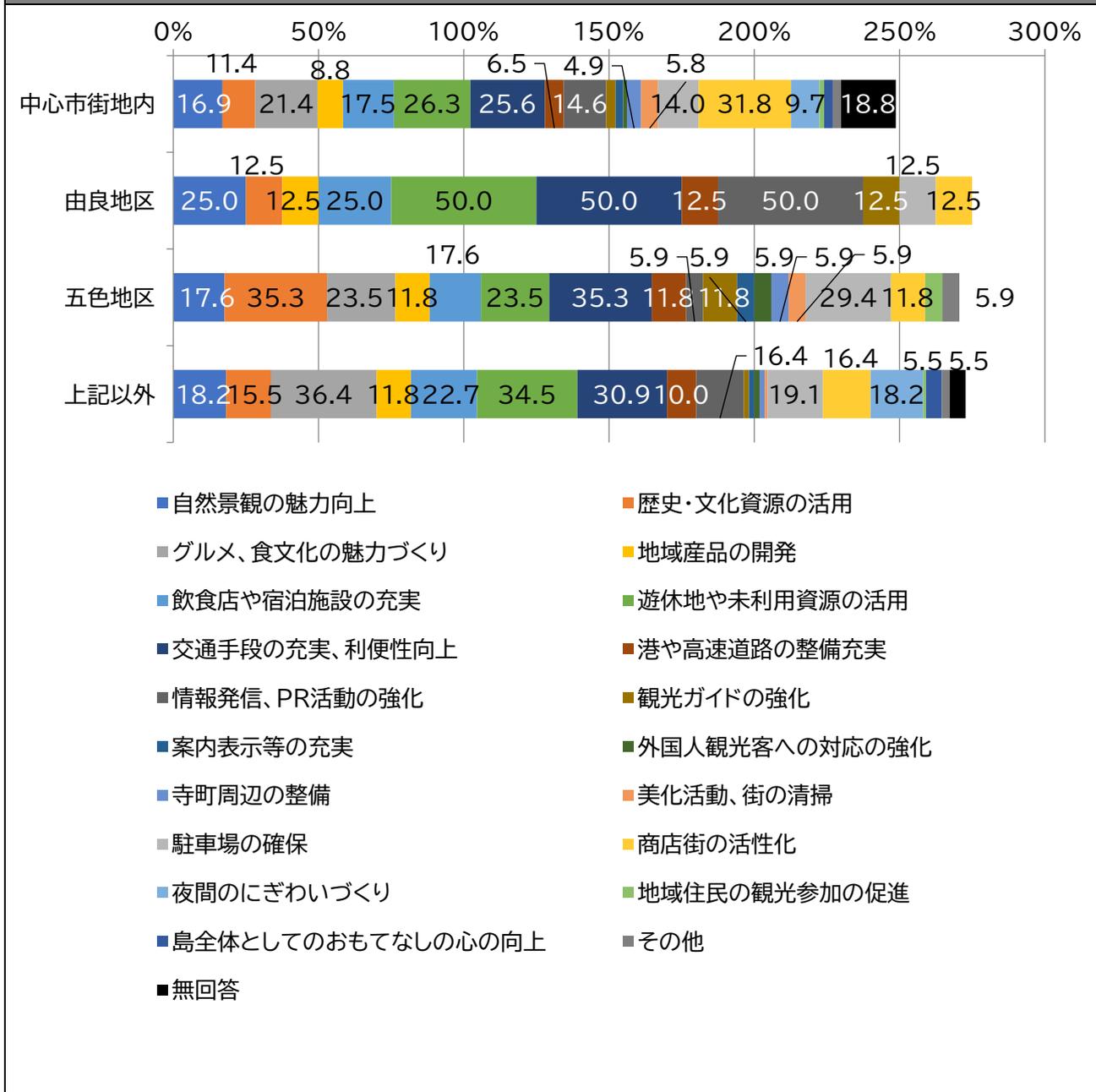


問9 中心市街地の魅力的な観光地域づくりを進めていくためには、何が必要であると思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

回答数(n) 446 回答方式 MA

中心市街地では特に「商店街の活性化」(31.8%)が最も高く、次いで「遊休地や未利用資源の活用」(26.3%)、「交通手段の充実」(25.6%)が続く。由良地区では「遊休地や未利用資源の活用」「交通手段の充実」「情報発信・PR強化」がいずれも50.0%と突出しており、立地条件やアクセス改善を前提とした観光基盤整備が重視されている。五色地区では「歴史・文化資源の活用」(35.3%)と「交通手段の充実」(35.3%)、「駐車場の確保」(29.4%)が高く、その他の地区では「グルメ・食文化の魅力づくり」(36.4%)、「遊休地や未利用資源の活用」(34.5%)、「交通手段の充実」(30.9%)が高い。

グラフ

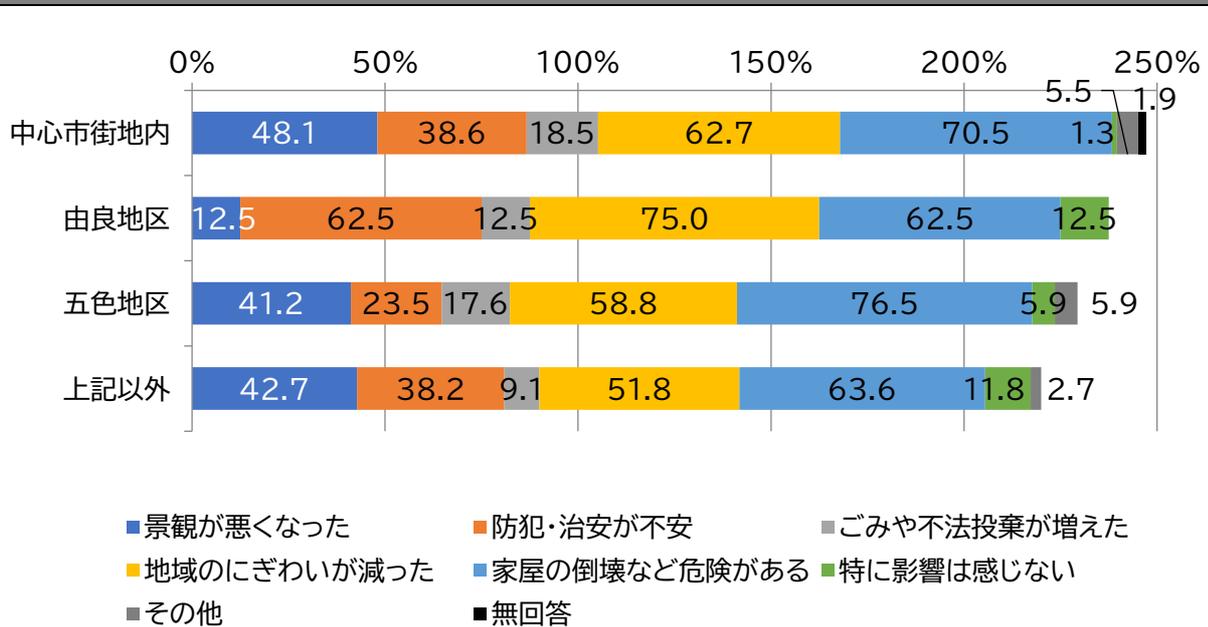


問 10	中心市街地では、空き家・空地が年々増加傾向にあります。空き家・空地の増加により、感じている影響はありますか。あてはまるものをすべて選んでください。		
------	---	--	--

回答数(n)	446	回答方式	MA
--------	-----	------	----

中心市街地では「家屋の倒壊など危険がある」(70.5%)と「地域のにぎわいが減った」(62.7%)が特に高く、景観悪化(48.1%)も含め、空き家・空き地の集積による複合的な影響が表れている。由良地区では「地域のにぎわいが減った」(75.0%)と「防犯・治安が不安」(62.5%)が目立つ。五色地区では「家屋の倒壊など危険がある」(76.5%)が突出しており、物理的な安全性への懸念が中心である。その他の地区でも「家屋の倒壊など危険がある」(63.6%)と「地域のにぎわいが減った」(51.8%)が過半数を占め、広範囲で共通する課題となっている。

グラフ

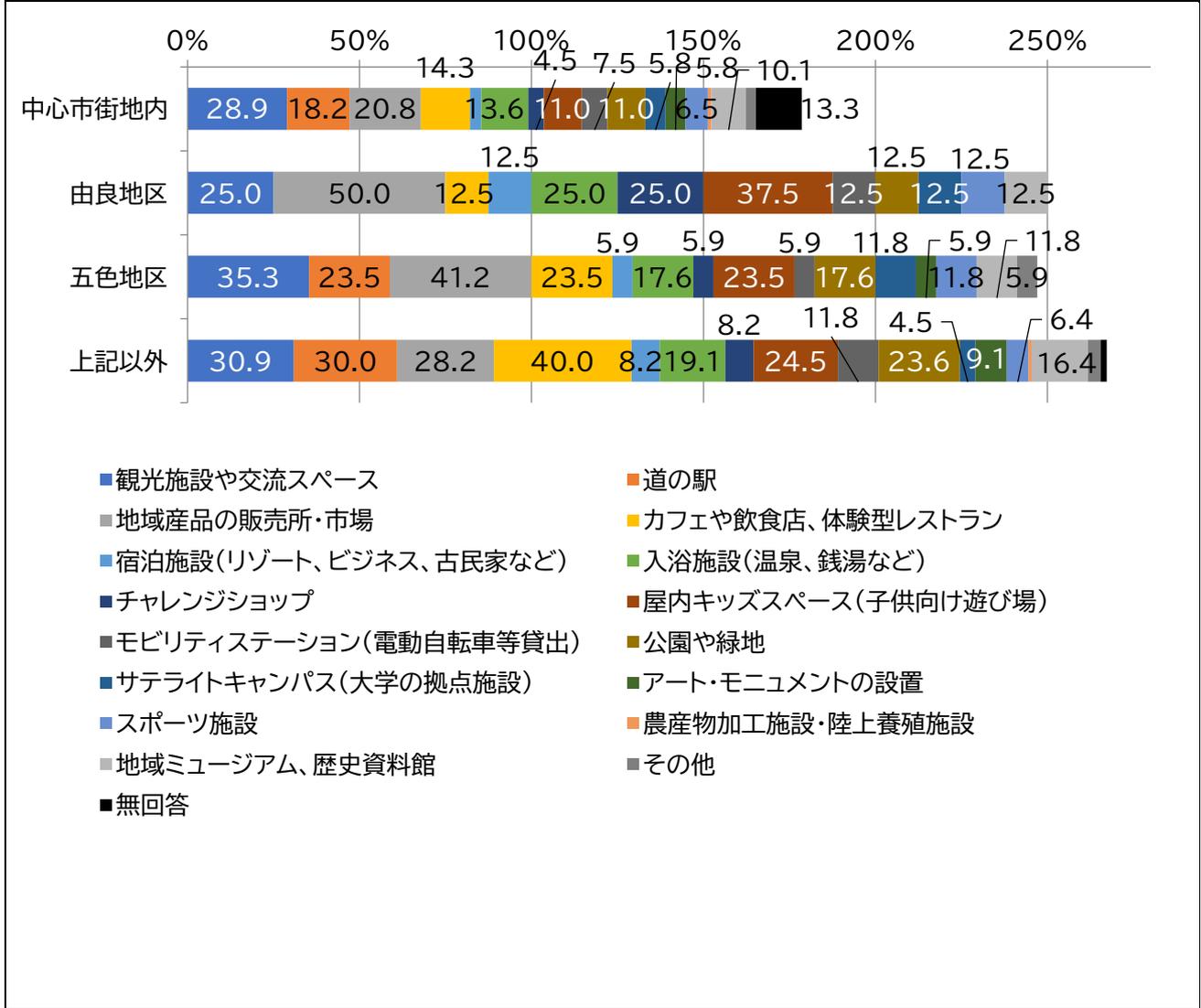


問 11 中心市街地の各エリアに点在する遊休地や地域資源について、どのような用途での活用が望ましいと思いますか。それぞれあてはまる番号をすべて記入してください。(旧鐘紡工場跡地周辺)

回答数(n) 446 回答方式 MA

中心市街地では「観光施設や交流スペース」(28.9%)が最も高い一方、「カフェや飲食店」(14.3%)や「屋内キッズスペース」(11.0%)は全体より低い。由良地区では「地域製品の販売所・市場」(50.0%)が突出し、「屋内キッズスペース」(37.5%)や「入浴施設」(25.0%)も高く、五色地区では「観光施設や交流スペース」(35.3%)と「地域製品の販売所・市場」(41.2%)が高い。その他の地区では「カフェや飲食店、体験型レストラン」(40.0%)が最も高く、「道の駅」(30.0%)、「公園や緑地」(23.6%)も比較的高くなっている。

グラフ



問 11 中心市街地の各エリアに点在する遊休地や地域資源について、どのような用途での活用が望ましいと思いますか。それぞれあてはまる番号をすべて記入してください。(炬口漁港公園周辺)

回答数(n) 446 回答方式 MA

中心市街地は「農産物加工施設・陸上養殖施設」(22.7%)と「道の駅」(24.0%)が比較的高い。一方、由良地区では「道の駅」(62.5%)が突出して高く、「入浴施設」「公園や緑地」「農産物加工施設」(いずれも25.0%)が続き、五色地区では「道の駅」(41.2%)と「地域製品の販売所・市場」(35.3%)が高く、「公園や緑地」(23.5%)も一定の支持を集めている。その他の地区では「カフェや飲食店、体験型レストラン」(30.0%)、「道の駅」(34.5%)、「地域製品の販売所・市場」(28.2%)が高くなっている。

グラフ

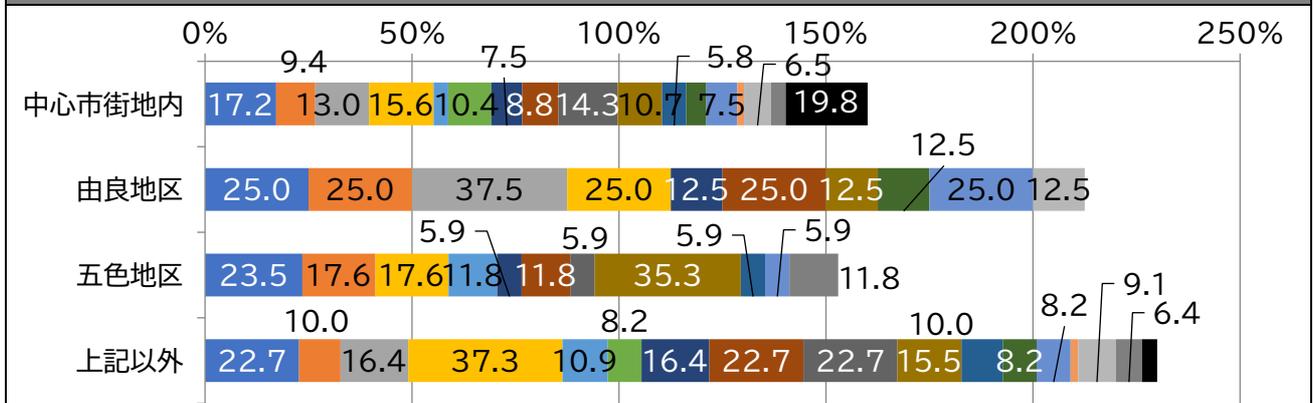


問 11 中心市街地の各エリアに点在する遊休地や地域資源について、どのような用途での活用が望ましいと思いますか。それぞれあてはまる番号をすべて記入してください。(洲本市役所周辺)

回答数(n) 446 回答方式 MA

中心市街地は「観光施設や交流スペース」(17.2%)が最も高く、「カフェや飲食店、体験型レストラン」(15.6%)、「モビリティステーション」(14.3%)が続く。一方、由良地区では「地域製品の販売所・市場」(37.5%)が最も高く、「観光施設や交流スペース」「道の駅」「カフェや飲食店」「屋内キッズスペース」「スポーツ施設」(いずれも 25.0%)が並び、五色地区では「公園や緑地」(35.3%)が突出して高く、「観光施設や交流スペース」「道の駅」「カフェや飲食店」(各 17.6%)が続き、その他の地区では「カフェや飲食店、体験型レストラン」(37.3%)が最も高く、「屋内キッズスペース」「モビリティステーション」「観光施設や交流スペース」(各 22.7%)が続いている。

グラフ



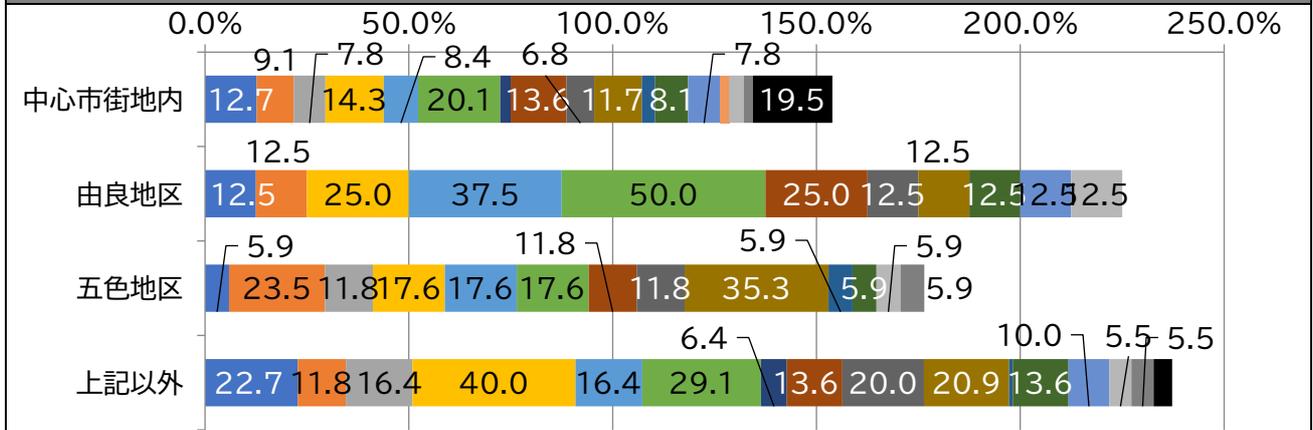
- 観光施設や交流スペース
- 道の駅
- 地域製品の販売所・市場
- カフェや飲食店、体験型レストラン
- 宿泊施設(リゾート、ビジネス、古民家など)
- 入浴施設(温泉、銭湯など)
- チャレンジショップ
- 屋内キッズスペース(子供向け遊び場)
- モビリティステーション(電動自転車等貸出)
- 公園や緑地
- サテライトキャンパス(大学の拠点施設)
- アート・モニュメントの設置
- スポーツ施設
- 農産物加工施設・陸上養殖施設
- 地域ミュージアム、歴史資料館
- その他
- 無回答

問 11 中心市街地の各エリアに点在する遊休地や地域資源について、どのような用途での活用が望ましいと思いますか。それぞれあてはまる番号をすべて記入してください。(大浜公園周辺)

回答数(n) 446 回答方式 MA

中心市街地は「入浴施設(温泉、銭湯など)」(20.1%)が最も高く、「カフェや飲食店、体験型レストラン」(14.3%)、「屋内キッズスペース」(13.6%)が続いている。由良地区では「入浴施設(温泉、銭湯など)」(50.0%)と「宿泊施設」(37.5%)が突出して高く、「カフェや飲食店」「屋内キッズスペース」(各25.0%)も挙がっている。五色地区では「公園や緑地」(35.3%)が最も高く、「道の駅」「カフェや飲食店」「宿泊施設」「入浴施設」(各17.6%)が並び、その他の地区では「カフェや飲食店、体験型レストラン」(40.0%)が突出して高く、「入浴施設」(29.1%)、「公園や緑地」(20.9%)、「モビリティステーション」(20.0%)が続く。

グラフ



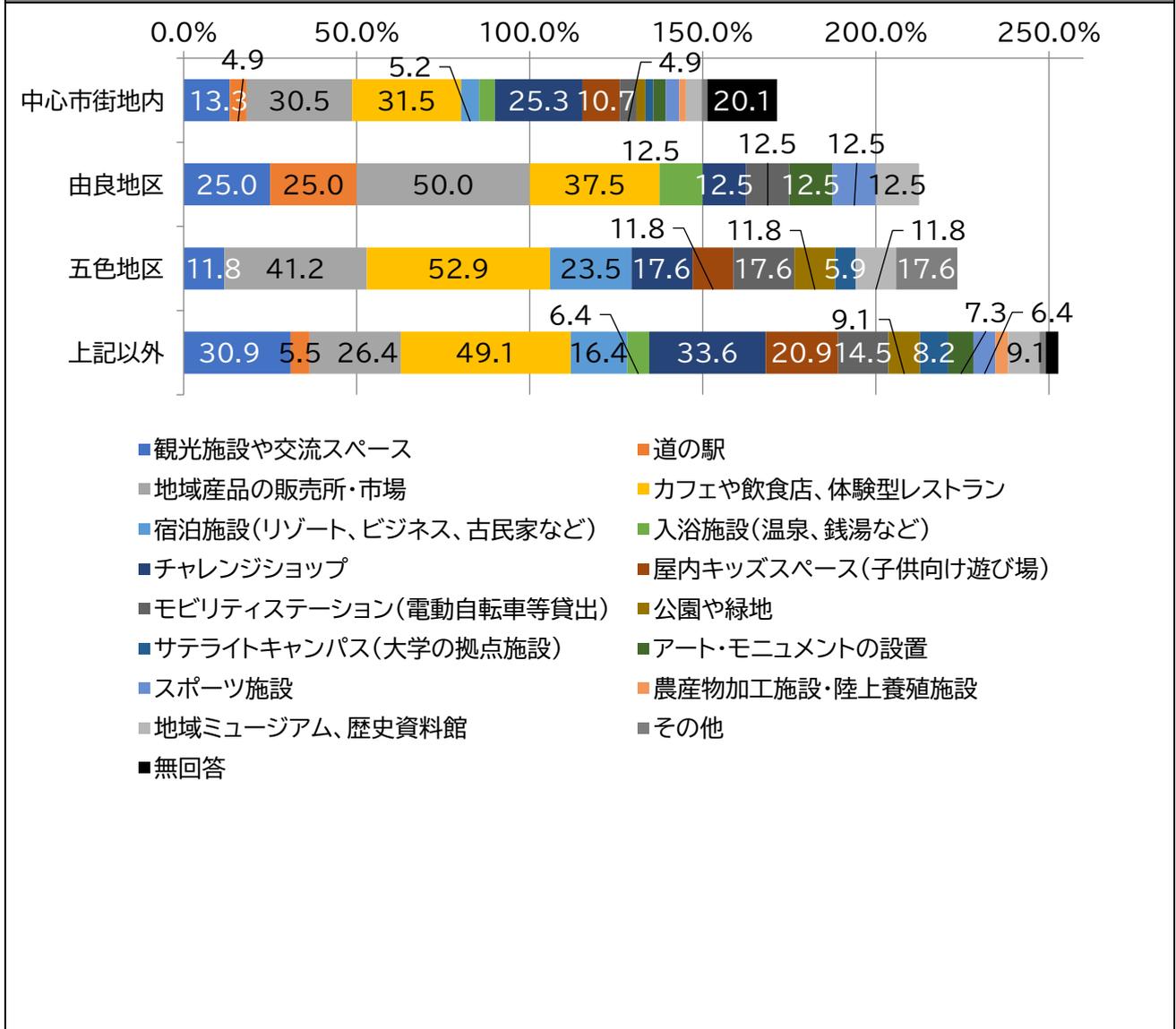
- 観光施設や交流スペース
- 道の駅
- 地域産品の販売所・市場
- カフェや飲食店、体験型レストラン
- 宿泊施設(リゾート、ビジネス、古民家など)
- 入浴施設(温泉、銭湯など)
- チャレンジショップ
- 屋内キッズスペース(子供向け遊び場)
- モビリティステーション(電動自転車等貸出)
- 公園や緑地
- サテライトキャンパス(大学の拠点施設)
- アート・モニュメントの設置
- スポーツ施設
- 農産物加工施設・陸上養殖施設
- 地域ミュージアム、歴史資料館
- その他
- 無回答

問 11 中心市街地の各エリアに点在する遊休地や地域資源について、どのような用途での活用が望ましいと思いますか。それぞれあてはまる番号をすべて記入してください。(商店街エリア)

回答数(n) 446 回答方式 MA

中心市街地は「カフェや飲食店、体験型レストラン」(31.5%)と「地域産品の販売所・市場」(30.5%)が高く、「チャレンジショップ」(25.3%)も比較的多い。由良地区では「地域産品の販売所・市場」(50.0%)と「カフェや飲食店、体験型レストラン」(37.5%)が中心で、「観光施設や交流スペース」「道の駅」(各25.0%)も挙がっており、五色地区では「カフェや飲食店、体験型レストラン」(52.9%)が突出して高く、「地域産品の販売所・市場」(41.2%)、「宿泊施設」(23.5%)が続き、その他の地区では「カフェや飲食店、体験型レストラン」(49.1%)、「チャレンジショップ」(33.6%)、「観光施設や交流スペース」(30.9%)が高い。

グラフ

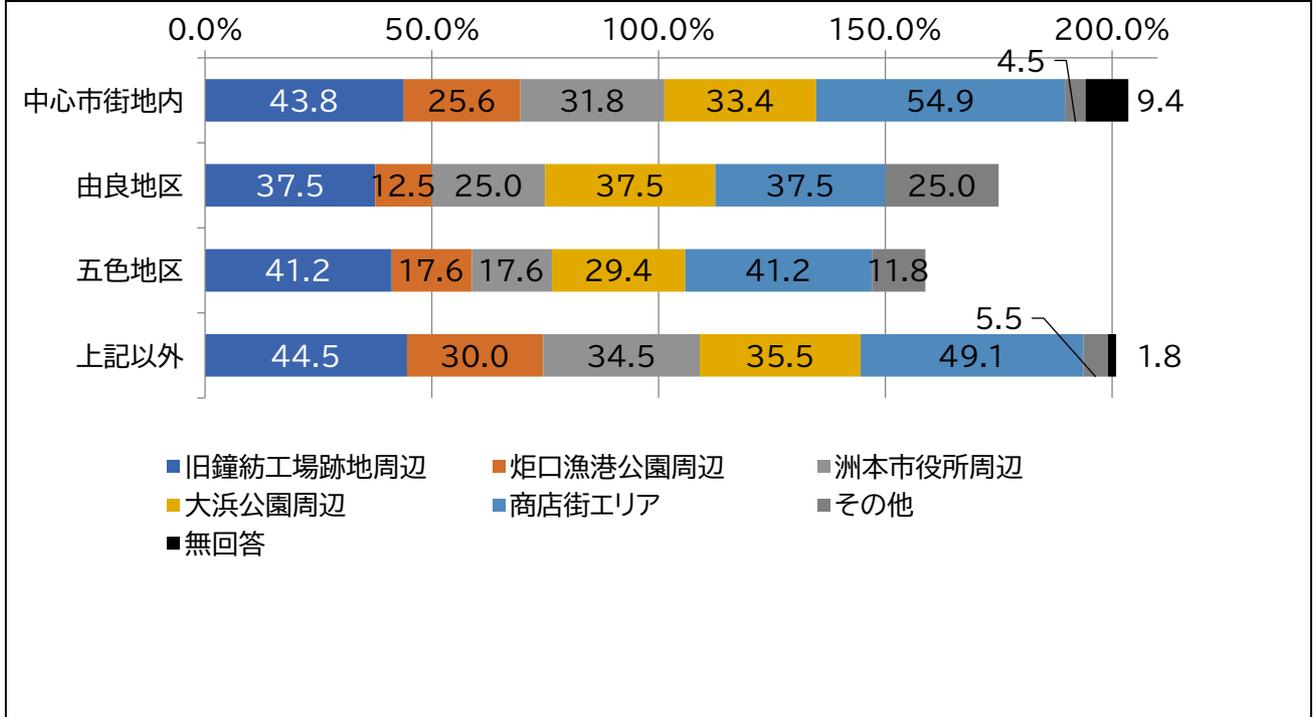


問 12 問11で回答した各エリアのうち、特に活用を推進すべきだと考えるエリアについて、あてはまるものをすべて選んでください。

回答数(n) 446 回答方式 SA

中心市街地は「商店街エリア」(54.9%)が最も高く、「旧鐘紡工場跡地周辺」(43.8%)、「大浜公園周辺」(33.4%)、「洲本市役所周辺」(31.8%)が続いており、由良地区では「商店街エリア」「大浜公園周辺」「旧鐘紡工場跡地周辺」が各 37.5%で並び、五色地区では「商店街エリア」「旧鐘紡工場跡地周辺」(各 41.2%)が比較的高く、市街地核への関心を示しつつも、「大浜公園周辺」(29.4%)など観光拠点との連動も意識されている。その他の地区では「商店街エリア」(49.1%)が最も高く、「旧鐘紡工場跡地周辺」(44.5%)、「大浜公園周辺」(35.5%)、「洲本市役所周辺」(34.5%)が続く。

グラフ



■まとめ

洲本市中心市街地における遊休地や未利用資産の活用方針検討に向けて、市民の意識を把握するために実施したアンケート調査(回答数 446 件)の結果をまとめたものである。回答者属性としては、70 代以上が 35%と高齢層の比率が高く、居住地は中心市街地が 69.1%を占めるなど、市街地住民の意見が多く反映された構成となっている。

まず、洲本市の観光施策に対する満足度では、「どちらともいえない」が約半数を占め、肯定的評価は 11.9%にとどまった。一方で不満層は 36.6%と一定数存在し、特に由良地区では不満が 62.5%と高い。自由記述では、「観光資源の不足」「PR 不足」「市街地のにぎわい低下」「若者向けスポットの不足」「各市との比較による遅れ」といった課題意識が強く示された。

観光で魅力を感じる資源としては、「自然(海・山)」が 57.2%で突出して最も高く、次いで温泉や歴史的建造物、食・グルメが続く。自然環境が洲本市の核となる魅力として市民に認識されている一方、文化・伝統や体験型資源への評価は低く、多様な観光コンテンツの不足がうかがえる。

観光客の増加については、「期待している」が 50.2%と半数を超え、「期待と不安の両方」が 39.5%と続く。期待の内容としては、「地域経済の活性化」(77.8%)、「雇用機会の増加」(44.0%)、「知名度向上」や「移住・定住促進」など、地域振興へのポジティブな影響が多く挙げられた。一方、不安としては「混雑・ゴミ・騒音」など生活環境の悪化(71.8%)、「交通渋滞」(60.9%)、「観光客とのトラブル」などが指摘され、市民生活との調和を重視する意識が読み取れる。

観光振興が市の発展につながるかについては、72.6%が「思う」と回答し、総じて前向きな姿勢が示された。ただし、住民参加の在り方については意見が分かれ、「清掃や保全活動」(48.9%)や「SNS による発信」(41.3%)などの協力意向がある一方、「住民だけが負担すべきではない」「行政主導の施策が必要」との声も寄せられた。

観光の課題として最も多く挙げられたのは「商店街・市街地のにぎわい不足」(52.2%)であり、次いで「交通アクセスの不便さ」「空地・空き家の未活用」「情報発信不足」などが続く。これらの課題は、中心市街地の衰退と密接に関係しており、都市機能の回復が求められている。

中心市街地で推進すべき観光形態としては、「食を楽しむ観光」(55.4%)、「若者が訪れ滞在しやすい観光」(50.0%)、「海水浴・サイクリング・トレッキングなどのアクティビティ」(48.0%)が上位となった。食、自然、アクティビティといった既存の強みを生かしつつ、若者・ファミリー層が楽しめる内容を求める声が顕著である。

また、魅力的な観光地域づくりのために必要な施策として、「遊休地や未利用資産の活用」(28.5%)、「商店街の活性化」(26.9%)、「交通手段の充実」(27.6%)が上位を占めたほか、「グルメ・食文化の魅力づくり」や「飲食・宿泊の充実」といった需要も確認された。

空き家・空地の増加による影響では、「家屋倒壊の危険」(68.8%)、「にぎわい減少」(59.9%)、「景観悪化」(46.0%)など、生活環境や治安への懸念が強く示された。これは、観光以前に「住みやすさ」を回復することの重要性を示す結果といえる。

遊休地の活用については、旧鐘紡工場跡地、炬口漁港、大浜公園、市役所周辺、商店街エリアなどに対し、住民から具体的な提案が多数寄せられた。特に多かったのは、「カフェ・飲食店」「地域産品の市場」「道の駅」「入浴施設」「キッズスペース」など、観光客と市民の双方が利用できる施設である。また、商店街では「チャレンジショップ」や「若者向け店舗」など、新たな起業を後押しする仕組みへの期待も大きい。

さらに自由記述では、「ドラクエ関連資源の活用」「三熊山のアスレチック復活」「海沿いの夜間にぎわいづくり」「城下町としての景観づくり」「交通インフラ改善」「企業誘致や若者向け雇用創出」など、観光と都市機能の両立を求める多様な意見が寄せられた。

総じて、洲本市における最大の課題は「中心市街地のにぎわい回復」と「遊休地・空き家の活用」であり、同時に「食・自然・歴史」を軸とした観光の魅力づくり、若者・子育て世代のための環境整備が求められている。市民は観光振興に期待を寄せつつも、生活環境との調和や持続可能な発展を強く意識しており、今後のまちづくりにおいては、これらのバランスを取りながら施策を進めることが重要である。

4. 調査分析及び活用に向けた構想

(1) 調査内容の分析

中心市街地全体および、今後空家・空地の活用が期待されるエリアごとに SWOT 分析を行う。

■SWOT 分析：

現状を把握し、戦略策定に役立てるためのフレームワーク。内部環境の「強み (Strengths)」と「弱み (Weaknesses)」、外部環境の「機会 (Opportunities)」と「脅威 (Threats)」を分析することで、課題や可能性を把握し、より効果的な戦略を立てることができる。

■中心市街地全体

■Strengths (強み)

- 昼間(10:00~15:30)に来訪ピークが明確で、日中回遊を設計しやすい。
- 男女比は概ね半々で、幅広い層にリーチできる。
- 70 代以上が約 1/4 と高齢層需要が厚い(健康/温泉・落ち着いた滞在に親和)。
- 来訪者のリピーター率が 40%と比較的高く、関係人口化のポテンシャルがある。
- 兵庫県内(淡路島内 3 市)を中心に、大阪・徳島など近隣広域から安定的な来訪がある。
- 高速バス・自動車・空港連絡・週末フェリー等、複線なアクセス手段が整っている。
- 洲本市は「宿泊客の割合が高い」構造で、滞在型への展開余地が大きい。
- 市外からの目的上位に「温泉・健康」「都市型観光(買い物・食)」が並び、まちなか滞在与親和性が高い。
- 季節的ピーク(夏・年末)や曜日(主に金・土)が把握でき、需要平準化の設計基盤がある。
- 地区ごとの役割差(昼/夕/夜・平日/週末)が明確で、周遊設計の核となる。

■Weaknesses (弱み)

- 若年層(20 代)の比率が相対的に低く、若者向け体験・ナイトタイムの訴求が弱い。
- 市民・来訪者双方から「にぎわい不足」「情報発信の弱さ」「交通アクセス不便」が指摘されている。
- 空き家・空地の増加が景観・治安・にぎわいに悪影響を与えている。
- 梅雨~初夏(GW 後)に来訪が落ちるオフ期が存在。
- 自家用車依存が高く、徒歩・回遊を促す「ラストワンマイル」や滞在者向け二次交通が脆弱。
- 観光アプリ等のデジタル施策認知・利用が低調で、情報到達効率が低い。
- 歴史・文化資源の来訪目的比率が相対的に低い(“学びの滞在”が弱い)。
- 年明け~初春の需要が弱く、通年収益モデルが組みにくい。
- 夜間は温泉・宿内完結になりがちで、まちなかの消費流動が限定される。
- 中心市街地の満足度は「どちらともいえない」が多数で、体験価値の“決め手”が不足。

■ Opportunities (機会)

- 国の観光政策で「持続可能」「地方誘客」「消費額拡大」が重視され、補助・制度活用余地がある。
- 次期観光立国計画に向け、30年目標(訪日6,000万人等)と連動した施策資源にアクセス可能。
- 市場回復(兵庫・淡路・洲本ともにコロナ前超えの回復傾向)が追い風。
- 高齢層・健康志向に合うウェルネス滞在の政策的後押し。
- 地区別ピークの違いをつなぐ周遊ルート需要が示唆されている。
- 旧鐘紡洲本工場等の大規模遊休地に対する活用期待(観光施設・市場・道の駅等)。
- 四国側／阪神側の二面需要を活かしたターゲティングと回遊導線の最適化。
- 夜間移動・周遊のモビリティ実証の知見(夜間シャトル・自動運転等)の展開。
- 季節・曜日プロファイルに合わせたイベント編成で分散集客が可能。
- 温泉×外食・体験の「泊食分離」強化により、まちなか消費の拡大が見込める。

■ Threats (脅威)

- 空き家・空地の放置が景観悪化・安全面リスク・ブランド毀損に直結。
- 住民が懸念する混雑・騒音・渋滞など、観光公害的課題の顕在化。
- 自動車依存構造のなかで駐車需給・動線が逼迫すると、体験価値が低下。
- オフ期の収益低下が、投資回収・人材維持を難しくする。
- 若年層需要の取り込みに遅れると、将来のリピーター基盤が痩せる。
- 島内外の他エリア(道の駅等)へ流出しやすい来訪動線。
- 宿内完結化(温泉街中心)により、中心部のナイトタイム消費が伸び悩む。
- 交通事業者の人手・採算課題により、移動サービスの持続性が揺らぐ危険性がある。
- デジタル情報接点の弱さが、競合地域との比較検討で不利に働く。
- 気象(梅雨・台風)による来訪変動が大きく、屋外コンテンツに依存すると打撃が大きい。

■ 炬口漁港周辺エリア

■ Strengths (強み)

- 平日日中の利用が厚く、地域日常需要に支えられている。
- 来訪の中心は兵庫県内(島内含む)で、安定的な生活圏需要がある。
- 40～50代比率が比較的高く、アクティブな中高年に適合。
- お昼時ピークが明確で、軽飲食・物販の時間帯最適化が可能。
- リピーター率32%と、一定の固定客が見込める。
- 釣り等の日常利用ニーズが存在。
- 海沿いの景観ポテンシャルが高く、滞在感の演出に向く。
- 島内他エリアからのマイクロツーリズム連携がしやすい立地。
- 交通ピーク(10時/15～16時)と昼ピークが重なるため回遊同線が描きやすい。
- 住民アンケートで当該周辺の活用期待(道の駅・加工/養殖・物産等)が挙がっている

■Weaknesses (弱み)

- 20～30代の女性比率が低く、若年・ファミリー訴求が弱い。
- 週末(土日)の来訪が比較的に少ないため、観光消費を取り逃がしやすい。
- ナイトタイム需要が弱く、夕方以降の滞在が伸びづらい。
- 島内需要依存度が高く、外部集客の伸びしろが限定的。
- 季節性(5月・10月突出)に左右されがち。
- バイパス整備等で人流減の影響を受ける可能性がある。
- 釣りなど個別行動が中心で、面的回遊が生まれにくい。
- 情報発信の弱さが来訪・再訪のボトルネック。
- 公共交通の弱さにより、車なし来訪のハードルが高い。
- 近接に「強い集客核」が少なく、シナジーを作りにくい。

■Opportunities (機会)

- アンケートで需要の高い「道の駅」「地域産品市場」「加工・養殖の見える化」を軸に、学び×食の体験拠点化。
- 海沿い「やすらぎの縁側」的な滞在・景観席・夕景演出で、カフェ/軽食の平均客単価を増やす。
- 釣り×家族の“二層ターゲット”に向け、屋内キッズ/休憩・清潔なサニタリー整備。
- 平日日中に強い特性を活かし、地元コミュニティイベントや朝市を定例化。
- シェアサイクル・モビリティ拠点(ステーション)設置で近接エリア連携を強化。
- 5月・10月のピークに合わせた海辺フェス/アウトドア体験で収益化。
- 兵庫県内からの近距離需要に、日帰り温浴/食体験の短時間高密度メニューを供給。
- 住民の不安(混雑・騒音)に配慮したゾーニング・運営設計で持続性を担保。
- 夜間シャトル・実証知見を活用し、夕景～夜の“短時間滞在”を造成。
- 海辺×ウェルネス(軽運動・散策・マインドフルネス)で高齢層需要を深耕。

■Threats (脅威)

- 週末観光の波に乗れないと、他エリア(大浜・温泉・道の駅)に消費が流出。
- 海辺の気象影響(風雨・暑熱)で来訪が大幅にブレる。
- 空地・未活用地の放置による景観劣化・安全リスク。
- 車依存の高止まりで、駐車場/動線の逼迫が顧客体験を損なう。
- 釣りマナー・ゴミ等の生活環境課題が顕在化すると、地域受容が低下。
- 若年女性比率の低さがSNS波及を阻害し、発信力で他地に劣後。
- 事業者の採算・人手不足で、海辺サービスの拡張が停滞。
- 島内近距離競合(飲食・物販)はすでに台頭している。
- 夜間の治安・安全配慮コストが上昇。
- 環境規制や漁業調整との整合が必要で、企画自由度が制約される。

■旧鐘紡洲本工場周辺エリア

■Strengths (強み)

- 男女比は概ね半々で、属性バランスが良い。
- 10時台と14時頃の二峰性ピークがあり、イベント/物販の時間戦略が立てやすい。
- リピーター率43%と、中心市街地内で相対的に高い。
- 兵庫県(淡路島内2市)+徳島市からの来訪が多く、広域連携のハブ機能を持つ。
- 平日来訪が多く、地元・域内の“日常×観光”ハイブリッド拠点。
- 地域コミュニティハブとして定着しているとの示唆。
- Google 評価 4.1(313件)と基礎的なブランド資産がある。
- 大規模な敷地で複合利用・段階整備に向く。
- 住民・来訪者双方で活用期待が高い(観光施設/交流・市場・道の駅・カフェ等)。
- 島内動線の結節に位置し、周遊ルートの“起点/終点”機能を担える。

■Weaknesses (弱み)

- 20~30代の比率が低く、若年・SNS 映え訴求が不足。
- 70歳以上比率が高く、体験のアクティビティ性が弱くなりがち。
- 施設定休日(火)影響など、曜日変動のマネジメントが必要。
- 平日偏重で、週末観光のボリュームを取り切れていない。
- デジタル接点(アプリ等)認知・活用が弱く、CRM が効きにくい。
- 屋外イベント時の天候リスク。
- 島内来訪比率が高く、広域新規顧客の獲得効率が課題。
- 夜間は洲本温泉側に滞在が偏り、ナイト消費を逃しやすい。
- 駐車・交通オペレーション次第で滞留/回遊に支障。
- 旧鐘紡洲本工場群の保全・利活用はルール調整や費用が大きい。

■Opportunities (機会)

- 住民調査 Q11-1 で観光施設/交流スペース(29.4%)、地域産品市場(24.0%)、カフェ/体験レストラン(21.1%)、道の駅(20.9%)等の期待。
- 「観光×産業×学び(ミュージアム/歴史/産業観光)」を統合する複合化で、若年層を取り込む。
- 平日強みを活かし、事前予約制の体験プログラムや域学連携を常設化。
- 二峰性ピーク間の“谷”時間にワークショップ/ツアー導入で滞在時間を延伸。
- 近隣(徳島含む)広域周遊の拠点として、モビリティ・ステーション機能を付加。
- 大型イベント時は夜間シャトル等の実証知見を活用し、ナイト回遊を創出。
- 屋内キッズ・休憩・観光案内等「家族滞在のベース機能」を整え、家族旅行 71%層に訴求。
- ウェルネス/食の体験化(発酵・島素材・健康食)で高齢層×長期滞在を取り込む。
- レンガ群の景観×写真体験で若年層 SNS 導線を強化。
- 「活用推進エリア」としての優先度が高く、施策資源を得やすい。

■Threats (脅威)

- 屋外イベント依存時の気象変動リスク。
- 車流入集中による周辺渋滞・環境負荷への住民不安。
- 旧鐘紡洲本工場群の維持・改修費負担の増大と採算性リスク。
- 週末観光を温泉街に奪われ、旧鐘紡洲本工場の売上が週中偏重になる。
- 競合となる「道の駅」「海側スポット」への流出。
- 高齢来訪比率の上昇により、将来的な若年層リピーター基盤が痩せる懸念。
- デジタル接点弱により、イベント集客・平準化の限界。
- 観光公害(混雑・騒音・ゴミ)への地域許容度低下。
- モビリティ運営(人手・採算)の継続困難化。
- 施設定休日や運営体制の制約による機会損失。

■商店街エリア

■Strengths (強み)

- 70歳以上の女性来訪が厚く、平日・午前～日中の安定需要がある。
- リピーター率37%で、地元・近隣の固定需要が厚い。
- 四国(徳島・香川)からの来訪が相対的に多く、広域販売の余地。
- 11月と8月にピークがあり、季節イベントを組み込みやすい。
- 若者・移住者の参入を促す施策(チャレンジショップ等)の実績がある。
- 商い・休憩・交流を兼ねる“まちなか拠点”としての役割が明確。
- 住民の「商店街活性化」期待が高い。
- 「活用推進エリア」最上位に挙げられており、優先投資の対象。
- 需要の高い機能(カフェ・体験飲食、物産、チャレンジショップ)への支持が強い。
- 歩行者回遊の導線基盤(ベンチ・休憩・井戸端的交流)を設計しやすい。

■Weaknesses (弱み)

- 「にぎわい不足」指摘が最も強いエリア象徴で、空き家・空き店舗が散見。
- 若年層・ファミリーの比率が低く、購買単価・SNS 拡散で伸び悩み。
- 日曜の来訪が相対的に少なく、観光週末波に乗りにくい。
- 情報発信・案内が弱く、外来者に“気づかれにくい”。
- 駐車・二次交通の不便が購買・滞在の障壁。
- テナントの入替・育成にコストと時間がかかる。
- 天候に来街が左右されやすい(屋外歩行回遊)。
- 高齢偏重で、将来的な需要の更新に不安。
- 個店の人手不足・事業承継課題。
- 平日偏重で、夜間の消費波及が限定的。

■Opportunities (機会)

- アンケート支持の強いカフェ/体験型レストラン(36.8%)、地域産品販売(30.3%)、チャレンジショップ(26.9%)を軸に再編。
- 高齢女性×平日昼の中核需要に、座れる/休める/話せる滞在装置を整備。
- 四国からの来訪を取り込む越境プロモーション(徳島・香川連携)。
- 周遊ルート設計(温泉は夜、旧鐘紡洲本工場は昼、海辺は夕景等)で来街の“必ず寄る”拠点化。
- 夜間の「ほろ酔い散歩道」との連携で、食べ歩き/バーホッピングを定着。
- 空き家・空地の段階的活用(ポップアップ→サブリース→恒常化)を実装。
- 「案内所・休憩所」や「特産ショップ」充実を求める来訪者ニーズの受け皿に。
- デジタル(SNS/予約/回遊アプリ)と紙媒体のハイブリッド情報発信で年代対応。
- 11月・8月の商機を拡張するテーマ市(収穫/サンセット/歳末)のシリーズ化。
- 公共交通・モビリティの拠点(バス停・シェアサイクル)整備で回遊のハブ化。

■Threats (脅威)

- 空き家・空地の放置による景観・安全・ブランド低下が加速。
- 車依存と駐車課題で、短時間の“買ってすぐ帰る”行動になりやすい。
- 島内の道の駅や郊外大型店に消費が流出。
- 高齢化の進行により、地域需要の先細りリスク。
- 天候・猛暑の影響で歩行回遊が落ち、売上の乱高下が拡大。
- 情報発信の弱さが新規顧客獲得・再訪促進を阻害。
- 交通混雑・騒音等への地域不安が施策の許容度を下げる。
- 事業者の人手・承継の遅れで空き店舗が増えやすい。
- 物価・人件費上昇でスモールビジネスの収益性が圧迫。
- 近隣観光地(温泉・海辺)への“一極集中”で夜間のまちなか消費が伸びない。

(2) 活用に向けた構想

1. めざすべき将来像(案)

中心市街地内それぞれのエリアの特性を生かした 淡路島観光における滞在型拠点の面的な活用推進

<将来像の考え方>

淡路島全体での観光動向としては、日帰り観光客の割合が9割を超えるなど、「ふらっと訪れる気軽な観光地」としての側面が強いといえる。一方で洲本市に訪れる来訪客については、宿泊者の割合が50%以上となっており、淡路島全体でみる中で特異な特性を持っている。

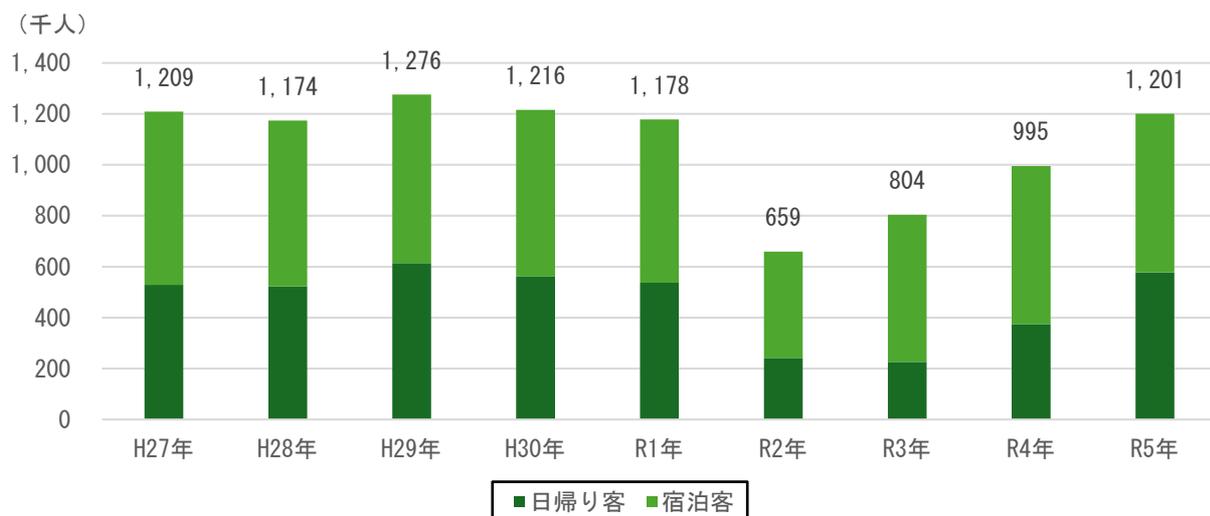
今後の洲本市の観光地域づくりを行っていくうえでは、この特性を生かし、強化し、また滞在者の満足度を高めていくことが重要である。

現状、淡路島は観光リゾートの島というイメージがある一方で、洲本市に観光のイメージは乏しい。一方で、異なる性質の観光資源が共存している洲本市の中心市街地は、淡路島内では珍しい「公共交通や徒歩でも楽しめる観光地」としてのポテンシャルを有している。

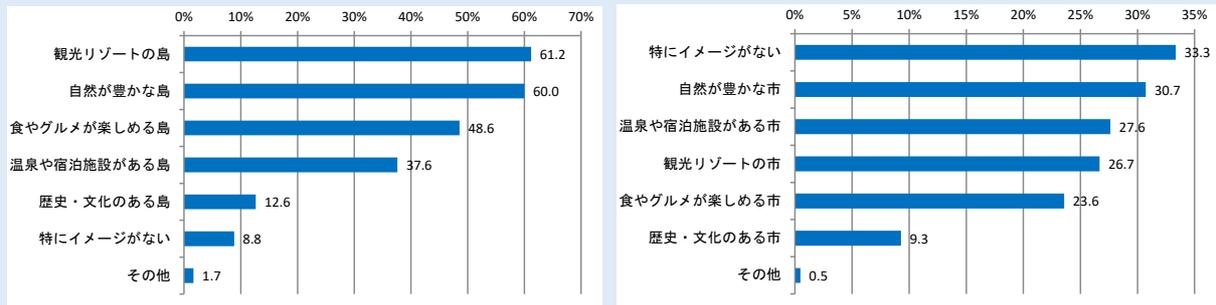
課題となっている交通手段や情報発信を強化するとともに、地域を訪れるきっかけとなるよう商店街の活性化や遊休地の未利用資源活用を推進することで、淡路島内でも数少ない「歩いても過ごせる滞在観光エリア」を作り出すことをめざす。

考え方の根拠

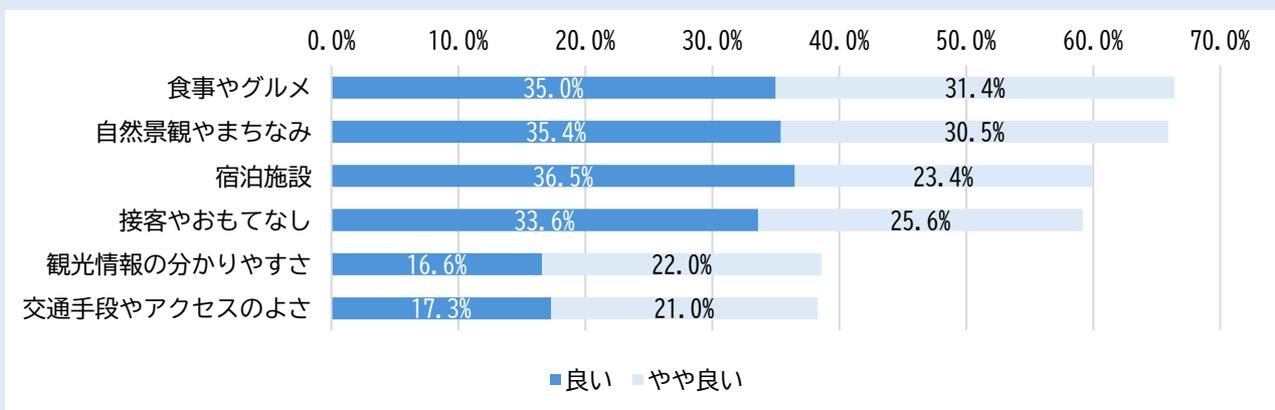
(1) 洲本市では、宿泊滞在型の来訪者割合が50%以上



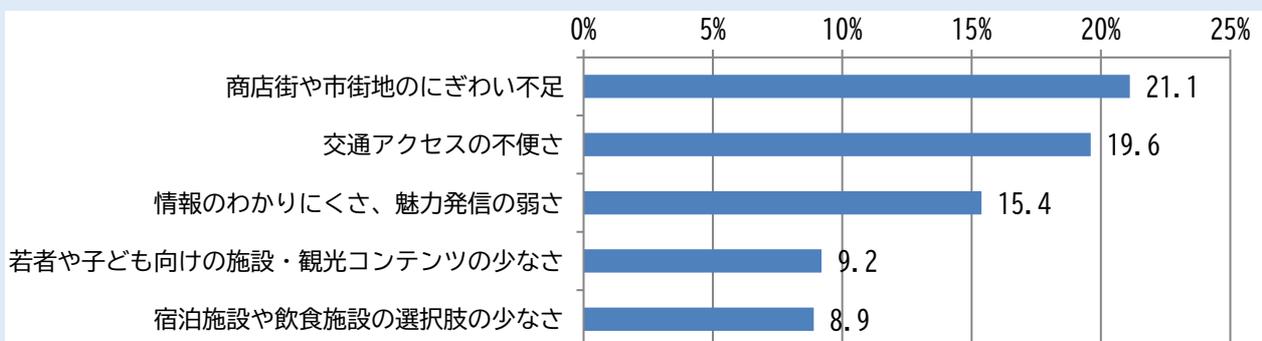
(2)洲本市を訪れたことがない方にとって、淡路島は「観光リゾートの島」などのイメージがある一方で、洲本市については「特にイメージがない」という現実



(3)来訪者の満足度は、「自然景観やまちなみ」、「食事やグルメ」が高い一方、「観光情報のわかりやすさ」や「交通手段のアクセスのよさ」が低い。

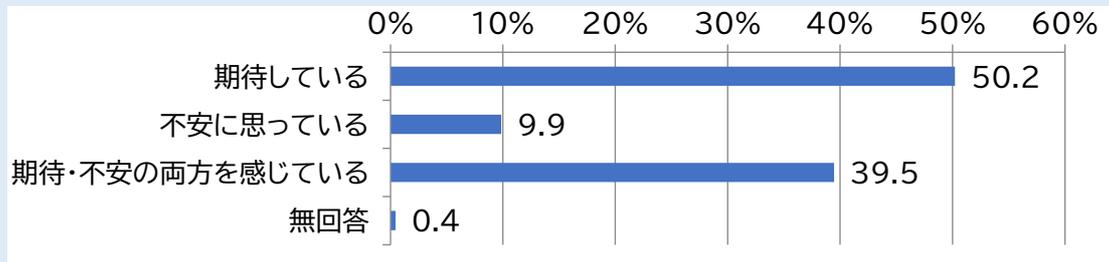


▲来訪者の評価(5段階)



▲来訪者が不便・に感じている内容

(4)市民にとって、洲本市の観光は「期待している」と「期待・不安の両方を感じている」が挙げられている。観光課題は「商店街や市街地のにぎわい不足」が最多。魅力的な観光地域づくりには「遊休地や未利用資源の活用」「交通手段の充実」「商店街の活性化」が求められている。



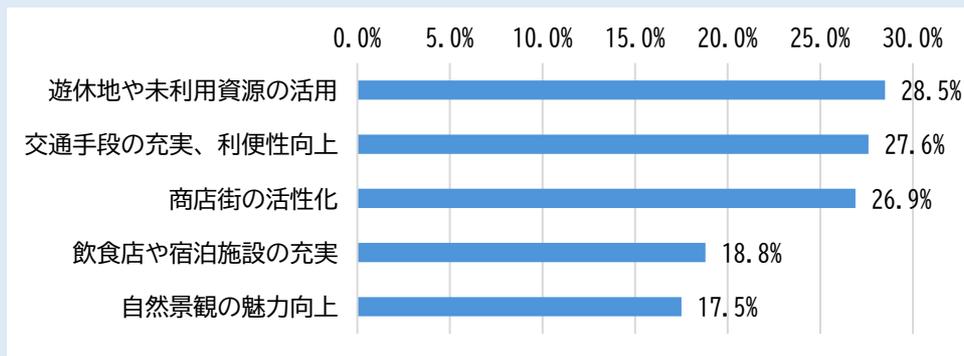
▲市民の洲本市の観光に対する期待

期待すること

- ・地域経済の活性化:77.8%
- ・雇用や収入の機会増加:44.0%
- ・移住・定住の促進:36.3%

不安に感じること

- ・混雑や騒音・ゴミなど生活環境の悪化:71.8%
- ・道路渋滞等の交通状況悪化:60.9%
- ・観光客とのトラブル増加:35.9%



▲市民が今後、観光まちづくりを進めるうえで必要だと感じること

2. エリアゾーニング

以下のエリアにて、観光地域づくりを推進する。



エリアごとのコンセプト

商店街周辺：事業者同士が連携し、回遊が生まれる散策エリア

商店街周辺エリアは、飲食、買い物、歴史的な町並みといった多様な機能がコンパクトに集積し、淡路島内でも数少ない「徒歩や公共交通による回遊が可能なエリア」として高いポテンシャルを有している。本エリアでは、事業者同士の連携による回遊性の向上を軸に、遊休地や未利用資源を活用しながら、昼から夜まで滞在を楽しめる散策型エリアとしての再構築を図る。

あわせて、夜間の移動手段や情報発信の強化により、宿泊者が自然にまちなかへ足を運びやすい環境を整備することで、宿内完結型の消費行動から市街地回遊型の消費への転換を促進し、商店街を核とした滞在型観光拠点としての機能強化をめざす。

旧鐘紡洲本工場周辺：洲本の魅力と観光客を「つなぐ」エリア

S BRICK を起点とした既存の来訪行動に寄り添い、「次に選べるもう一つの選択肢」を提供する拠点として位置づける。平日昼間を中心とした短時間利用、生活圏利用者による反復利用という特性を踏まえ、強い目的を必要とせず、日常行動の延長として無理なく組み込まれる機能を配置する。本エリアは、「目的地」ではなく、「行動の途中に自然に立ち寄れる場所」として整備することで、滞在時間の延伸と回遊性の向上を図り、エリア全体の価値向上をめざす。

炬口漁港公園周辺：水産業と観光が融合した「海業」エリア

バイパス開通に合わせ、アクセス性が向上する炬口漁港。

その周辺地を、水産庁が推進する「海業」として観光客との交流促進や、水産物をはじめとした地場製品の消費拡大につながる拠点とする。これら観光事業の展開により、漁業以外での収益の場を漁港周辺に整備することにより、「半漁半 X」を基軸とした新規漁業就業者の創出もあわせて展開する。

3. 施策の方向性

商店街周辺

(1) 商店街を核とした滞在・消費拠点の形成

- ①夜のバーホッピングやナイトマーケット等による夜間消費・にぎわいの創出
- ②事業者連携による回遊ルート設計と、飲食・物販・体験の一体的な提供

(2) 遊休地・未利用資源を活用した新たなチャレンジ機会の創出

- ①遊休地等を活用したナイトマーケットや期間限定出店による滞留空間の形成
- ②若手事業者・移住者・創業希望者が参画できる実践的なチャレンジの場づくり

(3) 宿泊者・来訪者の回遊促進に向けた受入環境整備

- ①温泉街と商店街をつなぐ夜間移動手段の確保・利便性向上
- ②情報発信やデジタル施策を活用した、来訪動機づくりと周遊促進

旧鐘紡洲本工場周辺

(1) 既存来訪行動に寄り添う「プラスワン機能」の付加

- ①近隣住民及び島外からの来訪者が周遊の基点としての機能設置
- ②島内外の住民が集いやすい場づくり

(2) 内部の魅力的な地域資源を活かす地域資源の活用

- ①洲本温泉等との連携を意識した、地域への波及効果が生まれる施設整備
- ②地域の観光情報が集まる観光立ち寄り所機能の創出

炬口漁港公園周辺

(1) 水産業の拠点として、水産物消費の維持・拡大に向けた事業展開

- ①水産物の消費拡大に向けた販売・飲食機能の充実
- ②陸上養殖施設等、水産物の生産拡大に向けた機能整備

(2) 観光客等との交流促進に向けた整備

- ①新たな観光客の受け入れが可能な体験・イベント等の充実・実施
- ②サイクリストや大学生観光客、釣り客等が利用する機能づくり

4. まち全体への波及効果

(1)観光をきっかけとした、暮らしやすいまちづくりへの還元

洲本市の観光施策では、観光をきっかけに市民が暮らしやすくなることをめざす。遊休地・遊休施設の減少により安全で安心な生活環境を創出し、利活用する施設では観光客だけではなく、住民にとっても利用したくなる施設とする。また、個別の施設整備とあわせて交通・情報発信などの個別の施設をつなぐ環境整備を行うことで、観光と日常生活の両立を図る。

(2)地域内事業者への経済効果の創出

観光施策の実施により、地域内事業者に対して経済効果が生まれる取組とする。遊休地の活用にあたっては、外部資本による整備も含めた事業整備を検討しますが、その事業整備によって一事業者のみが利益を得るのではなく、まち全体に対してよい影響や循環が生まれるよう、観光客の周遊性にも考慮した事業展開を図る。